

科目名	基礎化学
科目責任者	大場 浩
単位数他	1単位 (15時間) 理学選択・作業選択・言語選択 1 Semester
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	物質がどんな元素からどのような結合で構成されているか、物質の量や濃度、さらにどのような変化を示すか (化学反応) についての基礎的な内容が主である。日常環境内や生体内の化学変化 (酵素反応) にも言及する。
到達目標	1. 常環境に関連した物質の構成元素とそれらの化学結合が理解できる。 2. 物質の量や濃度変化を化学反応に基づいて理解できる。 3. 酸、塩基と中和、酸化還元反応を日常環境と関連づけて理解できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;大場 浩</p> <p>第1章 物質の構成、状態、分類および用途</p> <p>第1回：物質構成要素 (元素・原子・分子・イオン) と物質の三態</p> <p>第2回：元素の周期律表と原子構造</p> <p>第3回：化学結合と物質の分類・用途</p> <p>第2章 物質量、濃度および化学反応</p> <p>第4回：物質量と濃度計算 (原子量・分子量・%・モル・モル濃度など) (中間試験：第1章の範囲 30分)</p> <p>第5回：量や濃度変化と化学反応式および可逆反応と化学平衡</p> <p>第6回：酸と塩基、電離度、中和反応と塩</p> <p>第7回：酸化還元反応</p> <p>第8回 生体を構成する主な有機物質と生体内酵素反応</p>

アクティブ ラーニング	特に物質質量や濃度計算は、演習問題（配布）で理解をはかる。
評価方法	中間試験（40%）、定期試験（60%）で評価する。
課題に対する フィード バック	毎回の提出のリアクションペーパーでの質問に答えるほか、中間試験の解答・解説や定期試験の解答例を提示する。
指定図書	なし。毎回到講義資料をパワーポイントで解説
参考図書	講義で紹介
事前・ 事後学修	講義でのポイントや演習問題を中心に事後学修を40分程度してください。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。ます。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	基礎物理学
科目責任者	津森 伸一
単位数他	1 単位 (15 時間) 理学選択・作業選択・言語選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	人間は物理法則に従って動いているため、人の運動やリハビリテーションに用いる道具・器械の働きを深く理解するためには物理学の知識が不可欠である。本科目はリハビリテーション領域の前提知識となる力学分野の基本を習得することを目的とする。なお、高等学校「基礎物理」「物理」を履修していないあるいは内容の理解に自信のない学生にも配慮する。
到達目標	1. 図やグラフなどを用いて物理現象を視覚的に表現できる。 2. 法則の数式的意味を理解し、物理現象を数式として表現できる。 3. 物理法則や数式の持つ意味を言葉で分かり易く説明できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 津森 伸一</p> <p>第1回 ガイダンス, 物理量とその表し方, 物理学で使うグラフと関数</p> <p>第2回 いろいろな運動</p> <p>第3回 自由落下, さまざまな力(1) (重力, 張力, 垂直抗力など)</p> <p>第4回 さまざまな力(2) (摩擦力, 弾性力など)</p> <p>第5回 力のつり合いと運動の法則(1) (慣性の法則, 運動方程式など)</p> <p>第6回 力のつり合いと運動の法則(2) (作用・反作用の法則など)</p> <p>第7回 物体の重心と回転運動</p> <p>第8回 運動量, 仕事とエネルギー</p>

アクティブ ラーニング	ビデオ閲覧と学習管理システムを用いた確認用の小テストを事前課題とする反転授業を実施する。授業においてはグループによる問題演習を行う。
評価方法	小テスト 30%, リアクションペーパー 10%, 定期試験 60%として評価する。
課題に対する フィード バック	学習管理システムを用いた小テストを行い、解答後即座に正解・解説と採点結果を返す。また、授業毎のリアクションペーパーを学習管理システムにより提出してもらい、質問や意見については個別に返信する。
指定図書	望月久, 棚橋信雄 編著『PT・OT ゼロからの物理学』, 羊土社
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校「物理基礎」「物理」教科書</li> <li>・演習用の問題プリントを適宜配布する</li> </ul>
事前・ 事後学修	事前学修として、指定されたビデオ教材を閲覧し小テストを行うこと。事後学修として、授業中に指定する演習問題を解き理解を深めること。目安時間 40 分。
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3517 研究室</p> <p>時間：木曜日 9時～12時</p> <p>上記以外でもメール (shinichi-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に 関する記述	なし

科目名	統計学・疫学概論
科目責任者	西川浩昭
単位数他	2単位 (30 時間) 理学選択・作業選択 1セメスター 言語必修 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	<p>〈隆朋也 担当分〉 医療分野で必要となるデータ処理方法としての統計学の基礎的事項について、問題を科学的に解決するための論理および手法を学びます。主に 1 つの変数について分析する手法を扱います。</p> <p>〈西川浩昭 担当分〉 集団における健康問題の現状を明らかにし、因果関係を立証する方法である疫学についてその概念と方法論を学習する。具体的には疫学の歴史的背景、疫学で用いられる指標、健康政策への活用、臨床疫学への応用までを、身近な健康に関する事例に基づいて学習する。</p>
到達目標	<p>〈隆朋也 担当分〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. データの特徴を知り、図および表で適切に示すことができる。</li> <li>2. データの特徴を、指標を用いて適切に表すことができる。</li> <li>3. 母集団の平均値を推定し、二群を比較できる。</li> </ol> <p>〈西川浩昭 担当分〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疫学の概念について理解する。</li> <li>2. 疫学的因果関係について理解する。</li> <li>3. 疫学的研究法について理解する。</li> <li>4. 疫学指標を算出できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;隆朋也、西川浩昭</p> <p>〈隆朋也 担当分〉</p> <p>第1回： ガイダンス、母集団と標本</p> <p>第2回： 分布を描く</p> <p>第3回： 分布の代表値と散布度</p> <p>第4回： 正規分布</p> <p>第5回： 母集団での平均値の推定</p> <p>第6回： 割合に関する分布と検定</p> <p>第7回： 母平均値の差の検定</p> <p>第8回： 分布を仮定しない検定法</p> <p>〈西川浩昭 担当分〉</p> <p>第9回 ガイダンス・疫学の概念と歴史、疫学の専門用語</p> <p>第10回 疫学指標</p> <p>第11回 疫学研究法① 記述疫学、横断研究、地域相関研究</p> <p>第12回 疫学研究法② コホート研究</p> <p>第13回 疫学研究法③ 症例対照研究</p> <p>第14回 疫学的因果論、関連の指標</p> <p>第15回 スクリーニング検査</p>

アクティブ ラーニング	Moodle を用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。
評価方法	〈隆朋也 担当分〉 筆記試験 100% 〈西川浩昭 担当分〉 原則は筆記試験 100% (ただし授業における状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)
課題に対する フィード バック	口頭や配布資料、Moodle への提示などによって行う。
指定図書	〈隆朋也 担当分〉 高木広文著 「ナースのための統計学 第2版」医学書院 〈西川浩昭 担当分〉 日本疫学会 はじめて学ぶやさしい疫学 改定第3版 南江堂
参考図書	〈西川浩昭 担当分〉 中村好一 基礎から学ぶ楽しい疫学 第3版 医学書院 2017 柳川 洋 疫学マニュアル 改訂7版 南山堂 丸井英二 疫学/保健統計 第3版 メヂカルフレンド社
事前・ 事後学修	〈隆朋也 担当分〉 学修では単に計算方法を暗記するだけではなく、考える過程や理論を修得することが重要です。前回までの教授内容が習得されていることが、受講にあたって望まれます。各人の必要に応じて復習してください。 〈西川浩昭 担当分〉 衛生学・公衆衛生学の最低レベルの知識が必要になります。これについては各自で学習してください。 各回の授業に対する事前学修としては、指定図書等の予習。時間の目安は約60分程度です。 事後学修としては、前回までの教授内容が習得されていることが、受講にあたって望まれます。各人の必要に応じて事後学修してください。事後学修時間の目安は約60分です。
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	社会福祉原論
科目責任者	野田由佳里
単位数他	2単位 (30 時間) 理学選択・作業選択 2セメスター 言語必修 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	前半では、現代社会における社会福祉問題について社会情勢をふまえて解説していきます。また、社会福祉の理念と実際、歴史等を学びます。後半では、社会福祉の様々な領域の現状を、事例をまじえて学習していきます。
到達目標	1. 社会福祉の基礎概念を説明できる。 2. 社会福祉に関連するサービスの現状や課題を説明できる。 3. 医療と社会福祉の協働の在り方を説明できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;野田由佳里</p> <p>第 1 回：現代社会における社会福祉：基礎概念 事前課題 1：社会福祉の意味・社会福祉法第 3 条・第 4 条を調べる</p> <p>第 2 回：福祉サービス：社会福祉の仕組み 事前課題 2：「日常生活」の意味を調べる</p> <p>第 3 回：社会福祉と「日常生活」の意味を考える 事前課題 3：生活の営みを考える</p> <p>第 4 回：「日常生活を営む」ことの支援の意味を考える 事前課題 4：憲法第 25 条を調べる</p> <p>第 5 回：憲法第 25 条「最低限度の生活」と社会福祉の歩み：社会保障・公的扶助 事前課題 5：ホームレスの定義を調べる</p> <p>第 6 回：日本の住宅問題を社会福祉から考える 事前課題 6：日常生活と社会生活の違いを調べる</p> <p>第 7 回：「日常生活」と「社会福祉」を障害者福祉の歩みから考える 事前課題 7：ケアマネジャーの役割を調べる</p> <p>第 8 回：個別支援とケアマネジメントの登場：社会福祉の援助と方法 事前課題 8：病院の歴史を調べる</p> <p>第 9 回：医療と社会福祉 事前課題 9：「地域包括ケアシステム」の意味を調べる</p> <p>第 10 回：医療機関の役割の変化と地域包括ケアシステム 事前課題 10：協働の意味を調べる</p> <p>第 11 回：医療と介護・福祉の協働 事前課題 11：利用者支援の仕組みを調べる</p> <p>第 12 回：利用者支援 事前課題 12：社会福祉士・介護福祉士の意味を調べる</p> <p>第 13 回：社会福祉職の役割と実際 事前課題 13：社会福祉の課題を調べる</p> <p>第 14 回：少子高齢社会・人口減少社会と社会福祉の今後：社会福祉の課題</p> <p>第 15 回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	事前課題に取り組み、当該内容を理解して授業に臨んでください。発言係の担当になった際は授業を牽引するのは学生自らだという自負を持って積極的な議論ができるよう私見をまとめてください
評価方法	事前課題・事後課題レポート 15 回を含むミニレポート 3 回 (90%)・発言係 (10%)
課題に対する フィード バック	事後課題の解説は授業内で行います。またリアクションペーパーに関しては、授業内や Moodle などを活用し、丁寧なフィードバックを心掛けます。
指定図書	山縣文治・岡田忠克編「よくわかる社会福祉」 ミネルヴァ書房
参考図書	川上昌子「社会福祉原論読本」学文社 山辺朗子「ジェネラリスト・ソーシャルワークの基盤と展開」 ミネルヴァ書房
事前・ 事後学修	【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので 25 分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを 15 分以上読んでから授業に臨みましょう。 【事後学修】講義後、40 分程度振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。
オフィス アワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室 (2706 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。 (yukari-n@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は「社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	基礎演習	
科目責任者	新宮 尚人	
単位数他	1単位(30時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 Semester	
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎	
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。	
科目概要	リハビリテーション専門職者を目指す学生として、基本的な心構えと態度（スチューデントスキル）と、大学での学びを円滑に進めるための学習の基礎技能（スタディスキル）を学修する。授業を通して4年間の学びの基盤を作ることを目的とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション専門職者を目指す大学生としてのマナーや社会規範を身につけ実践できる。</li> <li>2. 国際的視野に立ち、リハビリテーション専門職者に求められるコミュニケーションスキル、情報スキルの基礎を身につけ実践できる</li> <li>3. 課題の発見と解決力を養う方法について知り、4年間の学びの基礎を理解できる。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション、建学の精神と本学での学び</p> <p>第2回：大学で学ぶということ、リハ専門職者としての必要な資質</p> <p>第3回：リハビリテーション専門職の国際支援・援助活動</p> <p>第4回： アクティブラーニング、情報スキル、情報倫理</p> <p>第5回：専門職を目指す者としてのコミュニケーションスキル①</p> <p>第6回：専門職を目指す者としてのコミュニケーションスキル②</p> <p>第7回：グループワーク 前半のまとめ</p> <p>第8回-15回：学科に分かれて実施</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>新宮尚人</p> <p>新宮尚人</p> <p>鈴木達也ほか</p> <p>津森伸一</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>新宮尚人</p> <p>根地嶋誠、鈴木達也、柴本勇</p>

アクティブ ラーニング	テーマの内容を深めるためにグループ学修を行います。また、スチューデントスキル、スタディスキル獲得のために演習を取り入れます。
評価方法	1-7回の内容でレポート提出50%、8-15回の内容でレポート提出50%
課題に対する フィード バック	レポートもしくはグループ発表に対してコメントをします。
指定図書	知へのステップ 第4版 -大学生からのスタディ・スキルズ-くろしお出版, 東京, 2015
参考図書	必要に応じて授業中に紹介する
事前・ 事後学修	事前・事後学習は40分を目安としますが、事前学習は時間外でのグループの打ち合わせや準備なども含みます。事後学習では、授業時間内で取り組んだ内容のポイントを確認し、大学生活で活用することで定着をはかるように努力してください。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3501 研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (naohito-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	キャリアデザイン	※リハビリテーション学部
科目責任者	谷 哲夫	
単位数他	1単位 (15時間) 理学必修・作業必修・言語必修 5セメスター	
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎	
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。	
科目概要	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することが態度と志向性を身につけなければならない。本講義は、卒業後の就職と人生設計に向け、またリハビリテーション専門職者としてどのように社会活躍し、人生を創造していくかを考えます。リハビリテーション専門職者の社会的役割や位置づけ、課題を再確認するとともに、キャリアデザインの重要性を理解し、「社会人基礎力」を身につけ、リハビリテーション専門職者としての具体的な進路選択と将来のキャリアビジョンを描く志向性を身につけることを目標とします。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) リハビリテーション専門職者の社会的役割や位置づけ、課題を確認する</li> <li>2) 自己分析、就職先分析により具体的な人生設計を考えられるようになる</li> <li>3) キャリアサロンの開催により、学生の職業意識を高めるとともに具体的な進路選択と将来のキャリアビジョンを描けるようになる。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span></p> <p><b>1日目</b>  第1回「社会人基礎力」1：社会人としてのマナーを身につける（日常生活にて、挨拶や身だしなみ、礼儀作法を意識した生活を心がける）  谷 哲夫・OT 教員・矢部広樹</p> <p>第2回「社会人基礎力」2：コミュニケーションスキルを習得する（就職試験における面接技能を中心にコミュニケーションスキルをチェックする。事前に面接練習をして授業に参加する）  谷 哲夫・OT 教員・矢部広樹</p> <p><b>2日目</b>  第3回「社会人基礎力」3：文書技能を高める（エントリーシートの書き方を中心に文章作成の技能を高める。授業前に各自のエントリーシートを作成して授業に参加する）  谷 哲夫・OT 教員・矢部広樹</p> <p>第4回「社会人基礎力」4：メンタルヘルス（健康的な生活には、性格やストレス特性を理解し、対応方法を学ぶことが必要である。授業では、メンタルヘルスの基礎知識を学ぶ。）  谷 哲夫・OT 教員・矢部広樹</p> <p><b>3日目</b>  第5回「自己分析」を行い、自分の性格特性を客観的に評価し、就職活動に結びつける。  谷 哲夫・OT 教員・矢部広樹</p> <p><b>4日目</b>  第6～8回「キャリアサロン」を開催する。卒業生を含めた小グループを構成し、グループの中で卒業生による「キャリアデザイン」のレクチャーや「ソーシャルスキルトレーニング」としてのグループワークを行う。最後に、「キャリアサロン」で得た経験を今後の学生生活や就職活動にどのように生かすのかを文章にまとめる。  ゲストスピーカー・谷 哲夫・OT 教員・矢部広樹</p> <p>受講生へ  ・自分のキャリアを考えることは、自分の一生をどう生きるかということを考えることでもあります。より良い人生を生きていくためにはどうすればよいか？またリハビリテーション専門職者としてのキャリアをどのように磨けばよいか？を考え、その実現のための手がかりを得てください。  ・授業の最後に満足度調査を行います。今回の「キャリアサロン」は、学生の皆さんに就職活動・人生設計を真剣に考える契機となることを願い、初めて企画した授業です。今後の「キャリアサロン」のあり方を検討する材料としたいのでご協力ください。</p>	

アクティブ ラーニング	授業計画を確認し、事前にすべき内容を把握し実践しておくこと。
評価方法	リフレクションペーパーによる授業への取り組み、参加度の評価：30%、レポート提出と評価：70%（レポートを期限内に提出されない場合は、単位修得は認められませんので注意してください）
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーを確認し、フィードバックします。
指定図書	なし（講義時に資料を配布します）
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修前に各自のキャリアデザインを考えておいてください。授業中にそれぞれのデザインについてディスカッションします。</li> <li>授業では、上記の授業内容に沿って復習と予習を行ってください。目安時間 40 分。</li> </ul>
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3406 研究室（谷哲夫）、3511 研究室（建木健）、3512 研究室（矢部広樹）です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士，作業療法士，言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	解剖学
科目責任者	顧 寿智
単位数他	2単位 (30 時間)      理学必修・作業必修・言語必修      1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	解剖学は医学の最も基礎になる学問のひとつである。実際、正しい解剖の知識が無ければ、正しい医療は望むべくもないであろう。解剖学では入門解剖学として、下記の内容について要点を講義する。さらに、浜松医科大学での解剖実習見学を通して、人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の構成について述べることができる。</li> <li>2. 心臓血管系の構造と機能について述べるができる。</li> <li>3. 内臓系の基本的な構造と機能について述べるができる。</li> <li>4. 運動器系の構造上の特徴を述べるができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーション、総論（人体の構成、細胞、組織）  第 2 回：心臓血管系（血液、心臓の構造、）  第 3 回：心臓血管系（心臓の血管、刺激伝道系、血管の構造）  第 4 回：心臓血管系（循環路、リンパ系）  第 5 回：呼吸器系（鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺）  第 6 回：消化器系（消化管の管壁、腹膜、口腔、咽頭）  第 7 回：消化器系（食道、胃、小腸、大腸）  第 8 回：消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓）、中間テスト  第 9 回：浜松医科大学での解剖学実習見学  第 10 回：実習見学まとめ  第 11 回：泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱、尿道）  第 12 回：生殖器系（男性生殖器、女性生殖器）  第 13 回：運動器系（骨と骨格筋の構造、主な骨と骨格筋の名称、位置、作用）  第 14 回：内臓系、運動器系  第 15 回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	Moodle・タブレットアプリ (Visible Body など)・模型の活用、グループ学習、実習見学など
評価方法	期末試験 (60%)、レポート (10点)、中間テスト (10%)、小テスト (10%)、 授業態度 (10%) を総合的に評価する。
課題に対す るフィード バック	テストの解説、レポート・リアクションペーパーのコメント
指定図書	『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善
参考図書	藤田恒夫著『入門人体解剖学』南江堂 相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習 課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週火曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボード で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。



アクティブ ラーニング	Moodle の活用、タブレットアプリ (Visible Body など) の活用、模型の活用、グループ学習、 実習見学など
評価方法	期末試験 (50%)、レポート (20点)、中間テスト (10%)、小テスト (10%)、 授業態度 (10%) を総合的に評価する。
課題に対す るフィード バック	テストの解説、レポート・リアクションペーパーのコメント
指定図書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学』野村巖編、医学書院
参考図書	相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂 『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資 料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週火曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前 のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	神経解剖学
科目責任者	顧 寿智
単位数他	2単位 (30 時間) 理学必修・作業必修 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	神経解剖学は、解剖学に引き続いて、下記の内容について特に神経系を重点的に解説する。人体の構造をさらに深く理解することを目指す。そしてリハビリテーションに必要な人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経系の構成と主な機能を述べることができる。</li> <li>2. 感覚器系の構造と機能を述べることができる。</li> <li>3. 内分泌器系の構造と機能を述べることができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：神経系の概観、神経組織</p> <p>第 2 回：髄膜と脳室系、神経系の発生</p> <p>第 3 回：脊髄、脳幹</p> <p>第 4 回：脳幹、小脳、</p> <p>第 5 回：大脳、伝導路</p> <p>第 6 回：解剖実験、</p> <p>第 7 回：脊髄神経</p> <p>第 8 回：脊髄神経</p> <p>第 9 回：まとめ、中間テスト</p> <p>第 10 回：脳神経</p> <p>第 11 回：脳神経、自律神経系</p> <p>第 12 回：感覚器系 (皮膚、視覚、聴覚と平衡感覚)</p> <p>第 13 回：内分泌器系 (下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵島)</p> <p>第 14 回：神経系・感覚器系、内分泌器系</p> <p>第 15 回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	Moodle・タブレットアプリ (Visible Body など)・模型の活用、グループ学習など
評価方法	期末試験 (60%)、中間テスト (10%)、小間テスト (10%)、レポート (10%)、 授業態度 (10%) を総合的に評価する。
課題に対す るフィード バック	Moodle の活用、タブレットアプリ (Visible Body など)の活用、模型の活用、グループ学習など
指定図書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学』野村巖編、医学書院
参考図書	相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂 『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布 資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週火曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前 のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	人体機能学(動物性機能)
科目責任者	大林 雅春
単位数他	2単位 (30時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 Semester
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	「人体機能学」では、いわゆる「生理学」を学ぶ。すなわち生体の正常な機能を学習する学問である。本科目では、「生理学」のうち『動物性機能』を担当し、特に脳、神経・筋肉、感覚と刺激の受容、運動の調節に関する機能の基本的知識を習得する。疾病時における機能の変化について学ぶ土台を形成すると共に、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士としての基礎的な能力の育成を目指す。
到達目標	1. 脳の機能について説明できる。 2. 神経・筋の機能について説明できる。 3. 感覚の受容について説明できる。 4. 運動の調節について説明できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;大林 雅春</p> <p>第1回 オリエンテーション、神経系の基礎-1 (教科書第1, 12章)  第2回 神経系の基礎-2 (教科書第12章)  第3回 自律神経系-1 (教科書第13章)  第4回 自律神経系-2 (教科書第13章)  第5回 脳-1 (教科書第14章)  第6回 脳-2 (教科書第14章)  第7回 脳-3 (教科書第14章)  第8回 感覚-1 (総論) (教科書第15章)  第9回 感覚-2 (各論) (教科書第15章)  第10回 感覚-3 (各論) (教科書第15章)  第11回 筋収縮 (教科書第11章)  第12回 運動の調節-1 (教科書第8, 16章)  第13回 運動の調節-2 (教科書第8, 16章)  第14回 骨の生理学 (教科書第17章)  第15回 まとめ</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。</p>

アクティブ ラーニング	Moodle に掲載する演習問題は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。必要に応じて各自印刷して予習の参考にすること。国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。知識の定着を進めるため、グループ単位でのディスカッションや発表（レポート形式 or プレゼンテーション）などグループ学修形式の授業も取り入れる。
評価方法	課題提出 10%、定期試験 90%、計 100%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーや課題などの質問やコメントに関しては、重要な質問やポイント等に対して授業中に回答する。その他は個別に対応する。
指定図書	彼末一之 編「やさしい生理学」改訂第7版 南江堂
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	講義範囲が非常に広いため、教科書・参考図書を良く読み、出来るだけ予習をして講義に臨むこと。 予習においては、あらかじめ次回授業で習うポイントを前もって明示するので、その内容を重点的に予習するように。具体的にはテキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にして授業にのぞむこと。 復習においては、毎回の授業で講義資料等を配布するので、学習した内容を整理しておく事が望ましい。さらに国家試験既出問題に関連した演習問題を適宜 Moodle に掲載するので、定期試験勉強に役立てること。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「臨床検査技師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。



アクティブ ラーニング	Moodle に掲載する演習問題は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。必要に応じて各自印刷して予習の参考にすること。国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。知識の定着を進めるため、グループ単位でのディスカッションや発表（レポート形式 or プレゼンテーション）などグループ学修形式の授業も取り入れる。
評価方法	課題提出 10%、定期試験 90%、計 100%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーや課題などの質問やコメントに関しては、重要な質問やポイント等に対して授業中に回答する。その他は個別に対応する。
指定図書	彼末一之 編「やさしい生理学」改訂第 7 版 南江堂
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	講義範囲が非常に広いため、教科書・参考図書を良く読み、出来るだけ予習をして講義に臨むこと。 予習においては、あらかじめ次回授業で習うポイントを前もって明示するので、その内容を重点的に予習するように。具体的にはテキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にして授業にのぞむこと。 復習においては、毎回の授業で講義資料等を配布するので、学習した内容を整理しておく事が望ましい。さらに国家試験既出問題に関連した演習問題を適宜 Moodle に掲載するので、定期試験勉強に役立つこと。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「臨床検査技師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	運動学 I
科目責任者	根地嶋誠
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修・作業必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	運動学の基礎的知識を習得する。人体の運動器の構造と機能、さらに身体運動の機構について学び、病変によるその障害を分析・治療するための基礎を身につけることを目的とする。授業は、講義および演習形式により進める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動を理解する際に必要な力学について説明できる。</li> <li>2. 運動を構成する要素について説明できる。</li> <li>3. 筋の収縮様態について説明できる。</li> <li>4. 代表的な筋の起始・停止および作用を記述提示できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第 1 回：コースオリエンテーション、運動学総論 (根地嶋) 運動学の理解に必要な用語の理解</p> <p>第 2 回：運動学の基本原理 (根地嶋) 運動学の学修する共通事項の理解</p> <p>第 3 回：下肢の運動-下肢帯と股関節の運動 (根地嶋) 骨盤と股関節に関する構造と運動の理解, 小テスト</p> <p>第 4 回：下肢の運動-膝関節の運動 (根地嶋) 膝関節の構造と運動の理解, 小テスト</p> <p>第 5 回：下肢の運動-膝関節の運動 2 (根地嶋) 膝関節の構造と運動の理解</p> <p>第 6 回：下肢の運動-足関節と足部の運動 (根地嶋) 足関節と足部の構造と運動の理解, 小テスト</p> <p>第 7 回：体幹の運動-頸・胸・腰椎の運動 (根地嶋) 脊柱と胸郭の構造と運動の理解, 小テスト</p> <p>第 8 回：下肢体幹のまとめ (根地嶋) これまでの理解の確認</p> <p>第 9 回：上肢の運動-上肢帯と肩関節の運動 (根地嶋) 肩甲骨と肩関節の構造と運動の理解, 小テスト</p> <p>第 10 回：上肢の運動-上肢帯と肩関節の運動 2 (根地嶋) 肩甲骨と肩関節の構造と運動の理解</p> <p>第 11 回：運動器を構成する組織 (根地嶋) 骨, 関節, 靭帯, 腱, 筋などの構造と運動の理解, 小テスト</p> <p>第 12 回：関節運動と筋, これまでのまとめ (根地嶋) 関節と筋に関する理解, 知識の確認</p> <p>第 13 回：上肢の運動-肘関節と前腕の運動 (泉) 肘関節と前腕の構造と運動の理解, 小テスト</p> <p>第 14 回：上肢の運動-手関節と手の運動 (泉) 手関節と手の構造と運動の理解</p> <p>第 15 回：まとめ (根地嶋) これまでのまとめ, 理解の確認</p>

アクティブ ラーニング	Moodle の活用（動画視聴，学修ポイント）
評価方法	小テスト（30%）・期末試験（70%）
課題に対する フィード バック	小テストの解説，リアクションペーパーの回答
指定図書	中村隆一，齊藤宏，長崎浩：基礎運動学（医歯薬出版） 弓岡光徳ら（訳）：エッセンシャル・キネシオロジー（南江堂） *以下，OT 学科のみ購入 中島雅美，中島喜代彦（編）：PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第2版（医歯薬出版） 中島雅美（編）：PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート 第2版（医歯薬出版）
参考図書	なし
事前・ 事後学修	各回のテーマ（膝や足など）の解剖学，つまり骨や筋の構造について事前に20分程度学修しておくこと。Moodle の練習問題を20分程度行うこと。
オフィス アワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	運動学Ⅱ																																
科目責任者	田中真希																																
単位数他	1単位(30時間) 理学必修・作業必修 3セメスター																																
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎																																
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																
科目概要	運動学Ⅰで学んだ知識を基に、運動学の基礎的知識を習得する。ヒトの姿勢や歩行の定義と評価の基礎、姿勢の神経制御、運動の学習過程、さらに姿勢と運動の分析について学修する。授業は講義と演習形式により進める。																																
到達目標	1. 標準的なヒトの姿勢・歩行を運動学および運動力学的な視点で説明できる 2. 姿勢制御、運動学習の理論についてその概略を説明できる 3. 姿勢、動作の観察・分析の基本的な考え方と方法を説明できる																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th style="text-align: right;">&lt;担当教員名&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：オリエンテーション 運動学Ⅰの復習・運動学のための基礎物理学</td> <td style="text-align: right;">田中真希・津森伸一</td> </tr> <tr> <td>第2回：生体の構造と機能① 骨格筋の収縮・反射運動</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第3回：生体の構造と機能② 運動制御</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第4回：生体の構造と機能③ 運動生理</td> <td style="text-align: right;">矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第5回：姿勢① 姿勢の定義、姿勢に関する物理学（重心・重心線）</td> <td style="text-align: right;">田中真希・津森伸一</td> </tr> <tr> <td>第6回：姿勢② 姿勢の安定要因、姿勢の分類</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第7回：姿勢③ 姿勢制御機構、バランス評価</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第8回：姿勢④ 姿勢観察、異常姿勢・姿勢分析の基礎</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第9回：歩行① 歩行の定義、歩行に関する物理学（生体力学）</td> <td style="text-align: right;">田中真希・津森伸一</td> </tr> <tr> <td>第10回：歩行② 歩行観察、歩行周期</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第11回：歩行③ 運動学的分析、運動力学的分析</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第12回：歩行④ 筋電図分析、生理学的分析</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第13回：歩行⑤ 歩行観察、異常歩行・歩行分析の基礎</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第14回：運動学習① 学習と記憶、運動技能、学習の諸理論</td> <td style="text-align: right;">中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第15回：運動学習② 運動学習の諸理論、練習と訓練</td> <td style="text-align: right;">中島ともみ</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：オリエンテーション 運動学Ⅰの復習・運動学のための基礎物理学	田中真希・津森伸一	第2回：生体の構造と機能① 骨格筋の収縮・反射運動	矢倉千昭	第3回：生体の構造と機能② 運動制御	矢倉千昭	第4回：生体の構造と機能③ 運動生理	矢部広樹	第5回：姿勢① 姿勢の定義、姿勢に関する物理学（重心・重心線）	田中真希・津森伸一	第6回：姿勢② 姿勢の安定要因、姿勢の分類	田中真希	第7回：姿勢③ 姿勢制御機構、バランス評価	田中真希	第8回：姿勢④ 姿勢観察、異常姿勢・姿勢分析の基礎	田中真希	第9回：歩行① 歩行の定義、歩行に関する物理学（生体力学）	田中真希・津森伸一	第10回：歩行② 歩行観察、歩行周期	田中真希	第11回：歩行③ 運動学的分析、運動力学的分析	田中真希	第12回：歩行④ 筋電図分析、生理学的分析	田中真希	第13回：歩行⑤ 歩行観察、異常歩行・歩行分析の基礎	田中真希	第14回：運動学習① 学習と記憶、運動技能、学習の諸理論	中島ともみ	第15回：運動学習② 運動学習の諸理論、練習と訓練	中島ともみ
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第1回：オリエンテーション 運動学Ⅰの復習・運動学のための基礎物理学	田中真希・津森伸一																																
第2回：生体の構造と機能① 骨格筋の収縮・反射運動	矢倉千昭																																
第3回：生体の構造と機能② 運動制御	矢倉千昭																																
第4回：生体の構造と機能③ 運動生理	矢部広樹																																
第5回：姿勢① 姿勢の定義、姿勢に関する物理学（重心・重心線）	田中真希・津森伸一																																
第6回：姿勢② 姿勢の安定要因、姿勢の分類	田中真希																																
第7回：姿勢③ 姿勢制御機構、バランス評価	田中真希																																
第8回：姿勢④ 姿勢観察、異常姿勢・姿勢分析の基礎	田中真希																																
第9回：歩行① 歩行の定義、歩行に関する物理学（生体力学）	田中真希・津森伸一																																
第10回：歩行② 歩行観察、歩行周期	田中真希																																
第11回：歩行③ 運動学的分析、運動力学的分析	田中真希																																
第12回：歩行④ 筋電図分析、生理学的分析	田中真希																																
第13回：歩行⑤ 歩行観察、異常歩行・歩行分析の基礎	田中真希																																
第14回：運動学習① 学習と記憶、運動技能、学習の諸理論	中島ともみ																																
第15回：運動学習② 運動学習の諸理論、練習と訓練	中島ともみ																																

アクティブ ラーニング	Moodle を用いた動画および資料の提示, 小テストを実施する. 授業は反転授業やグループワークの形式を取り入れ, 事前学習で学んだことを授業内でPC を 用いてプレゼンテーションまたはディスカッションをする. グループは初回授業時に提示します.
評価方法	定期試験 50%, 小テスト 20%, グループワークディスカッション・プレゼンテーション 20%, リアクションペーパー10% 計 100 点 ディスカッション・プレゼンテーションはルーブリックを用いて評価し, その評価基準や項目 は授業で提示する.
課題に対す るフィード バック	各回の小テストを Moodle 上で行い, 解答後に正解・解説と採点結果をフィードバックする. また, 各回のリアクションペーパーは Moodle を用いて提出してもらおうものとし, 質問や意見に ついては個別に返信する.
指定図書	中村隆一他著:基礎運動学 第6版補訂 (医歯薬出版) ※運動学 I 指定図書 望月久, 棚橋信雄 編著:PT・OT ゼロからの物理学 (羊土社) ※基礎物理指定図書
参考図書	運動学 I 指定図書 小柳磨毅他編:PT・OT のための運動学テキスト 基礎・実習・臨床 (金原出版株式会社) 臨床歩行分析研究会監修:姿勢・動作・歩行分析 第1版 (羊土社) その他は授業内で随時紹介する.
事前・ 事後学修	原則 40 分程度を目安に学修する. 事前学修として, 動画および資料の閲覧や教科書の該当ページを読み, キーワードをまとめる. 事後学修として, 授業で学んだ内容の演習問題を解き, 理解度を確認し, 疑問点をまとめて復 習する.
オフィス アワー	所属学部:リハビリテーション学部 研究室:3510 研究室 時間については, 初回授業時に提示します. 上記以外でもメール (maki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です.

科目名	運動学演習	
科目責任者	根地嶋誠	
単位数他	1 単位 (30 時間)	理学必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門基礎	
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。	
科目概要	この授業では、運動学講義で得た知識を実習形式さらに深めることを目的とする。また運動学実習では、解剖学、生理学および物理学の知識を運動学と関連付けていくことが重要である。筋の起始停止、筋の走行、関節の動きなどを実習形式から学習する。基本動作を運動学的な知見で理解する。授業は、講義および実技形式により進める。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. それぞれの関節運動や筋の動きについて、自分の言葉で説明できる。</li> <li>2. 骨格筋の触診ができる。</li> <li>3. 歩行や全身運動によって起こる呼吸循環の反応について自分の考えをまとめることができる。</li> <li>4. 正常歩行や異常歩行の違いなどを自分の考えをまとめることができる。</li> <li>5. 骨格や筋肉の名前など英語で伝えることができる。</li> </ol>	
授業計画	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>
	第 1 回：オリエンテーション・触察、視診	根地嶋
	第 2 回：上肢の骨格筋と運動-1：手関節と手の骨格筋と関節運動	田中
	第 3 回：上肢の骨格筋と運動-2：肘関節と前腕の骨格筋と関節運動	田中
	第 4 回：上肢の骨格筋と運動-3：肩複合体の骨格筋と関節運動 小テスト	田中
	第 5 回：下肢の骨格筋と運動-1：足関節と足の骨格筋と関節運動	根地嶋
	第 6 回：下肢の骨格筋と運動-2：膝関節の骨格筋と関節運動	根地嶋
	第 7 回：下肢の骨格筋と運動-3：股関節の骨格筋と関節運動 小テスト	根地嶋
	第 8 回：下肢の骨格筋と運動-4：下肢帯の骨格筋と関節運動	根地嶋
	第 9 回：上下肢の骨格筋と運動のまとめ・中間テスト	根地嶋
	第 10 回：体幹の骨格筋と運動-1：頸・胸・腰椎の骨格筋と関節運動	根地嶋
	第 11 回：体幹の骨格筋と運動-2：呼吸と胸郭運動 小テスト	田中
	第 12 回：基本姿勢と動作-1：臥位・寝返り・起き上がり	矢倉
	第 13 回：基本姿勢と動作-2：座位・立ち上がり・立位	矢倉
	第 14 回：基本姿勢と動作-3：歩行	田中
	第 15 回：まとめ、小テスト	根地嶋

アクティブ ラーニング	グループ学修
評価方法	レポート (40%)・小テストとリアクションペーパー (30%)・中間テスト (30%) (レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する)
課題に対する フィード バック	レポート・リアクションペーパーのコメント・返却
指定図書	青木隆明 (監) : 「運動療法のための機能解剖学的触診技術」 上肢(メジカルビュー社) 青木隆明 (監) : 「運動療法のための機能解剖学的触診技術」 下肢・体幹(メジカルビュー社)
参考図書	小柳磨毅・他 (編) : PT・OTのための運動学テキスト (金原出版)
事前・ 事後学修	各回のテーマについて、解剖学、生理学および運動学の復習を、これまでの資料および教科書にて 20 分程度行うこと。授業で取り組んだ演習のまとめを 20 分程度行うこと。
オフィス アワー	科目責任者：根地嶋誠 (リハビリテーション学部理学療法学科) 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	人間発達学																																
科目責任者	伊藤 信寿																																
単位数他	1単位 (30時間) 理学・作業必修 2セメスター																																
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎																																
科目の 位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																																
科目概要	人間発達学では、リハビリテーションの臨床実践に向けて、保健医療福祉の専門職者に求められる人の心身機能や身体構造、活動に関する人間発達の基本的な知識・理論を体系的に学習する。																																
到達目標	(1) 発達とは、発達要因（遺伝と環境）、発達の基本原則、臨界期、発達段階（ライフステージ）について説明できる (2) 発達段階（ライフステージ）における発達特徴と課題を説明できる (3) 情緒・社会性の発達と発達問題について説明できる (4) 運動発達の過程とその原理（神経成熟理論）を説明できる																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: left;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：総論</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：脳・神経系の発達</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：身体の運動機能と構造の発達と障害</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：身体の運動機能と構造の発達と障害</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：胎児期・新生児期の発達</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：乳児期の発達</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：幼児前期・後期の発達</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：学童期の発達</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：青年期の発達</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：成人期の発達</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：老年期の発達</td> <td>吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：知覚・認知機能の発達</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：情緒・社会性の発達と障害</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：言語機能の発達と障害</td> <td>大原重洋</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：まとめ</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：総論	伊藤信寿	第 2 回：脳・神経系の発達	伊藤信寿	第 3 回：身体の運動機能と構造の発達と障害	伊藤信寿	第 4 回：身体の運動機能と構造の発達と障害	伊藤信寿	第 5 回：胎児期・新生児期の発達	伊藤信寿	第 6 回：乳児期の発達	伊藤信寿	第 7 回：幼児前期・後期の発達	伊藤信寿	第 8 回：学童期の発達	伊藤信寿	第 9 回：青年期の発達	伊藤信寿	第 10 回：成人期の発達	伊藤信寿	第 11 回：老年期の発達	吉本好延	第 12 回：知覚・認知機能の発達	伊藤信寿	第 13 回：情緒・社会性の発達と障害	伊藤信寿	第 14 回：言語機能の発達と障害	大原重洋	第 15 回：まとめ	伊藤信寿
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第 1 回：総論	伊藤信寿																																
第 2 回：脳・神経系の発達	伊藤信寿																																
第 3 回：身体の運動機能と構造の発達と障害	伊藤信寿																																
第 4 回：身体の運動機能と構造の発達と障害	伊藤信寿																																
第 5 回：胎児期・新生児期の発達	伊藤信寿																																
第 6 回：乳児期の発達	伊藤信寿																																
第 7 回：幼児前期・後期の発達	伊藤信寿																																
第 8 回：学童期の発達	伊藤信寿																																
第 9 回：青年期の発達	伊藤信寿																																
第 10 回：成人期の発達	伊藤信寿																																
第 11 回：老年期の発達	吉本好延																																
第 12 回：知覚・認知機能の発達	伊藤信寿																																
第 13 回：情緒・社会性の発達と障害	伊藤信寿																																
第 14 回：言語機能の発達と障害	大原重洋																																
第 15 回：まとめ	伊藤信寿																																

アクティブ ラーニング	Think-Pair-Share やグループワークを行っていく。
評価方法	筆記試験 (60%), 小テスト (20%), 課題 (20%)
課題に対する フィード バック	授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらい、質問や意見については授業中に回答する。 授業後半に確認テストを行い、グループ単位で復習を行う。不明な点がある場合、解説する。
指定図書	リハビリテーションのための人間発達学 (第2版) 大城昌平 (編著) メデカイルプレス
参考図書	イラストでわかる人間発達学 上杉雅之 (監修) 医歯薬出版株式会社
事前・ 事後学修	事前学修: 各授業回に該当するテキストの章を読む (20分) 事後学修: 授業の配布資料と確認テストを復習する (20分)
オフィス アワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3514 研究室 時間等: 毎週水曜日 12時~13時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	病理学概論 I
科目責任者	大林 雅春
単位数他	1単位 (15時間) 理学必修・作業必修・言語必修 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	病理学とは、基礎医学と臨床医学にまたがる学問で、病気の仕組み（原因、成り立ち、経過、転帰）を学習する。医療に携わる者にとって基本かつ必須の学問である。病理学は実際の医療の現場では、病理診断・解剖という形で病気の診断・治療・予防に貢献している。この講義では、病理学総論（病因論、細胞の傷害と修復、代謝障害、先天異常・老化、循環障害、免疫・炎症・感染症、腫瘍等）の知識を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種疾患の病因と病態に関する基礎的知識を理解し説明できる。</li> <li>2. 病気のメカニズムを組織・細胞の形態学的な変化として理解し説明できる。</li> <li>3. 人体に備わる病態からの修復機構とともに生体防御機構について理解し説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;大林 雅春</span></p> <p>第 1 回：ガイダンス、病理学とは？ 病因論 テキスト総論第 1 章、第 2 章、  第 2 回：退行性病変・進行性病変、代謝障害、テキスト総論第 3 章、第 4 章  第 3 回：循環障害 テキスト総論第 5 章  第 4 回：老化、先天異常・奇形 テキスト総論第 9 章、第 10 章  第 5 回：免疫、炎症・感染症 テキスト総論第 6 章、第 7 章  第 6 回：免疫、炎症・感染症 テキスト総論第 6 章、第 7 章  第 7 回：腫瘍 テキスト総論第 8 章  第 8 回：腫瘍 テキスト総論第 8 章</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。</p>

アクティブ ラーニング	Moodleに掲載する演習問題は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。必要に応じて各自印刷して予習の参考にすること。国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。知識の定着を進めるため、グループ単位でのディスカッションや発表（レポート形式 or プレゼンテーション）などグループ学修形式の授業も取り入れる。
評価方法	課題提出 10%、定期試験 90%、計 100%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーや課題などの質問やコメントに関しては、重要な質問やポイント等に対して授業中に回答する。その他は個別に対応する。
指定図書	〈標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野〉『病理学』医学書院（第4版） 編集：横井 豊治／村雲芳樹
参考図書	『シンプル病理学』 南江堂（第7版） 編集：笹野 公伸、岡田 保典、安井 弥 『なるほどなっとく！病理学 病態形成の基本的なしくみ』 南山堂 <a href="#">小林正伸</a> （著） 『病態生理学（第5版）（ナースング・グラフィカー疾病の成り立ち(1)）』メディカ出版 編集： <a href="#">山内豊明</a> 『標準病理学』 医学書院（第4版）編集：坂本穆彦，北川昌伸，仁木利郎 『はじめの一步のイラスト病理学』 羊土社（第2版）編集：深山 正久
事前・ 事後学修	講義範囲が非常に広いため、教科書・参考図書を良く読み、出来るだけ予習をして講義に臨むこと。 予習においては、あらかじめ次回授業で習うポイントを前もって明示するので、その内容を重点的に予習するように。具体的にはテキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にして授業にのぞむこと。 復習においては、毎回の授業で講義資料等を配布するので、学習した内容を整理しておく事が望ましい。さらに国家試験既出問題に関連した演習問題を適宜 Moodle に掲載するので、定期試験勉強に役立てること。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「臨床検査技師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	病理学概論Ⅱ
科目責任者	大林 雅春
単位数他	1単位 (15時間) 理学必修・作業必修 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	病理学概論Ⅰ「病理学総論」で学んだ基本的な病変が、臓器別（循環器、呼吸器、消化器、内分泌系、泌尿器系、造血器、生殖器、皮膚、感覚器、脳・神経系、運動器）にどのように発現するのかについて、各臓器の組織や細胞の形態学的変化の観点から学んでいく。主に炎症性・腫瘍性病変にスポットを当てて学習する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種臓器の循環障害を理解し説明できる。</li> <li>2. 各種臓器の代謝異常を理解し説明できる。</li> <li>3. 各種臓器の炎症性疾患を理解し説明できる。</li> <li>4. 各種臓器の腫瘍性疾患を理解し説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;大林 雅春</p> <p>第1回：呼吸器、消化器、テキスト各論第2章、第3章  第2回：内分泌系、泌尿器系、テキスト第6章、第7章  第3回：造血系、生殖器、テキスト各論第6章、第8章  第4回：皮膚、感覚器 テキスト各論第9章  第5回：循環器 テキスト各論第1章  第6回：脳・神経系 テキスト各論第4章  第7回：運動器 テキスト各論第5章  第8回：まとめ</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。</p>

アクティブ ラーニング	Moodleに掲載する演習問題は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。必要に応じて各自印刷して予習の参考にする。国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。知識の定着を進めるため、グループ単位でのディスカッションや発表（レポート形式 or プレゼンテーション）などグループ学修形式の授業も取り入れる。
評価方法	課題提出 10%、定期試験 90%、計 100%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーや課題などの質問やコメントに関しては、重要な質問やポイント等に対して授業中に回答する。その他は個別に対応する。
指定図書	〈標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野〉『病理学』医学書院（第4版） 編集：横井 豊治／村雲芳樹
参考図書	『シンプル病理学』 南江堂（第7版） 編集：笹野 公伸、岡田 保典、安井 弥 『なるほどなっとく！病理学 病態形成の基本的なしくみ』 南山堂 <a href="#">小林正伸</a> （著） 『病態生理学（第5版）（ナース・グラフィカ―疾病の成り立ち(1)）』メディカ出版 編集： <a href="#">山内豊明</a> 『標準病理学』 医学書院（第4版）編集：坂本穆彦，北川昌伸，仁木利郎 『はじめの一步のイラスト病理学』 羊土社（第2版）編集：深山 正久
事前・ 事後学修	講義範囲が非常に広いため、教科書・参考図書を良く読み、出来るだけ予習をして講義に臨むこと。 予習においては、あらかじめ次回授業で習うポイントを前もって明示するので、その内容を重点的に予習するように。具体的にはテキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にして授業にのぞむこと。 復習においては、毎回の授業で講義資料等を配布するので、学習した内容を整理しておく事が望ましい。さらに国家試験既出問題に関連した演習問題を適宜 Moodle に掲載するので、定期試験勉強に役立てること。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「臨床検査技師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床心理学
科目責任者	福永 博文
単位数他	1単位(30時間) 理学必修・作業必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	1. 精神的健康を回復、維持して生きる力を身につけるための知識や技術を学修する。 2. 障害のある人の心理や支援に関する心理臨床的治療の知識や技術について学修する。
到達目標	1. 生きる力が伸びる性格形成、適応機制、不適応、査定、児童虐待、ひきこもりなどを理解する。 2. 生きる力の回復、維持のための行動療法、認知行動療法、応用行動分析学などを理解する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 福永博文</p> <p>第1回：生きる力と臨床心理学 — 臨床心理学の目的と方法 —</p> <p>第2回：生きる力が伸びる性格形成 — 性格の意味と理論、性格形成 —</p> <p>第3回：生きるための欲求と適応 — 欲求の意味・発達、欲求不満、適応(防衛)機制— 事例検討</p> <p>第4回：生きるための不適応の改善 — 不適応の意味と原因・改善 —</p> <p>第5回：心理臨床的アセスメント① — 観察、面接、心理検査など信頼関係を築く理論と実践 — ロールプレイ</p> <p>第6回：心理臨床的アセスメント② — 心理検査による事例の検討 — 事例検討</p> <p>第7回：生きる力を支える心理臨床的治療 — 不登校のりかいと家族の心理・支援 — 事例検討</p> <p>第8回：生きる力を支える心理臨床的治療 — ひきこもりの理解と家族の心理的・支援 — 事例検討</p> <p>第9回：発達障害のある人の心理の理解と支援 — 障害のある人の心理変化とその家族への支援 — 事例検討</p> <p>第10回：社会的不適応状態にある人への心理臨床的治療① — 行動療法、認知行動療法の理論と実践 — 事例検討</p> <p>第11回：社会的不適応状態にある人への心理臨床的治療② — 応用行動分析学の理論と実践 — 事例検討</p> <p>第12回：患者の心理臨床 — ライフステージに沿った入院患者の心理と支援 —</p> <p>第13回：児童虐待と心理臨床① — 親は、なぜ我が子を虐待するのか、家族構造と病理 — 事例検討</p> <p>第14回：児童虐待と心理臨床② — 子どもに与える心理的影響、子どもと家族への支援 — 事例検討</p> <p>第15回：DVと心理臨床／全体のまとめ — 加害者の心理・タイプ、被害者の心理、支援 — 事例検討</p>

アクティブ ラーニング	主として身体的・心理的問題により、適応上の困難をきたしているクライアントの理解と支援のために必要な知識と技術は、具体的な事例検討やロールプレイングの検討により臨床場面で活かせる確かな実践力を身につける。
評価方法	定期試験 60%、中間試験 40% 計 100%
課題に対する フィード バック	筆記試験の解答例の提示、事例検討の解答例の提示
指定図書	『生きる力を育てる臨床心理学』小林 芳郎編著 保育出版社
参考図書	授業中に随時紹介する。
事前・ 事後学修	教科書と事前に配布した補足資料を 25 分程度読んで、理解を深めておく。同時に 15 分程度の復讐をする。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「臨床心理士」「スクールカウンセラー」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床医学・医療学概論																		
科目責任者	根地嶋誠																		
単位数他	1単位(15時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1セメスター																		
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎																		
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																		
科目概要	普通科高校を卒業し、初めて医療に関する専門教育を受けることになる新入学1年生に、医療全般についての概要を学んでほしい。最新の知識や高度な技術を習得するだけでは良い医療者にはなれない。病人の気持ちを理解できる医療者になれるよう倫理的問題等についても広く学習する。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 与えられたテーマについて参考文献などを通じて調査する。</li> <li>2. 取得した知識を2-3分の与えられた時間にまとめあげる。</li> <li>3. 医療について概論的な知識を他人に分かり易く説明できるようにする。</li> <li>4. 医療従事者としての心構えに関する自分の考えを述べられるようにする。</li> </ol>																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：この講義で何を学ぶか</td> <td style="text-align: right;">根地嶋誠</td> </tr> <tr> <td>第2回：医学とは、医学史</td> <td style="text-align: right;">荻野和功</td> </tr> <tr> <td>第3回：病気の原因</td> <td style="text-align: right;">荻野和功</td> </tr> <tr> <td>第4回：病気の診断</td> <td style="text-align: right;">荻野和功</td> </tr> <tr> <td>第5回：医学の体系</td> <td style="text-align: right;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第6回：病気の治療とリハビリテーション</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第7回：病気の予防</td> <td style="text-align: right;">田島明子</td> </tr> <tr> <td>第8回：医療システム</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：この講義で何を学ぶか	根地嶋誠	第2回：医学とは、医学史	荻野和功	第3回：病気の原因	荻野和功	第4回：病気の診断	荻野和功	第5回：医学の体系	伊藤信寿	第6回：病気の治療とリハビリテーション	矢倉千昭	第7回：病気の予防	田島明子	第8回：医療システム	柴本 勇
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第1回：この講義で何を学ぶか	根地嶋誠																		
第2回：医学とは、医学史	荻野和功																		
第3回：病気の原因	荻野和功																		
第4回：病気の診断	荻野和功																		
第5回：医学の体系	伊藤信寿																		
第6回：病気の治療とリハビリテーション	矢倉千昭																		
第7回：病気の予防	田島明子																		
第8回：医療システム	柴本 勇																		

アクティブ ラーニング	配布資料や授業ノート，課題を見直していただき，授業で出てきた key word で解らない点があれば調べてテストに臨んでください。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。
評価方法	筆記試験 50%，課題提出物 50%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。
指定図書	『医学概論』日野原重明、医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスで次回の授業内容を確認し，教科書を読んでおくこと。 事後学修：復習用の課題を行うこと。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3505 研究室 時間等：毎週水曜日 12 時～13 時 上記以外でもメール (makoto-n@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師，理学療法士，作業療法士，言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	内科系医療学
科目責任者	俵 祐一
単位数他	2単位 (30 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	主な内科系疾患に関する代表的な病態と診断方法や基準・治療方法について基本となる知識を身につける。具体的には呼吸器系疾患、膠原病と類縁疾患、内分泌代謝疾患、循環器疾患、消化管疾患、肝臓、胆道、膵臓の基礎と臨床、感染症などを学習する。
到達目標	リハビリテーションを行っている患者さんで問題となる頻度の高い各疾患の病態や診断方法、治療について理解する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;俵祐一、柴本勇、泉良太、矢部広樹、横村光司、志智大介、北川哲司、長澤正通、松島秀樹、</p> <p>&lt;横担当分&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.呼吸器感染症（上気道炎・気管および気管支炎・肺炎・胸膜炎・膿胸、抗酸菌感染症）</li> <li>2.気管支喘息と COPD, 間質性肺炎、肺癌</li> </ol> <p>&lt;矢部担当分&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.代表的な代謝疾患（特に糖尿病）について</li> <li>2.内分泌代謝系の基礎 代表的な内分泌疾患（特に甲状腺疾患）について</li> </ol> <p>&lt;志智担当分&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.感染症学と臨床（感染症成立の病態生理について、日常診療で遭遇しやすい代表的な感染症や病原菌について） 病院内職員の知っておくべき感染制御について（病院内で働く職員として知っておくべき院内感染とその対応）</li> <li>2.膠原病や関節リウマチとその類縁疾患、自己免疫系疾患成立の病態生理、膠原病や関節リウマチなど免疫疾患の各論 関節リウマチ患者へのケア</li> </ol> <p>&lt;泉担当分&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.循環器系の解剖、生理、循環器疾患の症状と検査</li> <li>2.血圧の異常、心不全の病態、虚血性心疾患（狭心症・急性心筋梗塞）</li> </ol> <p>&lt;北川担当分&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.消化管疾患の症候とその病態生理、消化管疾患の検査法</li> <li>2.口腔・食道・胃の疾患、小腸、大腸の疾患</li> </ol> <p>&lt;長澤担当分&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.肝臓疾患の総論、肝臓疾患の各論、胆膵疾患の総論</li> </ol> <p>&lt;松島担当分&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.腎臓の構造と働き、腎疾患の症候や検査・診断・治療の進め方、頻度が高い腎疾患、慢性腎臓病（CKD）の概念</li> <li>2.腎臓置換療法（急性腎不全、慢性腎不全）、血液浄化療法（血液透析、腹膜透析）、長期透析の合併症</li> </ol> <p>&lt;俵担当分&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.急性呼吸不全、慢性呼吸不全</li> </ol> <p>&lt;柴本担当分&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.老年医学とサルコペニア 人体の加齢現象、及びサルコペニア・フレイルの概念と病態について サルコペニアの治療について</li> </ol>

アクティブ ラーニング	事前学修を促し、重要な部分は授業中に学生に質問しながら行う。
評価方法	定期試験 100%の結果で評価を行う。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。
指定図書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業回に該当するテキストの章を読んで、授業に参加してください。</li> <li>・講義内容、配布資料、テキストなどを参考とし、事後学修してください。</li> </ul>
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点 を踏まえて教授する科目です。

科目名	整形外科系医療学
科目責任者	長野 純二
単位数他	2単位 (30 時間) 理学必修・作業必修 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	理学療法と作業療法の主な対象となる四肢や脊柱など運動器の構造・機能解剖について学ぶ。理学療法では、高齢者のロコモティブシンドローム、運動器不安定症について学ぶ。作業療法では、手の機能解剖について詳しく学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 四肢と脊柱の骨・関節、筋・腱、神経・血管などの解剖名を完全に覚える。</li> <li>2. 各関節の運動名とその正常可動域、各運動に関与する筋・それを支配する神経名を完全に覚える。</li> <li>3. 運動器の診察の仕方、所見の表現・記載法を学ぶ。</li> <li>4. 運動器の機能を障害する疾患、外傷について理解する。</li> </ol> <p>各疾患・外傷に対する保存療法と手術法の術前・術後療法及び障害予防について詳しく学ぶことで運動器リハビリテーションは医療・介護を通して生涯にわたり必要であることを学ぶ。</p>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>複数の教官が、それぞれの専門領域を担当する。したがって、総論と各論が並列で授業されることがある。内容はかなり専門的になる。</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 整形外科基礎科学、整形外科診断総論、骨折等の病態など 井上善也</li> <li>2. 高齢期1：ロコモティブシンドローム等、骨粗鬆症 井上善也</li> <li>3. 高齢期2：ロコモティブシンドローム等、骨粗鬆症 井上善也</li> <li>4. 脊柱脊髓1：脊髓損傷、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症など 佐々木寛二</li> <li>5. 脊柱脊髓2：脊髓損傷、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症など 佐々木寛二</li> <li>6. 四肢の循環障害、阻血壊死性疾患、代謝性疾患、など 佐々木寛二</li> <li>7. 肩関節の疾患と外傷：肩関節周囲炎、腱板断裂 桐村憲吾</li> <li>8. 骨関節感染症、リウマチ 長野純二</li> <li>9. 肘・手関節の疾患と外傷1：骨折、腱断裂、手根管症候群など 大井宏之</li> <li>10. 肘・手関節の疾患と外傷2：骨折、腱断裂、手根管症候群など 大井宏之</li> <li>11. 手の疾患と外傷：手の外科（マイクロサージャリー） 大井宏之</li> <li>12. 股関節の疾患と外傷：変形性股関節症、頸部骨折、骨頭壊死など 小林良充</li> <li>13. 膝・足関節の疾患と外傷：変形性膝関節症、離断性骨軟骨炎など 小林良充</li> <li>14. 先天性骨系統疾患、先天性異常症候群 高橋勇二</li> <li>15. アスレティックリハビリテーション 高橋勇二</li> </ol> <p>※授業は、上記の順序で進んでいくとは、限らない。</p>

アクティブ ラーニング	グループ学習を予定している。
評価方法	定期試験 50%、授業態度 30%、レポート 20%
課題に対する フィード バック	筆記試験の解答を提示予定
指定図書	『標準整形外科学』医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	必ず予習を行う。授業の後は今後の仕事に役立てるために知識の整理をする。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	神経内科系医療学																																
科目責任者	大橋寿彦																																
単位数他	2単位数 (30時間) 理学必修・作業必修 3セメスター																																
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎																																
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																
科目概要	リハビリテーションの実践に必要な身体障害に関する基本的な医学的理解を深めるために、身体障害の原因となる神経系の疾患について病態生理、診断や治療の知識を身に付ける。																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経系の疾患およびそれによってもたらされる身体障害の特徴を説明できる</li> <li>2. 神経系に特徴的な疾患の病態生理を理解する</li> <li>3. 神経系の疾患の診断検査技術について理解する</li> <li>4. 疾病によってもたらされた障害に対して、必要なリハビリを選択できる</li> </ol>																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: left;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. ガイダンス、頭痛</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>2. 中枢神経系の解剖・機能</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>3. しびれ</td> <td>内山</td> </tr> <tr> <td>4. めまい</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>5. 脳血管障害</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>6. 運動神経疾患</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>7. パーキンソン症候群</td> <td>内山</td> </tr> <tr> <td>8. 脊髄小脳変性症、自律神経障害</td> <td>内山</td> </tr> <tr> <td>9. 認知症</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>10. 感染症</td> <td>内山</td> </tr> <tr> <td>11. 脱髄疾患</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>12. 電気生理</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>13. 末梢神経障害</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>14. 筋疾患、内科との関連疾患</td> <td>内山</td> </tr> <tr> <td>15. 画像</td> <td>佐藤</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	1. ガイダンス、頭痛	大橋	2. 中枢神経系の解剖・機能	大橋	3. しびれ	内山	4. めまい	佐藤	5. 脳血管障害	大橋	6. 運動神経疾患	大橋	7. パーキンソン症候群	内山	8. 脊髄小脳変性症、自律神経障害	内山	9. 認知症	大橋	10. 感染症	内山	11. 脱髄疾患	佐藤	12. 電気生理	大橋	13. 末梢神経障害	佐藤	14. 筋疾患、内科との関連疾患	内山	15. 画像	佐藤
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
1. ガイダンス、頭痛	大橋																																
2. 中枢神経系の解剖・機能	大橋																																
3. しびれ	内山																																
4. めまい	佐藤																																
5. 脳血管障害	大橋																																
6. 運動神経疾患	大橋																																
7. パーキンソン症候群	内山																																
8. 脊髄小脳変性症、自律神経障害	内山																																
9. 認知症	大橋																																
10. 感染症	内山																																
11. 脱髄疾患	佐藤																																
12. 電気生理	大橋																																
13. 末梢神経障害	佐藤																																
14. 筋疾患、内科との関連疾患	内山																																
15. 画像	佐藤																																

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	定期試験 100%
課題に対する フィード バック	授業の中で質問に対し回答する。
指定図書	なし
参考図書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学』医学書院
事前・ 事後学修	学習しても不明な点は積極的に質問し、わからないままにしないこと
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神医学系医療学Ⅰ
科目責任者	新宮 尚人
単位数他	1単位(15時間) 理学必修・作業必修・言語必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	精神機能障害の基礎的な知識を学び、リハビリテーションとの関係について理解を深める。特にリハビリテーション場面において遭遇する可能性の高い精神疾患のメカニズムや治療方法に重点を置く。
到達目標	1. 精神機能障害とリハビリテーションとの関係について説明できる 2. 代表的な精神疾患の特性と治療について説明できる 3. 精神障害に対するリハビリテーションの目的と役割について説明できる
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span></p> <p>第1回：オリエンテーション、リハビリテーションと精神医学 <span style="float: right;">新宮尚人</span></p> <p>第2回：導入・精神医学とは <span style="float: right;">山岡功一</span></p> <p>第3回：統合失調症 <span style="float: right;">藤田さより</span></p> <p>第4回：老年精神医学 <span style="float: right;">三浦一也</span></p> <p>第5回：精神障害の治療Ⅰ・薬物療法などの身体的治療 <span style="float: right;">三浦一也</span></p> <p>第6回：精神障害の治療Ⅱ・精神療法とリハビリテーション <span style="float: right;">三浦一也</span></p> <p>第7回：通院・訪問医療など <span style="float: right;">ゲストスピーカー 鴨藤祐輔</span></p> <p>第8回：グループワーク、発表、授業のまとめ <span style="float: right;">新宮尚人</span></p> <p>※テーマや内容は進度により変更の可能性がある。詳細はオリエンテーションで説明する。</p>

アクティブ ラーニング	テーマの内容を深めるためにグループ学修や問題基盤型学習 (Problem Based Learning : PBL) を行います。
評価方法	筆記試験 60%、グループワーク発表 10%、レポート 30%
課題に対する フィード バック	希望者には、筆記試験の終了後に個別解説とレポートのフィードバックを行います。 改めて時間調整をします。
指定図書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学』医学書院
参考図書	必要に応じて授業中に紹介する
事前・ 事後学修	事前・事後学習は 40 分を目安とします。事前学習ではテキストの該当箇所を目を通して置いて下さい。事後学習では、授業で示された内容のポイントを確認し、日にちが経ってもその情報にたどり着けるように工夫して下さい。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3501 研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (naohito-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師、作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	小児科系医療学 I	
科目責任者	木部哲也	
単位数他	1 単位 (15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 3 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎	
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	リハビリテーションの実践において必要な小児医療の知識を身につける。小児の特徴である、発育・発達概念、予防医学やいわゆる common disease について学ぶ。	
到達目標	小児の成長・発達の正常像と異常について概略を説明できる。 よくある小児疾患について概略を説明できる。 予防医学や保健活動について概略を説明できる。	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回 小児科総論</p> <p>第 2 回 小児の成長と発達</p> <p>第 3 回 先天異常と遺伝病</p> <p>第 4 回 新生児・未熟児医療</p> <p>第 5 回 小児の集中治療など</p> <p>第 6 回 小児神経疾患①「脳性麻痺, てんかんなど」</p> <p>第 7 回 小児神経疾患②「神経筋疾患」</p> <p>第 8 回 重症心身障害児医療について</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>木部</p> <p>木部</p> <p>松下</p> <p>白井</p> <p>南野</p> <p>木部</p> <p>木部</p> <p>木部</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	定期試験 80%、授業態度 20%
課題に対する フィード バック	授業の中で質問に対し回答する。
指定図書	プリント配布、標準理学療法学・作業療法学「小児科学」第5版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	テストのために勉強するのではなく、社会に出たときにどう役立てていくかを常々意識して勉強してください。より実践的な学習を心掛けてください。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	小児科系医療学Ⅱ																		
科目責任者	木部哲也																		
単位数他	1単位（15時間）理学必修・作業必修 3セメスター																		
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎																		
科目の 位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																		
科目概要	リハビリテーションの実践において必要な小児医療の知識を身につける。小児の特徴である、発育・発達概念、予防医学やいわゆる common disease について学ぶ。																		
到達目標	小児の成長・発達の正常像と異常について概略を説明できる。 よくある小児疾患について概略を説明できる。 予防医学や保健活動について概略を説明できる。																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th>&lt;担当教員名&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 小児期の感染症と予防接種</td> <td>木部</td> </tr> <tr> <td>第2回 発達栄養学</td> <td>松下</td> </tr> <tr> <td>第3回 小児の呼吸器疾患</td> <td>南野</td> </tr> <tr> <td>第4回 小児の循環器疾患</td> <td>白井</td> </tr> <tr> <td>第5回 発達障害について</td> <td>白井</td> </tr> <tr> <td>第6回 小児の後天性神経疾患</td> <td>木部</td> </tr> <tr> <td>第7回 思春期医学</td> <td>木部</td> </tr> <tr> <td>第8回 まとめ</td> <td>木部</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回 小児期の感染症と予防接種	木部	第2回 発達栄養学	松下	第3回 小児の呼吸器疾患	南野	第4回 小児の循環器疾患	白井	第5回 発達障害について	白井	第6回 小児の後天性神経疾患	木部	第7回 思春期医学	木部	第8回 まとめ	木部
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																		
第1回 小児期の感染症と予防接種	木部																		
第2回 発達栄養学	松下																		
第3回 小児の呼吸器疾患	南野																		
第4回 小児の循環器疾患	白井																		
第5回 発達障害について	白井																		
第6回 小児の後天性神経疾患	木部																		
第7回 思春期医学	木部																		
第8回 まとめ	木部																		

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	定期試験 80%、授業態度 20%
課題に対する フィード バック	授業の中で質問に対し回答する。
指定図書	プリント配布、標準理学療法学・作業療法学「小児科学」第5版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	テストのために勉強するのではなく、社会に出たときにどう役立てていくかを常々意識して勉強してください。より実践的な学習を心掛けてください。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	リハビリテーション概論
科目責任者	新宮 尚人
単位数他	1単位(15時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 Semester
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	リハビリテーションには、社会構造の変化や価値観の変遷と共にその時代に応じた考え方が ある。この科目では、リハビリテーションの理念と歴史、保健医療福祉の専門職者に求められる 基本的な知識や考え方について学修する。特に自身の専門領域に留まらず、関係領域の専門 性についても知ることで、自身の職種の特性と役割を深く理解する。
到達目標	1. リハビリテーションの理念と歴史について説明できる 2. リハビリテーション・モデルとその適用例について説明できる。 3. 自身の専門領域の核となる特性と役割を説明できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span></p> <p>第1回：オリエンテーション、リハビリテーションとは (理念と歴史) <span style="float: right;">新宮尚人</span></p> <p>第2回：リハビリテーションモデルと障害の理解 <span style="float: right;">新宮尚人</span></p> <p>第3回：リハビリテーションとチーム医療 (理学療法の役割と連携について) <span style="float: right;">有菌信一</span></p> <p>第4回：リハビリテーションとチーム医療 (作業療法の役割と連携について) <span style="float: right;">伊藤信寿</span></p> <p>第5回：リハビリテーションとチーム医療 (言語聴覚療法の役割と連携について) <span style="float: right;">谷 哲夫</span></p> <p>第6回：リハビリテーションとチーム医療 (看護師の役割と連携について) <span style="float: right;">豊島由樹子</span></p> <p>第7回：リハビリテーションとチーム医療 ((社会福祉士・精神保健福祉士の役割と 連携について) <span style="float: right;">大場 義貴</span></p> <p>第8回：発表・授業のまとめ <span style="float: right;">新宮尚人</span></p>

アクティブ ラーニング	テーマの内容を深めるためにグループ学修を行います。
評価方法	筆記試験 60%、発表 10%、レポート 30%
課題に対する フィード バック	希望者には、筆記試験の終了後に個別解説とレポートのフィードバックを行います。 発表に対してコメントをします。
指定図書	特に指定しない。講義時にプリントを配布する。
参考図書	必要に応じて授業中に紹介する
事前・ 事後学修	事前・事後学習は 40 分を目安としますが、事前学習では授業テーマの内容や各職種の概要について下調べをしておいてください。事後学習では、授業時間内で取り組んだ内容のポイントを 確認し、今後の学修に活用することで定着をはかるように努力してください。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3501 研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (naohito-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」「作業療法士」「言語聴覚士」「看護師」「社会福祉士」「精神保健福祉士」 の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	リハビリテーション医療・医学 I																		
科目責任者	片桐伯真																		
単位数他	1 単位 (15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 3 セメスター																		
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																		
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																		
科目概要	<p>医療・福祉現場でのリハビリテーションに対する Needs は、急性期・回復期・生活維持～社会復帰に至るあらゆるステージにおいて高まる中、それらの中核を担う理学療法士・作業療法士・言語聴覚士に対しても知識・技術面で高いレベルが求められるようになってきた。</p> <p>臨床現場での実践に際しては、対象疾患の病態・臨床像に対する理解を深めることが求められるが、教科書だけの学習だけでは、臨床に即した感覚を養うことが困難であろう。この科目は実際にリハビリテーション診療にあたり、医学的知識と臨床経験豊富な聖隷事業団に所属しているリハビリテーション科専門医による講義・演習で構成されており、臨床場面で求められるポイントをわかりやすく習得できるよう構成した。</p> <p>一方的な受身の参加では知識の理解や定着が不十分となるため、参加される際には事前の予習と、講義参加場面でのアイデアを出す作業、さらには疑問点の解決などでも積極的な参加を求めたい。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床場面で経験する疾患・病態についての理解を深める。</li> <li>2. リハビリテーションの対象となる代表的な疾患についての診断・評価・治療法を理解する。</li> <li>3. 病態・障害象に応じたリハビリテーションアプローチを理解する。</li> </ol>																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：リハビリテーション総論・概論</td> <td style="text-align: right;">藤島一郎</td> </tr> <tr> <td>第2回：脳損傷のリハ：総論・リスク管理</td> <td style="text-align: right;">片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第3回：脳損傷のリハ：急性期リハと廃用症候群</td> <td style="text-align: right;">西村立</td> </tr> <tr> <td>第4回：脳損傷のリハ：回復期・生活維持期のリハ</td> <td style="text-align: right;">高橋博達</td> </tr> <tr> <td>第5回：脳損傷のリハ：高次脳機能障害・認知症のリハ</td> <td style="text-align: right;">片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第6回：神経疾患のリハビリテーション</td> <td style="text-align: right;">高橋博達</td> </tr> <tr> <td>第7回：摂食嚥下障害のリハビリテーション</td> <td style="text-align: right;">國枝顕二郎</td> </tr> <tr> <td>第8回：地域リハ・社会的・職業的リハ</td> <td style="text-align: right;">片桐伯真</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：リハビリテーション総論・概論	藤島一郎	第2回：脳損傷のリハ：総論・リスク管理	片桐伯真	第3回：脳損傷のリハ：急性期リハと廃用症候群	西村立	第4回：脳損傷のリハ：回復期・生活維持期のリハ	高橋博達	第5回：脳損傷のリハ：高次脳機能障害・認知症のリハ	片桐伯真	第6回：神経疾患のリハビリテーション	高橋博達	第7回：摂食嚥下障害のリハビリテーション	國枝顕二郎	第8回：地域リハ・社会的・職業的リハ	片桐伯真
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第1回：リハビリテーション総論・概論	藤島一郎																		
第2回：脳損傷のリハ：総論・リスク管理	片桐伯真																		
第3回：脳損傷のリハ：急性期リハと廃用症候群	西村立																		
第4回：脳損傷のリハ：回復期・生活維持期のリハ	高橋博達																		
第5回：脳損傷のリハ：高次脳機能障害・認知症のリハ	片桐伯真																		
第6回：神経疾患のリハビリテーション	高橋博達																		
第7回：摂食嚥下障害のリハビリテーション	國枝顕二郎																		
第8回：地域リハ・社会的・職業的リハ	片桐伯真																		

アクティブ ラーニング	配布資料や授業ノートを見直し、授業で出てきた key word で解らない点があれば調べてテストに臨んでください。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。
評価方法	基本的には定期試験 100%で評価する予定である。 ただし、講義で小テストなどが行われる場合は、それらを総合的に適宜追点を考慮する。 逆に授業態度・参加姿勢が不良の場合は別にレポート提出や原点を考慮する。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。
指定図書	『現代リハビリテーション医学』改訂第4版、千野直一編、金原出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	余力があれば事前に教科書で講義に関連する単元の部分を読んでおいてください。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	リハビリテーション医療・医学Ⅱ																		
科目責任者	片桐伯真																		
単位数他	1単位（15時間） 理学必修・作業必修 3 Semester																		
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																		
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																		
科目概要	<p>医療・福祉現場でのリハビリテーションに対する Needs は、急性期・回復期・生活維持～社会復帰に至るあらゆるステージにおいて高まる中、それらの中核を担う理学療法士・作業療法士に対しても知識・技術面で高いレベルが求められるようになってきた。</p> <p>臨床現場での実践に際しては、対象疾患の病態・臨床像に対する理解を深めることが求められるが、教科書からの学習だけでは、臨床に即した感覚を養うことが困難であろう。この科目は実際にリハビリテーション診療にあたり、医学的知識と臨床経験豊富な聖隷事業団に所属しているリハビリテーション科専門医による講義・演習で構成されており、臨床場面で求められるポイントをわかりやすく習得できるよう構成した。</p> <p>一方的な受身の参加では知識の理解や定着が不十分となるため、参加される際には事前の予習と、講義参加場面でのアイデアを出す作業、さらには疑問点の解決などでも積極的な参加を求めたい。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床場面で経験する疾患・病態についての理解を深める。</li> <li>2. リハビリテーションの対象となる代表的な疾患についての診断・評価・治療法を理解する。</li> <li>3. 病態・障害象に応じたリハビリテーションアプローチを理解する。</li> </ol>																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th>&lt;担当教員名&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：運動器疾患のリハビリテーション（骨折・切断等）</td> <td>町田清子</td> </tr> <tr> <td>第2回：関節リウマチと関連疾患のリハビリテーション</td> <td>藤島一郎</td> </tr> <tr> <td>第3回：脊髄損傷のリハビリテーション</td> <td>片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第4回：小児疾患のリハビリテーション</td> <td>高橋博達</td> </tr> <tr> <td>第5回：がんのリハビリテーション</td> <td>片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第6回：リハビリテーションにおける運動学習</td> <td>藤島一郎</td> </tr> <tr> <td>第7回：内部障害のリハビリテーション</td> <td>小川美歌</td> </tr> <tr> <td>第8回：まとめ、障がい者スポーツ</td> <td>片桐伯真</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：運動器疾患のリハビリテーション（骨折・切断等）	町田清子	第2回：関節リウマチと関連疾患のリハビリテーション	藤島一郎	第3回：脊髄損傷のリハビリテーション	片桐伯真	第4回：小児疾患のリハビリテーション	高橋博達	第5回：がんのリハビリテーション	片桐伯真	第6回：リハビリテーションにおける運動学習	藤島一郎	第7回：内部障害のリハビリテーション	小川美歌	第8回：まとめ、障がい者スポーツ	片桐伯真
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																		
第1回：運動器疾患のリハビリテーション（骨折・切断等）	町田清子																		
第2回：関節リウマチと関連疾患のリハビリテーション	藤島一郎																		
第3回：脊髄損傷のリハビリテーション	片桐伯真																		
第4回：小児疾患のリハビリテーション	高橋博達																		
第5回：がんのリハビリテーション	片桐伯真																		
第6回：リハビリテーションにおける運動学習	藤島一郎																		
第7回：内部障害のリハビリテーション	小川美歌																		
第8回：まとめ、障がい者スポーツ	片桐伯真																		

アクティブ ラーニング	配布資料や授業ノートを見直し、授業で出てきた key word で解らない点があれば調べてテストに臨んでください。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。
評価方法	基本的には定期試験 100%で評価する予定である。 ただし、講義で小テストなどが行われる場合は、それらを総合的に適宜追点を考慮する。 逆に授業態度・参加姿勢が不良の場合は別にレポート提出や原点を考慮する。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。
指定図書	『現代リハビリテーション医学』改訂第4版、千野直一編、金原出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	余力があれば事前に教科書で講義に関連する単元の部分を読んでおいてください。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	保健医療福祉倫理学
科目責任者	田島明子
単位数他	1単位 (15 時間数) 理学必修・作業必修・言語必修 4セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	近年医学の進歩に伴い、生命誕生や途絶に医学が介入しはじめたことにより、単に医学だけでは解決できない多くの問題が浮き彫りになっている。この講義では、そのような諸問題を解決するための学問としての生命倫理学（バイオエシックス）の基礎を学ぶとともに、実際の医療やリハビリテーションの現場で生じる倫理的な問題に焦点を当て、グループディスカッション形式での演習を多く取り入れていく。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療における倫理問題に気づくようになる。</li> <li>2. 倫理的推論を行い、分析できる手法を身につける。</li> <li>3. 専門家としての倫理的資質を養い、態度を身につける。</li> <li>4. 共感をもって患者の視点に気づき、そして理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt; 田島明子</span></p> <p>第 1 回：倫理とは何か 倫理とは何か、身近な例をもとに考える。</p> <p>第 2 回：生命倫理学の重要概念 生命倫理において重要な概念となるインフォームド・コンセント、パートナーリズム、自己決定重視と共同体主義について説明する。</p> <p>第 3 回：生命倫理学の重要概念 生命倫理において重要な概念となる功利主義と義務論、秘密保持について説明する。</p> <p>第 4 回：医療における倫理的ジレンマ 1</p> <p>第 5 回：生命倫理の諸問題 4：優生思想</p> <p>第 6 回：生命倫理の諸問題 5：クローン人間</p> <p>第 7 回：生命倫理の諸問題 7：遺伝子診断・治療</p> <p>第 8 回：生命倫理の諸問題 9：安楽死・尊厳死</p> <p>第 4 回から第 8 回は、それぞれのテーマを基に、グループディスカッションを行い、各グループで検討した内容を発表しあいことで、クライアントの視点、倫理的観点、倫理的態度を深める。</p> <p>※講義内容は、講義の進行等により、上記と異なる可能性もあります。</p>

アクティブ ラーニング	講義はグループディスカッションを中心に行う予定ですので、主体的・積極的にディスカッションに参加をし、考えの多様性や倫理的観点を学ぶようにしてください。
評価方法	グループディスカッション参加度 40% 筆記試験 60%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーにより、各回の授業への関心、学修習熟度、疑問点などを確認します。必要に応じて、学修を進めるためのアドバイスをを行います。
指定図書	吉川ひろみ著『生命倫理ワークブック』（三輪書店）
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修 20 分以上、事後学修 20 分以上 指定図書は配付資料の次回講義に関連する箇所を事前に熟読すること、講義後は、講義内でテーマとなった生命・医療倫理の諸問題のディスカッション内容を振り返り、倫理的問題点の整理を行ってください。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（akiko-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	リハビリテーション職種間連携の基礎
科目責任者	泉 良太
単位数他	1単位 (15時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 Semester
DP 番号と科目領域	DP3 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	この科目では、これから皆さんが目指す職種について理解を深めるとともに、他職種を知り、その職種の役割を学びます。学科の枠を超えて小グループでディスカッションしながら、リハビリテーションに関わる専門職種間の連携の「意義・あり方」について考えていきます。
到達目標	①リハビリテーションに関連する職種を挙げることができる。 ②関連職種の専門性と関連性について説明できる。 ③保健・医療・福祉における専門職と連携の必要性を説明できる。 ④グループディスカッションを通して自らの考えをまとめ、伝える事が出来る。
授業計画	<p>リハビリテーション専門職種間連携の基礎では、2つのテーマについて、グループでの調査やディスカッションを行います。授業の最後には、発表会を行い、グループで話し合った内容を共有し、さらに理解を深めます。</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1・2回 オリエンテーション 泉 グループディスカッションを通して下記について理解する。</p> <p>【テーマ1】自分の目指す専門職と、関連職種</p> <p>第3回 KJ法について 田島</p> <p>第4回 KJ法を用いて、グループで下記について考える。 泉、矢部、中村</p> <p>【テーマ2】各職種の専門性と関連性、職種間連携の必要性</p> <p>第5・6回 グループ発表【テーマ2】の準備 泉、矢部、中村</p> <p>第7・8回 グループ発表【テーマ2】 泉、矢部、中村、矢倉、田島、谷</p>

アクティブ ラーニング	グループ発表に向けて、グループディスカッションを中心に行います。
評価方法	レポート評価：50% 発表：50% 計100%
課題に対する フィード バック	課題レポートの返却、プレゼンテーションに対するフィードバックを行う。
指定図書	理学：奈良勲(編)「理学療法概論 第7版」(医歯薬出版) 二木 淑子/能登 真一編：作業療法学概論 第3版, 医学書院, 東京, 2016. 言語：藤田郁代・笹沼澄子編 「標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論」(医学書院) *指定図書は他学科の図書を購入する必要はありません。
参考図書	なし
事前・ 事後学修	毎回の事前学修(20分)：他学科の学生に概要を説明できるよう、指定図書をしっかり読むこと。 毎回の事後学修(20分)：グループディスカッションを踏まえて、課題レポートに取り組むこと。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間等：各教員のオフィスアワーについては初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士、理学療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。



アクティブ ラーニング	グループ学修、PBL、google classroom
評価方法	<p>プレゼンテーション:50% レポート:50%</p> <p>レポート (50%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ: 課題については授業で実施した内容をもとに提示する</li> </ul> <p>プレゼンテーション・ポスターフェア (50%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計2回のプレゼンテーションをおこなう</li> <li>・ルーブリックを使用して、判定を行う 7回の平均点を最終評価とする</li> </ul>
課題に対するフィード バック	<p>プレゼンテーションへのフィードバックは授業の中、口頭で行う。</p> <p>レポートへのフィードバックは個人にレポート返却時に書面で行う。</p>
指定図書	<p>指定図書なし</p> <p>ポートフォリオ</p>
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<p>各回ごとに演習で取り入れるトピックを発表する。</p> <p>事前学習では、そのトピックについて自分で情報を集め (ポートフォリオ作成)、自分の意見を構築する。</p> <p>事後学修では、演習の時間に実施した内容を取り入れながら自分の意見を再構築する。</p> <p>また、疑問に思った内容を再度調べ、ポートフォリオを作成する。</p> <p>事前・事後学修は原則 40 分程度行ってください。</p>
オフィス アワー	<p>所属学部: リハビリテーション学部</p> <p>研究室: 3511 研究室</p> <p>時間等: 月、木、金曜日 3 限目、17 時~18 時</p> <p>上記以外でもメール (tatsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に 関する記述	<p>本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>

科目名	国際リハビリテーション研修
科目責任者	大原 重洋
単位数他	1単位 (30時間) 理学選択・作業選択・言語選択 3～8 Semester (2018年度以前)
DP番号と科目領域	DP7 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	<p>国際リハビリテーション研修は、異なる文化・地域を訪問し、リハビリテーション関連の医療機関および専門施設などを見学し、当該地域のリハビリテーション事情に関する知識を習得する。研修地で専門職を目差す学生と交流の機会を持ち、相互に経験を深め、日本とは異なる文化における生活の一部を経験し、異なる文化で通用する柔軟な倫理観を習得する。</p> <p>お互いの学生にとって可能性を拡大するために、学生主体の学修方法アクティブラーニングを取り入れた短期プログラムをデザインする。実践的な参加型学修方法を用い、学生が国際リハビリテーション研修で自ら積極的に学修していくことを促す。</p> <p>リハビリテーション医療の現場で実践的なサービスを提供するような経験ができる機会を与える。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の尊厳や幸福を尊重するためのリハビリテーション医療の重要性を理解する</li> <li>・リハビリテーション医療を通して、人を支援する経験をする</li> <li>・研修地の医療機関とリハビリテーション関連施設を見学する</li> <li>・研修地の学生と交流を図りコミュニケーションを行う。</li> <li>・異なる文化圏の生活を経験する。</li> </ul>
授業計画	<p>担当教員名：大原重洋、根地鳴誠、鈴木達也          &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前研修              研修先の国に関する、情勢、歴史、保健医療制度              リハビリテーションの情勢、語学研修を実施する</li> <li>2. 研修書類の作成              自己紹介、学習目標を作成する</li> <li>3. 海外研修              研修先の施設見学、授業見学、交流を行う              Active Learning Project &amp; Presentation</li> <li>4. 研修報告会              研修後に報告会を行う。また報告書を提出する</li> </ol>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビュープロジェクトを実施し、研修中学生が主体となって学ぶプログラムを実施する。</li> <li>・参加型学修方法を用いて、学生が自ら質問したり、現地の学生とディスカッションを行う。</li> <li>・プロジェクトについてプレゼンテーションを行い、学生間でディスカッションを通して自ら学んでいくことを促す。</li> <li>・各研修日ごとにディブリーフィングを行い、その日の内省を通して、次の日の研修を学生自ら改善していく。</li> <li>・学生同士間の学習支援を促し、研修時の計画などグループ学修を進める。</li> </ul>
評価方法	事前研修 30%、研修時態度 40% 課題レポート 30%
課題に対する フィード バック	事前研修内の評価については、事前研修講義の時間内にフィードバックする。 課題レポートについては、課題レポート返却時に文面にてフィードバックを行う。 研修時の態度については、研修時に口頭でフィードバックする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	研修先の国の歴史・文化・生活・医療保険制度について調べる 滞在中・帰国後は学んだこと経験したこと生かし学習に活用する
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」「作業療法士」「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。」

科目名	運動学演習																																
科目責任者	中島ともみ																																
単位数他	1単位数(30時間数) 作業必修 3セメスター																																
DP番号と科目領域	DP4 専門基礎																																
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。																																
科目概要	作業の形態的、機能的側面の分析方法について学習する。作業分析・動作分析を行うため、運動学的基礎知識を整理する。																																
到達目標	①作業療法を実施するにあたり必要な解剖学的構造を、体表面から触知できる。 ②触知した筋骨格の解剖学的・運動学的特徴について述べる事ができる。 ③基本動作(寝返り起き上がり)を分析し、記述できる。																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th>&lt;担当教員名&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：関節運動とは</td> <td>中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第2回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学</td> <td>中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第3回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学</td> <td>中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第4回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学</td> <td>中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第5回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学</td> <td>中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第6回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学</td> <td>中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第7回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学</td> <td>中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第8回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学</td> <td>中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第9回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学</td> <td>中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第10回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学</td> <td>中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第11回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学</td> <td>中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第12回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学</td> <td>中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第13回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学</td> <td>中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第14回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学</td> <td>中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第15回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学</td> <td>中島ともみ</td> </tr> </tbody> </table> <p>#触診・視診、記録が主となります。体表面が触知できる、運動が観察しやすい服装をして参加してください。</p>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：関節運動とは	中島ともみ	第2回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ	第3回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ	第4回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ	第5回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ	第6回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ	第7回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ	第8回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ	第9回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ	第10回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ	第11回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ	第12回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ	第13回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ	第14回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ	第15回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第1回：関節運動とは	中島ともみ																																
第2回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ																																
第3回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ																																
第4回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ																																
第5回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ																																
第6回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ																																
第7回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ																																
第8回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ																																
第9回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ																																
第10回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ																																
第11回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ																																
第12回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ																																
第13回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ																																
第14回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ																																
第15回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ																																

アクティブ ラーニング	筋の起始停止とその機能を、人体骸骨模型を用いて3Dで理解し、人体の体表から触診と観察が可能となる知識を学習する。グループワークにて、筋の走行を確認し、機能の推論と確認を行う。
評価方法	レポート 50% 定期試験 50% ポートフォリオの評価の視点>要点をまとめ、箇条書きにする。色ペンなど使い、重要事項が一目でわかるようにまとめている。講義内容が反映されている。インデックスが貼られ、目次が作成されている。参考文献が適切に用いられている。 レポート>臨床推論のエビデンスが、図表を用いて述べられていること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。
課題に対する フィード バック	ポートフォリオ・レポートへのコメントと返却
指定図書	中村隆一 他 「基礎運動学」医歯薬出版 青木隆明監修 「運動療法のための機能解剖学的触診技術」 上肢(メジカルビュー社) 青木隆明監修 「運動療法のための機能解剖学的触診技術」 下肢・体幹(メジカルビュー社) 新・徒手筋力検査法 第8版 協同医書出版
参考図書	Muscle Premium (ビジブル・ボディ製作 Windows PC, MacPC, iPad, Android で動作可能な筋肉の3Dモデルソフトです。)
事前・ 事後学修	40分:事前にPCソフト・携帯アプリ、人体骸骨模型で筋肉の走行、筋の起始停止を確認すること。 40分:事後に筋の機能と臨床への応用について、ポートフォリオを作成のこと。
オフィス アワー	所属学部:リハビリテーション学部 研究室:3516研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (tomomi-n@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神医学系医療学Ⅱ	
科目責任者	藤田 さより	
単位数他	1 単位 (15 時間) 作業必修 4 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎	
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	外因性精神障害、パーソナリティ障害、摂食障害、発達障害等の精神障害の概念と症状の特徴、経過、治療法を学び、またそれらの障害に対する地域生活支援（通院、訪問、デイケア、就労等）の基本的な考え方や最新の支援法について知識を深める。精神障害の地域生活支援に関連する法制度について学ぶ。	
到達目標	①各精神障害の概念、症状、経過およびその治療法についてのポイントを述べることができる。 ②精神障害者に対する最新の地域生活支援についてその概要や支援のポイントについて述べる ことができる。 ③精神障害者の地域生活支援に関連する法制度について概要を述べる ことができる。	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション、就労・地域支援など</p> <p>第2回：気分障害</p> <p>第3回：依存症</p> <p>第4回： パーソナリティ障害</p> <p>第5回：大人の発達障害</p> <p>第6回：てんかん</p> <p>第7回：摂食障害</p> <p>第8回：神経症性障害      まとめ</p> <p>※テーマや内容は進度により変更の可能性がある。詳細はオリエンテーションで説明する。</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>新宮尚人</p> <p>新宮尚人</p> <p>伊藤信寿</p> <p>伊藤信寿</p> <p>飯田妙子</p> <p>藤田さより</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修
評価方法	レポート 30% 筆記試験 70%
課題に対する フィード バック	筆記試験の回答例の掲示, リアクションペーパーの内容の質問等については、次の講義時に返答、解説致します。
指定図書	上野武治編『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学第3版』医学書院
参考図書	授業時に紹介いたします。
事前・ 事後学修	初回授業時に精神医学に関する過去問題集を配布します。毎回のテーマごとに事前事後に問題を解き、復習予習するようにしてください。またテーマ毎に該当する教科書の箇所を事前に読んでくるようにしてください。(毎回 事前事後40分程度)
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。



アクティブ ラーニング	Moodle・タブレットアプリ(Visible Body など)・模型の活用、グループ学習など
評価方法	期末試験(70%)、レポート(10点)、中間テスト(10%神経系終了時)、小テスト(10%随時)、を総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	テストの解説、レポート・リアクションペーパーのコメント
指定図書	『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善
参考図書	相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週火曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール(juchi-k@seirei.ac.jp)か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。



アクティブ ラーニング	グループ学修を行います。
評価方法	定期試験 100%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーを用いてフィードバックします。 必要に応じて講義の中で適宜フィードバックします。
指定図書	「言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 第2版 編集：鳥山 稔／田内 光（医学書院）」
参考図書	授業中に随時紹介する。
事前・ 事後学修	事前学修：次回の講義内容のキーワードを学修してください。 事後学修：配布資料を再度見直して、重要事項をマイノートに記載してください。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床神経学																		
科目責任者	大橋寿彦																		
単位数他	1単位数(15時間) 言語必修 3セメスター																		
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎																		
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																		
科目概要	リハビリテーションを实践するうえで、身体障害の原因となる神経系疾患について病態生理、診断や治療の知識を身につける。本講義では神経系の解剖、生理、機能については別講義に譲り主に疾患について学ぶ。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経系の疾患およびそれによってもたらされる身体障害の特徴を説明できる</li> <li>2. 神経系に特徴的な疾患の病態生理を理解する</li> <li>3. 神経系の疾患の診断検査技術について理解する</li> <li>4. 疾病によってもたらされた障害に対して、必要なリハビリを選択できる</li> </ol>																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: left;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 脳血管障害</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>2. 運動神経疾患</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>3. パーキンソン症候群</td> <td>内山</td> </tr> <tr> <td>4. 認知症</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>5. 脱髄疾患</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>6. 電気生理</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>7. 末梢神経障害</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>8. 筋疾患、内科との関連疾患</td> <td>内山</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	1. 脳血管障害	大橋	2. 運動神経疾患	大橋	3. パーキンソン症候群	内山	4. 認知症	大橋	5. 脱髄疾患	佐藤	6. 電気生理	大橋	7. 末梢神経障害	佐藤	8. 筋疾患、内科との関連疾患	内山
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
1. 脳血管障害	大橋																		
2. 運動神経疾患	大橋																		
3. パーキンソン症候群	内山																		
4. 認知症	大橋																		
5. 脱髄疾患	佐藤																		
6. 電気生理	大橋																		
7. 末梢神経障害	佐藤																		
8. 筋疾患、内科との関連疾患	内山																		

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	定期試験 100%
課題に対する フィード バック	授業のなかで質問に対し回答する。
指定図書	なし
参考図書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学』医学書院
事前・ 事後学修	学習しても不明な点は積極的に質問し、わからないままにしないこと
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	形成外科学
科目責任者	三浦 隆男
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	形成外科とは「体表に近い部位の修復・再建を担当する外科」で、組織の欠損や変形などの「疾患」を対象とする【再建外科】と、疾患とまでは言えない変化ながら、ご本人が大変気にされているため、希望に沿って改善させる【美容外科】の2つの領域があります。いずれも、手術などによって、患者様の生活の質を上げたり、満足度を向上させることを目指しています。
到達目標	以下の項目等を学び、言語聴覚士の形成外科関連症例に対するかかわりについて理解する。 1. 皮膚の解剖と整理 2. 遊離植皮と皮弁の相違 3. 創傷治癒過程について 4. 口唇顎口蓋裂 5. 鼻咽腔閉鎖機能不全の診断と治療 6. 頭頸部癌摘出後の再建
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 三浦 隆男  第 1 回： 形成外科学総論 第 2 回： 皮膚の解剖と生理、創傷治癒 第 3 回： 組織移植 (1) 第 4 回： 組織移植 (2) 第 5 回： 口唇裂・口蓋裂 (1) 第 6 回： 口唇裂・口蓋裂 (2) 第 7 回： 頭頸部癌摘出後の再建 (1) 第 8 回： 頭頸部癌摘出後の再建 (2)

アクティブ ラーニング	毎回リアクションペーパーを用いて、講義の中での疑問や感想を学生自身が考えるようにしている。学生へ質問するなど、双方向の授業展開をしている。
評価方法	定期試験 100%
課題に対する フィード バック	毎回のリアクションペーパーによる質問等には、口頭で回答している。
指定図書	『言語聴覚療法シリーズ 8 器質性構音障害』 斉藤裕恵編著、建帛社
参考図書	なし
事前・ 事後学修	復習プリントなどで、講義内容のポイントをまとめておくこと。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床歯科医学・口腔外科学																																
科目責任者	梅田慈子																																
単位数他	1単位(30時間) 言語必修 4セメスター																																
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎																																
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。																																
到達目標	1. 顎口腔領域の発生・構造・疾患について理解する。 2. 言語障害に関係ある歯科疾患について理解する。 3. 言語障害への歯科的対応について理解する。 4. 口腔ケアについて理解する。 5. 加齢による口腔機能の低下について理解する。																																
科目概要	口から食べて健康を維持増進することが、この時代における人々の望みであり、かつ歯科医療の大きな役割である。皆さんは一般的な歯科医療に関わる訳ではない。しかし顎・顔面・口腔の構造、機能、疾病の治療の概要はもとより、摂食嚥下障害に関連した歯科学や口腔ケアに関する知識は将来必ず役に立つであろう。食生活は健康を支える大きな柱である。食物の入り口としての口腔の機能について理解することが大切である。																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th>&lt;担当教員名&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：ガイダンスと口腔の基本構造</td> <td>片倉伸郎</td> </tr> <tr> <td>第2回：口腔の発生と発育障害</td> <td>片倉伸郎</td> </tr> <tr> <td>第3回：口腔の機能としての咀嚼、構音</td> <td>片倉伸郎</td> </tr> <tr> <td>第4回：口腔の疾患と機能障害</td> <td>片倉伸郎</td> </tr> <tr> <td>第5回：顎関節とその疾患 唾液腺とその疾患</td> <td>片倉伸郎</td> </tr> <tr> <td>第6回：言語、咀嚼、摂食障害に対する歯科的治療法</td> <td>隅田由香</td> </tr> <tr> <td>第7回：口腔の炎症、腫瘍、嚢胞、外傷と治療後の欠損</td> <td>隅田由香</td> </tr> <tr> <td>第8回：歯科疾患について</td> <td>福永暁子</td> </tr> <tr> <td>第9回：高齢者と歯科、口腔ケアについて</td> <td>福永暁子</td> </tr> <tr> <td>第10回：摂食嚥下障害と歯科</td> <td>鴨田勇司</td> </tr> <tr> <td>第11回：中枢神経系による口腔機能障害</td> <td>鴨田勇司</td> </tr> <tr> <td>第12回：リハビリテーションと歯科</td> <td>梅田慈子</td> </tr> <tr> <td>第13回：実習</td> <td>梅田慈子</td> </tr> <tr> <td>第14回：実習</td> <td>梅田慈子</td> </tr> <tr> <td>第15回：実習</td> <td>梅田慈子</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：ガイダンスと口腔の基本構造	片倉伸郎	第2回：口腔の発生と発育障害	片倉伸郎	第3回：口腔の機能としての咀嚼、構音	片倉伸郎	第4回：口腔の疾患と機能障害	片倉伸郎	第5回：顎関節とその疾患 唾液腺とその疾患	片倉伸郎	第6回：言語、咀嚼、摂食障害に対する歯科的治療法	隅田由香	第7回：口腔の炎症、腫瘍、嚢胞、外傷と治療後の欠損	隅田由香	第8回：歯科疾患について	福永暁子	第9回：高齢者と歯科、口腔ケアについて	福永暁子	第10回：摂食嚥下障害と歯科	鴨田勇司	第11回：中枢神経系による口腔機能障害	鴨田勇司	第12回：リハビリテーションと歯科	梅田慈子	第13回：実習	梅田慈子	第14回：実習	梅田慈子	第15回：実習	梅田慈子
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第1回：ガイダンスと口腔の基本構造	片倉伸郎																																
第2回：口腔の発生と発育障害	片倉伸郎																																
第3回：口腔の機能としての咀嚼、構音	片倉伸郎																																
第4回：口腔の疾患と機能障害	片倉伸郎																																
第5回：顎関節とその疾患 唾液腺とその疾患	片倉伸郎																																
第6回：言語、咀嚼、摂食障害に対する歯科的治療法	隅田由香																																
第7回：口腔の炎症、腫瘍、嚢胞、外傷と治療後の欠損	隅田由香																																
第8回：歯科疾患について	福永暁子																																
第9回：高齢者と歯科、口腔ケアについて	福永暁子																																
第10回：摂食嚥下障害と歯科	鴨田勇司																																
第11回：中枢神経系による口腔機能障害	鴨田勇司																																
第12回：リハビリテーションと歯科	梅田慈子																																
第13回：実習	梅田慈子																																
第14回：実習	梅田慈子																																
第15回：実習	梅田慈子																																

アクティブ ラーニング	口蓋床を用いたパラトグラムの実習
評価方法	定期試験 100%
課題に対する フィード バック	筆記試験の解答例の提示
指定図書	『言語聴覚士に必要な歯科の知識』植松宏 監修、インテルナ出版
参考図書	授業中に紹介する。
事前・ 事後学修	講義内容については各講師の初回授業時に紹介し、課題や事前学習についてはその都度提示する。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「歯科医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	呼吸発声発語系の構造・機能・病態																		
科目責任者	柴本 勇																		
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 2 Semester																		
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																		
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																		
科目概要	呼吸・発声・発語に関わる器官の解剖と生理を学習し、正常な発話メカニズムを理解する。呼吸は音声を発する原動力となり、喉頭は発声機能をつかさどり、その上部の声道(咽頭・口腔・鼻腔)の形態が言語音の共鳴の変化をもたらす、口唇・舌・下顎などの運動が様々な音の産生をもたらす。こうした正常な機能を理解することは、2年次から学ぶ音声障害、構音障害、嚥下障害などの病態を把握し、適切な治療計画を考慮する基盤となる。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸器系の解剖生理および病態について理解できる。</li> <li>2. 喉頭の解剖生理および病態について理解できる。</li> <li>3. 構音器官の解剖生理および病態について理解できる。</li> </ol>																		
授業計画	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; border: none;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: center; border: none;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: none;">第 1 回：呼吸器系の基本構造・呼吸運動</td> <td style="border: none; text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 2 回：呼吸機能検査・呼吸器系の病態</td> <td style="border: none; text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 3 回：喉頭の基本構造</td> <td style="border: none; text-align: right;">金沢英哲</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 4 回：喉頭の病態、喉頭機能検査（内視鏡、ストロボスコーピーなど）</td> <td style="border: none; text-align: right;">金沢英哲</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 5 回：喉頭の機能（発声時の喉頭調節）、音声機能の評価</td> <td style="border: none; text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 6 回：構音器官の基本構造</td> <td style="border: none; text-align: right;">佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 7 回：構音器官の検査・病態</td> <td style="border: none; text-align: right;">佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 8 回：構音障害の臨床</td> <td style="border: none; text-align: right;">佐藤豊展</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：呼吸器系の基本構造・呼吸運動	柴本 勇	第 2 回：呼吸機能検査・呼吸器系の病態	柴本 勇	第 3 回：喉頭の基本構造	金沢英哲	第 4 回：喉頭の病態、喉頭機能検査（内視鏡、ストロボスコーピーなど）	金沢英哲	第 5 回：喉頭の機能（発声時の喉頭調節）、音声機能の評価	柴本 勇	第 6 回：構音器官の基本構造	佐藤豊展	第 7 回：構音器官の検査・病態	佐藤豊展	第 8 回：構音障害の臨床	佐藤豊展
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第 1 回：呼吸器系の基本構造・呼吸運動	柴本 勇																		
第 2 回：呼吸機能検査・呼吸器系の病態	柴本 勇																		
第 3 回：喉頭の基本構造	金沢英哲																		
第 4 回：喉頭の病態、喉頭機能検査（内視鏡、ストロボスコーピーなど）	金沢英哲																		
第 5 回：喉頭の機能（発声時の喉頭調節）、音声機能の評価	柴本 勇																		
第 6 回：構音器官の基本構造	佐藤豊展																		
第 7 回：構音器官の検査・病態	佐藤豊展																		
第 8 回：構音障害の臨床	佐藤豊展																		

アクティブ ラーニング	呼吸機能や音声機能、構音器官の評価については、演習を行いながら説明していきます。
評価方法	定期試験75% 小テスト15% レポート課題10% *達成度はルーブリックに基づいて確認する
課題に対する フィード バック	小テストについては、次の授業で返却して解説します。
指定図書	藤田郁代・熊倉勇美・今井智子 「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版」 医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖・生理は、専門科目の基礎になります。毎時限の知識を確実にしていくため、予習・復習を行いましょう。</li> <li>・小テストの結果を累積し、期末試験と合わせて最終評価とします。復習する習慣をつけましよう。</li> </ul>
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3408 研究室、時間については初回授業時に提示します
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士、医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	聴覚系の構造・機能・病態
科目責任者	大原 重洋
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	人間が音を聞く仕組みについて、聴器の構造と機能に基づいて理解し、そこに障害（難聴）が生じた場合、どのように聞こえに影響が及ぼされるのか学修する。
到達目標	聴器の解剖学的構造と各器官の機能の理解に基づいて、以下の項目について説明できる。 ①人間が音を聞いて知覚するまでの経路と仕組み。 ②伝音性、内耳性、後迷路性の難聴の種類・特性と障害部位の関連。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 大原重洋</p> <p>第 1 回：シラバス説明・聴力と聞こえの仕組みの概要</p> <p>第 2 回：聴覚検査</p> <p>第 3 回：聴器の構造と機能：外耳、両耳聴と方向感</p> <p>第 4 回：聴器の構造と機能：中耳～内耳①</p> <p>第 5 回：聴器の構造と機能：中耳～内耳②</p> <p>第 6 回：聴器の構造と機能：中耳～内耳③</p> <p>第 7 回：聴器の構造と機能：中枢聴覚路</p> <p>第 8 回：聴器の病態：難聴の種類と障害部位</p>

アクティブ ラーニング	授業進行に応じ、適時、ビデオ等の視聴や聴器の模型製作を行い、その内容についてグループで協議し、報告を行う。
評価方法	定期試験 80%、小テスト 20%
課題に対する フィード バック	単元ごとに小テストを実施し、解説する。 リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	『耳鼻咽喉科学』鳥山実編、医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	シラバスに該当する教科書の内容を事前に学修し授業に臨むこと。 授業で取り上げたテーマについて学ぶべきポイントを示しますので、事後学修で深めるようにしてください。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	神経系の構造・機能・病態												
科目責任者	佐藤順子												
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 2 Semester												
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎												
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。												
科目概要	<p>言語聴覚機能に欠かせない認知や判断、それに伴う反応は脳を含めた神経系の機能と複雑なメカニズムによって行われる。本講義では言語聴覚療法を行うにあたり、その基礎となる神経系の構造と機能、ならびにその障害における病態について学ぶ。</p> <p>講義では、神経系の構造は模型や図を使って部位を確認する。機能や病態についてはグループワークで自ら調べて理解し、他者にも説明できるようにする。さらに、臨床現場で関わる疾患についてグループワークで神経とのメカニズムと病態を学修する。</p>												
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳・神経系の構造と機能が理解できるようになる。</li> <li>2. 脳のある部位が損傷されることによって、どのような障害が現れるのか理解できる。</li> </ol>												
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; border-bottom: none;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th style="text-align: center; border-bottom: none;">&lt;担当教員名&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border-top: none;">           第1回～第4回：①オリエンテーション（事前にDVDを視聴し全体像を把握する）            ②神経系の全体像と大脳の構造（脳の模型を用いて部位を確認）            ③大脳と神経の機能と病態（グループごとに参考文献をみてまとめる）         </td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border-top: none;">           第5回：大脳皮質の機能と病態 グループ発表と解説         </td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border-top: none;">           第6回：大脳皮質の機能と病態 グループ発表と解説         </td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border-top: none;">           第7回：辺縁系・間脳・脳幹・小脳の機能と病態 グループ発表と解説         </td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border-top: none;">           第8回：まとめ         </td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">佐藤順子</td> </tr> </tbody> </table> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大脳全体(P16-17)：</li> <li>2. 前頭葉 (P20-23)：</li> <li>3. 後頭葉(P24-25)：</li> <li>4. 側頭葉 (P26-27)：</li> <li>5. 頭頂葉 (P28-33)：</li> <li>6. 大脳辺縁系(P34-36)：</li> <li>7. 大脳基底核・間脳(P37-39)：</li> <li>8. 脳幹(P40-41, 212)：</li> <li>9. 小脳(P42-43)：</li> <li>10. 脳動脈(P56, 58)：</li> </ol>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回～第4回：①オリエンテーション（事前にDVDを視聴し全体像を把握する） ②神経系の全体像と大脳の構造（脳の模型を用いて部位を確認） ③大脳と神経の機能と病態（グループごとに参考文献をみてまとめる）	佐藤順子	第5回：大脳皮質の機能と病態 グループ発表と解説	佐藤順子	第6回：大脳皮質の機能と病態 グループ発表と解説	佐藤順子	第7回：辺縁系・間脳・脳幹・小脳の機能と病態 グループ発表と解説	佐藤順子	第8回：まとめ	佐藤順子
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>												
第1回～第4回：①オリエンテーション（事前にDVDを視聴し全体像を把握する） ②神経系の全体像と大脳の構造（脳の模型を用いて部位を確認） ③大脳と神経の機能と病態（グループごとに参考文献をみてまとめる）	佐藤順子												
第5回：大脳皮質の機能と病態 グループ発表と解説	佐藤順子												
第6回：大脳皮質の機能と病態 グループ発表と解説	佐藤順子												
第7回：辺縁系・間脳・脳幹・小脳の機能と病態 グループ発表と解説	佐藤順子												
第8回：まとめ	佐藤順子												

アクティブ ラーニング	演習科目です。
評価方法	定期試験（70％） 確認テスト（20％） 発表（10％）
課題に対する フィード バック	確認テストについては、各自で採点してもらいます。 発表時に解説し、リアクションペーパーにまとめと質問を書いて提出してもらいます。
指定図書	『病気がみえる VOL.7 脳・神経』医療情報科学研究所編集メディックメディア
参考図書	なし
事前・ 事後学修	〔事前学修〕 重要事項を Moodle にアップするのでテキストを参考に予習すること。  〔事後学修〕 授業の内容を復習し、小テストを各自で実施すること。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407 研究室 時間等：11:45～12:15（毎週月曜から木曜） 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生涯発達心理学
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2単位 (30 時間) 言語必修 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	この授業では、人間のライフサイクルの各発達段階(乳児期～高齢期)における発達課題とその意味について、エリクソンなどのいくつかの発達理論や最新の研究知見を用いて、特に対人関係や自己の発達に焦点をあてて説明する。また、発達障害の基本的な特徴についても説明する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語聴覚士に必要な「乳幼児期から高齢期に至るまでの各発達段階の発達課題や心理的特徴」および「発達障害に関する定義や特徴」の基本的事項について理解する。</li> <li>2. 1の知識を得ることで、これまでどのような発達の道筋を経てきたのか、今の発達段階での課題をどのように乗り越えているのかなど、発達の観点から自分や他者を理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;長峰伸治</p> <p>第 1 回： ライフサイクルにおける発達とは・発達における「遺伝」と「環境」</p> <p>第 2 回： 胎生期・乳児期の発達（愛着の形成）</p> <p>第 3 回： 乳児期の発達（基本的信頼感）</p> <p>第 4 回： 幼児期前半の発達 1（第 1 次反抗期、言語能力の発達）</p> <p>第 5 回： 幼児期前半の発達 2（自律性、トイレトレーニング）</p> <p>第 6 回： 幼児期後半の発達（積極性、遊びの発達）</p> <p>第 7 回： 児童期の発達（勤勉性、ギャングエイジ）</p> <p>第 8 回： 思春期の発達（親離れ・子離れ、友人関係）</p> <p>第 9 回： 青年期の発達：（アイデンティティの形成）</p> <p>第 10 回： 初期成人期の発達（親密性、キャリア発達）</p> <p>第 11 回： 中年期の発達 1（中年期危機）</p> <p>第 12 回： 中年期の発達 2（アイデンティティの再体制化）</p> <p>第 13 回： 高齢期の発達（エイジング）</p> <p>第 14 回： 発達障害の理解と支援 1（学習障害、注意欠如多動性障害）</p> <p>第 15 回： 発達障害の理解と支援 2（自閉症スペクトラム障害）</p>

アクティブ ラーニング	クリッカーによる双方向的な授業を行う。
評価方法	定期試験70%, 授業への取り組み状況30%(リアクションペーパー、ムードルでの事後課題、クリッカーの回答を含む)
課題に対する フィード バック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントや回答、及び、ムードルでの事後課題の解説などをパワーポイントで映しながら口頭で行う。また、前回の内容のおさらいのための設問(2~3問)をクリッカーで回答してもらい、その場で結果と解説をフィードバックする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	授業中配布された資料・プリントに沿って復習を行う。また、ムードルでの事後課題に取り組む。さらに、講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を40分程度行うこと。
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。質問は、授業時はもちろん、直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただくと、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	認知心理学
科目責任者	岩渕 俊樹
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 4セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	私たちは常に環境からの情報を受け取ったり、逆に環境に対して働きかけたりしながら生きています。認知心理学とは、このような時に私たちの脳と心がどのように働いているかを研究する学問です。この講義では、ことば、記憶、思考など、環境との相互作用の中から生じる心の働き、すなわち認知の仕組みについて学びます。これらの知識はさまざまな神経疾患・精神疾患のメカニズムを知る上での基礎となります。
到達目標	1. 生体の「認知のしくみ」を学ぶ。 2. 人の認知過程や特徴について説明できる用語を習得する。 3. 「認知心理学」の視点を臨床場面へ活用する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;岩渕 俊樹</span></p> <p>第 1 回：認知心理学とは (オリエンテーション)</p> <p>第 2 回：感覚・知覚・認知 (1)</p> <p>第 3 回：感覚・知覚・認知 (2)</p> <p>第 4 回：感覚・知覚・認知 (3)</p> <p>第 5 回：記憶</p> <p>第 6 回：言語と思考 (1)</p> <p>第 7 回：言語と思考 (2)</p> <p>第 8 回：認知心理学の現在</p>

アクティブ ラーニング	各回とも主に配布資料を用いながら講義形式で行いますが、「認知のしくみ」を実際に体験し、それについて考えてもらう時間を設けます。
評価方法	定期試験 60%、リアクションペーパー20%、小テスト 20%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーで提出された質問への回答、および実施した場合は小テストは次回の講義時などに適時行います。
指定図書	なし
参考図書	『言語聴覚士テキスト』（医歯薬出版／廣瀬肇 監修、岩田誠・小川郁 ほか編） 『認知心理学(New Liberal Arts Selection)』（有斐閣／箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 著）
事前・ 事後学修	各回のキーワードをまとめ知識を整理する事後学修を行ってください。理解を深めるために小テストを課す場合があります。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	学習心理学
科目責任者	石津希代子
単位数他	1単位(15時間) 言語必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	私たちの日常行動は多くの学習によって支えられています。ここでいう学習とは、ヒトや動物が経験を通して、行動の方法や考え方、知識や技能を身につけていくことをいいます。学習心理学は、人間を理解する上で欠かせない基礎的な心理学になります。この科目ではヒトや動物が新しい行動を身に付けていくときに、どのようなことが起こっているのか行動のメカニズムについて紹介します。これら学習心理学で明らかにされてきた知見は、医療・教育・福祉など、多くの分野に応用されています。言語聴覚療法においても同様で、講義の後半では言語聴覚療法への応用について一緒に考えていきます。
到達目標	1. 古典的条件づけ、オペラント条件づけ、行動随伴性について説明できる。 2. 日常的な行動(言語行動を含めて)について、学習心理学の基礎知識をもとに説明する。 3. 言語聴覚療法の臨床場面を取り上げ、学習心理学の観点から考察する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;石津希代子</p> <p>第1回：オリエンテーション、「学習」とは (授業概要と受講ルール、学習の定義、種類)  第2回：馴化と鋭敏化 (馴化の仕組み、鋭敏化)  第3回：レスポナント条件づけ (US・UR・中性刺激・CS・CR、対提示、強化、消去、般化)  第4回： オペラント条件づけ (随伴性、強化、弱化、消去、反応形成、強化スケジュール)  第5回： 刺激性制御と言語条件づけ (刺激性制御、弁別、般化、分化、弁別学習、言語条件づけ、刺激等価性)  第6回： 観察による学習、ルール支配行動、問題解決と運動技能の学習 (洞察、観察学習、模倣と代理強化、モデリング、ルール支配行動)  第7回： 行動の心理学 基礎 (行動をやめる方法、行動を変える方法)  第8回： 行動の心理学 応用 (言語聴覚療法への応用)</p>

アクティブ ラーニング	本科目は反転授業形式で行います。授業内では各回のテーマにもとづき、ペアワーク、グループワークを通して自身の考えを提示したり、グループで意見をまとめたりします。授業内で討議した内容を、まとめ、発表し、思考の共有をはかります。
評価方法	提出物・小テスト 30%、定期試験 70%
課題に対する フィード バック	※提出物については、ルーブリックを用いて評価し、随時、フィードバックをします。 ※毎回の小テストはMoodle上で実施、フィードバックを行います。
指定図書	なし
参考図書	オリエンテーション時に紹介します。
事前・ 事後学修	※当該科目の学習資料を整理するためのファイル（2穴リングファイル）を用意して下さい。 ※毎回の講義終了時に次回の予習範囲を示します。同時に、事前・事後学修の資料をMoodleに呈示します。必ず事前学修をした上で受講して下さい。講義は、事前学修をもとに進めます。 ※事前・事後学修はシラバスに示したキーワードを「説明できる」ように学習を進めて下さい。 ※授業内容の概略やポイント、参考資料、課題は、Moodleの当該コースに随時示します。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3502研究室、時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	心理測定法
科目責任者	高橋 晃
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	<p>言語聴覚士国家資格試験に出題される「心理測定法」分野について講義・演習・実験などを通じて学習する。</p> <p>必要に応じて他の心理学分野の知識（感覚知覚心理・臨床心理・実験心理など）についても触れる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目に見えない「心」の測定の原理を理解できるようになる</li> <li>2. さまざまな心理測定技法の特性を理解し、実践できるようになる</li> <li>3. 言語聴覚士国家試験問題に適切に解答できるようになる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 高橋 晃</p> <p>第 1 回：「心理測定法」分野の概要 / 感覚知覚概要  本分野の概要と国家試験の性質について概説する  また感覚・知覚分野の必須用語を解説する</p> <p>第 2 回：精神物理学的測定法(1)  精神物理学的測定法として「ミュラー・リヤー錯視」の簡易実験を行なう</p> <p>第 3 回：精神物理学的測定法(2)  精神物理学的測定法として「マグニチュード推定法」の簡易実験を行なう</p> <p>第 4 回：知能・性格の測定  心理測定としての「知能検査」「性格検査」とその歴史・手法を学ぶ  また態度測定の準備を行なう</p> <p>第 5 回：態度の測定  態度測定技法としての「リッカート法」「サーストーン法」の説明と実践を行なう</p> <p>第 6 回：テスト法  各種のテスト法における信頼性と妥当性・各種の測定技法についての解説を行なう</p> <p>第 7 回：数値尺度と統計処理  数値尺度の理解とその前提となる統計処理技法について説明と実習を行なう</p> <p>第 8 回：実験計画法  心理学的実験計画法とその統計処理との関連について解説と実習を行なう</p> <p>なお、各テーマの終わりには対応する国家試験問題の抜粋を解く</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修を取り入れて体験実習等を行なう
評価方法	定期試験 100%。
課題に対するフィード バック	定期試験の解答解説を行なう。
指定図書	なし
参考図書	「心理測定法への招待 ― 測定からみた心理学入門」市川伸一著 サイエンス社(1991)
事前・ 事後学修	各回の最後に国家試験問題と同等の問題を出題するため、それに対する 40 分程度の予習・復習が必須である
オフィス アワー	質問等はメール(akirtaka@inf.shizuoka.ac.jp)での連絡とする
実務経験に 関する記述	なし

科目名	臨床心理学
科目責任者	高柳 弘行
単位数他	2単位 (30時間) 言語必修 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	典型的な各発達期における心理的問題を有した事例を通し、1) 当事者の思いの理解、治療への動機づけ、2) 行動記録や心理検査法の理解、3) 心理的問題への対処技法、などについて学んでいきたい。
到達目標	言語聴覚士としての実習を踏まえ、 1) こちら側の一方向的な指導や指示ではなく、当事者の立場に立ち当事者の回復への動機づけを高める支援を身につける。 2) 行動記録や心理検査法についての理解を深める。 3) 治療的介入技法についての理解を深める。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 高柳 弘行</p> <p>第 1 回：臨床心理学の概要・パーソナリティ理論（類型論）</p> <p>第 2 回： パーソナリティ理論（特性論、力動論）</p> <p>第 3 回：乳幼児期①（心理的問題・行動観察・心理検査）</p> <p>第 4 回：乳幼児期②（介入）</p> <p>第 5 回：児童期①（心理的問題・行動観察・心理検査）</p> <p>第 6 回：児童期②（介入）</p> <p>第 7 回：思春期①（心理的問題・面接・心理検査）</p> <p>第 8 回：思春期②（介入）</p> <p>第 9 回：青年期①（心理的問題・面接・心理検査）</p> <p>第 10 回：青年期②（介入）</p> <p>第 11 回：中年期①（心理的問題・面接・心理検査）</p> <p>第 12 回：中年期②（介入）</p> <p>第 13 回：老年期①（心理的問題・面接・心理検査）</p> <p>第 14 回：老年期②（介入）</p> <p>第 15 回：まとめ（傾聴技法を再度復習）</p>

アクティブラーニング	ロールプレイによる面接技法、リラクゼーションなどの身体感覚技法、自己のモニタリングによる観察記録、などを実施する。
評価方法	筆記試験 70% リアクションペーパー30%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーに対するコメント、返却
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	リアクションペーパー（授業内容の要点、アクティブラーニングの実施と記録など）を事後に40分学修する。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語学
科目責任者	氏平 明
単位数他	2単位 (30時間) 言語必修 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	ことばを言語学の領域で捉えて、小言語学 (形態論・統語論・意味論) からその体系と理論を概観する。日本語を日本語学の枠組みから、その文法に見られる法則や理論を学ぶ。
到達目標	1. 言語学の考え方と専門用語を理解する。 2. 日本語文法の分析方法を身に着ける。 3. 国試の問題に解答できる応用力を身に着ける
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 氏平 明</p> <p>第 1 回：ことばに対する言語学の考え方・ことばとは言語学とは</p> <p>第 2 回：ソシュールからブルームフィールド, チョムスキー, プリンズ・スモレンスキーまで・言語学の研究その歴史</p> <p>第 3 回：音韻論, 超分節的特徴, アクセントとイントネーション</p> <p>第 4 回：形態音素交代, その種類, 連濁の理論・音韻論と形態論の狭間</p> <p>第 5 回：有標と無標, 右枝分かれと左枝分かれの構造, IC 分析・統語論 1</p> <p>第 6 回：IC 分析の限界, 生成文法 1, 標準理論・統語論 2</p> <p>第 7 回：生成文法 2, X<sup>bar</sup>理論から GB, ミニマリストへ・統語論 3</p> <p>第 8 回：語の意味と意味の種類, 成分分析とプロトタイプ・意味論 1</p> <p>第 9 回：意味の展開, 文の意味, 談話構造 (グライスの公理)・意味論 2</p> <p>第 10 回：日本語の品詞とその活用・日本語文法形態論 1</p> <p>第 11 回：日本語の格文法と項構造, 複合語の構造・日本語文法形態論 2</p> <p>第 12 回：文法のカテゴリー, 「は」と「が」の構造と意味・日本語文法統語論 1</p> <p>第 13 回：日本語文法のカテゴリー 2, ヴォイス・日本語文法統語論 2</p> <p>第 14 回：日本語文法のカテゴリー 3, 動詞の種類その展開・日本語文法統語論 3</p> <p>第 15 回：日本語文法のカテゴリー 4, (テンス, アスペクト, モダリティ) ・日本語文法統語論 4</p>

アクティブ ラーニング	言語学や日本語学では個人の言語能力以外に規範や基準は存在しないという立場なので、言語の各現象や各事柄について内省で確認し、その是非を一人一人が判断する。そのトレーニングを毎授業で学生を指名して行う。各学生が積極的に授業に参加する形式をとる。
評価方法	定期試験 100%で判断する。定期試験の本試験は国試に準じる形式と内容で構成する。すなわち本試験はすべて客観式の学んだことの応用問題で、正誤のいずれかを判断し、部分点はない。再試験は本試験とは別問題で、主観問題を加えて部分点が加点される形式をとる。課題は講義全範囲からの細かな指示で構成する。
課題に対する フィード バック	再試験受験者には、本試験の解説を配布する。課題作成者には再試験の解説を配布する。
指定図書	講義はすべて配布したハンドアウトを指標として進める。 ハンドアウトには講義の項目とキーワードと概要が記されている。授業を学生が聞いて、そこに説明と要点を書きこんでいく。参考図書に書かれていることを修正する内容も多々ある。
参考図書	『入門言語学』ジーンエイチソン, KINSEDO, 『日本語の音声』窪蘭晴夫, 岩波書店, 『新日本語の統語構造』三原健一・平岩健, 松柏社, 『新しい日本語学入門』庵功雄, スリーエーネットワーク, 等
事前・ 事後学修	事前学習は不要, 習ったことの復習, 要点3点, でその細分9事項を必ず毎回復習すること。時間は30分。定期試験前に学んだ言語学・日本語学と音声学の音韻論も含めて, 全範囲をくまなく復習して試験に臨むこと。再試験は本試験の解説を理解して試験に臨むこと。
オフィス アワー	毎週1回の集中講義なので, 講義時間の合間に教員に質問すること。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	音声学・音韻論
科目責任者	中村哲也
単位数他	2単位 (30時間) 言語必修 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音声生成のメカニズムを説明することができる。</li> <li>2. 言語音の特徴や分類を理解し、自らの発声発語器官の運動を内省しながら産生できる。</li> <li>3. 国際音声記号 (IPA) を用いて、聴取した音を表記できる。</li> <li>4. 構音実行過程と頭の中の音声プランニングの過程を区別し、それらを連続的に構成するシステムと理論を理解できる。</li> </ol>
科目概要	<p>音声学の知識は、構音障害の診断治療を行う際に必須である。母音や子音の特徴や分類を理解し、それぞれの音の聴覚的な印象と音声学的な表記方法を学ぶ。特に現代日本語音について、実際に聴取し国際音声記号で表記する演習を行う。</p> <p>音韻論は、音声プランニングを形成する過程を体系的理論的に理解する。具体的には分節素と音韻素性のシステム、音素の体系、プロソディ、すなわちモーラ、音節、フットで構成される諸単位からなる、リズム、アクセント、イントネーションの諸相とその理論</p>
授業計画	<p>[音声学] 担当者：中村哲也</p> <p>第 1 回：音声と音声学（音声学とは、音声器官の名称）</p> <p>第 2 回：音声生成のプロセス（呼吸、発声、共鳴、構音）</p> <p>第 3 回：国際音声記号（IPA）</p> <p>第 4 回：子音の分類、子音の分類</p> <p>第 5 回：子音の産生と聴覚的印象：破裂音、鼻音</p> <p>第 6 回：子音の産生と聴覚的印象：ふるえ音とはじき音</p> <p>第 7 回：子音の産生と聴覚的印象：摩擦音と接近音</p> <p>第 8 回：基本母音と母音の様々な特徴、二重調音、二次的調音</p> <p>第 9 回：演習 音声記号の音読と表記</p> <p>[音韻論] 担当者：氏平明</p> <p>第 10 回：音声学と音韻論：発話産出過程概観</p> <p>第 11 回：音声単位と音韻単位：単音、分節素、音素と音素論</p> <p>第 12 回：音韻素性の体系：主要音類、方法、場所とそれらの階層</p> <p>第 13 回：音声のまとめ（プロソディ）の形態とその機能：音節、モーラ、フット</p> <p>第 14 回：リズム、アクセントとイントネーション、形態とその機能</p> <p>第 15 回：アクセントの規則、語句と複合語、アクセントと方言</p>

アクティブ ラーニング	<p>[音声学] 音声学では、実際に音声記号の音読や表記の演習を交えながら進める。</p> <p>[音韻論] 音韻論では個人の言語能力以外に規範や基準は存在しないという立場なので、音声の各現象や音韻論の事柄について内省で確認し、その是非を一人一人が判断する。そのトレーニングを毎授業で学生を指名して行う。すなわち各学生が積極的に授業に参加する形式をとる。</p>
評価方法	<p>定期試験 90%, 小テスト10%</p> <p>[音声学] 定期試験 40%, 小テスト10%</p> <p>[音韻論] 定期試験 50% (定期試験の本試験は国試に準じる形式と内容で構成する)</p>
課題に対す るフィード バック	<p>[音声学] 小テストについては、次の授業で返却して解説する。</p> <p>[音韻論] 音韻論の再試験受験者には、本試験の解説を配布する。</p>
指定図書	<p>斎藤純男『日本語音声学入門』三省堂</p>
参考図書	<p>窪菌晴夫『日本語の音声』岩波書店、窪菌晴夫・本間猛『音節とモーラ』研究社  氏平 明「言語聴覚士教育と臨床のための音声学Ⅱ」第6号, pp. 1-14, 2014  氏平 明「言語聴覚士教育と臨床のための音韻論Ⅰ」第8号, pp. 1-11, 2016  福岡教育大学教育総合研究所附属特別支援教育研究紀要  これらの図書は言語学にも共通。</p>
事前・ 事後学修	<p>[音声学] 音声学では、自らの発声発語器官の運動を内省しながら、声を出して練習すること。IPAの音声は次のサイトで確認できる [http://www.coelang.tufts.ac.jp/ipa/index.htm]。また、小テストの結果を累積し、期末試験と合わせて最終評価とする。小テストの内容は事前に連絡するので、復習する習慣をつけること。</p> <p>[音韻論] 音韻論は事前学習は不要、習ったことの復習、要点3点、でその細分9事項を必ず毎回復習すること。時間は30分。定期試験前に学んだ全範囲をくまなく復習して試験に臨むこと。再試験は本試験の解説を理解して試験に臨むこと。</p>
オフィス アワー	<p>[音声学] リハビリテーション学部、3512研究室、水曜13:00~14:20  [音韻論] 音韻論は集中講義なので、講義時間の合間に教員に質問すること。</p>
実務経験に 関する記述	<p>本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。</p>

科目名	音声学・音響学演習
科目責任者	中村哲也
単位数他	1単位(30時間) 言語必修 4 Semester
DP 番号と科目領域	DP5 専門基礎
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	<p>音響学演習では、音声に関わる各種物理量(音の強さ、周波数等)と基礎となる属性(大きさ、高さ、音色)等について、実際にパーソナルコンピュータ上の音響分析ソフト等を用いて音響学的分析の演習を行う。</p> <p>音声学演習では、現代共通日本語の単音、および連続発話における特徴的な撥音・促音・長音の特徴や、同化・転換・調音結合などについて理解する。また、超分節的要素の種類や役割について学ぶ。さらに、様々なタイプの構音障害例の音声を聴取し、国際音声記号(IPA)を用いて表記する演習をおこなう。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音の物理的性質・音声の音響的特徴を理解できる。</li> <li>2. 日本語音の特徴を理解し、正しく IPA 表記できる。</li> <li>3. 異常な構音を聴取し IPA 表記できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>[音響学演習] 担当者：中井孝芳</p> <p>第1回 音の強さのレベル、音圧レベルと音の大きさのレベル(演習)</p> <p>第2回 周期と高調波、フーリエ変換(演習)</p> <p>第3回 音声生成の音響理論(演習)</p> <p>第4回 母音と子音の音響特徴、超分節的要素の音響特徴と知覚(演習)</p> <p>第5回 サウンドスペクトログラムを読む①</p> <p>第6回 サウンドスペクトログラムを読む②</p> <p>[音声学演習] 担当者：中村哲也</p> <p>第7回 音声学復習</p> <p>第8回 日本語の単音とその特徴：清音・拗音・濁音・半濁音</p> <p>第9回 日本語の単音とその特徴：母音(長母音・二重母音・無声音化)</p> <p>第10回 日本語の単音とその特徴：撥音・促音・調音</p> <p>第11回 日本語の単音とその特徴：子音</p> <p>第12回 連続発話と音環境による影響：同化、転換、調音結合音節とモーラ</p> <p>第13回 音声の超分節的要素と評価</p> <p>第14回 演習：日本語の IPA 表記</p> <p>第15回 日本語における音声学のまとめ</p>

アクティブ ラーニング	演習科目です
評価方法	定期試験 90%、小テスト 10%
課題に対する フィード バック	それぞれの授業での課題は次回の開始時にフィードバックします
指定図書	〔音響学演習〕 小松崎篤・藤田郁代・岩田誠・広瀬肇 「言語聴覚士テキスト 第2版」 医歯薬出版  〔音声学演習〕 斎藤純男 「日本語音声学入門」 三省堂
参考図書	なし
事前・ 事後学修	〔音響学演習〕 事前に指定図書の該当箇所を読んでおくこと。授業終了後は、配布資料を基に授業内容の復習をすること。  〔音声学演習〕 小テストの結果を累積し、期末試験と合わせて最終評価とします。小テストの内容は事前に連絡しますので、復習する習慣をつけましょう。
オフィス アワー	〔音響学演習〕 講義の前後の時間 〔音声学演習〕 リハビリテーション学部、3512 研究室、水曜 13 : 00～14 : 20
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	音響学																																
科目責任者	中井 孝芳																																
単位数他	2単位 (30時間) 言語必修 4セメスター																																
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																																
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																
科目概要	音や音声の物理的な特性とその表現方法について理解し、聴覚や音声の学習に必要な知識を得る。数学と物理に関する基本的な学習から始め、音や音声の物理的特性を学ぶ。授業では、音声波形や音響分析に関わる視覚的資料を多用することで、分かりやすく解説する。																																
到達目標	1. 音の物理的性質を説明できる。 2. 音声の音響的特徴を説明できる。																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: left;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：音の基礎（波動と振動、純音、複合音、周波数）</td> <td>中井孝芳</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：音の物理的側面①（音圧・音の強さとデシベル）</td> <td>中井孝芳</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：音の物理的側面②（波形と周波数スペクトル）</td> <td>中井孝芳</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：音の特性（音の伝播、反射と干渉、共鳴）</td> <td>中井孝芳</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：音声生成の音響理論①</td> <td>中井孝芳</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：音声生成の音響理論②</td> <td>中井孝芳</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：音響分析の基礎</td> <td>中井孝芳</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：サウンドスペクトログラム①</td> <td>中井孝芳</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：サウンドスペクトログラム②</td> <td>中井孝芳</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：母音の音響特徴と知覚</td> <td>中井孝芳</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：連続音声中の母音の音響特性とその知覚</td> <td>中井孝芳</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：子音・半母音の音響特徴と知覚</td> <td>中井孝芳</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：サウンドスペクトログラム③</td> <td>中井孝芳</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：サウンドスペクトログラム④</td> <td>中井孝芳</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：調音結合、超分節的特徴、声の個体差、自然性</td> <td>中井孝芳</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：音の基礎（波動と振動、純音、複合音、周波数）	中井孝芳	第 2 回：音の物理的側面①（音圧・音の強さとデシベル）	中井孝芳	第 3 回：音の物理的側面②（波形と周波数スペクトル）	中井孝芳	第 4 回：音の特性（音の伝播、反射と干渉、共鳴）	中井孝芳	第 5 回：音声生成の音響理論①	中井孝芳	第 6 回：音声生成の音響理論②	中井孝芳	第 7 回：音響分析の基礎	中井孝芳	第 8 回：サウンドスペクトログラム①	中井孝芳	第 9 回：サウンドスペクトログラム②	中井孝芳	第 10 回：母音の音響特徴と知覚	中井孝芳	第 11 回：連続音声中の母音の音響特性とその知覚	中井孝芳	第 12 回：子音・半母音の音響特徴と知覚	中井孝芳	第 13 回：サウンドスペクトログラム③	中井孝芳	第 14 回：サウンドスペクトログラム④	中井孝芳	第 15 回：調音結合、超分節的特徴、声の個体差、自然性	中井孝芳
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第 1 回：音の基礎（波動と振動、純音、複合音、周波数）	中井孝芳																																
第 2 回：音の物理的側面①（音圧・音の強さとデシベル）	中井孝芳																																
第 3 回：音の物理的側面②（波形と周波数スペクトル）	中井孝芳																																
第 4 回：音の特性（音の伝播、反射と干渉、共鳴）	中井孝芳																																
第 5 回：音声生成の音響理論①	中井孝芳																																
第 6 回：音声生成の音響理論②	中井孝芳																																
第 7 回：音響分析の基礎	中井孝芳																																
第 8 回：サウンドスペクトログラム①	中井孝芳																																
第 9 回：サウンドスペクトログラム②	中井孝芳																																
第 10 回：母音の音響特徴と知覚	中井孝芳																																
第 11 回：連続音声中の母音の音響特性とその知覚	中井孝芳																																
第 12 回：子音・半母音の音響特徴と知覚	中井孝芳																																
第 13 回：サウンドスペクトログラム③	中井孝芳																																
第 14 回：サウンドスペクトログラム④	中井孝芳																																
第 15 回：調音結合、超分節的特徴、声の個体差、自然性	中井孝芳																																

アクティブ ラーニング	例題の提示とその解説
評価方法	期末試験（筆記、100%）による。
課題に対する フィード バック	例題の解説
指定図書	言語聴覚士テキスト第2版 医歯薬出版、2011
参考図書	授業中に紹介する。
事前・ 事後学修	事前に指定図書の該当箇所を読んでおく(20分)こと。授業終了後は、配布資料を基に授業内容の復習(60分)をすること。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	聴覚心理学
科目責任者	石津希代子
単位数他	1単位(15時間) 言語必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	聴覚や音声について学習する上で必要な音に関する基本的な知識を学びます。本講義では最低限必要な数学と物理に関する学習から始め、音の物理的な特性とその表現方法、音声の物理的な特性について学習を進めます。さらに、自身の聴覚を通して、音の物理的な特性と聴覚との関連を体験することで「聴こえ」についての知識を深めます。これらの知識や経験が臨床とどのように関わるのか解説しながら授業を進めていきます。
到達目標	1. 音の物理的性質・心理的知覚を説明できる。 2. 音の知覚について説明できる。 3. 聴覚心理学の基本的な用語について説明できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;石津希代子</p> <p>第1回：聴覚心理学とは (音の物理的性質と心理的知覚)  第2回：音の大きさの知覚 (聴覚閾値、可聴範囲、等ラウドネス曲線、ラウドネスの尺度、聴覚疲労)  第3回：音の高さの知覚 (純音の周波数弁別、メル尺度、場所比・時間比、複合音の高さ)  第4回：マスキング (マスキング、周波数選択、臨界帯域、同時マスキング、非同時マスキング)  第5回：両耳聴、音源定位 (加算、融合、方向知覚、MLD、先行音効果、カケルパネイ効果)  第6回：時間知覚と聴空間知覚 (音色、音源定位、時間分解能、空間知覚)  第7回：音声知覚 (母音・子音の知覚)  第8回：音による環境理解、環境騒音</p>

アクティブ ラーニング	本科目は反転授業形式で行います。授業内では各回のテーマにもとづき、ペアワーク、グループワークを通して自身の考えを提示したり、グループで意見をまとめたりします。授業内で討議した内容をまとめ、発表し、思考の共有をはかります。
評価方法	小テスト・提出物 30%、定期試験 70%
課題に対する フィード バック	※毎回の小テストはMoodle上で実施、フィードバックを行います。 ※提出物は、ルーブリックを用いて確認し、随時、フィードバックをします。
指定図書	今泉敏：言語聴覚士のための音響学。医歯薬出版，2010
参考図書	オリエンテーション時に紹介します
事前・ 事後学修	※当該科目の学習資料を整理するためのファイル（2穴リングファイル）を用意して下さい。 ※毎回の講義終了時に次回の予習範囲を示します。同時に、事前・事後学修の資料をMoodleに呈示します。必ず事前学修をした上で受講して下さい。講義は、事前学修をもとに進めます。 ※事前・事後学修はシラバスに示したキーワードを「説明できる」ように学習を進めて下さい。 ※授業内容の概略やポイント、参考資料、課題は、Moodleの当該コースに随時示します。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3502研究室、時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語発達学
科目責任者	中村哲也
単位数他	1単位(15時間) 言語必修 1 Semester
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	ことばが出現するために必要な基礎的能力が発達する乳児期の段階から、会話や文字を獲得する児童期までのことばの発達について概説する。また、ことばの発達に関連するコミュニケーション、社会性、認知発達等についても学び、それぞれの領域についての苦手さを持つ子どもについての特徴についても触れていく。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児期、児童期までのことばの定型発達について理解できる</li> <li>2. ことばの発達に関連する領域の発達について、ことばの発達と関連付けて理解できる</li> <li>3. 定型発達を基礎にして言語発達障害を理解する視点を持つことができる</li> </ol>
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞ <span style="float: right;">＜担当教員名＞中村哲也</span></p> <p>第1回 言語発達理論について</p> <p>第2回 前言語期のコミュニケーション発達① 表情・感情</p> <p>第3回 前言語期のコミュニケーション発達② 視線・動作</p> <p>第4回 アタッチメントの発達</p> <p>第5回 音声知覚の発達・構音の発達</p> <p>第6回 認知・知能の発達</p> <p>第7回 語彙・統語の発達</p> <p>第8回 談話・読み書きの発達</p>

アクティブ ラーニング	予習してきた知識を基にして、話し合ったり考えてもらう時間を設けています。指定図書・参考書の授業内容にあたる部分を事前に読んでおきましょう。
評価方法	定期試験 80%、小テスト 20%
課題に対する フィード バック	小テストについては解答例を示し、フィードバックを行います。
指定図書	『標準言語聴覚障害学 言語発達障害学』 玉井ふみ他 医学書院
参考図書	『ことばの発達と障害 1/ことばの発達入門』 秦野悦子 大修館書店 『言語聴覚士のための言語発達障害学』 石田宏代、大石敬子 医歯薬出版株式会社 『よくわかる言語発達』 岩立志津夫、小椋たみ子 ミネルヴァ書房 『シリーズ臨床発達心理学④/言語発達とその支援』 岩立志津夫、小椋たみ子 ミネルヴァ書房
事前・ 事後学修	指定図書・参考書の授業内容にあたる部分を事前に読んでおきましょう。 小テストを実施しますので、しっかりと復習しておきましょう。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、水曜 13 : 00~14 : 20
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理学療法概論
科目責任者	矢倉千昭
単位数他	2単位 (30 時間) 理学必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	理学療法概論では、リハビリテーションにおける理学療法の役割、治療技術、疾病と対象の理解、理学療法のプロセス（検査・評価、治療）と臨床思考、理学療法士の使命と倫理、さらに理学療法士の養成教育と生涯学習について学修する。
到達目標	1. 社会人として、理学療法士としての使命感、倫理観を持ち、基本的な臨床態度を習得する。 2. リハビリテーションにおける理学療法に関する基本的な知識を身につけ、説明できる。 3. 理学療法士が活躍するフィールドを理解し、自身の将来像を描けるようになる。
授業計画	<p>※能動的な学修としてアクティブラーニングによる授業を展開する</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;矢倉千昭</p> <p>第1回：コースオリエンテーション、学修の準備</p> <p>第2回：学修の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスから学修内容を理解する。</li> <li>・シラバスの各回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成する。</li> <li>・ポートフォリオ作成の準備を行う。2 穴リングファイルを持参すること。</li> <li>・次回の授業でのグループワークを計画する。</li> </ul> <p>第3回：グループワークの練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中でグループワークを練習する。</li> </ul> <p>第4回：理学療法の歴史、技術および歴史を理解する テキスト 第1章</p> <p>※第5回から授業前にグループワークで資料を作成し、教員に提出する。</p> <p>第5回：理学療法の対象と臨床プロセスを理解する。 テキスト 第3章, 第5章</p> <p>第6回：理学療法と障害モデルを理解する。 テキスト 第1章</p> <p>第7回：理学療法士の使命と倫理を理解する。 テキスト 第3章</p> <p>第8回：理学療法士に求められる臨床思考を理解する。 テキスト 第4章</p> <p>第9回：理学療法士が活躍する現場を理解する。 テキスト 第6章</p> <p>第10回：私たちが学ぶ理学療法教育を理解する。 テキスト 第8章</p> <p>第11回：理学療法士の法律、職能を理解する。 テキスト 第2章, 第7章</p> <p>第12回：理学療法における研究を理解する。 テキスト 第10章</p> <p>第13回：理学療法と報酬（保険制度）を理解する。 テキスト 第11章</p> <p>第14回：理学療法とリスク管理を理解する。 テキスト 第11章</p> <p>第15回：理学療法(士)の現状を知り、これからの理学療法を考える。</p> <p>これまでの授業のまとめを行う</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスから学修内容を理解し、各回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成する。</li> <li>・グループワークの資料は教員が学生に配信し、学生はPCで資料を見ながら授業に参加する。</li> <li>・ポートフォリオを作成し、定期的に学修を振り返りながら目標の到達度を確認する。</li> </ul>
評価方法	定期試験 40%，小テスト 10%，ポートフォリオ 40%，出席状況 10%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の途中で補足し、終了後に総括を行う。</li> <li>・リアクションペーパーの質問を確認し、メールまたは次の授業で回答する。</li> </ul>
指定図書	細田多穂（編）「理学療法概論テキスト 改訂第3版」（南江堂）
参考図書	千住秀明（監）「理学療法学テキスト I 理学療法学概論 第4版」（神陵文庫）
事前・ 事後学修	事前学修としてグループワーク準備を行い、授業で発表・質疑応答、教員が総括した内容を事後学修として授業の内容をまとめ、ファイルに整理する。
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>時間：月曜日から金曜日の3時限目（11時55分～13時15分）</p> <p>場所：3504 研究室（矢倉研究室）</p> <p>上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。



アクティブ ラーニング	授業はモデルケースを用いての演習やグループワークなどを予定しています
評価方法	レポート 25%, グループ発表内容 25%, 定期試験 50%
課題に対する フィード バック	レポートの添削、演習での指導、等
指定図書	奈良勲監修, 「標準理学療法学 運動療法学 総論」 医学書院
参考図書	奈良勲監修, 「標準理学療法学 運動療法学 各論」 医学書院 奈良勲監修, 「標準理学療法学 病態運動学」 医学書院
事前・ 事後学修	事前学修では各回の授業テーマに関連する解剖・生理・運動学の基礎知識を整理してください。 事後学修では基礎知識を統合し, 演習で行った内容を復習・練習してください。
オフィス アワー	科目責任者: 依祐一 (リハビリテーション学部理学療法学科) 研究室: 3507 時間帯: 授業の際に提示します
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理学療法研究の理論																																
科目責任者	俵 祐一																																
単位数他	2単位 (30 時間) 理学必修 6セメスター																																
DP 番号と科目領域	DP4 専門																																
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。																																
科目概要	臨床疑問や課題に対して、客観的な視点から探求することを目的に、理学療法に必要な理学療法研究に関する方法論を学習する。研究の方法論では、問題点の抽出から文献検索、仮説の立案、データ測定、結果の解釈、考察といった研究の流れに沿ってそれぞれに必要な知識の習得と理学療法に必要な倫理事項の確認を行い、リハビリテーション専門職を志す者としての冷静な態度、深い洞察力、高い倫理観を裏付ける広い教養を身につける。																																
到達目標	1. 理学療法における研究活動の意義を理解する 2. 研究疑問を具現化し、その解明の手順(研究計画書の作成)を理解する 3. 理学療法研究を実践するにあたっての倫理感を養う																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：コースオリエンテーション 研究法総論 (1)</td> <td style="text-align: right;">俵 祐一</td> </tr> <tr> <td>第2回：研究法総論 (2) 学習要領の確認</td> <td style="text-align: right;">俵 祐一</td> </tr> <tr> <td>第3回：研究を行うにあたっての心構えと哲学</td> <td style="text-align: right;">俵 祐一</td> </tr> <tr> <td>第4回：研究疑問の見つけ方 (1) 量的研究と研究デザイン</td> <td style="text-align: right;">俵 祐一</td> </tr> <tr> <td>第5回：研究疑問の見つけ方 (2) 質的研究と研究デザイン</td> <td style="text-align: right;">俵 祐一</td> </tr> <tr> <td>第6回：文献レビューの仕方 (1) 研究の概念枠組み</td> <td style="text-align: right;">俵 祐一</td> </tr> <tr> <td>第7回：文献レビューの仕方 (2) 研究の限界</td> <td style="text-align: right;">俵 祐一</td> </tr> <tr> <td>第8回：文献レビューに基づく仮説の設定 (1) 文献検索の方法とまとめ方</td> <td style="text-align: right;">有菌信一</td> </tr> <tr> <td>第9回：文献レビューに基づく仮説の設定 (2) 文献の読み方</td> <td style="text-align: right;">有菌信一</td> </tr> <tr> <td>第10回：理学療法研究に必要な統計学 (1) 代表値とバラツキ</td> <td style="text-align: right;">有菌信一</td> </tr> <tr> <td>第11回：理学療法研究に必要な統計学 (2) データの読み方</td> <td style="text-align: right;">有菌信一</td> </tr> <tr> <td>第12回：理学療法研究に必要な統計学 (3) 様々な統計学的手法</td> <td style="text-align: right;">有菌信一</td> </tr> <tr> <td>第13回：理学療法研究に必要な倫理学 (1) 倫理哲学</td> <td style="text-align: right;">有菌信一</td> </tr> <tr> <td>第14回：理学療法研究に必要な倫理学 (2) 倫理申請手順</td> <td style="text-align: right;">有菌信一</td> </tr> <tr> <td>第15回：大学院教育への発展</td> <td style="text-align: right;">俵 祐一</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：コースオリエンテーション 研究法総論 (1)	俵 祐一	第2回：研究法総論 (2) 学習要領の確認	俵 祐一	第3回：研究を行うにあたっての心構えと哲学	俵 祐一	第4回：研究疑問の見つけ方 (1) 量的研究と研究デザイン	俵 祐一	第5回：研究疑問の見つけ方 (2) 質的研究と研究デザイン	俵 祐一	第6回：文献レビューの仕方 (1) 研究の概念枠組み	俵 祐一	第7回：文献レビューの仕方 (2) 研究の限界	俵 祐一	第8回：文献レビューに基づく仮説の設定 (1) 文献検索の方法とまとめ方	有菌信一	第9回：文献レビューに基づく仮説の設定 (2) 文献の読み方	有菌信一	第10回：理学療法研究に必要な統計学 (1) 代表値とバラツキ	有菌信一	第11回：理学療法研究に必要な統計学 (2) データの読み方	有菌信一	第12回：理学療法研究に必要な統計学 (3) 様々な統計学的手法	有菌信一	第13回：理学療法研究に必要な倫理学 (1) 倫理哲学	有菌信一	第14回：理学療法研究に必要な倫理学 (2) 倫理申請手順	有菌信一	第15回：大学院教育への発展	俵 祐一
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第1回：コースオリエンテーション 研究法総論 (1)	俵 祐一																																
第2回：研究法総論 (2) 学習要領の確認	俵 祐一																																
第3回：研究を行うにあたっての心構えと哲学	俵 祐一																																
第4回：研究疑問の見つけ方 (1) 量的研究と研究デザイン	俵 祐一																																
第5回：研究疑問の見つけ方 (2) 質的研究と研究デザイン	俵 祐一																																
第6回：文献レビューの仕方 (1) 研究の概念枠組み	俵 祐一																																
第7回：文献レビューの仕方 (2) 研究の限界	俵 祐一																																
第8回：文献レビューに基づく仮説の設定 (1) 文献検索の方法とまとめ方	有菌信一																																
第9回：文献レビューに基づく仮説の設定 (2) 文献の読み方	有菌信一																																
第10回：理学療法研究に必要な統計学 (1) 代表値とバラツキ	有菌信一																																
第11回：理学療法研究に必要な統計学 (2) データの読み方	有菌信一																																
第12回：理学療法研究に必要な統計学 (3) 様々な統計学的手法	有菌信一																																
第13回：理学療法研究に必要な倫理学 (1) 倫理哲学	有菌信一																																
第14回：理学療法研究に必要な倫理学 (2) 倫理申請手順	有菌信一																																
第15回：大学院教育への発展	俵 祐一																																

アクティブ ラーニング	グループワーク等を予定しています
評価方法	課題提出物：30%、研究計画書の作成：70%
課題に対する フィード バック	研究計画書の作成指導を通して進めていきます
指定図書	千住秀明著「はじめての研究法—コメディカルの研究法入門」（神稜文庫）
参考図書	対馬栄輝、他著「医療系データのとり方・まとめ方」（東京図書）
事前・ 事後学修	学修の成果はグループ指導教員との卒業研究テーマ，研究計画の作成に反映されます
オフィス アワー	科目責任者：俵祐一（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3507 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理学療法診断学概論
科目責任者	矢倉千昭
単位数他	2単位(30時間) 理学必修 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	理学療法において、理学療法診断(評価)は、対象者の障害像を整理し、問題点の把握、治療目標の設定、治療計画を立案するうえで最も重要な過程である。授業では、理学療法診断に必要な基本的な態度、知識、技能について教示する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法士を目指す学生としての社会人基礎力、臨床態度、学修意欲を喚起する。</li> <li>2. 理学療法診断(評価)の意義と目的、評価から治療計画の立案までの過程を説明できる。</li> <li>3. 対象者とのコミュニケーション、医療面接、基本的な検査・測定が想起できる。</li> </ol>
授業計画	<p>※能動的な学修としてアクティブラーニングによる授業を展開する</p> <p style="text-align: center;">&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;矢倉千昭</span></p> <p>第1回：コースオリエンテーション、学修の準備  第2回：学修の準備  ・シラバスから学修内容を理解する。  ・シラバスの各回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成する。  ・ポートフォリオ作成の準備を行う。2穴リングファイルを持参すること。  ・次回の授業でのグループワークを計画する。</p> <p>第3回：理学療法評価とは 第1章  第4回：検査・測定法の信頼性と妥当性 第1章  第5回：情報収集・医療面接 第2章  第6回：ICFとICIDH 第3章  第7回：検査・測定法の名前、その目的・概要・意義① 第7回～第11回 第4章～21章  第8回：検査・測定法の名前、その目的・概要・意義②  第9回：検査・測定法の名前、その目的・概要・意義③  第10回：検査・測定法の名前、その目的・概要・意義④  第11回：検査・測定法の名前、その目的・概要・意義⑤  第12回：運動器系疾患の病態・障害像から理学療法評価を考える 第22章～25章 2疾患  第13回：中枢神経系疾患の病態・障害像から理学療法評価を考える 第27章～31章 2疾患  第14回：内部障害系疾患の病態・障害像から理学療法評価を考える 第32章～34章 2疾患  第15回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスから学修内容を理解し、各回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成する。</li> <li>・グループワークの資料は教員が学生に配信し、学生はPCで資料を見ながら授業に参加する。</li> <li>・ポートフォリオを作成し、定期的に学修を振り返りながら目標の到達度を確認する。</li> </ul>
評価方法	定期試験 40%，小テスト 10%，ポートフォリオ 40%，出席状況 10%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の途中で補足し、終了後に総括を行う。</li> <li>・リアクションペーパーの質問を確認し、メールまたは次の授業で回答する。</li> </ul>
指定図書	細田多穂（監）「理学療法評価学テキスト 改訂第2版」（南江堂）
参考図書	千住秀明（監）「理学療法評価法 第3版」（神陵文庫）
事前・ 事後学修	事前学修としてグループワーク準備を行い、授業で発表・質疑応答、教員が総括した内容を事後学修として授業の内容をまとめ、ファイルに整理する。
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>時間：月曜日～金曜日の3時限目（11時55分～13時15分）</p> <p>場所：3504 研究室（矢倉研究室）</p> <p>上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。



アクティブ ラーニング	モデルケースを想定しての実際の技術演習を積極的に行ないます
評価方法	レポート課題 40%、定期試験 60%
課題に対する フィード バック	授業の実技にて、評価手技習得の達成度をフィードバックします
指定図書	新・徒手筋力検査法：津山直一・他訳（協同医書出版） ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭・他著（南山堂） 理学療法評価学テキスト：細田多穂著 南江堂
参考図書	理学療法評価法：千住秀明監修、中島喜代彦編集（九州神陵文庫）
事前・ 事後学修	徒関節可動域測定，筋力検査，感覚検査，バランス検査，医学的検査などの授業計画に挙げられたキーワードを事前学習，事後学習を行ってください
オフィス アワー	科目責任者：俵祐一（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3507 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	神経系理学療法評価学																																
科目責任者	吉本好延																																
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 4 セメスター																																
DP 番号と科目領域	DP2 専門																																
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																
科目概要	本科目では、中枢神経疾患に伴う身体・精神機能障害、能力障害の把握に必要な症状発現のメカニズムと評価法について学習する。具体的には、中枢神経疾患の病態と障害、中枢神経疾患に伴う運動障害、感覚障害などの機能障害、姿勢・動作分析のポイントを理解し、中枢神経疾患における基本的な評価方法を理解し、選択および実践できるように学習する。																																
到達目標	1. 脳卒中患者の病態と障害を理解し、基本的な評価法を選定し、実践することができる。 2. 神経疾患の病態と障害を理解し、基本的な評価法を選択し、実践することができる。																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：脳卒中の病態の理解 発表 課題1「脳梗塞と脳出血の病態をそれぞれ説明せよ」</td> <td style="text-align: right;">吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第2回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題2「なぜ脳卒中患者に血圧の評価が必要なのか、理学療法評価はどのように行うのか」</td> <td style="text-align: right;">吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第3回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題3「なぜ脳卒中患者に運動麻痺が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」</td> <td style="text-align: right;">吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第4回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題4「なぜ脳卒中患者に感覚障害が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」</td> <td style="text-align: right;">吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第5回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題5「なぜ脳卒中患者に筋緊張異常が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」</td> <td style="text-align: right;">吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第6回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題6「なぜ脳卒中患者に意識障害が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」</td> <td style="text-align: right;">吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第7回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題7「なぜ脳卒中患者に運動失調が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」</td> <td style="text-align: right;">吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第8回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題8「なぜ脳卒中患者に関節可動域障害が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」</td> <td style="text-align: right;">吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第9回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題9「なぜ脳卒中患者に歩行障害が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」</td> <td style="text-align: right;">吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第10回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題10：「なぜ臨床推論を学ぶ必要があるのか」</td> <td style="text-align: right;">吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第11回：脳卒中の理学療法評価 高次脳機能障害の障害と検査法</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第12回：脳卒中の理学療法評価 CT・MRI 画像の読み方</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第13回：パーキンソン病の評価 パーキンソン病の障害と評価法</td> <td style="text-align: right;">吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第14回：多発性硬化症の評価・脊髄小脳変性症の評価 多発性硬化症・脊髄小脳変性症の障害と評価法</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第15回：筋萎縮性側索硬化症の評価 筋萎縮性側索硬化症の障害と評価</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：脳卒中の病態の理解 発表 課題1「脳梗塞と脳出血の病態をそれぞれ説明せよ」	吉本好延	第2回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題2「なぜ脳卒中患者に血圧の評価が必要なのか、理学療法評価はどのように行うのか」	吉本好延	第3回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題3「なぜ脳卒中患者に運動麻痺が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」	吉本好延	第4回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題4「なぜ脳卒中患者に感覚障害が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」	吉本好延	第5回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題5「なぜ脳卒中患者に筋緊張異常が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」	吉本好延	第6回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題6「なぜ脳卒中患者に意識障害が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」	吉本好延	第7回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題7「なぜ脳卒中患者に運動失調が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」	吉本好延	第8回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題8「なぜ脳卒中患者に関節可動域障害が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」	吉本好延	第9回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題9「なぜ脳卒中患者に歩行障害が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」	吉本好延	第10回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題10：「なぜ臨床推論を学ぶ必要があるのか」	吉本好延	第11回：脳卒中の理学療法評価 高次脳機能障害の障害と検査法	矢倉千昭	第12回：脳卒中の理学療法評価 CT・MRI 画像の読み方	矢倉千昭	第13回：パーキンソン病の評価 パーキンソン病の障害と評価法	吉本好延	第14回：多発性硬化症の評価・脊髄小脳変性症の評価 多発性硬化症・脊髄小脳変性症の障害と評価法	矢倉千昭	第15回：筋萎縮性側索硬化症の評価 筋萎縮性側索硬化症の障害と評価	矢倉千昭
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第1回：脳卒中の病態の理解 発表 課題1「脳梗塞と脳出血の病態をそれぞれ説明せよ」	吉本好延																																
第2回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題2「なぜ脳卒中患者に血圧の評価が必要なのか、理学療法評価はどのように行うのか」	吉本好延																																
第3回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題3「なぜ脳卒中患者に運動麻痺が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」	吉本好延																																
第4回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題4「なぜ脳卒中患者に感覚障害が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」	吉本好延																																
第5回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題5「なぜ脳卒中患者に筋緊張異常が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」	吉本好延																																
第6回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題6「なぜ脳卒中患者に意識障害が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」	吉本好延																																
第7回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題7「なぜ脳卒中患者に運動失調が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」	吉本好延																																
第8回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題8「なぜ脳卒中患者に関節可動域障害が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」	吉本好延																																
第9回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題9「なぜ脳卒中患者に歩行障害が生じるのか、理学療法評価はどのように行うのか」	吉本好延																																
第10回：脳卒中の理学療法評価 発表 課題10：「なぜ臨床推論を学ぶ必要があるのか」	吉本好延																																
第11回：脳卒中の理学療法評価 高次脳機能障害の障害と検査法	矢倉千昭																																
第12回：脳卒中の理学療法評価 CT・MRI 画像の読み方	矢倉千昭																																
第13回：パーキンソン病の評価 パーキンソン病の障害と評価法	吉本好延																																
第14回：多発性硬化症の評価・脊髄小脳変性症の評価 多発性硬化症・脊髄小脳変性症の障害と評価法	矢倉千昭																																
第15回：筋萎縮性側索硬化症の評価 筋萎縮性側索硬化症の障害と評価	矢倉千昭																																

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>各授業に課題を提示しています。グループワークの手法を用いて、事前に課題に対する回答の根拠となる資料を作成してください。</li> <li>授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料となります。</li> <li>授業は学生に発表していただきます。事前に学習している前提で授業を行います。</li> <li>授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促します。</li> <li>授業の振り返りは、事後学修で行っていただきます。授業を通じて学修した内容を資料にまとめて、授業1週間後までにメールで提出していただきます。</li> </ul>
評価方法	定期試験：80% 課題提出物：20%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会の途中で教員が随時補足していきます。</li> <li>他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、授業後に提出し、教員はさらに確認・フィードバックを行います。</li> </ul>
指定図書	『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション—エビデンスを実践につなげる』メジカルビュー社 監修 藤島一郎、他 『中枢神経障害理学療法学テキスト』南江堂 『病気がみえる vol.7 脳・神経』メディックメディア ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭・他著（南山堂）
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>各セッションの課題について事前学習を行う。</li> <li>授業では課題のフィードバックを行いますので、課題をさらに調べることで事後学修する</li> </ul>
オフィス アワー	3509 教室, 毎週水曜日 16 時～18 時
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	内部障害系理学療法評価学
科目責任者	有菌 信一
単位数他	1単位 (30時間) 理学必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	ヒトの健康状態を評価するために必要である基礎的な知識と技能を備え、客観的かつ科学的観点から物事を洞察できる能力を習得する事を目的に、内部障害疾患（特に呼吸・循環・代謝系疾患）の病態生理ならびに疾患に対する理学療法評価を整理する。
到達目標	1. 呼吸器系疾患の病態から理学療法評価の意義を捉える。 2. 循環器系疾患の病態から理学療法評価の意義を捉える。 3. 代謝系疾患の病態から理学療法評価の意義を捉える。
授業計画	<p>担当教員：有菌信一・俵祐一・矢部広樹・向井庸</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1回 コースオリエンテーション 内部障害系理学療法学総論 (1) (有菌) ー内部障害の概念、定義、種類、理学療法の基本要素</p> <p>第2回 呼吸器系理学療法評価学 (1) COPD, 間質性肺炎 (有菌) ー呼吸器疾患に対する理学療法評価の方法と実際</p> <p>第3回 呼吸器系理学療法評価学 (2) (有菌)</p> <p>第4回 呼吸器系理学療法評価学 (3) (有菌)</p> <p>第5回 呼吸器系理学療法評価学 (4) (有菌)</p> <p>第6回 循環器系理学療法評価学 (1) 狭心症, 急性心筋梗塞, 心不全 (有菌)</p> <p>第7回 循環器系理学療法評価学 (2) (有菌)</p> <p>第8回 循環器系理学療法評価学 (3) (有菌)</p> <p>第9回 循環器系理学療法評価学 (4) (有菌)</p> <p>第10回 呼吸器系循環器系理学療法評価学 (1) (俵)</p> <p>第11回 呼吸器系循環器系理学療法評価 (2) (俵)</p> <p>第12回 呼吸器系循環器系理学療法評価学 (3) (俵)</p> <p>第13回 腎臓および代謝系理学療法評価学 (1) (矢部)</p> <p>第14回 腎臓および代謝系理学療法評価学 (2) (矢部)</p> <p>第15回 急性期理学療法評価 (ゲスト向井・有菌)</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>各セッションの課題をグループワークで解決・発表する</li> <li>授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする</li> <li>授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す</li> </ul>
評価方法	学期末テスト(60%)， レポート(40%)にて評価する
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会の途中で教員が随時補足していく</li> <li>他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う</li> </ul>
指定図書	内部障害理学療法学テキスト 細田多穂著 南江堂 千住秀明著「呼吸リハビリテーション入門」(神稜文庫)
参考図書	なし
事前・ 事後学修	循環器疾患，代謝疾患，呼吸器疾患などをキーワードに事前学習を行ってください 症例報告などを中心に評価の実際について，事後学習してください
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3503 研究室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (shinichi-a@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	運動器系理学療法評価学	
科目責任者	根地嶋誠	
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 4 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	代表的な運動器疾患の発生機序や病態などを理解し、それらに対する理学療法評価について学習する。特に整形外科的検査について、方法や原理、目的などを理解し説明できること、そして実際にできることを目標とする。具体的には、代表的な運動器疾患を概説できること、代表的な運動器疾患における評価方法の種類を挙げることができること、評価の方法を説明し実践できること、評価方法の原理を説明できること、医療従事者としての振る舞いができることを目指す。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な運動器疾患を概説できる</li> <li>2. 代表的な運動器疾患に対する理学療法評価の項目を列挙できる</li> <li>3. 理学療法評価の方法と原理を説明できる</li> <li>4. 理学療法評価を適切な技術と態度で実施できる</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：コースオリエンテーション，運動器系理学療法学総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法評価)</p> <p>第 2 回：股関節の疾患と理学療法評価 1 (変形性股関節症，THA の病態と理学療法評価)</p> <p>第 3 回：股関節の疾患と理学療法評価 2 (大腿骨頸部骨折の病態と理学療法評価)</p> <p>第 4 回：膝関節の疾患と理学療法評価 1 (変形性膝関節症，TKA の病態と理学療法評価)</p> <p>第 5 回：膝関節の疾患と理学療法評価 2 (靭帯損傷の病態と理学療法評価)</p> <p>第 6 回：脊柱・骨盤の理学療法評価 1 (腰椎椎間板ヘルニアの病態と理学療法評価)</p> <p>第 7 回：脊柱・骨盤の理学療法評価 2 (腰痛の病態と理学療法評価)</p> <p>第 8 回：肩関節・肩甲帯の疾患と理学療法評価 1 (肩板断裂の病態と理学療法評価)</p> <p>第 9 回：肩関節・肩甲帯の疾患と理学療法評価 2 (肩関節周囲炎の病態と理学療法評価)</p> <p>第 10 回：技能総合演習 1 (検査測定の理解，技能のまとめ)</p> <p>第 11 回：技能総合演習 2 (技能試験)</p> <p>第 12 回：技能総合演習 3 (検査測定 of 知識と技能の整理)</p> <p>第 13 回：関節リウマチの理学療法評価 1 (関節リウマチの病態と理学療法評価)</p> <p>第 14 回：関節リウマチの理学療法評価 2 (関節リウマチの病態と理学療法評価)</p> <p>第 15 回：まとめ (理学療法評価の知識・技術の統合と実際)</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>(根地嶋)</p> <p>(田中)</p> <p>(田中)</p> <p>(根地嶋)</p> <p>(根地嶋)</p> <p>(根地嶋)</p> <p>(根地嶋)</p> <p>(根地嶋)</p> <p>(根地嶋)</p> <p>(根地嶋)</p> <p>(根地嶋，田中)</p> <p>(根地嶋，田中)</p> <p>(根地嶋，田中)</p> <p>(田中)</p> <p>(田中)</p> <p>(根地嶋，田中)</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修（グループ発表，ディスカッション）
評価方法	小テスト 20%，総合演習課題 20%，筆記試験 60%
課題に対する フィード バック	小テストの解説，リアクションペーパーのコメント
指定図書	運動器疾患の理学療法（神陵文庫）
参考図書	標準整形外科学（医学書院）
事前・ 事後学修	各回の始めに、整形外科疾患の基礎知識に関する小テストを実施する。代表的な整形外科疾患について 40 分程度学んでおくこと。
オフィス アワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理学療法検査測定演習	
科目責任者	矢部 広樹	
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 3 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP3 専門	
科目の位置付	様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。	
科目概要	本科目は、理学療法診断技術学で学んだ知識と技術を整理、習得する。代表的な病態に対し、基本的な理学療法評価から必要なものを選択し、健常者を対象として基本的な検査測定を実施できることを目標とする。授業では、対象者への配慮と医療者としての接遇を身に付け、形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査、バイタルサイン、精神機能検査、感覚・反射検査、疼痛評価等を実施する	
到達目標	1. 健常者を対象に、基本的な理学療法評価を適切な技術と相手を尊重した態度で実施できる 2. 報告会や実技演習で経験したことを報告できる	
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 矢部広樹、俵 祐一、矢倉千昭、有蘭信一、吉本好延、根地嶋誠、金原一宏、田中真希、高橋大生</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員&gt;</span></p> <p>第1回 コースオリエンテーション・目標およびスケジュールの確認 <span style="float: right;">矢部・俵</span> 形態計測、周径、四肢長、ランドマーク触診、視診、触診</p> <p>第2回 関節可動域測定演習1 上肢・肩甲帯 <span style="float: right;">矢部・俵</span></p> <p>第3回 関節可動域測定演習2 下肢 <span style="float: right;">矢部・俵</span></p> <p>第4回 関節可動域測定演習3 頸部・体幹 <span style="float: right;">矢部・俵</span></p> <p>第5回 徒手筋力検査1 <span style="float: right;">矢部・俵</span></p> <p>第6回 徒手筋力検査2 <span style="float: right;">矢部・俵</span></p> <p>第7回 徒手筋力検査3 <span style="float: right;">矢部・俵</span></p> <p>第8回 バイタルサイン 呼吸機能検査 運動負荷試験 <span style="float: right;">矢部・俵</span></p> <p>第9回 実技総合演習① (客観的臨床能力試験) <span style="float: right;">矢部・俵</span></p> <p>第10回 画像診断, 血液検査, 医学的検査の基礎知識 <span style="float: right;">矢部・俵</span></p> <p>第11回 感覚検査, 反射検査, 疼痛検査 <span style="float: right;">矢部・俵</span></p> <p>第12回 筋緊張 バランス検査 <span style="float: right;">矢部・俵</span></p> <p>第13回 整形領域検査 <span style="float: right;">矢部・俵</span></p> <p>第14回 実技総合演習② (客観的臨床能力試験) <span style="float: right;">全員</span></p> <p>第15回 理学療法評価の統合 臨床実習報告会からの学び <span style="float: right;">全員</span></p> <p>受講者へのメッセージ：動きやすい服装 (T シャツやジャージ) で参加してください。</p>	

アクティブ ラーニング	授業は講義に加えて、実技を伴うグループワークを実施します。グループワークでは学生の主体性・能動性・創造性を要求する課題を設定します。
評価方法	OSCE 70% 総合演習の実技遂行状況 30% ルーブリックにて評価します
課題に対する フィード バック	各回の授業、および事前事後学習は、授業内では口頭で、授業後はMoodleを用いて個別にフィードバックする。グループ発表とOSCEのフィードバックは、授業内に口頭で行う。
指定図書	新・徒手筋力検査法：津山直一・他訳（協同医書出版） ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭・他著（南山堂） 理学療法評価学テキスト：細田多穂著 南江堂
参考図書	なし
事前・ 事後学修	上肢、下肢、頸部、体幹、それぞれの解剖学、運動学の知識が必要であるため、各回の前に確認しておくこと。関節可動域測定、徒手筋力検査、感覚検査、バランス検査、運動負荷試験、医学的検査などの授業計画に挙げられたキーワードを事前学習、事後学習を行ってください。事前学習に必要な資料は、Moodleで提示しますので、各回の事前学習に取り入れてください。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512 研究室 時間等：毎週水曜日 12 時～13 時 上記以外でもメール (hiorki-y@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理学療法評価演習Ⅰ
科目責任者	俵 祐一
単位数他	1単位(30時間) 理学必修 5セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	学内演習を通して、高度な知識と技術を習得するために、各種疾患や障害に対する理学療法の基本的な知識(ベーシックスキル)・技術(動作分析)を学習する。また、実技総合演習により、理学療法現場に必要な臨床能力(問題解決能力、態度・技能)の習得を目指し、知識総合演習により、理学療法現場に対応した知識・思考力(問題解決能力)の確認を行う。 「施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。」
到達目標	リハビリテーションの対象を、これまで学習した基礎的な知識と専門的な知識を統合し、発展させて多角的に理解できる。具体的には、臨床理学療法実習Ⅲ・Ⅳに必要な以下の3つの領域を習得する。 1. 知識：標準的な国家試験問題で6割程度解答できる 特に基礎編の知識を応用できる 2. 技術：基本的な理学療法評価項目を挙げ、各種疾患や障害についての知識と結びつけることができる 3. 態度：相手を尊重した言葉使いや行動をとることができる
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 俵 祐一、矢倉千昭、有菌信一、吉本好延、根地嶋誠、金原一宏、田中真希、矢部広樹、高橋大生、ゲストスピーカー (すべての内容を教員全員で担当する)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 第1回コースオリエンテーション・知識確認：科目全体の流れを把握する。これまで学習した理学療法の基本的な知識を確認する (俵) 第2回理学療法基礎演習Ⅰ(神経理学療法) 第3回理学療法基礎演習Ⅱ(神経理学療法) 第4回理学療法基礎演習Ⅲ(運動器理学療法) 第5回理学療法基礎演習Ⅳ(運動器理学療法) 第6回理学療法基礎演習Ⅴ(内部障害理学療法) 第7回理学療法基礎演習Ⅵ(内部障害理学療法) 第8回実技総合演習Ⅰ (OSCE) (教員全員+ゲストスピーカー) 第9回実技総合演習Ⅱ (OSCE) (教員全員+ゲストスピーカー) 第10回実技総合演習Ⅲ (OSCE) (教員全員+ゲストスピーカー) 第11回実技総合演習Ⅳ (OSCE) (教員全員+ゲストスピーカー) 第12回実技総合演習Ⅴ (OSCE) (教員全員+ゲストスピーカー) 第13回実技総合演習Ⅵ (OSCE) (教員全員+ゲストスピーカー) 第14回知識総合演習Ⅰ (Computer-Based-Testing : CBT) (俵) 第15回知識総合演習Ⅱ (CBT) (俵)</p> <p>第2回~7回までに行ったグループ学習を第8回~13回の実技総合演習で整理し、各領域の理学療法現場に対応した知識・思考力(問題解決能力)を確認する</p>

アクティブ ラーニング	<p>施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。グループ内で患者役、医療従事者役を設定し、口頭で説明をする・評価をする（実技）など臨床現場を想定してグループ学修を進める。</p> <p>iPad を活用し、実際に実技の練習などをビデオに撮影し、その動画を確認しながら学生同士がお互いにフィードバックを行うことで、知識や実技向上に努め、学生自身の問題解決能力を養う。</p> <p>「施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。」</p>																				
評価方法	<p>口頭試問（4月～6月中に実施予定：全3回）40% ・知識確認試験（7月中旬実施予定）30% ・OSCE（客観的臨床能力試験）（7月中旬実施予定）30%</p> <p>* 3回の口頭試問にそれぞれ合格しないと OSCE の受験資格はありません。</p> <p>* 口頭試問・OSCE はルーブリックを使用して到達度を判定します。</p>																				
課題に対する フィード バック	<p>・口頭試問：1回目：運動器理学療法・2回目：神経理学療法・3回目：内部障害理学療法について試験官であるそれぞれの教員の質問に口頭で説明していただきます。質問内容は、事前に配布した口頭試問用キーワードリストに沿って出題します。そのキーワードの意味だけでなく、臨床の上で患者さんや他のスタッフに説明するイメージで他のキーワードとのつながりや、詳細など説明してください。質問内容は臨床の場面を想定して、教員が、口頭試問キーワードリストから応用的に問題を出題します。</p> <p>* 回答時間は一人15分程度です。服装はケーシー、身だしなみは実習時と同様をお願いします。</p> <p>* 合格するまで再試験は繰り返されます。再試験の日時は担当教員の指示に従ってください。</p> <p>・OSCE：3回の口頭試問に全て合格すると受験資格がもらえます。OSCE 実施日までに口頭試問に合格しなければ、受験資格はありません。</p> <p>試験内容は、神経系疾患、運動器系疾患を想定した模擬患者に理学療法評価を実施します。</p> <p>* 模擬患者の情報については試験実施1週間前に掲示します。</p> <p>* OSCE は臨床理学療法実習Ⅳの前の実技、知識確認試験です。実習のための知識や技術を習得することを目的としています。</p> <p>・CBT：PT 治療前問題（評価実習用）の知識確認試験です。問題は全部で100問（試験時間は90分）、選択式問題です。パソコンで実施します。以下問題の割合です。</p> <table border="0" data-bbox="379 1104 1042 1417"> <tr> <td>運動系 PT</td> <td>基礎（骨、関節、筋、運動学）12問</td> </tr> <tr> <td></td> <td>臨床（整形外科、外科）10問</td> </tr> <tr> <td></td> <td>PT（筋骨格系 PT）10問</td> </tr> <tr> <td>神経系 PT</td> <td>基礎（神経、感覚）12問</td> </tr> <tr> <td></td> <td>臨床（神経内科、精神）10問</td> </tr> <tr> <td></td> <td>PT（神経、筋障害 PT）10問</td> </tr> <tr> <td>内部疾患 PT</td> <td>基礎（呼吸循環代謝消化排泄等）12問</td> </tr> <tr> <td></td> <td>臨床（内科）10問</td> </tr> <tr> <td></td> <td>PT（呼吸、心臓、代謝等の PT）10問</td> </tr> <tr> <td>その他 応用</td> <td>（リハ概論・医学、法律、公衆衛生等）4問</td> </tr> </table>	運動系 PT	基礎（骨、関節、筋、運動学）12問		臨床（整形外科、外科）10問		PT（筋骨格系 PT）10問	神経系 PT	基礎（神経、感覚）12問		臨床（神経内科、精神）10問		PT（神経、筋障害 PT）10問	内部疾患 PT	基礎（呼吸循環代謝消化排泄等）12問		臨床（内科）10問		PT（呼吸、心臓、代謝等の PT）10問	その他 応用	（リハ概論・医学、法律、公衆衛生等）4問
運動系 PT	基礎（骨、関節、筋、運動学）12問																				
	臨床（整形外科、外科）10問																				
	PT（筋骨格系 PT）10問																				
神経系 PT	基礎（神経、感覚）12問																				
	臨床（神経内科、精神）10問																				
	PT（神経、筋障害 PT）10問																				
内部疾患 PT	基礎（呼吸循環代謝消化排泄等）12問																				
	臨床（内科）10問																				
	PT（呼吸、心臓、代謝等の PT）10問																				
その他 応用	（リハ概論・医学、法律、公衆衛生等）4問																				
指定図書	<p>理学療法評価学テキスト 細田多穂監修 南江堂、口頭試問キーワードリスト・国家試験過去問題配布、これまでに履修した科目の指定図書など</p>																				
参考図書	<p>なし</p>																				
事前・ 事後学修	<p>計画的に自主的な学習を進めてください。計画的、且つ継続的な実技を含む学修を推奨します（原則1コマ40分）。これまで学んだ内容の復習とともに、自分で考え、問題を解決していく力の基礎的知識を、確認しながら深めていきます。この科目は、臨床理学療法評価実習Ⅰと並行して学修する科目となります。また、臨床理学療法評価実習Ⅱに出るための知識、技術を習得する前提科目となります。事前・事後学修は原則40分程度行ってください。</p>																				
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3507 研究室 時間等：授業の際に提示します</p>																				
実務経験に 関する記述	<p>本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。</p>																				

科目名	理学療法評価演習Ⅱ
科目責任者	吉本 好延
単位数他	1単位(30時間) 理学必修 6セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	対象者の状態をリハビリテーションの評価により理解し、根拠に基づく基本的なリハビリテーション技術を選択ができるようになるため、小グループによるアクティブ・ラーニングを実践する。理学療法の主対象となる中枢神経疾患、運動器系疾患、内部障害系疾患の臨床事例をベースとしたシナリオに基づき、理学療法における臨床推論を実践的に学習し、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法士を志す学生としてのモラルと責任感、コミュニケーション能力、および自ら考える力を身につける</li> <li>2. 対象疾患や病態、理学療法評価を実施するうえで必要な知識を収集し、情報収集、検査測定を計画、そこで得た情報を統合して問題点抽出および目標設定する</li> <li>3. 対象者の疾患や病態、理学療法治療を実施するうえで必要な知識を収集し、理学療法評価をもとに理学療法プログラムを立案する</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt;吉本好延、有菌信一、矢倉千昭、根地嶋誠、金原一宏、俵 祐一、田中真希、矢部広樹、高橋大生</p> <p>※全て2時限連続の講義とする。</p> <p>※アクティブ ラーニング(学生の能動的学習形態)にて講義を展開する。</p> <p>第1～7回：実習前(臨床理学療法実習Ⅳ)学修、第8～15回：実習後学修</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：コースオリエンテーション 臨床推論の概要と実際 吉本好延</p> <p>第2回：実習時の接遇について 金原一宏</p> <p>第3回：クリニカルクラークシップと2:1モデル 吉本好延</p> <p>第4回：実技練習1：ROM-T演習 根地嶋誠</p> <p>第5回：空間関連図の書き方・カルテの読み方 根地嶋誠・田中真希</p> <p>第6回：実技練習2：MMT演習 有菌信一・俵 祐一</p> <p>第7回：中枢神経系・運動器・内部系疾患に対する理学療法(1) 吉本好延：発表・GW</p> <p>第8回：中枢神経系・運動器・内部系疾患に対する理学療法(2) 吉本好延：発表・GW</p> <p>第9回：中枢神経系・運動器・内部系疾患に対する理学療法(3) 吉本好延：発表・GW</p> <p>第10回：中枢神経系・運動器・内部系疾患に対する理学療法(4) 吉本好延：発表・GW</p> <p>第11回：中枢神経系・運動器・内部系疾患に対する理学療法(5) 吉本好延：発表・GW</p> <p>第12回：中枢神経系・運動器・内部系疾患に対する理学療法(6) 吉本好延：発表・GW</p> <p>第13回：中枢神経系・運動器・内部系疾患に対する理学療法(7) 吉本好延：発表・GW</p> <p>第14回：各ゼミ発表：全教員⇒フィードバック後、最終レポート提出</p> <p>第15回：外部OSCE 全員</p> <p>第9回から第14回では、運動器系・中枢神経系・内部障害系疾患に対して模擬患者(ペーパーペーシェント：臨床理学療法実習Ⅳの担当患者を設定し、理学療法における臨床推論を実施する。</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1セッション2コマとして、各セッションの課題をグループワークで解決・発表する</li> <li>・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す</li> <li>・OSCEは実技動画をipadで撮影し、視覚的にフィードバックを行う</li> <li>・OSCEの判定は客観的な手順で行われていることが理解できるよう、試験前に学生に判定項目を開示し、判定項目が達成できるようOSCE前の事前学習を行うよう促す</li> </ul>
評価方法	課題提出物：30% 実技試験：30% 報告会：30% 授業態度：10%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会の途中で教員が随時補足していく</li> <li>・他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、授業後に提出し、教員はさらに確認・フィードバックを行う</li> </ul>
指定図書	『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション—エビデンスを実践につなげる』メジカルビュー社 監修 藤島一郎、他
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各セッションの課題について事前学習を行う。</li> <li>・授業では課題のフィードバックを行いますので、課題をさらに調べることで事後学修する</li> </ul>
オフィス アワー	3509 教室, 毎週水曜日 16時~18時
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	基礎理学療法治療学	
科目責任者	俵 祐一	
単位数他	2単位 (30 時間) 理学必修 4 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	人の健康状態の改善のために、的確な行動ができる必要な専門知識を習得するために、本科目では、理学療法における運動療法の基礎となる関節可動域運動、筋力・筋持久力増強運動、バランス改善運動、協調性運動ならびに運動学習理論の基礎・技術を習得する。	
到達目標	各種疾患・障害に共通して実施される基礎的な理学療法を実践するために、必要な基礎的な知識・技術を修得する。具体的には、以下の2つを習得する。 1. 運動療法の基本的概念を理解する。 2. 運動療法の基本的技術を理解する。	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：コースオリエンテーション、科目全体の流れを把握する。</p> <p>第2回：運動療法の基礎－関節可動域運動の実践-上肢編 実施方法、ならびに適応と禁忌、効果</p> <p>第3回：運動療法の基礎－関節可動域運動の実践-下肢編 実施方法、ならびに適応と禁忌、効果</p> <p>第4回：運動療法の基礎 - ストレッチの理論と実践 - その1 実施方法、ならびに適応と禁忌、効果</p> <p>第5回：運動療法の基礎－ストレッチの理論と実践 - その2 実施方法、適応と禁忌、効果</p> <p>第6回：運動療法の基礎－筋力強化運動の実践1 実施方法、適応と禁忌、効果</p> <p>第7回：運動療法の基礎－筋力強化運動の実践2 実施方法、適応と禁忌、効果</p> <p>第8回：運動療法の基礎－筋持久力強化運動の実践 実施方法、適応と禁忌、効果</p> <p>第9回：運動療法の基礎－協調性運動・バランス運動・運動学習の理論 実施方法、適応と禁忌、効果</p> <p>第10回：運動療法の基礎－協調性運動・バランス運動の実践-その1 実施方法、適応と禁忌、効果</p> <p>第11回：運動療法の基礎－協調性運動・バランス運動の実践-その2 実施方法、適応と禁忌、効果</p> <p>第12回：運動療法の基礎－全身持久力強化の実践 実施方法、適応と禁忌、効果</p> <p>第13回：運動療法を実施するにあたって必要な運動心理学 行動分析的アプローチの基本</p> <p>第14回：理学療法を実施するにあたって必要な運動心理学 行動分析的アプローチの実際</p> <p>第15回：運動療法の基礎－体力強化の理論と実践 実施方法、適応と禁忌、効果</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>俵 祐一</p> <p>金原一宏</p> <p>金原一宏</p> <p>金原一宏</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>ゲスト 久保裕介</p>

アクティブ ラーニング	グループワークおよび演習を予定しています
評価方法	小テスト 30%、レポート 70%
課題に対する フィード バック	小テストの添削、演習での指導、等
指定図書	細田多穂監修「運動療法学テキスト」(南江堂)
参考図書	奈良勲監修,「標準理学療法学 運動療法学 各論」(医学書院)
事前・ 事後学修	関節可動域運動、筋力増強運動、バランス運動などをキーワードに事前学習を行ってください。 運動療法による治療の実際について、症例報告などを中心に事後学習してください。
オフィス アワー	科目責任者：俵祐一（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3507 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	小児理学療法学																																
科目責任者	矢倉千昭																																
単位数他	1単位 (30時間) 理学必修 4セメスター																																
DP番号と科目領域	DP2 専門																																
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																
科目概要	子どもの正常発達とその原理、および小児疾患（脳性麻痺、重症心身障害児、筋ジストロフィー症、二分脊椎）の基礎（病態や障害像）を整理して、理学療法の評価と治療についての基礎理論と技術を教授し、小児理学療法分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解する。																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの理学療法に対する関心を高める（情意）</li> <li>2. 子どもの正常発達過程とその原理、正常発達と異常発達の相違を論述することができる（認知）</li> <li>3. 脳性麻痺、重症心身障害児、筋ジストロフィー症の病態と障害像を理解し、基本的な理学療法評価と治療技術が実施できる（技術）</li> </ol>																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：コースオリエンテーション、学修の準備</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第2回：学修の準備 ・シラバスから学修内容を理解する。 ・シラバスの各回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成する。 ・ポートフォリオ作成の準備を行う。2穴リングファイルを持参すること。 ・次回の授業でのグループワークを計画する。</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第3回：正常運動発達：出生から乳児期までの運動発達と、 その発達理論（反射性階層理論）を理解する 第1章, 2章, 3章 ・グループワーク</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第4回：正常運動発達：出生から乳児期までの運動発達と、 その発達理論（反射性階層理論）を理解する 第1章, 2章, 3章 ・グループ発表とディスカッション</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第5回：姿勢反射障害と脳性麻痺の総論 第4章, 第6章 ・グループワーク</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第6回：姿勢反射障害と脳性麻痺の総論 第4章, 第6章 ・グループ発表とディスカッション</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第7回：脳性麻痺に対する理学療法 痙直型四肢麻痺, 痙直型両麻痺, アテトーゼ型 第7章, 8章, 第10章 ・グループワーク</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第8回：脳性麻痺に対する理学療法 痙直型四肢麻痺, 痙直型両麻痺, アテトーゼ型 第7章, 8章, 第10章 ・グループ発表とディスカッション</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第9回：遺伝性疾患 筋ジストロフィー症候群 第13章 ・グループワーク</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第10回：遺伝性疾患 筋ジストロフィー症候群 第13章 ・グループ発表とディスカッション</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第11回：知的障害児 ダウン症, 広汎性発達障害, 学習障害, 多動性障害 第12章</td> <td style="text-align: right;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第12回：知的障害児 ダウン症, 広汎性発達障害, 学習障害, 多動性障害 第12章</td> <td style="text-align: right;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第13回：小児リハビリテーションの実際を学ぶ</td> <td style="text-align: right;">ゲスト 山内一之</td> </tr> <tr> <td>第14回：小児リハビリテーションの実際を学ぶ</td> <td style="text-align: right;">ゲスト 山内一之</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：コースオリエンテーション、学修の準備	矢倉千昭	第2回：学修の準備 ・シラバスから学修内容を理解する。 ・シラバスの各回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成する。 ・ポートフォリオ作成の準備を行う。2穴リングファイルを持参すること。 ・次回の授業でのグループワークを計画する。	矢倉千昭	第3回：正常運動発達：出生から乳児期までの運動発達と、 その発達理論（反射性階層理論）を理解する 第1章, 2章, 3章 ・グループワーク	矢倉千昭	第4回：正常運動発達：出生から乳児期までの運動発達と、 その発達理論（反射性階層理論）を理解する 第1章, 2章, 3章 ・グループ発表とディスカッション	矢倉千昭	第5回：姿勢反射障害と脳性麻痺の総論 第4章, 第6章 ・グループワーク	矢倉千昭	第6回：姿勢反射障害と脳性麻痺の総論 第4章, 第6章 ・グループ発表とディスカッション	矢倉千昭	第7回：脳性麻痺に対する理学療法 痙直型四肢麻痺, 痙直型両麻痺, アテトーゼ型 第7章, 8章, 第10章 ・グループワーク	矢倉千昭	第8回：脳性麻痺に対する理学療法 痙直型四肢麻痺, 痙直型両麻痺, アテトーゼ型 第7章, 8章, 第10章 ・グループ発表とディスカッション	矢倉千昭	第9回：遺伝性疾患 筋ジストロフィー症候群 第13章 ・グループワーク	矢倉千昭	第10回：遺伝性疾患 筋ジストロフィー症候群 第13章 ・グループ発表とディスカッション	矢倉千昭	第11回：知的障害児 ダウン症, 広汎性発達障害, 学習障害, 多動性障害 第12章	伊藤信寿	第12回：知的障害児 ダウン症, 広汎性発達障害, 学習障害, 多動性障害 第12章	伊藤信寿	第13回：小児リハビリテーションの実際を学ぶ	ゲスト 山内一之	第14回：小児リハビリテーションの実際を学ぶ	ゲスト 山内一之	第15回：まとめ	矢倉千昭
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第1回：コースオリエンテーション、学修の準備	矢倉千昭																																
第2回：学修の準備 ・シラバスから学修内容を理解する。 ・シラバスの各回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成する。 ・ポートフォリオ作成の準備を行う。2穴リングファイルを持参すること。 ・次回の授業でのグループワークを計画する。	矢倉千昭																																
第3回：正常運動発達：出生から乳児期までの運動発達と、 その発達理論（反射性階層理論）を理解する 第1章, 2章, 3章 ・グループワーク	矢倉千昭																																
第4回：正常運動発達：出生から乳児期までの運動発達と、 その発達理論（反射性階層理論）を理解する 第1章, 2章, 3章 ・グループ発表とディスカッション	矢倉千昭																																
第5回：姿勢反射障害と脳性麻痺の総論 第4章, 第6章 ・グループワーク	矢倉千昭																																
第6回：姿勢反射障害と脳性麻痺の総論 第4章, 第6章 ・グループ発表とディスカッション	矢倉千昭																																
第7回：脳性麻痺に対する理学療法 痙直型四肢麻痺, 痙直型両麻痺, アテトーゼ型 第7章, 8章, 第10章 ・グループワーク	矢倉千昭																																
第8回：脳性麻痺に対する理学療法 痙直型四肢麻痺, 痙直型両麻痺, アテトーゼ型 第7章, 8章, 第10章 ・グループ発表とディスカッション	矢倉千昭																																
第9回：遺伝性疾患 筋ジストロフィー症候群 第13章 ・グループワーク	矢倉千昭																																
第10回：遺伝性疾患 筋ジストロフィー症候群 第13章 ・グループ発表とディスカッション	矢倉千昭																																
第11回：知的障害児 ダウン症, 広汎性発達障害, 学習障害, 多動性障害 第12章	伊藤信寿																																
第12回：知的障害児 ダウン症, 広汎性発達障害, 学習障害, 多動性障害 第12章	伊藤信寿																																
第13回：小児リハビリテーションの実際を学ぶ	ゲスト 山内一之																																
第14回：小児リハビリテーションの実際を学ぶ	ゲスト 山内一之																																
第15回：まとめ	矢倉千昭																																

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスから学修内容を理解し、各回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成する。</li> <li>・グループワークの資料は教員が学生に配信し、学生はPCで資料を見ながら授業に参加する。</li> <li>・ポートフォリオを作成し、定期的に学修を振り返りながら目標の到達度を確認する。</li> </ul>
評価方法	定期試験 40%、小テスト 10%、ポートフォリオ 40%、出席状況 10%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の途中で補足し、終了後に総括を行う。</li> <li>・リアクションペーパーの質問を確認し、メールまたは次の授業で回答する。</li> </ul>
指定図書	小児理学療法学テキスト（南江堂）
参考図書	田原弘幸（編）理学療法学テキストⅧ「こどもの理学療法 第2版」（神陵文庫）
事前・ 事後学修	事前学修としてグループワーク準備を行い、授業で発表・質疑応答、教員が総括した内容を事後学修として授業の内容をまとめ、ファイルに整理する。
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>時間：月曜日～金曜日の3時限目（11時55分～13時15分）</p> <p>場所：3504研究室（矢倉研究室）</p> <p>上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	神経系理学療法治療学
科目責任者	吉本好延
単位数他	2単位 (60 時間) 理学必修 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	中枢神経疾患に伴う機能障害、能力障害に対する基本的な理学療法の理論と技術について学習する。中枢神経疾患の病態と障害、中枢神経疾患に伴う機能障害、能力障害を理解し、これらに対する理学療法の理論と技術を学ぶ。評価結果から統合と解釈、問題点の抽出、目標の設定、治療プログラムの立案までの思考プロセスの基礎を身につける。
到達目標	1. 脳卒中の病態と障害を理解し、基本的な理学療法を実践することができる。 2. 理学療法評価から空間概念図を用いて問題点を整理することができる。 3. 神経疾患、脊髄損傷の病態と障害を理解し、基本的な理学療法を実践することができる。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞ <span style="float: right;">＜担当教員名＞</span></p> <p>第1回：脳卒中理学療法の治療： 発表 吉本好延 課題1：「脳卒中患者の理学療法を行う上で、なぜ医学的治療を学ぶのか？」 キーワード：脳梗塞・脳出血・外科的治療・薬物療法・栄養指導</p> <p>第2回：脳卒中の急性期理学療法： 発表 吉本好延 課題2：「脳卒中患者の離床はいつから行うのか？」 キーワード：ベッドサイド・リスク管理</p> <p>第3回：脳卒中の急性期理学療法： 発表：吉本好延 課題3：「離床を促すことが難しい重症度の高い患者さんに理学療法士は何を行うべきか？」 キーワード：合併症・ストロークケアユニット</p> <p>第4回：脳卒中の回復期理学療法： 発表：吉本好延 課題4 医師から問われました「神経可塑性を促すためにはどんな理学療法を行うべきか？」 キーワード：神経可塑性・回復期リハ</p> <p>第5回：脳卒中の回復期理学療法： 発表：吉本好延 課題5：医師から問われました「課題指向型アプローチと神経生理学的アプローチは何がどう違うのか？」 課題指向型アプローチ・神経生理学的アプローチ</p> <p>第6回：脳卒中の慢性期理学療法： 発表：吉本好延 課題6：「脳卒中患者の廃用を予防するためにはどうすれば良いのか？」 廃用・身体活動・サルコペニア・フレイル</p> <p>第7回：脳卒中の慢性期理学療法： 発表：吉本好延 課題7：「脳卒中患者の転倒を予防するためにはどうすれば良いのか？」 バランス・予測・環境整備</p> <p>第8回：脳卒中の慢性期理学療法： 発表：吉本好延 課題8：「脳卒中患者の身体活動を促す前に行うべきことは何か？」 栄養・ポリファーマシー</p> <p>第9回：脳卒中の最新理学療法： ゲストスピーカー 課題9：「脳卒中患者のFESは有効か？」 部分免荷トレッドミル歩行、ボツリヌス治療、反復経頭蓋磁気刺激法、FES（体験）など</p> <p>第10回：脳卒中患者の在宅支援の実際： ゲストスピーカー 課題10：「慢性期脳卒中患者にはどのような問題が生じやすいのか？」 地域包括ケアシステム、合併症（転倒・嚥下障害・アパシーなど）、介護負担、介護保険</p> <p>第11回：パーキンソン病の理学療法治療：吉本好延 第12回：脊髄小脳変性症の理学療法治療：矢倉千昭 第13回：多発性硬化症の理学療法治療：矢倉千昭 第14回：筋萎縮性側索硬化症の理学療法治療：矢倉千昭 第15回：脊髄損傷の理学療法治療：矢倉千昭</p> <p>*1回を2コマとする</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>各授業に課題を提示しています。グループワークの手法を用いて、事前に課題に対する回答の根拠となる資料を作成してください。</li> <li>授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料となります。</li> <li>授業は学生に発表していただきます。事前に学習している前提で授業を行います。</li> <li>授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促します。</li> <li>授業の振り返りは、事後学修で行っていただきます。授業を通じて学修した内容を資料にまとめて、授業1週間後までにメールで提出していただきます。</li> </ul>
評価方法	定期試験：80% 課題提出物：20%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会の途中で教員が随時補足していく</li> <li>他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、授業後に提出し、教員はさらに確認・フィードバックを行う</li> </ul>
指定図書	『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション—エビデンスを実践につなげる』メジカルビュー社 監修 藤島一郎、他 『中枢神経障害理学療法学テキスト』南江堂 『病気がみえる vol.7 脳・神経』メディックメディア ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭・他著（南山堂）
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>各セッションの課題について事前学習を行う。</li> <li>授業では課題のフィードバックを行いますので、課題をさらに調べることで事後学修する</li> </ul>
オフィス アワー	3509 教室，毎週水曜日 16 時～18 時
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	内部障害系理学療法治療学
科目責任者	有菌 信一
単位数他	2単位(60時間) 理学必修 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	ヒトの健康状態を評価し、情報の統合と的確な判断を行なうために必要な専門知識を習得する。本科目では、内部障害系疾患(特に呼吸・循環器系・代謝系疾患、がん)の病態構造を把握しながら、理学療法プログラムの立案・効果の検証までを解説する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸器系疾患患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。</li> <li>2. 循環器系疾患患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。</li> <li>3. 代謝系疾患患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。</li> <li>4. がん患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;有菌信一・俵祐一・矢部広樹・柳田頼英</p> <p>第1回：コースオリエンテーション 内部障害系理学療法治療学総論 (有菌・俵)  一内部障害の概念、定義、種類、理学療法の基本要素</p> <p>第2回：呼吸器系理学療法治療学 (1) (有菌・俵)  一病態ならびに障害像の把握と理学療法評価の実践 (COPD)</p> <p>第3回：呼吸器系理学療法治療学 (2) (有菌・俵)  一呼吸器疾患に対する理学療法の実践 (間質性肺炎)</p> <p>第4回：がん患者の理学療法治療学と呼吸器系理学療法治療学 (有菌・俵)  一周術期における理学療法の評価と実践 (周術期)</p> <p>第5回：集中治療領域の呼吸器系理学療法治療学 (有菌・俵)  一人工呼吸器に対する理学療法の実践 (人工呼吸器)</p> <p>第6回：がん患者の理学療法治療学 (有菌・俵)  一化学療法、緩和ケアにおける理学療法の評価と実践 (Best support care)</p> <p>第7回：循環器系理学療法治療学 (有菌・俵)  一循環器疾患に対する理学療法の実践 (心筋梗塞)</p> <p>第8回：循環器系理学療法治療学 (有菌・俵)  一循環器疾患に対する理学療法の実践 (心不全)</p> <p>第9回：循環器系理学療法治療学 (有菌・俵)  一循環器疾患に対する理学療法の実践 (心臓外科手術)  一心電図の実際</p> <p>第10回：嚥性肺炎に対する理学療法治療学 (俵・有菌)</p> <p>第11回：身体所見の取り方、呼吸介助法 (俵・有菌)</p> <p>第12回：人工呼吸器 (NPPV) と酸素療法の実際 (俵・有菌)</p> <p>第13回：代謝系理学療法治療学 (1) (矢部)  一病態ならびに障害像の把握：理学療法評価の実践</p> <p>第14回：代謝系理学療法治療学 (2) (矢部)  一代謝疾患に対する理学療法の実践：運動処方理論と実際</p> <p>第15回：急性期病院における理学療法治療学 (ゲスト柳田・有菌)</p> <p>*1回を2コマとする</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1セッション2コマとして、各セッションの課題をグループワークで解決・発表する</li> <li>・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする</li> <li>・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す</li> </ul>
評価方法	学期末テスト(60%)，レポート(40%)にて評価する
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会の途中で教員が随時補足していく</li> <li>・他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う</li> </ul>
指定図書	内部障害理学療法学テキスト 細田多穂著 南江堂 呼吸・心臓リハビリテーション 居村茂幸監 羊土社
参考図書	なし
事前・ 事後学修	循環器疾患，代謝疾患，呼吸器疾患，がんなどをキーワードに事前学習を行ってください 症例報告などを中心に運動療法の実際について，事後学習してください
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3513 研究室 時間については，初回授業時に提示します．上記以外でもメール (shinichi-a@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください．講義と実習を組み合わせながら進めていきます。 ユニフォームを着用して下さい。1回は2コマです。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	運動器系理学療法治療学																																
科目責任者	根地嶋 誠																																
単位数他	2単位 (60 時間) 理学必修 5セメスター																																
DP 番号と科目領域	DP2 専門																																
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																
科目概要	代表的な運動器疾患の発生機序や病態などを理解し、それらに対する理学療法プログラムを学習する。理学療法プログラムの種類や方法、原理などを理解し説明できること、そして実際にできることを目標とする。具体的には、代表的な運動器疾患を説明できること、代表的な運動器疾患に対するプログラムの種類を挙げることができること、具体的な方法を説明し実践できること、プログラムの原理を説明できること、医療従事者としての振る舞いができることを目指す。																																
到達目標	1. 代表的な運動器疾患を概説できる 2. 代表的な運動器疾患に対する理学療法プログラムの項目を列挙できる 3. 理学療法プログラムの方法と原理を説明できる 4. 理学療法プログラムを適切な技術と態度で実施できる																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th>&lt;担当教員名&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1・2 回：コースオリエンテーション、運動器系理学療法総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法アプローチ)</td> <td>根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第 3・4 回：下肢疾患に対する理学療法 1 (大腿骨頸部骨折・術後の理学療法アプローチ)</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>第 5・6 回：下肢疾患に対する理学療法 2 (変形性股関節症・術後の理学療法アプローチ)</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>第 7・8 回：下肢疾患に対する理学療法 3 (変形性膝関節症および術後の理学療法アプローチ)</td> <td>根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第 9・10 回：下肢疾患に対する理学療法 4 (膝関節の靭帯損傷・術後の理学療法アプローチ)</td> <td>根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第 11・12 回：頸部体幹疾患に対する理学療法 1 (腰痛の理学療法アプローチ)</td> <td>根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第 13・14 回：頸部体幹疾患に対する理学療法 2 (腰椎椎間板ヘルニアの理学療法アプローチ)</td> <td>根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第 15・16 回：総合演習 1 (症例検討：評価)</td> <td>根地嶋, 田中</td> </tr> <tr> <td>第 17・18 回：総合演習 2 (症例検討：介入)</td> <td>根地嶋, 田中</td> </tr> <tr> <td>第 19・20 回：中間まとめ</td> <td>根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第 21・22 回：上肢疾患に対する理学療法 1 (腱損傷, 肩関節周囲炎の理学療法アプローチ)</td> <td>根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第 23・24 回：上肢疾患に対する理学療法 2 (腱鞘炎, 末梢神経損傷の理学療法アプローチ)</td> <td>根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第 25・26 回：関節リウマチに対する理学療法 (関節リウマチの理学療法アプローチ)</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>第 27・28 回：ロコモティブシンドロームの理解と予防 (高齢者に多い整形外科疾患への予防的理学療法)</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>第 29・30 回：スポーツ外傷に対する理学療法 (スポーツ外傷総論)</td> <td>根地嶋</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1・2 回：コースオリエンテーション、運動器系理学療法総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法アプローチ)	根地嶋	第 3・4 回：下肢疾患に対する理学療法 1 (大腿骨頸部骨折・術後の理学療法アプローチ)	田中	第 5・6 回：下肢疾患に対する理学療法 2 (変形性股関節症・術後の理学療法アプローチ)	田中	第 7・8 回：下肢疾患に対する理学療法 3 (変形性膝関節症および術後の理学療法アプローチ)	根地嶋	第 9・10 回：下肢疾患に対する理学療法 4 (膝関節の靭帯損傷・術後の理学療法アプローチ)	根地嶋	第 11・12 回：頸部体幹疾患に対する理学療法 1 (腰痛の理学療法アプローチ)	根地嶋	第 13・14 回：頸部体幹疾患に対する理学療法 2 (腰椎椎間板ヘルニアの理学療法アプローチ)	根地嶋	第 15・16 回：総合演習 1 (症例検討：評価)	根地嶋, 田中	第 17・18 回：総合演習 2 (症例検討：介入)	根地嶋, 田中	第 19・20 回：中間まとめ	根地嶋	第 21・22 回：上肢疾患に対する理学療法 1 (腱損傷, 肩関節周囲炎の理学療法アプローチ)	根地嶋	第 23・24 回：上肢疾患に対する理学療法 2 (腱鞘炎, 末梢神経損傷の理学療法アプローチ)	根地嶋	第 25・26 回：関節リウマチに対する理学療法 (関節リウマチの理学療法アプローチ)	田中	第 27・28 回：ロコモティブシンドロームの理解と予防 (高齢者に多い整形外科疾患への予防的理学療法)	田中	第 29・30 回：スポーツ外傷に対する理学療法 (スポーツ外傷総論)	根地嶋
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第 1・2 回：コースオリエンテーション、運動器系理学療法総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第 3・4 回：下肢疾患に対する理学療法 1 (大腿骨頸部骨折・術後の理学療法アプローチ)	田中																																
第 5・6 回：下肢疾患に対する理学療法 2 (変形性股関節症・術後の理学療法アプローチ)	田中																																
第 7・8 回：下肢疾患に対する理学療法 3 (変形性膝関節症および術後の理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第 9・10 回：下肢疾患に対する理学療法 4 (膝関節の靭帯損傷・術後の理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第 11・12 回：頸部体幹疾患に対する理学療法 1 (腰痛の理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第 13・14 回：頸部体幹疾患に対する理学療法 2 (腰椎椎間板ヘルニアの理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第 15・16 回：総合演習 1 (症例検討：評価)	根地嶋, 田中																																
第 17・18 回：総合演習 2 (症例検討：介入)	根地嶋, 田中																																
第 19・20 回：中間まとめ	根地嶋																																
第 21・22 回：上肢疾患に対する理学療法 1 (腱損傷, 肩関節周囲炎の理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第 23・24 回：上肢疾患に対する理学療法 2 (腱鞘炎, 末梢神経損傷の理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第 25・26 回：関節リウマチに対する理学療法 (関節リウマチの理学療法アプローチ)	田中																																
第 27・28 回：ロコモティブシンドロームの理解と予防 (高齢者に多い整形外科疾患への予防的理学療法)	田中																																
第 29・30 回：スポーツ外傷に対する理学療法 (スポーツ外傷総論)	根地嶋																																

アクティブ ラーニング	グループ学修
評価方法	レポート 15%, 小テスト 15%, 総合演習 20%, 定期試験 50%
課題に対する フィード バック	小テストの解説, リアクションペーパーのコメント
指定図書	整形外科リハビリテーション (羊土社)
参考図書	標準整形外科学 (医学書院)
事前・ 事後学修	各回の始めに、整形外科疾患の基礎知識に関する小テストを実施する。代表的な整形外科疾患について学んでおくこと。
オフィス アワー	科目責任者：根地嶋誠 (リハビリテーション学部理学療法学科) 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	物理療法学の理論
科目責任者	金原一宏
単位数他	2単位 (30 時間) 理学必修 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	物理療法の定義、原理、種類、歴史、実施方法について調べ、収集する。
到達目標	各種の物理的刺激が生体に及ぼす影響を、科学的根拠に基づいた説明ができるようになる。さらに、炎症や痛み等に対する物理療法が、治療技術として対象者に適応される際の目的、効果、副作用、禁忌、注意事項等を把握し、適切に物理療法手技の選択を行えることを目標とする。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;金原一宏 矢部広樹</p> <p>第 1 回：コースオリエンテーション 物理療法学総論 金原一宏</p> <p>第 2 回：温熱物理刺激（伝導熱）の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 3 回：ホットパックとパラフィンの実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 4 回：炎症・痛みに対する物理療法における生体反応について調べ、知識を収集する 金原一宏 矢部広樹</p> <p>第 5 回：拘縮・痙性に対する物理療法における生体反応について調べ、知識を収集する 金原一宏 矢部広樹</p> <p>第 6 回：温熱物理刺激（エネルギー変換熱）の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 7 回：極超短波と超音波の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 8 回：寒冷物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 9 回：寒冷療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 10 回：電気物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 11 回：経皮的電気刺激療法、神経筋電気刺激療法、クロナキシーの実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 12 回：電磁波と光線物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 13 回：赤外線、紫外線、レーザー療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 14 回：水治の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>第 15 回：牽引療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏</p> <p>受講者へのメッセージ：物理療法学は、実際の患者さんに適応する治療技術の講義演習であるので、欠席の無いように注意すること。</p>

アクティブ ラーニング	各講義にてテーマを伝え、グループワークの課題を作成する。
評価方法	定期試験 60%、レポート 30%、課題提出物 10%により総合的に評価する
課題に対する フィード バック	講義内に発表の解説および補足をする。
指定図書	物理療法学・実習 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 責任編集：日高正巳（兵庫医療大学）／玉木 彰（兵庫医療大学） 総編集：石川 朗（神戸大学） 中山書店
参考図書	なし
事前・ 事後学修	炎症・痛み・拘縮・痙性について、知識が必要であるため確認しておくこと。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	物理療法学の実践
科目責任者	金原一宏
単位数他	1単位 (30時間) 理学必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	物理療法学の理論で学んだ講義内容を学内実習にて体験する。また、各種物理的刺激が生体へ及ぼす影響について実際のデータを収集し、それぞれの科学的根拠について考察し発表する。
到達目標	上記の作業を通して、障害像にあった物理療法を選択し、さらに実践できるよう技術習得することを目的とする。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;          &lt;担当教員名&gt; 金原一宏 根地嶋誠 田中真希 矢部広樹 安孫子幸子</p> <p>第1回：金原          コースオリエンテーション 実習前オリエンテーション          間欠的空気圧迫法・持続的他動運動の物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する。さらに間欠的空気圧迫法・持続的他動運動の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する</p> <p>第2回：金原、根地嶋          マッサージ療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する          マッサージ療法の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する          バイオフィードバック療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する</p> <p>第3回：金原、根地嶋          実習1：温熱・寒冷療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする          実習2：電気療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする</p> <p>第4回：金原          実習報告発表会・物理療法実技撮影（実習1・2）</p> <p>第5回：金原、田中          実習3：牽引療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする          実習4：マッサージを施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする</p> <p>第6回：金原          実習報告発表会・物理療法実技撮影（実習3・4）</p> <p>第7回：金原、根地嶋          実習5：電磁波・光線療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする          実習6：水治療法（全身浴・部分浴）を施行し、生体への影響を確認する共に実施方法の習得をする</p> <p>第8回：金原、根地嶋          実習報告発表会・物理療法実技撮影（実習5・6）</p> <p>第9、10回：ゲスト 安孫子、金原          世界の物理療法機器の最前線について（特別講義）</p> <p>第11、12回：金原、根地嶋、田中、矢部          実技総合演習</p> <p>第13、14、15回：金原、根地嶋、田中、矢部          知識総合演習</p> <p>受講者へのメッセージ：物理療法学は、実際の患者さんに適応する治療技術の講義演習であるので、欠席の無いように注意すること。</p>

アクティブ ラーニング	各講義にてテーマを伝え、グループワークの課題を作成する。 実技総合演習では、ルーブリックを活用し、実技ビデオをグループで作成する。 学生同士で実技ビデオを参考に自身の実技をパソコンで分析し、実技スキル向上を図る。
評価方法	実技試験・口頭試問 (50%)、小テスト (30%)、課題提出：レポート・(20%) により総合的に評価する。 実技試験は、ルーブリックを活用し実施する。
課題に対する フィード バック	講義内に発表の解説および補足をする。
指定図書	物理療法学・実習 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 責任編集：日高正巳（兵庫医療大学）／玉木 彰（兵庫医療大学） 総編集：石川 朗（神戸大学） 中山書店
参考図書	なし
事前・ 事後学修	実習前に、各治療法を復習しておくこと。 撮影した実技ビデオを確認して実技総合演習に臨むこと。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	日常生活活動学の理論
科目責任者	矢部 広樹
単位数他	2単位 (30 時間) 理学必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	日常生活活動(ADL)の概念を国際生活機能分類(ICF)や生活の質(QOL)との関連, 評価方法, 支援機器など総合的に学ぶ。また, 寝返りや起き上がりなどの基本動作, 移乗・移動動作, 更衣・排泄などの身の回りの動作について分析し, 指導および介助方法の基礎を学び, 具体的な症例で目標となる日常生活活動とその援助方法の知識と技術を習得する。
到達目標	1. 日常生活活動の概念, 評価方法, 支援機器を説明できる 2. 日常生活活動の各動作を理解し, 説明できる 3. 症例に応じた日常生活活動を分析し, 指導および介助方法を説明できる
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第 1 回: コースオリエンテーション 日常生活活動総論 1 矢部広樹 日常生活活動の概念, 理学療法における日常生活活動の評価介入の意義を学習する</p> <p>第 2 回: 日常生活活動総論 2 矢部広樹 国際生活機能分類(ICF)を学習する</p> <p>第 3 回: 日常生活活動評価の方法 矢部広樹 Barthel Index, FIM などの評価尺度と判定基準について学習する</p> <p>第 4 回: 日常生活活動評価の方法 2 矢部広樹 老健式活動能力指標、手段的日常生活活動の評価尺度と判定基準について学習する</p> <p>第 5 回: 起居移動動作 (臥位～座位) 矢部広樹 寝返り動作, 起き上がり動作について理解し, 説明することができる</p> <p>第 6 回: 起居移動動作 (座位～立位、移乗動作) 矢部広樹 立ち上がり動作, 車椅子への移乗動作を理解し, 説明することができる</p> <p>第 7 回: 疾患を想定した日常生活活動の介助法 1 矢部広樹 大腿骨頸部骨折患者に対する起居移乗動作の介助方法</p> <p>第 8 回: 疾患を想定した日常生活活動の介助法 2 矢部広樹 脳卒中片麻痺患者に対する起居移乗動作の介助方法</p> <p>第 9 回: 疾患を想定した日常生活活動の介助法 3 矢部広樹 臨床場面を想定した起居移乗動作の介助方法</p> <p>第 10 回: 歩行補助具を用いた日常生活の介助方法 矢部広樹 杖・歩行器の使用について説明することができる</p> <p>第 11 回: 神経系疾患の日常生活活動 吉本好延 神経系疾患の日常生活活動の特徴を理解し, 説明することができる</p> <p>第 12 回: 運動器系疾患の日常生活活動 吉本好延 運動器系疾患の日常生活活動の特徴を理解し, 説明することができる</p> <p>第 13 回: 脊髄損傷の日常生活活動 吉本好延 脊髄損傷の日常生活活動の特徴を理解し, 説明することができる</p> <p>第 14 回、第 15 回: 客観的能力開発演習(OSCE) 矢部広樹・吉本好延 授業は講義と演習形式のため, 動きやすい服装で出席してください。</p>

アクティブ ラーニング	授業は講義に加えて、実技を伴うグループワークを実施します。グループワークでは学生の主体性・能動性・創造性を要求する課題を設定します。グループワークは、PC・Moodle を用いて検討・発表します。
評価方法	OSCE40%、定期試験 40% レポート 20%
課題に対する フィード バック	各回の授業、および事前事後学習は、Moodle を用いて個別にフィードバックする グループ発表と OSCE のフィードバックは、授業内に口頭で行う。
指定図書	日常生活活動学テキスト（南江堂）
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回の授業と関連する運動学・解剖学・生理学の知識を事前学習してください。事前学習に必要な資料は、Moodle で提示しますので、各回の事前学習に取り入れてください。</li> <li>・各回の授業では、事後学習課題を設けます</li> </ul>
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部  研究室：3512 研究室  時間については、初回授業時に提示します。  上記以外でもメール (hiroki-y@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	日常生活活動学の実践																																
科目責任者	矢部 広樹																																
単位数他	1単位 (30時間) 理学必修 5セメスター																																
DP 番号と科目領域	DP4 専門																																
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。																																
科目概要	疾患ごとの機能障害、活動制限の特徴を理解し、具体的な日常生活活動の評価方法と介入方法を学修する。特に本科目では臨床場面での患者評価と指導を想定し、グループワークと演習を通して障害に対する日常生活活動の分析、指導および介助法について実践する。																																
到達目標	1. 日常生活活動の評価、指導方法を習得する。 2. 疾患および障害に対する日常生活活動の観察と動作分析に基づいた介助、指導法を習得する。 3. 日常生活活動に関する介助、指導を、適切な接遇の元で実施できる。																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th>&lt;担当教員名&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：コースオリエンテーション -本科目の全体の流れと、本科目で扱うアクティブ・ラーニングについて理解する</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第2回：患者の障害像とADL障害の理解 -患者の障害像とADL障害発生の関連を学修する</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第3回：患者の障害像とADL障害の評価1 -患者の障害像とADL障害の評価方法を学修する</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第4回：患者の障害像とADL障害の評価2 -実際の生活場面を想定したADL障害の評価方法を学修する</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第5回：ADL障害への介入方法1 -実際の生活場面を想定したADL障害の介入方法を学修する</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第13回：グループ検討 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第14回：グループ発表 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第15回：グループ発表 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第6回：シーティング -車椅子の採型、症例に合わせたシーティングを理解する</td> <td>矢部広樹・俵祐一</td> </tr> <tr> <td>第7回：車椅子のメンテナンス -施設利用者の車椅子を調整する（学外実習）</td> <td>矢部広樹・俵祐一</td> </tr> <tr> <td>第8回：運動器障害に対するADL指導 -関節リウマチに対するADL指導を学ぶ</td> <td>俵祐一</td> </tr> <tr> <td>第9回：運動器障害に対するADL指導 -大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、切断に対するADL指導を修得する</td> <td>俵祐一</td> </tr> <tr> <td>第10回：中枢神経障害に対するADL指導 -脊髄損傷に対するADL指導を修得する</td> <td>吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第11回：中枢神経障害に対するADL指導 -脳卒中片麻痺やパーキンソン病に対するADL指導を修得する</td> <td>吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第12回：動作介助・指導のスキルアップ -杖歩行の介助法と動作獲得の指導を修得する</td> <td>吉本好延</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：コースオリエンテーション -本科目の全体の流れと、本科目で扱うアクティブ・ラーニングについて理解する	矢部広樹	第2回：患者の障害像とADL障害の理解 -患者の障害像とADL障害発生の関連を学修する	矢部広樹	第3回：患者の障害像とADL障害の評価1 -患者の障害像とADL障害の評価方法を学修する	矢部広樹	第4回：患者の障害像とADL障害の評価2 -実際の生活場面を想定したADL障害の評価方法を学修する	矢部広樹	第5回：ADL障害への介入方法1 -実際の生活場面を想定したADL障害の介入方法を学修する	矢部広樹	第13回：グループ検討 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する	矢部広樹	第14回：グループ発表 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する	矢部広樹	第15回：グループ発表 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する	矢部広樹	第6回：シーティング -車椅子の採型、症例に合わせたシーティングを理解する	矢部広樹・俵祐一	第7回：車椅子のメンテナンス -施設利用者の車椅子を調整する（学外実習）	矢部広樹・俵祐一	第8回：運動器障害に対するADL指導 -関節リウマチに対するADL指導を学ぶ	俵祐一	第9回：運動器障害に対するADL指導 -大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、切断に対するADL指導を修得する	俵祐一	第10回：中枢神経障害に対するADL指導 -脊髄損傷に対するADL指導を修得する	吉本好延	第11回：中枢神経障害に対するADL指導 -脳卒中片麻痺やパーキンソン病に対するADL指導を修得する	吉本好延	第12回：動作介助・指導のスキルアップ -杖歩行の介助法と動作獲得の指導を修得する	吉本好延
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第1回：コースオリエンテーション -本科目の全体の流れと、本科目で扱うアクティブ・ラーニングについて理解する	矢部広樹																																
第2回：患者の障害像とADL障害の理解 -患者の障害像とADL障害発生の関連を学修する	矢部広樹																																
第3回：患者の障害像とADL障害の評価1 -患者の障害像とADL障害の評価方法を学修する	矢部広樹																																
第4回：患者の障害像とADL障害の評価2 -実際の生活場面を想定したADL障害の評価方法を学修する	矢部広樹																																
第5回：ADL障害への介入方法1 -実際の生活場面を想定したADL障害の介入方法を学修する	矢部広樹																																
第13回：グループ検討 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する	矢部広樹																																
第14回：グループ発表 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する	矢部広樹																																
第15回：グループ発表 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する	矢部広樹																																
第6回：シーティング -車椅子の採型、症例に合わせたシーティングを理解する	矢部広樹・俵祐一																																
第7回：車椅子のメンテナンス -施設利用者の車椅子を調整する（学外実習）	矢部広樹・俵祐一																																
第8回：運動器障害に対するADL指導 -関節リウマチに対するADL指導を学ぶ	俵祐一																																
第9回：運動器障害に対するADL指導 -大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、切断に対するADL指導を修得する	俵祐一																																
第10回：中枢神経障害に対するADL指導 -脊髄損傷に対するADL指導を修得する	吉本好延																																
第11回：中枢神経障害に対するADL指導 -脳卒中片麻痺やパーキンソン病に対するADL指導を修得する	吉本好延																																
第12回：動作介助・指導のスキルアップ -杖歩行の介助法と動作獲得の指導を修得する	吉本好延																																

アクティブ ラーニング	授業は講義に加えて、実技を伴うグループワークを実施します。グループワークでは学生の主体性・能動性・創造性を要求する課題を設定します。グループワークは、PC・Moodle を用いて検討・発表します。
評価方法	グループ発表 50%、レポート 50% ルーブリックを用いて評価します
課題に対する フィード バック	各回の授業、および事前事後学習は、Moodle を用いて個別にフィードバックします。 グループ発表と OSCE のフィードバックは、授業内に口頭で行います。
指定図書	『日常生活活動学テキスト』南江堂
参考図書	なし
事前・ 事後学修	各回の授業と関連する運動学・解剖学・生理学の知識を事前学習してください。事前学習に必要な資料は、Moodle で提示しますので、各回の事前学習に取り入れてください。 各回の授業では、事後学習課題を設けます
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (hiroki-y@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	機能代償機器学の理論	
科目責任者	矢倉千昭	
単位数他	2単位 (30 時間) 理学必修 5 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	義肢装具を含めた環境や機器などの代償手段により、障害前とは違った新たな代償機能を創造していく学問である。障害を受けた多様な身体機能について、機能代償機器（義肢・装具）によりどのように代償していくのかを、その構造・製作過程・使用方法を学びつつ、理学療法士の役割として求められる適合判定を中心に講義を展開していく。	
到達目標	1. 主に身体障害の機能代償として使用する機能代償機器の種類、構造をバイオメカニズムの視点から理解し、説明できる。 2. 義肢や装具をはじめとする機能代償機器の適合判定（チェックアウト）について理解・説明できる。	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：コースオリエンテーション，装具総論 第1章</p> <p>第2回：装具理解のための生態力学，装具歩行の運動学 第2章</p> <p>第3回：①短下肢装具の種類，②歩行における働き 第3章</p> <p>第4回：①長下肢装具の種類，②歩行における働き 第4章</p> <p>第5回：①靴型装具の種類，②靴の補正 第5章</p> <p>第6回：下肢装具のチェックアウト 第6章</p> <p>①短下肢装具のチェックアウト，②長下肢装具のチェックアウト</p> <p>第7回：①上肢装具の種類と適応，②チェックアウト 第7，8章</p> <p>第8回：①頸部体幹装具の種類と特徴，②チェックアウト第9，10章</p> <p>第9回：装具のまとめ</p> <p>第10回：義肢総論，切断 第16-18章</p> <p>第11回：切断者の評価 第19，20章</p> <p>第12回：断端管理 第21章</p> <p>第13回：義足の製作過程</p> <p>第14回：義足の体験</p> <p>第15回：義足のまとめ</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>ゲスト片桐・高橋</p> <p>ゲスト片桐・高橋</p> <p>高橋大生</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスから学修内容を理解し、毎回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成する。</li> <li>・グループワークの資料は教員が学生に配信し、学生はPCで資料を見ながら授業に参加する。</li> </ul>
評価方法	定期試験 50%, 小テスト 10%, レポート 30%, 出席状況 10%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の途中で補足し、終了後に総括を行う。</li> <li>・リアクションペーパーの質問を確認し、メールまたは次の授業で回答する。</li> </ul>
指定図書	細田多穂監修；「義肢装具学テキスト改訂第3版」(南江堂) 日本リハ医学会・日本整形外科学会監修；「義肢装具のチェックポイント」(医学書院)
参考図書	高田治実 監修；「義肢・装具学」(羊土社) 川村次郎 編集；「義肢装具学」(医学書院) 清水順市, 青木主税 監修；「リハビリテーション義肢装具学」(メジカルビュー社)
事前・ 事後学修	事前学修としてグループワーク準備を行い、授業で発表・質疑応答、教員が総括した内容を事後学修として授業の内容をまとめ、ファイルに整理する。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日～金曜日の3時限目(11時55分～13時15分) 場所：3504研究室(矢倉研究室) 上記以外でもメール(chiaki-y@seirei.ac.jp)で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	機能代償機器学の実践	
科目責任者	矢倉千昭	
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 6 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP4 専門	
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。	
科目概要	機能代償機器の使用目的や種類をふまえ、適応となる疾患の障害構造を的確に把握し、チェックアウト・アライメントチェック、作用メカニズムなどを学ぶ。演習や実習を通して考察し、実践につながるような講義をすすめる。	
到達目標	1. 義肢・装具の適応となる主要な疾患ごとに、機能代償機器の使用法を理解し、実際に扱える。 2. 義肢・装具の適応となる主要な疾患ごとに、適合判定（チェックアウト）を行うことができるようになる。	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：コースオリエンテーション</p> <p>第2回：整形外科疾患に対する装具①</p> <p>第3回：整形外科疾患に対する装具②</p> <p>第4回：スポーツ外傷に対する装具①</p> <p>第5回：スポーツ外傷に対する装具②</p> <p>第6回：脳卒中片麻痺に対する装具①</p> <p>第7回：脳卒中片麻痺に対する装具②</p> <p>第8回：関節リウマチに対する装具・自助具①</p> <p>第9回：関節リウマチに対する装具・自助具②</p> <p>第10回：大腿義足のチェックアウトのポイント (各アライメントの調整、異常歩行)</p> <p>第11回：大腿義足チェックアウト：グループワークと発表</p> <p>第12回：下腿義足のチェックアウトのポイント (各アライメントの調整、異常歩行)</p> <p>第13回：下腿義足チェックアウト：グループワークと発表</p> <p>第14回：下肢装具装着体験実習</p> <p>第15回：模擬義足装着体験実習</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>高橋大生</p> <p>ゲスト豊田 輝</p> <p>ゲスト豊田 輝</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスから学修内容を理解し、各回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成する。</li> <li>・グループワークの資料は教員が学生に配信し、学生はPCで資料を見ながら授業に参加する。</li> </ul>
評価方法	定期試験 50%, 小テスト 10%, グループ発表 20%, レポート 10%, 出席状況 10%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の途中で補足し、終了後に総括を行う。</li> <li>・リアクションペーパーの質問を確認し、メールまたは次の授業で回答する。</li> </ul>
指定図書	細田多穂監修；「義肢装具学テキスト改訂第3版」(南江堂) 日本リハ医学会・日本整形外科学会監修；「義肢装具のチェックポイント」(医学書院)
参考図書	高田治実 監修；「義肢・装具学」(羊土社) 川村次郎 編集；「義肢装具学」(医学書院) 清水順市, 青木主税 監修；「リハビリテーション義肢装具学」(メジカルビュー社)
事前・ 事後学修	事前学修としてグループワーク準備を行い、授業で発表・質疑応答、教員が総括した内容を事後学修として授業の内容をまとめ、ファイルに整理する。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日～金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504 研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床理学療法見学実習
科目責任者	金原一宏
単位数他	1単位(45時間) 理学必修 1セメスター
DP番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	本科目では、臨床現場の見学を通して、病院、施設における理学療法士の役割について学ぶ。また、見学から社会人、医療従事者としての態度、マナーを学び、疾病や対象の症状を理解し、多職種連携を体験する。
到達目標	見学を通して、病院、施設における理学療法士の役割を理解する。また、社会人、医療従事者としての態度、マナーを学び、疾病を罹患する対象の症状を理解して、今後の講義へ意欲を高める。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 金原一宏、俵祐一、田中真希、高橋大生(すべての内容を全員で担当する)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習は見学を重視し、複数の学生に対してスーパーバイザーから説明を受ける</li> <li>・見学実習期間は1週間で、春セメ8月下旬に実施する</li> <li>・各施設と治療現場を見学し、説明を受ける</li> <li>・この実習では、1週間に2施設を見学する</li> </ul> <p>実習配置については、後日、連絡をする</p> <p>実習スケジュール(予定:各実習施設担当者との調整により決定する)</p> <p>実習前オリエンテーション(定期試験終了後)</p> <p>実習1日目午後:病院施設を見学、2日目午後:治療の見学をする 3日目午後:福祉施設を見学、4日目午後:治療の見学をする 5日目午前:本実習のまとめ、5日目午後:報告会</p>

アクティブ ラーニング	実習前オリエンテーションの中で、課題を伝え、学生間で課題解決を図る
評価方法	実習状況 50%、レポートの作成・提出 30%、 報告会 20%
課題に対する フィード バック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。 各担当教員より実習に進行や学修方法、目標設定に関する確認とフィードバックを行う
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	実習前オリエンテーションの中で、課題を伝えます。課題について、グループで話し合ってください。欠席することの無いように体調管理をしてください。また、臨床の現場では、迅速に行動し、時間厳守を徹底してください。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。



アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスから学修内容を理解し、各回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成する。</li> <li>・グループワークの資料は教員が学生に配信し、学生はPCで資料を見ながら授業に参加する。</li> <li>・ポートフォリオを作成し、定期的に学修を振り返りながら目標の到達度を確認する。</li> </ul>
評価方法	定期試験 40%、小テスト 10%、ポートフォリオ 40%、出席状況 10%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の途中で補足し、終了後に総括を行う。</li> <li>・リアクションペーパーの質問を確認し、メールまたは次の授業で回答する。</li> </ul>
指定図書	細田多穂（監）「地域リハビリテーション学テキスト」（南江堂） 改訂第3版
参考図書	重森健太（編）「地域理学療法学」（羊土社）
事前・ 事後学修	事前学修としてグループワーク準備を行い、授業で発表・質疑応答、教員が総括した内容を事後学修として授業の内容をまとめ、ファイルに整理する。
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>時間：月曜日～金曜日の3時限目（11時55分～13時15分）</p> <p>場所：3504 研究室（矢倉研究室）</p> <p>上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	地域理学療法学の実践
科目責任者	田中真希
単位数他	1単位(30時間) 理学必修 6 Semester
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	地域で生活する理学療法の対象者(障害者・児, 高齢者, 若年者)の自立支援ための生活環境整備や社会参加, 介護予防, 傷害予防について, 障害者総合支援法や介護保険制度など多角的な視点から学修する。症例検討や事例検討を行いながら, 人的・物的環境整備や医療・介護の連携(地域連携・地域包括ケアシステム)についての理解を深める。また, 超高齢化社会の課題である地域の介護予防事業についても, 施設の課題解決に主体的に関与し, 実践的な内容を実施または提案することを目的とした授業である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活環境整備の意義と実践する上で必要な知識・理論を理解し, 対象者における住環境整備の具体的な方法を理解する</li> <li>2. 症例検討や事例検討を行いながら, 人的・物的環境整備や医療・介護の連携についての実践例から具体的な方法を理解する</li> <li>3. 地域の施設の課題に対し, 主体的に行動し, 実践的な調査から解決策を立案・実施または提案できる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員&gt;</p> <p>第1回: オリエンテーション 田中真希・吉本好延・根地嶋誠  地域貢献活動および活動施設の紹介・活動施設配置  グループワークの実施方法の説明と住環境整備の実践課題設定  課題抽出と解決策立案と提案の方法(プレゼンテーション)・計画書/報告書の書き方</p> <p>第2回: 地域における理学療法士の役割と実際-1 田中・矢倉・吉本・根地嶋・矢部・高橋  介護予防事業利用者や部活動参加者の状況把握・データ分析  課題抽出など・課題解決策の立案など活動計画の立案</p> <p>第3回: 地域における理学療法士の役割と実際-2 田中・矢倉・吉本・根地嶋・矢部・高橋  活動計画書の作成および計画発表会(プレゼンテーション)</p> <p>第4・5回: 要介護者の住環境整備-1・2 田中真希・高橋大生  介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) 入所者の生活把握と課題抽出  介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) 入所者の課題解決策の立案</p> <p>第6・7回: 地域における活動実践-1・2 田中・矢倉・吉本・根地嶋・矢部・高橋  各施設での活動実践</p> <p>第8・9回: 要介護者の住環境整備-3・4 田中真希・高橋大生  介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) 入所者の課題解決策の提案  介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) 入所者の課題解決策の効果判定と修正</p> <p>第10回: 地域における活動実践-3 田中・矢倉・吉本・根地嶋・矢部・高橋  各施設での活動実践</p> <p>第11回: 地域における活動実践-4 田中・矢倉・吉本・根地嶋・矢部・高橋  各施設での活動実践</p> <p>第12・13回: 地域における活動実践-5・6 田中・矢倉・吉本・根地嶋・矢部・高橋  各配置施設での活動</p> <p>第14回: 地域における理学療法士の役割と実際-3 田中・矢倉・吉本・根地嶋・矢部・高橋  活動結果のまとめ・データ分析・修正課題の抽出・解決策の立案・報告書作成など</p> <p>第15回: 地域における理学療法士の役割と実際-4 田中・矢倉・吉本・根地嶋・矢部・高橋  活動報告会・総括</p> <p>各回で担当グループを決め, 学内と地域の介護老人福祉施設や老人福祉センターなど地域の施設(学外)にて授業を行う。  フィールドワークを実施するため, 動きやすい服装(ポロシャツなど)で出席してください。</p>

アクティブ ラーニング	地域理学療法学の理論で学んだことを活かし、主体的に学ぶ。 住環境整備：グループワークで検討する症例(事例)を検索・収集・見学し、課題を抽出する 介護予防事業：授業内で立案・検討した内容(インタビュー・体力測定・運動プログラムなど)を対象者(施設利用者)や施設職員に提案(できれば実施)する、実践形態とする。 具体的には、PCを用いて検索・資料作成、プレゼンテーション、動画プログラムの作成、などを実践する。
評価方法	活動計画書 30%、活動報告書 30%、プレゼンテーション 40% 計 100% ルーブリックを用いて評価し、その評価基準や項目は授業中に提示する。
課題に対する フィード バック	立案した内容を学生および担当教員間で検討し、フィードバックし合う。 対象者(施設利用者)や施設職員に実施または提案する際に、教員が監督者として立会い、終了後にフィードバックする。
指定図書	重森健太編集、「PT・OT ビジュアルテキスト地域理学療法学 第1版」 羊土社
参考図書	参考図書や文献は授業内で紹介する。
事前・ 事後学修	原則 40 分を目安に学修する。 事前学修として、各自で文献検索を行い、症例検討や事例検討を行いながら、地域施設などで課題となり得ることをまとめ、活動計画書を作成する。また地域施設の課題と解決策を説明できるようにPCを用いてプレゼンテーションの資料作成や練習をする。 事後学修として、各自の活動内容およびフィードバックを受けた内容はPCを用いて活動報告書にまとめて提出する。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (maki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床理学療法検査測定実習
科目責任者	俵 祐一
単位数他	1単位(45時間) 理学必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	本科目では、理学療法診断技術学、理学療法演習 I にて学んだ理学療法評価の基本技術を、実際に病院施設において、実際の対象者に対し実践する。つまり、臨床現場において検査測定を体験することで、学内授業との統合を図り、臨床能力を向上させる。
到達目標	理学療法の対象に、基本的な検査測定 (ROMT、MMT、感覚検査、深部腱反射検査、病的反射など) を、指導監視のもと実施できる。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 俵 祐一、矢倉千昭、有藪信一、吉本好延、根地嶋誠、金原一宏、田中真希、矢部広樹、高橋大生 (すべての内容を全員で担当する)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 以下の内容をふまえ実習を実施する。</p> <p>情意 (態度)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 礼儀正しい挨拶をする</li> <li>2) 丁寧な言葉遣い、適切な敬語を使う</li> <li>3) 対象者に合わせた目線、姿勢をとる</li> <li>4) 対象者へ自ら話しかけ会話をする</li> </ol> <p>認知 (知識)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実施内容の説明と同意の方法を理解する</li> <li>2) 検査測定のアリエンテーションを理解する</li> <li>3) 検査測定の方法を理解する</li> </ol> <p>運動技能 (技術)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実施内容を説明し同意を得る</li> <li>2) 検査測定のアリエンテーションを行う</li> <li>3) 検査測定を正確に実施し、信頼性の向上につとめる</li> </ol>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態</li> <li>・2:1実習による学生間で課題解決を図る</li> </ul>
評価方法	課題提出物（デイリーノート、実施記録、レポート）50%、口頭試問 50%
課題に対する フィード バック	課題提出物と、口頭試問のフィードバックは、全て口頭試問後に個別に実施します。
指定図書	臨床実習の手引き
参考図書	なし
事前・ 事後学修	代表的な疾患および実習施設にて担当する可能性がある疾患の理学療法評価を整理しておくこと。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3507 研究室 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床理学療法生活支援実習
科目責任者	矢部広樹
単位数他	1 単位 (45 時間) 理学必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	臨床場面において理学療法の対象者に行う起居移乗動作(寝返り, 起き上がり, 立ち座りおよび移乗動作)の介助技術を実習指導者の指導監視のもと, 模倣することである. 動作分析学, 日常生活活動学, 基礎理学療法学, 神経系理学療法学, 運動器系理学療法学, 内部障害系理学療法学などで学修した内容と臨床現場で学んだ内容との統合を図る.
到達目標	理学療法の対象者に対して, 起居移乗動作(寝返り, 起き上がり, 立ち座りおよび移乗動作)の介助を, 実習指導者の指導監視のもと模倣できる.
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 矢部広樹, 矢倉千昭, 有藺信一, 吉本好延, 根地嶋誠, 金原一宏, 俵祐一, 田中真希, 高橋大生 (すべての内容を全員で担当する)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>①情報収集および起居移乗動作の介助技術の習得 必要となる情報収集と適切な起居移乗動作を選択できる. また, 起居移乗動作の介助を実施するにあたって, その方法の利点や欠点を理解し, 介助技術の向上に努める.</p> <p>②リスク管理 起居移乗動作の介助を実施するにあたって, 対象者のリスクを把握し, 適切なリスク管理を行うことができる. また, 動作を観察・分析し, 介助が必要となる要因を挙げられる.</p> <p>③対象者への説明 実施する起居移乗動作に関して, 対象者へ適切に説明できる.</p>

アクティブ ラーニング	実習科目 クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態
評価方法	課題提出物(デイリーノート, 実施記録, 実習報告書)50%, 口頭試問 50%
課題に対する フィード バック	実習は診療参加型実習 (クリニカルクラークシップ) および2:1の形態を基本とし, 実習指導者からその場でフィードバックを受ける. また, 学生同士で指導を受けたことをお互いにフィードバックし合うことで, 理解を深める. 口頭試問では, 担当教員が実施後にフィードバックする.
指定図書	臨床理学療法実習ガイドブック
参考図書	なし
事前・ 事後学修	原則 40 分を目安に学修する 事前学修として, 臨床理学療法実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください. 事後学修として, 実習指導者や担当教員から指導を受けたことをまとめ, 次の実習までに復習しておいてください.
オフィス アワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3512 研究室 時間については, 事前説明時に提示します. 上記以外でもメール (maki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床理学療法評価実習 I
科目責任者	吉本 好延
単位数他	3単位 (135時間) 理学必修 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	本科目では、学外実習において、対象患者に理学療法に必要な情報収集、検査・測定を計画し、学外実習で得た情報を統合して問題点の抽出を行うことで、患者の障害の状態を的確に把握する。
到達目標	理学療法の対象に対する理学療法評価において、一部の検査測定および臨床推論を指導者監視の下、見学・模倣できる。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 吉本好延、矢倉千昭、有菌信一、根地鳴誠、金原一宏、俵 祐一、田中真希、矢部広樹、高橋大生 (すべての内容を全員で担当する)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>①情報収集および検査・測定技術の習得 必要となる情報収集と適切な検査・測定項目を選択できる。また検査・測定の実施にあたってその意義と方法を理解し、客観的で信頼性のある検査・測定技術の向上に努める。</p> <p>②リスク管理 実習の遂行にあたって、患者（施設利用者）のリスクを把握し、適切なリスク管理を行うことができる。また、二次性障害（廃用症候群）の可能性と要因を挙げられる。</p> <p>③患者（施設利用者）への説明 実施する検査・測定に関して、患者（施設利用者）に対して適切に説明できる。</p> <p>④問題点の抽出 2001年にWHOにより提唱された国際生活機能分類（ICF；心身機能・身体構造、活動、参加）に基づき、問題点の抽出を行う。さらに、問題点相互の関連性を説明できる。</p> <p>⑤担当症例の空間概念図の作成 空間概念図を作成し、その発表ができる。</p> <p>毎週水曜日(毎週1日×15回) 15週間に渡って実習を行う。</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態</li> <li>・2:1実習による学生間で課題解決を図る</li> </ul>
評価方法	臨床実習遂行状況 (20%) 各種提出物 (空間関連図など) (30%) 報告会 (30%) 教員面談による口頭試問 (20%) により、合格基準を満たすことで単位を認める。
課題に対する フィード バック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。 各担当教員より実習の進行や学修方法、目標設定に関する確認とフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を受けていただく施設の情報をもとに、患者評価に必要な基礎知識を事前学習する</li> <li>・体験患者の情報をもとに、根拠に基づいた統合と解釈ができるよう事後学習する</li> </ul>
オフィス アワー	3509 教室, 毎週水曜日 16 時~18 時
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床理学療法評価実習Ⅱ
科目責任者	田中真希
単位数他	4単位(180時間) 理学必修 6セメスター
DP番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	臨床理学療法評価実習Ⅰで学んだ理学療法の治療(基礎理論と治療技術)を踏まえ、臨床推論に基づく臨床実践を実施する。理学療法の対象に、理学療法評価(検査測定結果から統合と解釈を行い、適切な問題点の抽出およびゴール設定)を実習指導者のもと模倣・実施する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情意: 医療人としての態度を学ぶ</li> <li>2. 認知: 検査測定結果などの情報を分析し、ICFに基づき問題点を抽出する 患者の背景や取り巻く環境、評価結果などを考慮し、目標を設定する</li> <li>3. 運動技能: 検査測定のオリエンテーションを行う 検査測定を正確に実施し、信頼性の向上に努める 担当症例の空間概念図をもとに、実習指導者とディスカッションする</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 田中真希, 有藪信一, 矢倉千昭, 吉本好延, 根地嶋誠, 金原一宏, 俵 祐一, 矢部広樹 高橋大生(すべての内容を全員で担当する)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 評価実習(理学療法評価の技術と臨床推論を学ぶ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 指導者とともに診療に参加(同行)するクリニカルクラークシップを基本とする</li> <li>② 2人の学生に対し、1人の指導者が指導する、2:1モデルの形態とする</li> <li>③ 診療の一部として指導監視のもと、理学療法評価を行い、統合と解釈により適切な問題点の抽出およびゴール設定を行う</li> <li>④ 実施する内容は、理学療法(評価)を実施している場面を見学させる、一部の検査測定を模倣・実施させる、一部の臨床推論を説明する</li> <li>⑤ 技術習得過程は、説明および実際の方法を見学・指導され理学療法評価の一部を実施する</li> <li>⑥ 学生同士で練習をする</li> <li>⑦ オリエンテーションは、主に実習指導者が行い、学生が一部を模倣する</li> <li>⑧ 実習でのリスク管理は実習指導者が行い、学生は見学の中でリスク管理を学ぶ</li> <li>⑨ 実習日誌に体験したこと、技術的な覚え書きなどを記録する</li> <li>⑩ チェックリストに何をどれだけ行ったかを記録する</li> </ol> <p>課題提出物</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 出欠表・到達度チェック表</li> <li>(2) 実習日誌(デイリーノート)</li> <li>(3) チェックリスト</li> <li>(4) 事故報告書(事故が起こった場合)</li> <li>(5) 臨床理学療法評価実習Ⅱ報告書(空間概念図)</li> </ol> <p>学内課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 報告会</li> <li>(2) 口頭試問</li> </ol>

アクティブ ラーニング	実習科目 クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態
評価方法	課題提出物(デイリーノート, 実習報告書など)50%, 報告会 25%, 口頭試問 25% 計 100% 報告会・口頭試問はルーブリックを用いて評価し, その評価基準や項目は授業で提示する.
課題に対する フィード バック	現場では診療参加型実習(クリニカルクラークシップ)および2:1の形態を基本とし, 実習指導 者からその場でフィードバックを受ける. また, 学生同士で指導を受けたことをお互いにフィードバックし合うことで, 理解を深める. 症例報告会では, 学生同士で質疑応答を行い, 終了後に担当教員がフィードバックする. 口頭試問では, 担当教員が実施後にフィードバックする.
指定図書	神経系理学療法治療学・内部障害系理学療法治療学・運動器系理学療法治療学・ 日常生活活動学・機能代償機器学の指定図書
参考図書	実習中に作成した空間概念図, 資料, デイリーノートなど
事前・ 事後学修	原則 40 分を目安に学修する. 事前事後学修を事前学修として, 実習中から担当症例の統合と解釈について考察をまとめる. 事後学修として, フィードバックを受けた内容についてまとめて復習する.
オフィス アワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3510 研究室 時間については, 初回授業時に提示します. 上記以外でもメール (maki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です.

科目名	理学療法演習Ⅲ
科目責任者	田中真希
単位数他	1単位(30時間) 理学必修 7 Semester
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	臨床理学療法実習Ⅴ・Ⅵの実習で担当した症例に関する知識の確認、および各種疾患や障害に対する理学療法の基本的な評価・治療技術の確認を行い、それらを応用できるようにする。統合と解釈の演習では、症例の理解を通じて、理学療法士として基本的な評価・治療に関する総合的な能力を養い、理解していることを他者に的確に伝える技術を身につける。また、実技総合演習では、臨床現場で必要な能力(論理的思考力、問題解決力、コミュニケーション力)を高め、実践可能なレベルを目指す。
到達目標	臨床理学療法実習Ⅴ・Ⅵにおいて学修した専門的な知識・技術・態度を統合し、表現する 1. 知識：標準的な理学療法対象症例の病態・障害像を統合・解釈し、説明できる 2. 技術：基本的な理学療法評価・治療項目を挙げ、実施できる 3. 態度：相手を尊重した言動・配慮ができる
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 田中真希, 有藪信一, 矢倉千昭, 吉本好延, 根地嶋誠, 金原一宏, 俵 祐一, 矢部広樹, 高橋大生 (すべての内容を全員で担当する)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 第1回 オリエンテーション・知識確認：科目全体の流れを把握する 第2回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法実習Ⅴ終了後-1 第3回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法実習Ⅴ終了後-2 第4回 知識確認・担当症例の統合と解釈演習：臨床理学療法実習Ⅴ終了後-3 ：臨床理学療法実習Ⅴで学んだことを適切に表現することができる 第5回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法実習Ⅵ終了後-1 第6回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法実習Ⅵ終了後-2 第7回 知識確認・担当症例の統合と解釈演習：臨床理学療法実習Ⅵ終了後-3 ：臨床理学療法実習Ⅵで学んだことを適切に表現することができる 第8回 実技総合演習(中枢神経系)-1 第9回 実技総合演習(中枢神経系)-2 第10回 実技総合演習(中枢神経系)-3 第11回 実技総合演習(内部障害系)-1 第12回 実技総合演習(内部障害系)-2 第13回 実技総合演習(運動器系)-1 第14回 実技総合演習(運動器系)-2 第15回 実技総合演習(運動器系)-3 ：中枢神経系・内部障害系・運動器系の理学療法に必要な臨床能力を習得する</p> <p>実技総合演習時は実習着で出席してください</p>

アクティブ ラーニング	演習科目
評価方法	実習後の知識・技術確認のため、症例についての報告会、口頭試問、OSCE(Objective Structured Clinical Examination;客観的臨床能力試験)にて6割以上の成績であることが合格条件 知識確認のための症例報告25%、口頭試問25%、OSCE50% 計100% ルーブリックを用いて評価し、その評価基準や項目は授業で提示する。
課題に対する フィード バック	症例報告会では、学生同士で質疑応答を行い、終了後に担当教員がフィードバックする。 口頭試問では、担当教員が実施後にフィードバックする。 OSCE(Objective Structured Clinical Examination;客観的臨床能力試験)では、終了後に評価 教員からのフィードバックの他に、試験課題の実施状況を動画撮影し、全体終了後にフィード バックする。
指定図書	神経系理学療法治療学・内部障害系理学療法治療学・運動器系理学療法治療学・ 日常生活活動学・機能代償機器学の指定図書
参考図書	実習中に作成した空間概念図、資料、デイリーノートなど
事前・ 事後学修	原則40分を目安に学修する。 事前事後学修を事前学修として、実習中から担当症例の統合と解釈について考察をまとめる。 事後学修として、フィードバックを受けた内容についてまとめて復習する。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (maki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理学療法治療技術特論
科目責任者	金原一宏
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	理学療法における治療テクニックの理論を理解し、実施方法を体験し、治療技術の向上を図ることができる。
到達目標	神経系理学療法、運動器系理学療法、内部障害系理学療法の治療技術に加え、最新の理学療法治療技術にも注目し、今後の臨床を視野に入れ、理学療法における治療技術の向上を目的とする。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第 1 回：関節に対する徒手療法 1 歴史、神経生理、基本原理についての概要を知る 金原一宏</p> <p>第 2 回：関節に対する徒手療法 2 上肢・下肢の評価と手技について、体験する 金原一宏</p> <p>第 3 回：神経筋促通法(Proprioceptive Neuromuscular Facilitation Techniques : PNF) 1 開発の歴史、経緯、神経生理、基本原理についての概要を知る ゲスト 杉浦 武</p> <p>第 4 回：PNF2 上下肢・体幹の基本パターンの確認と神経生理学的確認事項(促通と抑制)について ゲスト 杉浦 武</p> <p>第 5 回：英語による理学療法介入技術について体験する① 金原一宏 吉本好延 高橋大生</p> <p>第 6 回：英語による理学療法介入技術について体験する② 金原一宏 吉本好延 高橋大生</p> <p>第 7 回：小児における呼吸理学療法の評価手技について、学習し体験する ゲスト 背戸佑介、有菌信一</p> <p>第 8 回：小児における呼吸理学療法の治療手技について、学習し体験する ゲスト 背戸佑介、有菌信一</p> <p>第 9 回：中枢神経系アプローチ 1 ボバースアプローチの歴史、神経生理、基本原理についての概要を知る</p> <p>ボバースアプローチの評価について ゲスト 鈴木寛之</p> <p>第 10 回：中枢神経系アプローチ 2 ボバースアプローチの評価と手技について ゲスト 鈴木寛之</p> <p>第 11 回：終末期における理学療法 1 ゲスト 中村和美</p> <p>第 12 回：終末期における理学療法 2 ゲスト 中村和美</p> <p>第 13 回：認知運動療法 認知運動療法の概要と評価方法を知る ゲスト 山下裕太郎</p> <p>第 14 回：認知運動療法の治療技術 ゲスト 山下裕太郎</p> <p>第 15 回：吸引技術 有菌信一</p> <p>理学療法治療手技を中心に演習をするため、動きやすい服装で参加すること。</p>

アクティブ ラーニング	授業計画を確認し、事前にすべき内容を把握し実践しておくこと。
評価方法	レポート 70%、課題提出物 30%
課題に対する フィード バック	講義終了時に確認し、フィードバックします。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	詳細は、講義の始めに伝える。講義は、実技を取り入れて行うため、これまでのテキストから各治療体系を確認しておくこと。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	スポーツ理学療法学																		
科目責任者	根地嶋 誠																		
単位数他	1単位 (15時間) 理学選択 8セメスター																		
DP 番号と科目領域	DP4 専門																		
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。																		
科目概要	本科目では、スポーツを実践している対象者に、スポーツ復帰から予防を含めた適切な理学療法が提供できるようになるために、スポーツ領域における理学療法士の役割や、必要な知識および技術について理解することを目的とする。スポーツ現場および選手に対する理学療法士の姿勢、スポーツによる外傷の特徴、スポーツ外傷予防のための方法、スポーツ外傷の特性を踏まえたエクササイズなどの介入方法について学ぶことで、キャリアデザインに活かす。																		
到達目標	1. スポーツで生じる傷害の概要を説明できる 2. スポーツ現場で行われるメディカルチェックを説明できる 3. スポーツ現場で行われるトレーニングを説明できる																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：コースオリエンテーション スポーツ理学療法概論</td> <td style="text-align: right;">(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第2回：スポーツ現場におけるメディカルチェック 1 上肢、体幹のメディカルチェック</td> <td style="text-align: right;">(ゲスト 齋藤和快)</td> </tr> <tr> <td>第3回：スポーツ現場におけるメディカルチェック 2 下肢のメディカルチェック</td> <td style="text-align: right;">(ゲスト 齋藤和快)</td> </tr> <tr> <td>第4回：アスレティックリハビリテーション 1 上肢、体幹のアスレティックリハビリテーション (1)</td> <td style="text-align: right;">(ゲスト 松本武士)</td> </tr> <tr> <td>第5回：アスレティックリハビリテーション 2 上肢、体幹のアスレティックリハビリテーション (2)</td> <td style="text-align: right;">(ゲスト 松本武士)</td> </tr> <tr> <td>第6回：アスレティックリハビリテーション 3 下肢のアスレティックリハビリテーション (1)</td> <td style="text-align: right;">(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第7回：アスレティックリハビリテーション 4 下肢のアスレティックリハビリテーション (2)</td> <td style="text-align: right;">(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第8回：スポーツ傷害の病態 1 スポーツで生じる傷害の知識の整理</td> <td style="text-align: right;">(根地嶋)</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：コースオリエンテーション スポーツ理学療法概論	(根地嶋)	第2回：スポーツ現場におけるメディカルチェック 1 上肢、体幹のメディカルチェック	(ゲスト 齋藤和快)	第3回：スポーツ現場におけるメディカルチェック 2 下肢のメディカルチェック	(ゲスト 齋藤和快)	第4回：アスレティックリハビリテーション 1 上肢、体幹のアスレティックリハビリテーション (1)	(ゲスト 松本武士)	第5回：アスレティックリハビリテーション 2 上肢、体幹のアスレティックリハビリテーション (2)	(ゲスト 松本武士)	第6回：アスレティックリハビリテーション 3 下肢のアスレティックリハビリテーション (1)	(根地嶋)	第7回：アスレティックリハビリテーション 4 下肢のアスレティックリハビリテーション (2)	(根地嶋)	第8回：スポーツ傷害の病態 1 スポーツで生じる傷害の知識の整理	(根地嶋)
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第1回：コースオリエンテーション スポーツ理学療法概論	(根地嶋)																		
第2回：スポーツ現場におけるメディカルチェック 1 上肢、体幹のメディカルチェック	(ゲスト 齋藤和快)																		
第3回：スポーツ現場におけるメディカルチェック 2 下肢のメディカルチェック	(ゲスト 齋藤和快)																		
第4回：アスレティックリハビリテーション 1 上肢、体幹のアスレティックリハビリテーション (1)	(ゲスト 松本武士)																		
第5回：アスレティックリハビリテーション 2 上肢、体幹のアスレティックリハビリテーション (2)	(ゲスト 松本武士)																		
第6回：アスレティックリハビリテーション 3 下肢のアスレティックリハビリテーション (1)	(根地嶋)																		
第7回：アスレティックリハビリテーション 4 下肢のアスレティックリハビリテーション (2)	(根地嶋)																		
第8回：スポーツ傷害の病態 1 スポーツで生じる傷害の知識の整理	(根地嶋)																		

アクティブ ラーニング	プレゼンテーション (グループ学習)
評価方法	小テスト 40%、レポート 30%、課題学習 (プレゼンテーション) 30% ※レポートと課題学習はルーブリックにより評価する
課題に対する フィード バック	小テストの解説
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	上肢、体幹、下肢それぞれの解剖学、運動学の知識が必要であるため、各回の前に 40 分程度確認しておく。
オフィス アワー	科目責任者：根地嶋誠 (リハビリテーション学部理学療法学科) 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床理学療法実習Ⅴ
科目責任者	金原一宏
単位数他	6単位 (270時間) 理学必修 7セメスター
DP番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	学外実習の理学療法実践を通して、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得するために、理学療法全般にわたる一連の過程について、学内で履修した内容とこれまでの臨床理学療法実習の知識・経験を踏まえ、担当患者（利用者）を通して経験し、学修する。
到達目標	理学療法の対象に、理学療法評価を行い、治療プログラム立案し、実践的な治療技能を実施できる。症例の初期評価から最終評価の結果に応じて、ゴール設定と治療プログラムの修正を指導者監視のもと模倣・実施できる。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;  金原一宏、矢倉千昭、有菌信一、吉本好延、根地嶋誠、俵祐一、田中真希、矢部広樹 高橋大生（すべての内容を全員で担当する）</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;  ①理学療法士の診療の一部を、指導監視のもと、検査・測定・治療を実施する。  ②技術習得過程では、見学～実施レベルとする。（解説を受け、実際の方法を指導され、理学療法評価・治療・効果判定を実施する）  ③デイリーノート（体験したこと、技術的な覚え書きなど）を作成する。  ④チェックリスト（何をどれだけおこなったか）を作成する。  ⑤理学療法施行内容は、統合と解釈に必要な理学療法評価、問題点の抽出、ゴール設定、治療プログラムの立案、効果判定を行う。</p>

アクティブ ラーニング	学生間で課題解決を図る
評価方法	1) 実習状況 50% 2) 実習後プレゼンテーション（臨床理学療法実習Ⅴ報告書（空間概念図））30% 3) 口頭試問 20%
課題に対する フィード バック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。 各担当教員より実習に進行や学修方法、目標設定に関する確認とフィードバックを行う
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	これまでの臨床実習内容を振り返り、学修を進め、準備してください。実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床理学療法実習Ⅵ
科目責任者	有菌信一
単位数他	6単位 (270時間) 理学必修 7セメスター
DP番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	学外実習の理学療法実践を通して、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得するために、理学療法全般にわたる一連の過程について、学内で履修した内容とこれまでの臨床理学療法実習の知識・経験を踏まえ、担当患者（利用者）を通して経験し、学修する。
到達目標	理学療法の対象に、理学療法評価を行い、治療プログラム立案し、実践的な治療技能を実施できる。症例の初期評価から最終評価の結果に応じて、ゴール設定と治療プログラムの修正を指導者監視のもと模倣・実施できる。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 有菌信一、矢倉千昭、金原一宏、俵祐一、根地嶋誠、吉本好延、田中真希、矢部広樹、高橋大生、(すべての内容を全員で担当する)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; ①理学療法士の診療の一部を、指導監視のもと、検査・測定・治療を実施する。</p> <p>②技術習得過程では、見学～実施レベルとする。(解説を受け、実際の方法を指導され、理学療法評価・治療・効果判定を実施する)</p> <p>③デイリーノート(体験したこと、技術的な覚え書きなど)を作成する。</p> <p>④チェックリスト(何をどれだけおこなったか)を作成する。</p> <p>⑤理学療法施行内容は、統合と解釈に必要な理学療法評価、問題点の抽出、ゴール設定、治療プログラムの立案、効果判定を行う。</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態</li> <li>・1:1実習による学生間で課題解決を図る</li> </ul>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1)実習状況</li> <li>2)実習後プレゼンテーション（臨床理学療法総合実習Ⅱ報告書（空間概念図））</li> <li>3)口頭試問</li> </ol>
課題に対する フィード バック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。 各担当教員より実習に進行や学修方法、目標設定に関する確認とフィードバックを行う
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	これまでの臨床実習内容を振り返り、学修を進め、準備してください。実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3503 研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理学療法学総合演習
科目責任者	吉本 好延
単位数他	1単位 (30時間) 理学必修 8セメスター
DP番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	理学療法士国家試験レベルの演習を通して、理学療法士に必要な知識を統合するとともに、臨床的な視点による問題解決能力を身につけることで、これまで学習してきた理学療法学を包括的にまとめる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法士国家試験レベルの理学療法学の知識を修得することができる。</li> <li>2. 理学療法士に必要な知識を統合することができる。</li> <li>3. 臨床的な視点によって問題解決することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; (すべての内容を全員で担当する)</p> <p>吉本好延、有菌信一、矢倉千昭、根地嶋誠、金原一宏、俵祐一、田中真希、矢部広樹、高橋大生</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション - シラバス確認・スケジュールの説明 吉本</p> <p>第2回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100問) 根地嶋</p> <p>第3回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100問) 田中</p> <p>第4回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100問) 吉本</p> <p>第5回 オリエンテーション - 学習方針の再検討 (ゼミ・個別) 吉本</p> <p>第6回 知識到達度確認試験 (専門基礎 50問・専門 50問) 有菌</p> <p>第7回 知識到達度確認試験 (専門基礎 50問・専門 50問) 田中</p> <p>第8回 知識到達度確認試験 (専門基礎 50問・専門 50問) 矢倉</p> <p>第9回 オリエンテーション - 学習方針の再検討 (ゼミ・個別) 吉本</p> <p>第10回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100問・専門 100問) 矢部</p> <p>第11回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100問・専門 100問) 俵</p> <p>第12回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100問・専門 100問) 高橋</p> <p>第13回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100問・専門 100問) 根地嶋</p> <p>第14回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100問・専門 100問) 金原</p> <p>第15回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100問・専門 100問) 金原</p>

アクティブ ラーニング	・知識到達度確認試験は最終的な目標点数が示されており，目標点数を到達できるように学生は自身の学修プランを教員と共同で計画する
評価方法	・授業態度：10% ・知識到達度確認試験：90%
課題に対する フィード バック	・各時期の獲得点数から現在の学修状況と今後の学修プランを確認し，プランの妥当性やプランの実行可能性についてフィードバックを行う。
指定図書	『国試の達人 運動解剖生理学編』IPEC、 『国試の達人 臨床医学編』IPEC 『国試の達人 理学療法編』IPEC クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士国家試験問題解説（共通・専門）メディックメディア
参考図書	なし
事前・ 事後学修	計画的にグループ学習を進めてください。これまで学んだ内容の復習とともに，自分で考え，問題を解決していく力の知識を，確認しながら深めていきます。
オフィス アワー	3509 教室，毎週水曜日 16 時～18 時
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	卒業研究Ⅱ
科目責任者	有菌信一
単位数他	2単位 (60 時間) 理学必修 8 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP5 専門
科目の 位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	理学療法研究の意義と、科学的・論理的な研究方法を修得する。具体的には、各担当指導教員の指導のもと、研究テーマの設定、研究計画の立案、データ収集・解析、考察を行い、その研究結果を卒業研究発表会で口演し、卒業論文を完成させることを目標とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法研究の意義を理解する。</li> <li>2. 一連の研究の流れ学び、各自の研究テーマに沿って研究を実施する。</li> <li>3. 研究結果を考察し、口述発表する。</li> <li>4. 卒業論文にまとめて報告する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 有菌信一、矢倉千昭、金原一宏、俵祐一、根地嶋誠、吉本好延、田中真希、矢部広樹、高橋大生（すべての内容を全員で担当する）</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 本科目は、担当指導教員によるゼミ形式で行うが、必要に応じて全体でも開講する。 研究内容、および研究方法は、指導教員の指導を受けて決定すること。</p> <p>卒業研究の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法研究の意義と目的 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究疑問の発見</li> <li>・文献レビュー</li> <li>・研究テーマの明確化</li> </ul> </li> <li>・研究計画の作成（倫理的考察も含む）</li> <li>・研究方法（対象者の設定、測定機器の使用、調査方法など）</li> <li>・データ収集</li> <li>・データ解析と処理</li> <li>・考察</li> <li>・発表</li> <li>・論文執筆</li> </ul> <p>*卒業研究発表会を11月上旬頃に行う *卒業論文の提出は11月末頃とする</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>各セッションの課題をグループワークで解決・発表する</li> <li>授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする</li> <li>授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す</li> </ul>
評価方法	履修状況：30% 論文内容：35% 口頭発表：35%
課題に対する フィード バック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。
指定図書	千住秀明著「はじめての研究法—コメディカルの研究法入門」（神稜文庫）
参考図書	なし
事前・ 事後学修	文献検討を十分に行って、研究に臨んでください。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3503 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（shinichi-a@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	医療倫理学																		
科目責任者	田中真希																		
単位数他	1単位(15時間) 理学選択 8セメスター																		
DP番号と科目領域	DP1 専門																		
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。																		
科目概要	先端医療としての臓器移植や遺伝子治療だけでなく、日常の医療現場における倫理的諸問題について考えるとき、人間の行為の倫理的側面について深く理解し、「何をすべきか」という問いに答える判断が必要となる。そのための意思決定の行動指針となる「倫理原則」や「ケアの倫理」などについて学びながら、事例検討を通じて医療倫理について理解を深める。																		
到達目標	1. 医療全般における倫理的問題に気づくことができる 2. 医療に関する倫理的推論を行い、分析することができる 3. 医療現場において求められる患者に共感する心、態度など倫理的配慮ができる																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：オリエンテーション 生命倫理学とは？バイオエシックス、生命倫理</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第2回：生命誕生をめぐる諸問題 生殖医療、人工妊娠中絶、着床前診断などの倫理的問題</td> <td style="text-align: right;">田中真希・矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第3回：ホスピスと生命の終末期をめぐる問題 ケアの倫理に基づくホスピスケアの思想から学ぶ</td> <td style="text-align: right;">田中真希・高橋大生</td> </tr> <tr> <td>第4回：専門職者としての倫理観の形成 リハビリテーション専門職の倫理観の育成と形成</td> <td style="text-align: right;">田中真希・矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第5回：患者を支える・共感する 患者と医療専門職との関係</td> <td style="text-align: right;">田中真希・高橋大生</td> </tr> <tr> <td>第6回：症例または事例報告および検討① 経験症例の報告および検討</td> <td style="text-align: right;">田中真希・矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第7回：症例または事例報告および検討② 経験症例の報告および検討</td> <td style="text-align: right;">田中真希・高橋大生</td> </tr> <tr> <td>第8回：医療倫理学と理学療法 理学療法士の倫理観</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：オリエンテーション 生命倫理学とは？バイオエシックス、生命倫理	田中真希	第2回：生命誕生をめぐる諸問題 生殖医療、人工妊娠中絶、着床前診断などの倫理的問題	田中真希・矢部広樹	第3回：ホスピスと生命の終末期をめぐる問題 ケアの倫理に基づくホスピスケアの思想から学ぶ	田中真希・高橋大生	第4回：専門職者としての倫理観の形成 リハビリテーション専門職の倫理観の育成と形成	田中真希・矢部広樹	第5回：患者を支える・共感する 患者と医療専門職との関係	田中真希・高橋大生	第6回：症例または事例報告および検討① 経験症例の報告および検討	田中真希・矢部広樹	第7回：症例または事例報告および検討② 経験症例の報告および検討	田中真希・高橋大生	第8回：医療倫理学と理学療法 理学療法士の倫理観	田中真希
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第1回：オリエンテーション 生命倫理学とは？バイオエシックス、生命倫理	田中真希																		
第2回：生命誕生をめぐる諸問題 生殖医療、人工妊娠中絶、着床前診断などの倫理的問題	田中真希・矢部広樹																		
第3回：ホスピスと生命の終末期をめぐる問題 ケアの倫理に基づくホスピスケアの思想から学ぶ	田中真希・高橋大生																		
第4回：専門職者としての倫理観の形成 リハビリテーション専門職の倫理観の育成と形成	田中真希・矢部広樹																		
第5回：患者を支える・共感する 患者と医療専門職との関係	田中真希・高橋大生																		
第6回：症例または事例報告および検討① 経験症例の報告および検討	田中真希・矢部広樹																		
第7回：症例または事例報告および検討② 経験症例の報告および検討	田中真希・高橋大生																		
第8回：医療倫理学と理学療法 理学療法士の倫理観	田中真希																		

アクティブ ラーニング	グループワークの形式を取り入れ、生命倫理・医療倫理の課題を探求し、事前学修（臨床理学療法実習で経験した症例や見学症例のうち、倫理的配慮が必要であった症例について概念図を作成）で学んだことを授業内でプレゼンテーションまたはディスカッションをする。
評価方法	概念図・レポート 50%，プレゼンテーション・ディスカッション 50% 計 100% ルーブリックを用いて評価し、その評価基準や項目は授業で提示する。
課題に対する フィード バック	プレゼンテーションまたはディスカッション後に、学生同士での質疑応答を行い、教員からのフィードバックをする。 各回のリアクションペーパーは Moodle を用いて提出してもらうものとし、質問や意見については個別に返信する。
指定図書	エリザベス キューブラー・ロス著、「死ぬ瞬間」と死後の生 中公文庫
参考図書	参考図書は授業内で随時紹介する。
事前・ 事後学修	原則 40 分を目安に学修する。 事前学修では、臨床理学療法実習で経験した症例や見学症例のうち、倫理的配慮が必要であった症例について概念図を作成する。 事後学修では、症例についてフィードバックを受けた内容を含め、概念図を再考しレポートを作成する。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (maki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。



アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>各セッションの課題をグループワークで解決・発表する</li> <li>授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする</li> <li>授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークの発表と内容：40%</li> <li>レポート提出と内容：60%</li> </ul>
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会の途中で教員が随時補足していく</li> <li>他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う</li> </ul>
指定図書	なし（講義時に資料を配布する）
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前に関係論文を配布するので、事前に読んで授業に出席すること。
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部  研究室：3503 研究室  時間については、初回授業時に提示します。  上記以外でもメール（shinichi-a@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	リーダーシップ論																		
科目責任者	矢倉千昭																		
単位数他	1単位 (15時間) 理学選択 8セメスター																		
DP 番号と科目領域	DP6 専門																		
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。																		
科目概要	本学の学びにおいて、保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすように成長することが目標となります。リーダーシップとは、自己を成長させ改革を成し遂げる（ようとする）能力です。授業では、リーダーシップの基礎的知識について学び、各分野でリーダーシップを発揮している理学療法士からの講義が行われます。																		
到達目標	1. リーダーシップとは何かを考え、自分なりの考え方を述べることができる 2. 医療現場に必要なリーダーシップを考え、自身の行動を見つめ自己を成長させる 3. リハビリテーション専門職として、将来を展望した生涯学習への関心を深め自己研鑽する																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: left;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：リーダーシップとは何か、特性、役割と行動</td> <td>矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第2回：理学療法教育・研究分野におけるリーダーシップ</td> <td>矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第3回：病院・施設におけるリーダーシップ</td> <td>ゲスト 新屋順子</td> </tr> <tr> <td>第4回：病院・施設におけるリーダーシップ</td> <td>ゲスト 春藤健支</td> </tr> <tr> <td>第5回：病院・施設におけるリーダーシップ</td> <td>ゲスト 山内一之</td> </tr> <tr> <td>第6回：静岡県理学療法士会におけるリーダーシップ</td> <td>ゲスト 和泉謙二</td> </tr> <tr> <td>第7回：静岡県理学療法士会におけるリーダーシップ</td> <td>ゲスト 山下裕太郎</td> </tr> <tr> <td>第8回：病院経営におけるリーダーシップ</td> <td>ゲスト 秦野吉徳</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：リーダーシップとは何か、特性、役割と行動	矢倉千昭	第2回：理学療法教育・研究分野におけるリーダーシップ	矢倉千昭	第3回：病院・施設におけるリーダーシップ	ゲスト 新屋順子	第4回：病院・施設におけるリーダーシップ	ゲスト 春藤健支	第5回：病院・施設におけるリーダーシップ	ゲスト 山内一之	第6回：静岡県理学療法士会におけるリーダーシップ	ゲスト 和泉謙二	第7回：静岡県理学療法士会におけるリーダーシップ	ゲスト 山下裕太郎	第8回：病院経営におけるリーダーシップ	ゲスト 秦野吉徳
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第1回：リーダーシップとは何か、特性、役割と行動	矢倉千昭																		
第2回：理学療法教育・研究分野におけるリーダーシップ	矢倉千昭																		
第3回：病院・施設におけるリーダーシップ	ゲスト 新屋順子																		
第4回：病院・施設におけるリーダーシップ	ゲスト 春藤健支																		
第5回：病院・施設におけるリーダーシップ	ゲスト 山内一之																		
第6回：静岡県理学療法士会におけるリーダーシップ	ゲスト 和泉謙二																		
第7回：静岡県理学療法士会におけるリーダーシップ	ゲスト 山下裕太郎																		
第8回：病院経営におけるリーダーシップ	ゲスト 秦野吉徳																		

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員やゲストスピーカーの所属，社会活動について概要を説明し，授業前に調べる。</li> <li>・受講した内容をリアクションペーパーに記載，提出する。</li> </ul>
評価方法	リフレクションペーパーによる授業への取り組み，参加度の評価：30% レポート提出と評価：70%
課題に対する フィード バック	・質問には随時受け，リアクションペーパーの内容についてメール，次回の授業で回答する。
指定図書	なし（講義時に資料を配布します）
参考図書	なし
事前・ 事後学修	各回の授業テーマについて，調べ考えて授業に出席する。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日～金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	組織管理学																		
科目責任者	田中真希																		
単位数他	1単位(15時間) 理学選択 8 Semester																		
DP番号と科目領域	DP6 専門																		
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。																		
科目概要	理学療法部門だけでなく、病院・施設全体でのリスク管理について学習することで、関連職種の専門性を生かした連携・協働を実践するための知識と手法を学習する。理学療法士がチームの一員としてどのような役割を果たすことができるのかを理解し、組織管理として医療事故を防止するために必要な知識と手法を習得することを目標とする。																		
到達目標	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。 1. 理学療法部門の管理・運営について概説できる 2. 医療事故の概要について説明できる 3. 医療事故の原因を理解するとともに、チーム医療を認識し、チームの一員として事故の再発予防に努めるための対策の立案ができる																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：理学療法部門の管理運営の概要 管理・運営の基礎</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第2回：理学療法部門の管理運営の実際 保険診療・診療記録業務・守秘義務・患者情報管理</td> <td style="text-align: right;">有菌信一</td> </tr> <tr> <td>第3回：医療事故の概要とヒューマンエラー 発生しやすい医療事故とヒューマンエラー</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第4回：医療事故発生時・発生後の対応 インシデント・アクシデント報告書の意義</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第5回：感染症予防対策 理学療法施行上注意が必要な感染症と感染症対策</td> <td style="text-align: right;">有菌信一</td> </tr> <tr> <td>第6回：医療機関・施設における転倒・転落予防対策 理学療法士が遭遇する発生頻度の高い転倒・転落事故と予防対策</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第7回：医療事故の事例検討 実際に発生した医療事故の分析と医療事故防止策の立案</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第8回：医療従事者の健康管理の概要・実際 組織の取り組み、産業理学療法</td> <td style="text-align: right;">有菌信一</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：理学療法部門の管理運営の概要 管理・運営の基礎	田中真希	第2回：理学療法部門の管理運営の実際 保険診療・診療記録業務・守秘義務・患者情報管理	有菌信一	第3回：医療事故の概要とヒューマンエラー 発生しやすい医療事故とヒューマンエラー	田中真希	第4回：医療事故発生時・発生後の対応 インシデント・アクシデント報告書の意義	田中真希	第5回：感染症予防対策 理学療法施行上注意が必要な感染症と感染症対策	有菌信一	第6回：医療機関・施設における転倒・転落予防対策 理学療法士が遭遇する発生頻度の高い転倒・転落事故と予防対策	田中真希	第7回：医療事故の事例検討 実際に発生した医療事故の分析と医療事故防止策の立案	田中真希	第8回：医療従事者の健康管理の概要・実際 組織の取り組み、産業理学療法	有菌信一
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第1回：理学療法部門の管理運営の概要 管理・運営の基礎	田中真希																		
第2回：理学療法部門の管理運営の実際 保険診療・診療記録業務・守秘義務・患者情報管理	有菌信一																		
第3回：医療事故の概要とヒューマンエラー 発生しやすい医療事故とヒューマンエラー	田中真希																		
第4回：医療事故発生時・発生後の対応 インシデント・アクシデント報告書の意義	田中真希																		
第5回：感染症予防対策 理学療法施行上注意が必要な感染症と感染症対策	有菌信一																		
第6回：医療機関・施設における転倒・転落予防対策 理学療法士が遭遇する発生頻度の高い転倒・転落事故と予防対策	田中真希																		
第7回：医療事故の事例検討 実際に発生した医療事故の分析と医療事故防止策の立案	田中真希																		
第8回：医療従事者の健康管理の概要・実際 組織の取り組み、産業理学療法	有菌信一																		

アクティブ ラーニング	グループワークの形式を取り入れ、保健医療福祉領域における組織管理の課題を探求し、事前学修（臨床理学療法実習で経験した組織管理の体制、医療安全や感染対策、転倒・転落予防、発生時の対応マニュアル・報告書などについて概念図を作成）で学んだことを授業内でプレゼンテーションまたはディスカッションをする。
評価方法	概念図・レポート 50%、プレゼンテーション・ディスカッション 50% 計 100% ルーブリックを用いて評価し、その評価基準や項目は授業で提示する。
課題に対する フィード バック	プレゼンテーションまたはディスカッション後に、学生同士での質疑応答を行い、教員からのフィードバックを実施する。 各回のリアクションペーパーは Moodle を用いて提出してもらおうものとし、質問や意見については個別に返信する。
指定図書	亀田メディカルセンター リハビリテーション科 リハビリテーション室編集、 「リハビリテーションリスク管理ハンドブック 改訂第3版」 MEDICAL VIEW
参考図書	参考図書は授業内で随時紹介する。
事前・ 事後学修	原則 40 分を目安に学修する。 事前学修では、臨床理学療法実習で経験した組織管理の体制、医療安全や感染対策、転倒・転落予防、発生時の対応マニュアル・報告書などについて概念図を作成する。 事後学修では、フィードバックを受けた内容を含め、概念図を再考し、レポートを作成する。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (maki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」を育成する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	医療経済学
科目責任者	金原一宏
単位数他	1単位(15時間) 理学選択 8セメスター
DP番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	医療経済学を通して医療の需要と供給、費用と効果に関する考え方を学び、医療経済学の視点から医療、リハビリテーション、健康増進・疾病予防の効果について学習する。
到達目標	1. 医療経済学の考え方を通して日本の国民医療費について説明することができる。 2. 医療経済学の考え方に基づく分析結果の意味を説明することができる。 3. 医療、リハビリテーション、健康増進・疾病予防の効果を説明することができる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;金原一宏</p> <p>第1回：オリエンテーション、医療経済学の基礎 －医療経済学の基本的な考え方を学ぶ</p> <p>第2回：国民医療費 －国民医療費の現状と課題を学ぶ</p> <p>第3回：医療経済学の評価 －医療経済学の分析法を学ぶ</p> <p>第4回：医療経済学とリハビリテーション －医療経済学によるリハビリテーションを考える</p> <p>第5回：医療経済学とヘルスプロモーション －医療経済学による健康増進・疾病予防を考える</p> <p>第6回：病院におけるリハビリテーションの管理会計</p> <p>第7回：病院におけるリハビリテーションの管理会計</p> <p>第8回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>各セッションの課題をグループワークで解決・発表する</li> <li>授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする</li> <li>授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す</li> </ul>
評価方法	課題発表：50% レポート：50%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会の途中で教員が随時補足していく</li> <li>他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う</li> </ul>
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	課題の発表があります。資料を作成したら、事前に担当教員の指導を受けてください。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3506 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (kazuhiko-k@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際理学療法実習
科目責任者	高橋大生
単位数他	2単位 (90 時間) 理学選択 3・4・5・6・7・8セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	異なる文化に触れ、生活習慣の異なる地域を訪れるだけでなく、リハビリテーション機関及び専門施設において、本学教員（引率教員）の指導によるクリニカルクラークシップ（CCS）での実習を行い、当該地域における理学療法技術を体験し、学修することを目的とする。合わせて、異なる文化圏の医療について理解を深める。
到達目標	1. 当地の医療機関とリハビリテーション関連施設を見学する。 2. 当地の医療機関とリハビリテーション関連施設において実習を行い、実際に技術を体験し、日本との理学療法との違いについて理解する。 3. 異なる文化圏の医療について理解を深める。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;高橋大生 金原一宏 俵祐一 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>1. 事前研修 (10 コマ) 研修する国の言語について習得するだけでなく、当該地域の文化、歴史について学ぶ。 また、当該地域の保健医療福祉、リハビリテーション特に理学療法の歴史と現状について事前に学習する。 (中国理学療法実習の場合) 第1・2回目 (高橋大生 金原一宏 俵祐一) 中国語講座 医療現場で使用する言葉を学ぶ。 日本のリハビリテーション医療や理学療法について知識の再確認を英語・中国語を交え学修する。 ・医療現場でよく使用される言葉やフレーズを学ぶ。 ・英語で (自分の言葉で) 日本の理学療法・リハビリテーション医療について説明できる。 第3回目 (高橋大生 金原一宏 俵祐一) 中国語講座 中国の文化・医療について学修する。 ・中国の文化・医療について知る。 ・日本との違いについて知る。 第4・5回目 (高橋大生 金原一宏 俵祐一) 中枢神経障害について知識の再確認と評価・問題点抽出・プログラム立案の流れを英語・中国語を交え学修する。 ・中枢神経障害について理解する。 ・評価・問題点・プログラムについて説明し、実践できる (実技も含む)。 ・医療現場で使用される英語・中国語を学ぶ。 第6・7回目 (高橋大生 金原一宏 俵祐一) 中国語講座 運動器障害について知識の再確認と評価・問題点抽出・プログラム立案の流れを英語・中国語を交え学修する。 ・運動器障害について理解する。 ・評価・問題点・プログラムについて説明し、実践できる (実技も含む)。 ・医療現場で使用される英語・中国語を学ぶ。 第8・9回目 (高橋大生 金原一宏 俵祐一 新任) 疼痛障害、熱傷障害について学修する。また、評価・問題点抽出・プログラム立案の流れを英語・中国語を交え学修する。 ・疼痛障害と熱傷障害について理解する。 ・評価・問題点・プログラムについて説明し、実践できる (実技も含む)。 ・医療現場で使用される英語・中国語を学ぶ。 第10回目 (高橋大生 金原一宏 俵祐一) 日本の文化・医療を伝える。 ・日本の文化・医療・福祉について、プレゼンテーションの方法を学ぶ。 2. 異文化圏における医療機関・施設にてクリニカルクラークシップでの実習</p>

	<p>現地の医療機関で本学教員の指導のもと実施する（5日間）（引率教員）</p> <p>3. 異文化圏における医療機関・施設における体験実習（3日間）（引率教員）</p> <p>4. 課題レポート（海外体験実習報告書）の作成・実習で学んだことの内省（2コマ） 報告会を実施する（2コマ）（高橋大生 金原一宏 俵祐一）</p> <p>実習協力施設：中国 重慶 陸軍軍医学大学 西南病院 中国 広州 中山大学附属第一病院 広東省労災リハビリテーション病院</p> <p>事後研修 1. グループワーク 研修で学んだことについてディスカッション（PBL） 2. 報告会</p>
アクティブ ラーニング	<p>グループ学修を通して、渡航先の文化、歴史、社会情勢、医療情勢、健康問題、リハビリテーション医療の現状、実習先の医療機関・施設について情報を収集し、Moodle を使用してeポートフォリオを作成していく。また、事前学習で集めた情報から、問題点を導き、解決策についてディスカッションを行う。PBL などを利用して、問題点や課題に対しての解決策を立案し、実践していく。自らの意見を構築していく。また、柔軟性、積極性、行動力などグローバル人材に必要な人間力を養う。</p>
評価方法	<p>事前研修：10% 実習内容：50% 課題提出物（レポート プレゼンテーション）：40%</p> <p>①事前学修の内容（10%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席日数</li> <li>・自己紹介が英語または中国語でできる</li> <li>・中国の文化・リハビリテーション医療について説明できる→Presentation</li> <li>・日本の文化・リハビリテーション医療について説明できる→Presentation</li> <li>・中枢神経障害・運動器障害・熱傷についての知識確認テスト・口頭試問</li> <li>・各障害について評価実技テスト（英語・中国語を使用する）</li> </ul> <p>成績は上記の内容について責任科目者と担当者が判定する。</p> <p>②Learning Contract の内容（50%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に学修目的（Learning Objective）、方法（Method）欄を記載し、実習実施時にその内容について実習指導者（本学の引率教員）の評価を受ける。</li> </ul> <p>帰国後に責任科目者に提出する。 成績は責任科目者と担当者により判定する。</p> <p>③提出レポート（20%）プレゼンテーション（20%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ：課題について以下の例を参考に記載する</li> <li>・現地のリハビリテーション医療やリハビリテーション技師の役割について学んだこと</li> <li>・この研修の経験をいかし、国際的な視野で、今後理学療法士が取り組むべき役割、課題、学びについて</li> <li>・今後医療従事者に必要とされるグローバルな人材とは</li> </ul> <p>成績は上記の内容について責任科目者が判定する。</p>
課題に対する フィード バック	<p>フィードバックは引率教員、科目責任者が口頭で行う。</p>
指定図書	<p>指定図書なし 臨床実習ハンドブック、事前学習時の配布資料使用、eポートフォリオ</p>
参考図書	<p>なし</p>
事前・ 事後学修	<p>英語は日常会話レベルがこなせるよう、毎日15分から30分英会話学習を行ってください。又、渡航先の言語で挨拶と自己紹介ができるように自己学修を行って下さい。渡航先の文化、医療情勢、医療機関について調査し、ポートフォリオを作成してください。</p>
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3506 研究室 時間等：水曜日 12時30分～13時30分 上記以外でもメール（kazuhiro-k@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に 関する記述	<p>本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。</p>

科目名	作業療法概論																														
科目責任者	伊藤 信寿																														
単位数他	2単位 (30 時間) 作業必修 1 セメスター																														
DP 番号と科目領域	DP2 専門																														
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																														
科目概要	作業療法を学ぶにあたって前提となる基本的事項（作業療法の理論背景の概要、作業療法の対象と実践背景の概要など）を学習する。小グループによる PBL チュートリアル、講義、演習を通じ、主体的に学習する習慣と方法を身につける。																														
到達目標	(1) 作業療法の歴史、作業活動と健康、作業療法の対象など、作業療法の概要について説明できる。 (2) 問題基盤型学習 (Problem Based Learning : PBL) について説明できる。 (3) 作業療法の背景と内容の概要について説明できる。																														
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;伊藤信寿、泉 良太、鈴木達也、藤田さより、富澤涼子、飯田妙子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション、PBL①作業療法とは</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：PBL①作業療法とは</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：PBL①作業療法とは ミニ講義</td> <td>鈴木達也、全員</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：PBL①作業療法とは</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：PBL①作業療法とは ミニ講義</td> <td>鈴木達也、全員</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：PBL①作業療法とは</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：PBL①作業療法とは</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：PBL①作業療法とは</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：PBL①発表</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：PBL①発表講義（保健制度の解説等）</td> <td>泉 良太、全員</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：技術講習（車いすの操作）</td> <td>鈴木達也 全員</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：技術講習（車いすの操作）</td> <td>鈴木達也、全員</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：技術講習（移動の介助、杖歩行など）</td> <td>鈴木達也、全員</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：講義</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：授業のまとめ</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> </table> <p>※テーマや内容は進度により変更の可能性がある。詳細はオリエンテーションで説明する。</p>	第 1 回：オリエンテーション、PBL①作業療法とは	全員	第 2 回：PBL①作業療法とは	全員	第 3 回：PBL①作業療法とは ミニ講義	鈴木達也、全員	第 4 回：PBL①作業療法とは	全員	第 5 回：PBL①作業療法とは ミニ講義	鈴木達也、全員	第 6 回：PBL①作業療法とは	全員	第 7 回：PBL①作業療法とは	全員	第 8 回：PBL①作業療法とは	全員	第 9 回：PBL①発表	全員	第 10 回：PBL①発表講義（保健制度の解説等）	泉 良太、全員	第 11 回：技術講習（車いすの操作）	鈴木達也 全員	第 12 回：技術講習（車いすの操作）	鈴木達也、全員	第 13 回：技術講習（移動の介助、杖歩行など）	鈴木達也、全員	第 14 回：講義	全員	第 15 回：授業のまとめ	伊藤信寿
第 1 回：オリエンテーション、PBL①作業療法とは	全員																														
第 2 回：PBL①作業療法とは	全員																														
第 3 回：PBL①作業療法とは ミニ講義	鈴木達也、全員																														
第 4 回：PBL①作業療法とは	全員																														
第 5 回：PBL①作業療法とは ミニ講義	鈴木達也、全員																														
第 6 回：PBL①作業療法とは	全員																														
第 7 回：PBL①作業療法とは	全員																														
第 8 回：PBL①作業療法とは	全員																														
第 9 回：PBL①発表	全員																														
第 10 回：PBL①発表講義（保健制度の解説等）	泉 良太、全員																														
第 11 回：技術講習（車いすの操作）	鈴木達也 全員																														
第 12 回：技術講習（車いすの操作）	鈴木達也、全員																														
第 13 回：技術講習（移動の介助、杖歩行など）	鈴木達也、全員																														
第 14 回：講義	全員																														
第 15 回：授業のまとめ	伊藤信寿																														

アクティブ ラーニング	前半は問題基盤型学習 (Problem Based Learning : PBL) を中心に進めます。 後半では、技術講習を主体とした演習を行います。
評価方法	定期試験 (60%)、レポート (20%)、ポートフォリオ内容 (20%)
課題に対す るフィード バック	筆記試験の終了後には個別に解説を行います。 授業最終日に、個別でポートフォリオ面接を実施し学修内容の確認とレポート返却をします。
指定図書	(1) 二木 淑子/能登 真一編：作業療法学概論 第3版, 医学書院, 東京, 2016. (2) 石川斉, 古川宏編：図解作業療法技術ガイドー根拠と臨床経験にもとづいた効果的な実践のすべて, 第3版, 文光堂, 東京, 2003.
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	事前・事後学習は40分を目安とします。事前学習ではテキストの該当箇所を目を通しておいて下さい。事後学習では、授業で示された内容のポイントを確認し、日にちが経ってもその情報にたどり着けるように工夫して下さい。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	作業科学と作業療法																																	
科目責任者	鈴木 達也																																	
単位数他	1 単位 (30 時間) 作業必修 2 セメスター																																	
DP 番号と科目領域	DP2 専門																																	
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。																																	
科目概要	作業療法は作業を通して人々の健康を促進します。本科目では、その作業療法の基礎学問である作業科学を理解し、作業療法士としてどのように人々の健康を促進するかを学びます。さらに、作業療法場面の治療、援助の指針になる作業療法の理論を学びます。																																	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業的存在としての人間の理解を深める</li> <li>2. 作業の視点を通じた人間の健康を理解する</li> <li>3. 作業療法の理論と実践を知り専門性を理解する</li> </ol>																																	
授業計画	<p>&lt;科目担当教員&gt;鈴木達也・富澤涼子・飯田妙子・伊藤信寿・泉良太・藤田さより</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th>&lt;担当教員名&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：作業科学とは (WHO、WFOT)</td> <td>鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第2回：健康と作業</td> <td>鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第3回：健康と作業</td> <td>鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第4回：作業的校正、作業的存在</td> <td>鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第5回：作業療法と作業科学の歴史</td> <td>鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第6回：作業療法と作業科学の歴史</td> <td>鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第7回：作業と遂行文脈</td> <td>鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第8回：作業と遂行文脈</td> <td>鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第9回：作業的公正</td> <td>鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第10回：作業療法の理論と実践</td> <td>鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第11回：実践報告 (精神科、就労支援、発達)</td> <td>鈴木達也、伊藤信寿、飯田妙子、藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第12回：作業療法の理論と実践報告 (身体、老年期)</td> <td>鈴木達也、富澤涼子、泉良太</td> </tr> <tr> <td>第13回：作業科学と作業療法の実践</td> <td>特別講師</td> </tr> <tr> <td>第14回：海外の作業療法実践</td> <td>鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第15回：学びの発表</td> <td>鈴木達也</td> </tr> </tbody> </table>		<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：作業科学とは (WHO、WFOT)	鈴木達也	第2回：健康と作業	鈴木達也	第3回：健康と作業	鈴木達也	第4回：作業的校正、作業的存在	鈴木達也	第5回：作業療法と作業科学の歴史	鈴木達也	第6回：作業療法と作業科学の歴史	鈴木達也	第7回：作業と遂行文脈	鈴木達也	第8回：作業と遂行文脈	鈴木達也	第9回：作業的公正	鈴木達也	第10回：作業療法の理論と実践	鈴木達也	第11回：実践報告 (精神科、就労支援、発達)	鈴木達也、伊藤信寿、飯田妙子、藤田さより	第12回：作業療法の理論と実践報告 (身体、老年期)	鈴木達也、富澤涼子、泉良太	第13回：作業科学と作業療法の実践	特別講師	第14回：海外の作業療法実践	鈴木達也	第15回：学びの発表	鈴木達也
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																	
第1回：作業科学とは (WHO、WFOT)	鈴木達也																																	
第2回：健康と作業	鈴木達也																																	
第3回：健康と作業	鈴木達也																																	
第4回：作業的校正、作業的存在	鈴木達也																																	
第5回：作業療法と作業科学の歴史	鈴木達也																																	
第6回：作業療法と作業科学の歴史	鈴木達也																																	
第7回：作業と遂行文脈	鈴木達也																																	
第8回：作業と遂行文脈	鈴木達也																																	
第9回：作業的公正	鈴木達也																																	
第10回：作業療法の理論と実践	鈴木達也																																	
第11回：実践報告 (精神科、就労支援、発達)	鈴木達也、伊藤信寿、飯田妙子、藤田さより																																	
第12回：作業療法の理論と実践報告 (身体、老年期)	鈴木達也、富澤涼子、泉良太																																	
第13回：作業科学と作業療法の実践	特別講師																																	
第14回：海外の作業療法実践	鈴木達也																																	
第15回：学びの発表	鈴木達也																																	

アクティブ ラーニング	グループ学習、PBL、プレゼンテーション
評価方法	筆記試験 40%、レポート 20%、ポートフォリオ 40%、計 100% ・レポート・ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する
課題に対する フィード バック	レポート・ポートフォリオ・リアクションペーパーへのコメントと返却
指定図書	吉川ひろみ：「作業」って何だろう第2版、医歯薬出版、2017
参考図書	佐藤剛ら訳：作業科学、三輪書店 矢谷令子：作業療法学概論、医学書院
事前・ 事後学修	事前学修時間 40 分、事後学修時間 40 分 講義中に事前課題および事後課題について提示する。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (tatsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	研究法入門
科目責任者	田島明子
単位数他	1単位(30時間) 作業必修 5セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	作業療法が医療専門職として存在し続けるには、他の療法との違いがどこにあり、社会の中でどのように機能し、どのような効果があるのかを明確に示さなければならない。その手段の1つが研究である。この科目では、早期に研究の基礎となる枠組みに触れ、研究の意義と面白さを実感し、4年間の学びの中に研究的視点を包含できることを目指す。
到達目標	1. 研究の定義と研究の意義について説明できる 2. 研究の分類(量的・質的など)と具体的進め方について説明できる 3. 研究に伴う倫理的配慮とデータの管理の重要性について説明できる 4. 自分の興味に基づくテーマを研究疑問の形で表現できる
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;田島明子、泉良太、伊藤信寿、中島ともみ、富澤涼子、藤田さより</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション、研究とは、作業療法研究の位置付け等 田島明子 研究とは何か、作業療法実践における研究の位置付けについて説明する。</p> <p>第2回：研究疑問と研究の様式(量的・質的)、研究の流れなど 泉良太 研究疑問の作り方、研究方法、研究の流れについて説明する。</p> <p>第3回：文献検索の仕方、図書館の利用：図書館司書による説明 泉良太 研究を行うにあたり必要な、文献検索、図書館の利用方法について説明する。</p> <p>第4回：研究計画書の作成と実施 泉良太 研究計画書の作成と実施の方法について説明する。</p> <p>第5～6回：質的研究法について 田島明子 質的研究の魅力、哲学、質の評価、データ収集方法について説明し、KJ法を用い、グループで質的研究を行うことも体験する。</p> <p>第7～8回：研究の倫理と管理 田島明子 研究倫理とは何か、なぜ必要か、ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセント、個人情報の保護、研究成果を発表する際の留意点について説明する。</p> <p>第9～10回：研究テーマの検討(PBL) 田島明子、泉良太、富澤涼子 第1回～第8回までの講義内容を踏まえ、各人で研究計画書を作成する。</p> <p>第11～13回：興味あるテーマ発表(1名ずつ) 田島明子、泉良太、富澤涼子 各人が作成した研究計画書について発表する。</p> <p>第14～15回：研究の実際①、研究の実際②、研究の実際③ 中島ともみ、藤田さより 授業のまとめ 伊藤信寿、泉良太、富澤涼子、田島明子 本科目のまとめとして作業療法学科教員の研究の実際について紹介する。</p> <p>※テーマや内容は進度により変更の可能性がある。詳細はオリエンテーションで説明する。</p>

アクティブ ラーニング	研究テーマをPBLで検討していきます。研究テーマを考えることは研究の面白さ、難しさを知る機会になると思います。主体的・積極的に参加をし、研究視点を持つことの基礎を習得してください。
評価方法	定期試験 (40%)、テーマ発表 (40%)、ポートフォリオ内容 (20%)
課題に対する フィード バック	事前学修 20 分以上、事後学修 20 分以上 小テストにおいて、学修の理解度を確認していきます。小テストは全問正解に至るよう再提出を求めます。その過程のなかで自己学習を進めてください。
指定図書	鎌倉矩子・宮前珠子・清水 一：作業療法士のための研究法入門. 三輪書店, 東京, 1997
参考図書	なし。
事前・ 事後学修	事前学修時間 20 分以上、事後学修時間 20 分以上 事前学習：授業は学びのきっかけであることを意識しその準備をすることと捉える。具体的には指定図書の該当する章に予め目を通しポイントを把握しておく。 事後学習：テキストや配布資料のポイントの再確認をし、いつでもその情報に辿り着ける工夫をする。具体的にはキーワードへのアンダーラインやマーキング、付箋の添付などをお勧めする。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (akiko-t@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	作業療法評価学総論
科目責任者	田島明子
単位数他	1 単位 (15 時間) 作業必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	まず、評価の理念について学習する。これは、以後の学習を進める上での基礎になる部分である。そして、医療・保健・福祉分野における包括的評価である ICF (国際障害分類: International Classification of Functioning, Disability and Health) について、障害の捉え方、使用法、適用について学ぶ。
到達目標	「作業療法における評価の基礎を学ぶ」ことをテーマに 1. 作業療法評価の基本概念について理解を深めること 2. 包括的評価である ICF について、障害の捉え方、使用法、適用について知識を得ることを目標とする。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 担当教員：田島明子</p> <p>第 1 回：評価とは何か 評価とは何かについて説明する。</p> <p>第 2 回：作業療法プロセスにおける評価の位置づけ 作業療法の実践プロセスのなかで評価はどこに位置づくかについて説明する。</p> <p>第 3～4 回：ICF 概念に基づいた包括的評価 (ICF における障害の捉え方) ICF とは何か、ICIDH の問題点と ICF の利点、ICF の障害の捉え方について説明する。</p> <p>第 5～6 回：ICF 概念に基づいた包括的評価 (ICF の使用法) ICF を用いてどのように包括的評価を行うかについて説明する。</p> <p>第 7～8 回：ICF 概念に基づいた包括的評価 (ICF の適用) 臨床実習を経験した先輩より、実習で ICF をどのように使い、包括的評価を行ったか話しをしてもらう。</p>

アクティブ ラーニング	各回の終わりに講義した内容について小テストを行います。小テストは間違えた箇所をしっかりと復習し、正しい回答が書かれたものの再提出を求めます。
評価方法	定期試験 60%、レポート 15%、小テスト 25%
課題に対する フィード バック	小テスト、ポートフォリオ提出によって、一人ひとりの学習状況を確認し、必要な学修について、適宜、アドバイスを行っていきます。
指定図書	岩崎テル子ら編『標準作業療法学 専門分野「作業療法評価学」』医学書院 上田敏著 2005『ICF の理解と活用』萌文社
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修時間 20 分以上、事後学修時間 20 分以上 各回の講義の該当部分の教科書、参考書を事前に読んでおくこと。各回の終わりに講義した内容について小テストを行います。小テストは間違えた箇所をしっかりと復習し、正しい回答が書かれたものの再提出を求めます。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (akiko-t@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	作業療法評価学演習																																																														
科目責任者	藤田 さより																																																														
単位数他	2単位(60時間) 作業必修 3セメスター																																																														
DP番号と科目領域	DP5 専門																																																														
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。																																																														
科目概要	作業療法の基礎となる、「対象者との良好なコミュニケーション」、「観察評価」、「記録」について施設実習を通じて学び、それらの基礎力を身につける。また作業療法で用いる主要な評価法について理解し、実践する。さらに作業療法の評価から実施までの流れを理解する。																																																														
到達目標	①対象者の行動や表情、動きなどの「観察のポイント」を述べるができる。 ②対象者の行動や表情、動きなどを観察し、レポートに書くことができる。 ③情報収集・観察から得た情報から、考察を行い、レポートにまとめることができる。 ④作業療法にて用いる主要な評価の概要や流れを理解し、述べられる。 ⑤作業療法の対象領域について理解し、評価から作業療法実施までの流れを考え、述べられる。																																																														
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: left;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</td> <td style="text-align: right;">&lt;担当教員名&gt;</td> </tr> <tr> <td>第1回 オリエンテーション</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第2回 評価の基礎（観察、記録、考察）・評価をするうえで重要な視点</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第3回 COPMについて</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第4回 COPMの実践</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第5回 生活行為向上マネジメントについて</td> <td style="text-align: right;">泉良太, 藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第6回 生活行為向上マネジメントについて</td> <td style="text-align: right;">泉良太, 藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第7回 AMPSについて</td> <td style="text-align: right;">鈴木達也・藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第8回 AMPSについて</td> <td style="text-align: right;">鈴木達也・藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第9回 AMPSの実践</td> <td style="text-align: right;">鈴木達也・藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第10回 AMPSの実践</td> <td style="text-align: right;">鈴木達也・藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第11回 クライアント中心の作業療法の実践</td> <td style="text-align: right;">鈴木達也・藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第12回 クライアント中心の作業療法の実践</td> <td style="text-align: right;">鈴木達也・藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第13回 作業時の観察ポイント・姿勢・介助等</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第14回 作業時の観察ポイント・姿勢・介助等</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第15回 作業療法の実践 施設利用者との園芸活動</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第16回 作業療法の実践 施設利用者との園芸活動</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第17回 作業療法の実践 施設利用者との園芸活動</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第18回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第19回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第20回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第21回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第22回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第23回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第24回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第25回 アクティブラーニング 報告</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第26回 アクティブラーニング 報告</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第27回 PBL（事例から作業療法の流れ・評価を理解する）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第28回 PBL（事例から作業療法の流れ・評価を理解する）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第29回 まとめ</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第30回 まとめ</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> </table> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用いる。</p>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回 オリエンテーション	藤田さより	第2回 評価の基礎（観察、記録、考察）・評価をするうえで重要な視点	藤田さより	第3回 COPMについて	藤田さより・飯田妙子	第4回 COPMの実践	藤田さより・飯田妙子	第5回 生活行為向上マネジメントについて	泉良太, 藤田さより	第6回 生活行為向上マネジメントについて	泉良太, 藤田さより	第7回 AMPSについて	鈴木達也・藤田さより	第8回 AMPSについて	鈴木達也・藤田さより	第9回 AMPSの実践	鈴木達也・藤田さより	第10回 AMPSの実践	鈴木達也・藤田さより	第11回 クライアント中心の作業療法の実践	鈴木達也・藤田さより	第12回 クライアント中心の作業療法の実践	鈴木達也・藤田さより	第13回 作業時の観察ポイント・姿勢・介助等	藤田さより	第14回 作業時の観察ポイント・姿勢・介助等	藤田さより	第15回 作業療法の実践 施設利用者との園芸活動	藤田さより・飯田妙子	第16回 作業療法の実践 施設利用者との園芸活動	藤田さより・飯田妙子	第17回 作業療法の実践 施設利用者との園芸活動	藤田さより・飯田妙子	第18回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践	藤田さより・飯田妙子	第19回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践	藤田さより・飯田妙子	第20回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践	藤田さより・飯田妙子	第21回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践	藤田さより・飯田妙子	第22回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践	藤田さより・飯田妙子	第23回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践	藤田さより・飯田妙子	第24回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践	藤田さより・飯田妙子	第25回 アクティブラーニング 報告	藤田さより・飯田妙子	第26回 アクティブラーニング 報告	藤田さより・飯田妙子	第27回 PBL（事例から作業療法の流れ・評価を理解する）	藤田さより	第28回 PBL（事例から作業療法の流れ・評価を理解する）	藤田さより	第29回 まとめ	藤田さより	第30回 まとめ	藤田さより
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																																														
第1回 オリエンテーション	藤田さより																																																														
第2回 評価の基礎（観察、記録、考察）・評価をするうえで重要な視点	藤田さより																																																														
第3回 COPMについて	藤田さより・飯田妙子																																																														
第4回 COPMの実践	藤田さより・飯田妙子																																																														
第5回 生活行為向上マネジメントについて	泉良太, 藤田さより																																																														
第6回 生活行為向上マネジメントについて	泉良太, 藤田さより																																																														
第7回 AMPSについて	鈴木達也・藤田さより																																																														
第8回 AMPSについて	鈴木達也・藤田さより																																																														
第9回 AMPSの実践	鈴木達也・藤田さより																																																														
第10回 AMPSの実践	鈴木達也・藤田さより																																																														
第11回 クライアント中心の作業療法の実践	鈴木達也・藤田さより																																																														
第12回 クライアント中心の作業療法の実践	鈴木達也・藤田さより																																																														
第13回 作業時の観察ポイント・姿勢・介助等	藤田さより																																																														
第14回 作業時の観察ポイント・姿勢・介助等	藤田さより																																																														
第15回 作業療法の実践 施設利用者との園芸活動	藤田さより・飯田妙子																																																														
第16回 作業療法の実践 施設利用者との園芸活動	藤田さより・飯田妙子																																																														
第17回 作業療法の実践 施設利用者との園芸活動	藤田さより・飯田妙子																																																														
第18回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践	藤田さより・飯田妙子																																																														
第19回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践	藤田さより・飯田妙子																																																														
第20回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践	藤田さより・飯田妙子																																																														
第21回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践	藤田さより・飯田妙子																																																														
第22回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践	藤田さより・飯田妙子																																																														
第23回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践	藤田さより・飯田妙子																																																														
第24回 アクティブラーニング 園芸を利用した作業療法の実践	藤田さより・飯田妙子																																																														
第25回 アクティブラーニング 報告	藤田さより・飯田妙子																																																														
第26回 アクティブラーニング 報告	藤田さより・飯田妙子																																																														
第27回 PBL（事例から作業療法の流れ・評価を理解する）	藤田さより																																																														
第28回 PBL（事例から作業療法の流れ・評価を理解する）	藤田さより																																																														
第29回 まとめ	藤田さより																																																														
第30回 まとめ	藤田さより																																																														
アクティブラーニング	演習・実習科目です。PBLを行います。																																																														

評価方法	小テスト 20% 発表 20% レポート 60%
課題に対するフィードバック	小テストは返却致します。レポートに関してはコメントを記入し返却致します。フィードバックペーパーの内容に基づき次回授業時にコメントおよび講義等を行います。
指定図書	吉川ひろみ 『作業療法がわかる COPM・AMPS スターティングガイド』 医学書院 齋藤佑樹編 『作業で語る事例報告』 医学書院
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	「観察力」には、解剖・運動学の知識が必要不可欠です。その為に前半（1～14回）運動学・解剖学の復習を行ってください。初回に事前学修のためのテキストをお渡しします（毎回40分）。後半は（15～30回）は、COPM、AMPSの評価方法・評価項目について教科書を熟読し、演習に備えてください。また作業療法の各種理論についても資料を熟読してください（毎回40分）。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（sayori-f@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	身体領域作業療法評価学																																																																																										
科目責任者	泉 良太																																																																																										
単位数他	2単位 (60 時間) 作業必修 4 セメスター																																																																																										
DP 番号と科目領域	DP2 専門																																																																																										
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																																																																										
科目概要	講義、演習を通じて身体機能の評価方法を知り、身体機能の検査測定技術（関節可動域、筋力、筋緊張、感覚、脳神経、反射、姿勢反射、協調性、随意性、上肢機能検査等）および面接・観察技術を修得する。演習では実際の対象者に対して評価を行い、協力者からの指導を得る。演習後には評価結果から統合と解釈を実施し、対象者の生活との関連について理解する。																																																																																										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体障害領域における作業療法評価の目的、適応、禁忌事項について説明できる。</li> <li>2. 作業療法の評価計画を立案することができる。</li> <li>3. 学修した評価を正しく実施できる。</li> <li>4. 評価結果を統合解釈し、病態を的確に分析することができる。</li> <li>5. 評価結果から生活にどのような影響を及ぼすのかを説明する事ができる。</li> </ol>																																																																																										
授業計画	<p>&lt;科目担当教員&gt;  泉良太、鈴木達也、中島ともみ、田島明子、伊藤信寿、富澤涼子、藤田さより、飯田妙子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>: オリエンテーション、意識の評価</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>: バイタルサインの測定、形態計測</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>: バイタルサインの測定、形態計測</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>: 関節可動域測定</td> <td>泉 良太、鈴木達也、中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>: 関節可動域測定</td> <td>泉 良太、鈴木達也、中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>: 関節可動域測定</td> <td>泉 良太、鈴木達也、中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>: 筋力検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也、中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>: 筋力検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也、中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>: 筋力検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也、中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>: 筋力検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也、中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>: 筋緊張検査、随意性検査 (BRS)</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>: 感覚知覚検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>: 感覚知覚検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>: 脳神経検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>: 脳神経検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>: 反射検査、姿勢反射検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第17回</td> <td>: 反射検査、姿勢反射検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第18回</td> <td>: 演習 1</td> <td>科目担当教員全員</td> </tr> <tr> <td>第19回</td> <td>: 演習 1</td> <td>科目担当教員全員</td> </tr> <tr> <td>第20回</td> <td>: 演習 1</td> <td>科目担当教員全員</td> </tr> <tr> <td>第21回</td> <td>: 協調性検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第22回</td> <td>: 協調性検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第23回</td> <td>: 上肢機能検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第24回</td> <td>: 上肢機能検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第25回</td> <td>: 事例検討 (演習 1 について)</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第26回</td> <td>: 演習 2</td> <td>科目担当教員全員</td> </tr> <tr> <td>第27回</td> <td>: 演習 2</td> <td>科目担当教員全員</td> </tr> <tr> <td>第28回</td> <td>: 演習 2</td> <td>科目担当教員全員</td> </tr> <tr> <td>第29回</td> <td>: 評価のまとめ</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第30回</td> <td>: 評価のまとめ</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> </table> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用いる。</p>	第1回	: オリエンテーション、意識の評価	泉 良太、鈴木達也	第2回	: バイタルサインの測定、形態計測	泉 良太、鈴木達也	第3回	: バイタルサインの測定、形態計測	泉 良太、鈴木達也	第4回	: 関節可動域測定	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ	第5回	: 関節可動域測定	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ	第6回	: 関節可動域測定	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ	第7回	: 筋力検査	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ	第8回	: 筋力検査	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ	第9回	: 筋力検査	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ	第10回	: 筋力検査	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ	第11回	: 筋緊張検査、随意性検査 (BRS)	泉 良太、鈴木達也	第12回	: 感覚知覚検査	泉 良太、鈴木達也	第13回	: 感覚知覚検査	泉 良太、鈴木達也	第14回	: 脳神経検査	泉 良太、鈴木達也	第15回	: 脳神経検査	泉 良太、鈴木達也	第16回	: 反射検査、姿勢反射検査	泉 良太、鈴木達也	第17回	: 反射検査、姿勢反射検査	泉 良太、鈴木達也	第18回	: 演習 1	科目担当教員全員	第19回	: 演習 1	科目担当教員全員	第20回	: 演習 1	科目担当教員全員	第21回	: 協調性検査	泉 良太、鈴木達也	第22回	: 協調性検査	泉 良太、鈴木達也	第23回	: 上肢機能検査	泉 良太、鈴木達也	第24回	: 上肢機能検査	泉 良太、鈴木達也	第25回	: 事例検討 (演習 1 について)	泉 良太、鈴木達也	第26回	: 演習 2	科目担当教員全員	第27回	: 演習 2	科目担当教員全員	第28回	: 演習 2	科目担当教員全員	第29回	: 評価のまとめ	泉 良太、鈴木達也	第30回	: 評価のまとめ	泉 良太、鈴木達也
第1回	: オリエンテーション、意識の評価	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第2回	: バイタルサインの測定、形態計測	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第3回	: バイタルサインの測定、形態計測	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第4回	: 関節可動域測定	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ																																																																																									
第5回	: 関節可動域測定	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ																																																																																									
第6回	: 関節可動域測定	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ																																																																																									
第7回	: 筋力検査	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ																																																																																									
第8回	: 筋力検査	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ																																																																																									
第9回	: 筋力検査	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ																																																																																									
第10回	: 筋力検査	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ																																																																																									
第11回	: 筋緊張検査、随意性検査 (BRS)	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第12回	: 感覚知覚検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第13回	: 感覚知覚検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第14回	: 脳神経検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第15回	: 脳神経検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第16回	: 反射検査、姿勢反射検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第17回	: 反射検査、姿勢反射検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第18回	: 演習 1	科目担当教員全員																																																																																									
第19回	: 演習 1	科目担当教員全員																																																																																									
第20回	: 演習 1	科目担当教員全員																																																																																									
第21回	: 協調性検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第22回	: 協調性検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第23回	: 上肢機能検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第24回	: 上肢機能検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第25回	: 事例検討 (演習 1 について)	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第26回	: 演習 2	科目担当教員全員																																																																																									
第27回	: 演習 2	科目担当教員全員																																																																																									
第28回	: 演習 2	科目担当教員全員																																																																																									
第29回	: 評価のまとめ	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第30回	: 評価のまとめ	泉 良太、鈴木達也																																																																																									

アクティブ ラーニング	グループ学修、体験学習
評価方法	筆記試験 40%、実技試験 40%、ポートフォリオ 20%、計 100%
課題に対する フィード バック	演習レポート・ポートフォリオ・リアクションペーパーへのコメント・返却
指定図書	能登真一：作業療法評価学 第3版、医学書院、2017 津山直一、中村耕三：新・徒手筋力検査法 原著第9版、協同医書出版社、2014 田崎義明、斎藤佳雄：ベッドサイドの神経の診かた 第18版、南山堂、2016
参考図書	必要に応じて授業中に紹介する
事前・ 事後学修	事前学修時間 20 分、事後学修時間 20 分 ・運動学、解剖学の復習をして参加しましょう。 ・実技練習は学生で互いに練習を重ねましょう。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール ( <a href="mailto:ryota-i@seirei.ac.jp">ryota-i@seirei.ac.jp</a> ) で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	老年期作業療法評価学																															
科目責任者	鈴木達也																															
単位数他	1単位 (30時間) 作業必修 5セメスター																															
DP番号と科目領域	DP2 専門																															
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																															
科目概要	老年期に特徴的な身体、精神、認知面に関する生理的変化や環境面の評価法について学ぶ。作業療法の分野をはじめ標準化された評価法だけでなく、観察や面接から得られる情報を基に対象者が生きてきた人生を知り、作業療法プログラムを展開できることを学ぶ。施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の心身機能について特徴を把握する事が出来る</li> <li>2. 評価法の名前とその目的を理解し使用できる</li> <li>3. 評価法の種類（主観的、客観的、観察法・質問法、自己記入式等）を理解し使用できる</li> <li>4. 得られた結果を解釈しプログラム立案に役立てることが出来る</li> </ol>																															
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;鈴木達也・富澤涼子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回：オリエンテーション・高齢者の評価基本的態度</td> <td>&lt;担当：鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第2回：人間作業モデル（MOHO）と面接評価法</td> <td>&lt;担当：鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第3回：作業療法理論に基づく評価法、生活史とQOL</td> <td>&lt;担当：鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第4回：高齢者の意思、興味、価値、作業バランス</td> <td>&lt;担当：鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第5回：ADL, 行動面の評価</td> <td>&lt;担当：鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第6回：高齢者の心身機能の特徴と評価</td> <td>&lt;担当：鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第7回：高齢者体験</td> <td>&lt;担当：鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第8回：認知機能・精神機能面の評価</td> <td>&lt;担当：鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第9回：使用可能な制度について</td> <td>&lt;担当：鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第10回：環境の評価</td> <td>&lt;担当：鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第11回：介護負担・介護予防・健康増進</td> <td>&lt;担当：鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第12回：終末期における評価</td> <td>&lt;担当：鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第13回：高齢期領域の作業療法の事例1</td> <td>&lt;担当：鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第14回：高齢期領域の作業療法の事例2</td> <td>&lt;担当：鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td>&lt;担当：鈴木・富澤&gt;</td> </tr> </table> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用いる。</p>		第1回：オリエンテーション・高齢者の評価基本的態度	<担当：鈴木・富澤>	第2回：人間作業モデル（MOHO）と面接評価法	<担当：鈴木・富澤>	第3回：作業療法理論に基づく評価法、生活史とQOL	<担当：鈴木・富澤>	第4回：高齢者の意思、興味、価値、作業バランス	<担当：鈴木・富澤>	第5回：ADL, 行動面の評価	<担当：鈴木・富澤>	第6回：高齢者の心身機能の特徴と評価	<担当：鈴木・富澤>	第7回：高齢者体験	<担当：鈴木・富澤>	第8回：認知機能・精神機能面の評価	<担当：鈴木・富澤>	第9回：使用可能な制度について	<担当：鈴木・富澤>	第10回：環境の評価	<担当：鈴木・富澤>	第11回：介護負担・介護予防・健康増進	<担当：鈴木・富澤>	第12回：終末期における評価	<担当：鈴木・富澤>	第13回：高齢期領域の作業療法の事例1	<担当：鈴木・富澤>	第14回：高齢期領域の作業療法の事例2	<担当：鈴木・富澤>	第15回：まとめ	<担当：鈴木・富澤>
第1回：オリエンテーション・高齢者の評価基本的態度	<担当：鈴木・富澤>																															
第2回：人間作業モデル（MOHO）と面接評価法	<担当：鈴木・富澤>																															
第3回：作業療法理論に基づく評価法、生活史とQOL	<担当：鈴木・富澤>																															
第4回：高齢者の意思、興味、価値、作業バランス	<担当：鈴木・富澤>																															
第5回：ADL, 行動面の評価	<担当：鈴木・富澤>																															
第6回：高齢者の心身機能の特徴と評価	<担当：鈴木・富澤>																															
第7回：高齢者体験	<担当：鈴木・富澤>																															
第8回：認知機能・精神機能面の評価	<担当：鈴木・富澤>																															
第9回：使用可能な制度について	<担当：鈴木・富澤>																															
第10回：環境の評価	<担当：鈴木・富澤>																															
第11回：介護負担・介護予防・健康増進	<担当：鈴木・富澤>																															
第12回：終末期における評価	<担当：鈴木・富澤>																															
第13回：高齢期領域の作業療法の事例1	<担当：鈴木・富澤>																															
第14回：高齢期領域の作業療法の事例2	<担当：鈴木・富澤>																															
第15回：まとめ	<担当：鈴木・富澤>																															

アクティブ ラーニング	グループワーク、PBL、施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
評価方法	定期試験 50% レポート 30%、ポートフォリオ 20% ・レポート・ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。 ・ルーブリックの内容は授業中に提示する
課題に対する フィード バック	レポート、リアクションペーパーのコメント、返却
指定図書	日本作業療法協会監修：「作業療法治療学 4 老年期」作業療法全書、協同医書出版
参考図書	日本作業療法協会監修：「作業療法治療学 4 老年期」作業療法全書、協同医書出版 宮口秀樹監修：認知症を持つ人への作業療法アプローチ、メディカルビュー 高齢者のその人らしさを支える作業療法、文光堂
事前・ 事後学修	事前学修時間 40 分、事後学修時間 40 分 ・これまでに学んだ評価法を復習しましょう ・グループで相談し演習計画や評価の練習を行いましょ
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部                      研究室：3511 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (tatsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	基礎作業学		
科目責任者	藤田 さより		
単位数他	2単位数 (60時間) 作業必修 2 Semester		
DP 番号と科目領域	DP3 専門		
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。		
科目概要	1. 作業療法で利用される活動のうち、陶芸、織物、革細工、木工などの基本的技法を学ぶ。 2. 各作業が人に与える身体的・心理的影響を、自己を通して洞察出来る。 3. 作業分析の基礎を学ぶ。		
到達目標	1. 陶芸、織物、革細工、木工が人にどのような身体的・心理的影響を与えているか自分自身で感じ、述べる事ができる。 2. 共同作品を作成し作業が人とのつながり、広がりをもたらす効果を感じ、述べる事ができる。		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション・講義</p> <p>第2回：身体表現</p> <p>第3回：身体表現</p> <p>第4回：身体表現</p> <p>第5回：身体表現</p> <p>第6回：陶芸</p> <p>第7回：陶芸</p> <p>第8回：陶芸</p> <p>第9回：陶芸</p> <p>第10回：陶芸</p> <p>第11回：陶芸</p> <p>第12回：革細工</p> <p>第13回：革細工</p> <p>第14回：革細工</p> <p>第15回：革細工</p> <p>第16回：革細工</p> <p>第17回：革細工</p> <p>第18回：さをり織り</p> <p>第19回：さをり織り</p> <p>第20回：さをり織り</p> <p>第21回：さをり織り</p> <p>第22回：さをり織り</p> <p>第23回：さをり織り</p> <p>第24回：木工</p> <p>第25回：木工</p> <p>第26回：木工</p> <p>第27回：木工</p> <p>第28回：木工</p> <p>第29回：木工</p> <p>第30回：まとめ</p> <p>外部講師の都合により実施順が変更になる可能性があります。改めて授業スケジュールを初回に配布します</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>藤田さより</p> <p>河本のぞみ, 藤田さより</p> <p>河本のぞみ, 藤田さより</p> <p>河本のぞみ, 藤田さより</p> <p>河本のぞみ, 藤田さより</p> <p>綿貫克彦, 藤田さより</p> <p>綿貫克彦, 藤田さより</p> <p>綿貫克彦, 藤田さより</p> <p>綿貫克彦, 藤田さより</p> <p>綿貫克彦, 藤田さより</p> <p>綿貫克彦, 藤田さより</p> <p>永田征司, 藤田さより</p> <p>永田征司, 藤田さより</p> <p>永田征司, 藤田さより</p> <p>永田征司, 藤田さより</p> <p>永田征司, 藤田さより</p> <p>永田征司, 藤田さより</p> <p>須藤弘子, 藤田さより,</p> <p>須藤弘子, 藤田さより</p> <p>須藤弘子, 藤田さより</p> <p>須藤弘子, 藤田さより</p> <p>須藤弘子, 藤田さより</p> <p>須藤弘子, 藤田さより</p> <p>ゲストスピーカー, 藤田さより</p> <p>ゲストスピーカー, 藤田さより</p> <p>ゲストスピーカー, 藤田さより</p> <p>ゲストスピーカー, 藤田さより</p> <p>ゲストスピーカー, 藤田さより</p> <p>ゲストスピーカー, 藤田さより</p> <p>藤田さより</p> </td> </tr> </table>	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション・講義</p> <p>第2回：身体表現</p> <p>第3回：身体表現</p> <p>第4回：身体表現</p> <p>第5回：身体表現</p> <p>第6回：陶芸</p> <p>第7回：陶芸</p> <p>第8回：陶芸</p> <p>第9回：陶芸</p> <p>第10回：陶芸</p> <p>第11回：陶芸</p> <p>第12回：革細工</p> <p>第13回：革細工</p> <p>第14回：革細工</p> <p>第15回：革細工</p> <p>第16回：革細工</p> <p>第17回：革細工</p> <p>第18回：さをり織り</p> <p>第19回：さをり織り</p> <p>第20回：さをり織り</p> <p>第21回：さをり織り</p> <p>第22回：さをり織り</p> <p>第23回：さをり織り</p> <p>第24回：木工</p> <p>第25回：木工</p> <p>第26回：木工</p> <p>第27回：木工</p> <p>第28回：木工</p> <p>第29回：木工</p> <p>第30回：まとめ</p> <p>外部講師の都合により実施順が変更になる可能性があります。改めて授業スケジュールを初回に配布します</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>藤田さより</p> <p>河本のぞみ, 藤田さより</p> <p>河本のぞみ, 藤田さより</p> <p>河本のぞみ, 藤田さより</p> <p>河本のぞみ, 藤田さより</p> <p>綿貫克彦, 藤田さより</p> <p>綿貫克彦, 藤田さより</p> <p>綿貫克彦, 藤田さより</p> <p>綿貫克彦, 藤田さより</p> <p>綿貫克彦, 藤田さより</p> <p>綿貫克彦, 藤田さより</p> <p>永田征司, 藤田さより</p> <p>永田征司, 藤田さより</p> <p>永田征司, 藤田さより</p> <p>永田征司, 藤田さより</p> <p>永田征司, 藤田さより</p> <p>永田征司, 藤田さより</p> <p>須藤弘子, 藤田さより,</p> <p>須藤弘子, 藤田さより</p> <p>須藤弘子, 藤田さより</p> <p>須藤弘子, 藤田さより</p> <p>須藤弘子, 藤田さより</p> <p>須藤弘子, 藤田さより</p> <p>ゲストスピーカー, 藤田さより</p> <p>ゲストスピーカー, 藤田さより</p> <p>ゲストスピーカー, 藤田さより</p> <p>ゲストスピーカー, 藤田さより</p> <p>ゲストスピーカー, 藤田さより</p> <p>ゲストスピーカー, 藤田さより</p> <p>藤田さより</p>
<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション・講義</p> <p>第2回：身体表現</p> <p>第3回：身体表現</p> <p>第4回：身体表現</p> <p>第5回：身体表現</p> <p>第6回：陶芸</p> <p>第7回：陶芸</p> <p>第8回：陶芸</p> <p>第9回：陶芸</p> <p>第10回：陶芸</p> <p>第11回：陶芸</p> <p>第12回：革細工</p> <p>第13回：革細工</p> <p>第14回：革細工</p> <p>第15回：革細工</p> <p>第16回：革細工</p> <p>第17回：革細工</p> <p>第18回：さをり織り</p> <p>第19回：さをり織り</p> <p>第20回：さをり織り</p> <p>第21回：さをり織り</p> <p>第22回：さをり織り</p> <p>第23回：さをり織り</p> <p>第24回：木工</p> <p>第25回：木工</p> <p>第26回：木工</p> <p>第27回：木工</p> <p>第28回：木工</p> <p>第29回：木工</p> <p>第30回：まとめ</p> <p>外部講師の都合により実施順が変更になる可能性があります。改めて授業スケジュールを初回に配布します</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>藤田さより</p> <p>河本のぞみ, 藤田さより</p> <p>河本のぞみ, 藤田さより</p> <p>河本のぞみ, 藤田さより</p> <p>河本のぞみ, 藤田さより</p> <p>綿貫克彦, 藤田さより</p> <p>綿貫克彦, 藤田さより</p> <p>綿貫克彦, 藤田さより</p> <p>綿貫克彦, 藤田さより</p> <p>綿貫克彦, 藤田さより</p> <p>綿貫克彦, 藤田さより</p> <p>永田征司, 藤田さより</p> <p>永田征司, 藤田さより</p> <p>永田征司, 藤田さより</p> <p>永田征司, 藤田さより</p> <p>永田征司, 藤田さより</p> <p>永田征司, 藤田さより</p> <p>須藤弘子, 藤田さより,</p> <p>須藤弘子, 藤田さより</p> <p>須藤弘子, 藤田さより</p> <p>須藤弘子, 藤田さより</p> <p>須藤弘子, 藤田さより</p> <p>須藤弘子, 藤田さより</p> <p>ゲストスピーカー, 藤田さより</p> <p>ゲストスピーカー, 藤田さより</p> <p>ゲストスピーカー, 藤田さより</p> <p>ゲストスピーカー, 藤田さより</p> <p>ゲストスピーカー, 藤田さより</p> <p>ゲストスピーカー, 藤田さより</p> <p>藤田さより</p>		

アクティブ ラーニング	演習科目です。
評価方法	作品の完成および作業分析レポート 100%
課題に対する フィード バック	レポート返却時に、コメントを記入します。
指定図書	山根寛編：『ひとと作業・作業活動』、三輪書店 クラフト学園研究室：革の技法楽しむための基本集、株式会社ヴォーグ社
参考図書	さをり織りの本「新・私の手織り SAORI」、城 みさを、ぶどう社 つくる・あそぶを治療にいかす作業活動実習マニュアル、古川 宏（監修）
事前・ 事後学修	事前学修：作業分析には解剖学、運動学の知識が必要となります。適宜これらについて課題を出していきます。(10分) 事後学修：作業分析を各作業種目で行います。(30分)
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	作業技術学																																
科目責任者	藤田さより																																
単位数他	1単位(30時間) 作業必修 3セメスター																																
DP番号と科目領域	DP3 専門																																
科目の位置付	様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。																																
科目概要	作業療法として多く利用される活動(紙細工、園芸、籐細工、染物など)の実践を交えながら、各活動の基本的技法を学び、作業が人に与える身体的・心理的・社会的な影響を考え、作業分析の基礎を学ぶ。さらに各作業の対象者への導入法を学ぶ。																																
到達目標	①作業療法として多く利用される活動を実践し、基本的技法を理解し、作品を完成できる。 ②作業が人に与える身体的・心理的・社会的な影響を述べることができる。 ③各作業の対象者への導入方法(段階付け)を考え、作業分析シートに記入することができる。 ④実際に対象者に園芸活動を適切な方法で実践できる。																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th>&lt;担当教員名&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：オリエンテーション、作業分析について</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第2回：非構成的作業の実践と作業分析</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第3回：構成的作業の実践と作業分析</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第4回：構成的作業の実践と作業分析</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第5回：園芸療法と作業療法</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第6回：室内園芸と作業分析</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第7回：音楽活動と作業療法</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第8回：音楽活動と作業療法</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第9回：編む作業(マクラメなど)</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第10回：編む作業(マクラメなど)</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第11回：作業療法と音楽活動</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第12回：対象者への導入方法とその効果を考える(籐細工)</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第13回：対象者への導入方法とその効果を考える(籐細工)</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第14回：対象者への導入方法とその効果を考える(染色)</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第15回：対象者への導入方法とその効果を考える(染色)</td> <td>藤田さより</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：オリエンテーション、作業分析について	藤田さより	第2回：非構成的作業の実践と作業分析	藤田さより	第3回：構成的作業の実践と作業分析	藤田さより	第4回：構成的作業の実践と作業分析	藤田さより	第5回：園芸療法と作業療法	藤田さより	第6回：室内園芸と作業分析	藤田さより	第7回：音楽活動と作業療法	藤田さより	第8回：音楽活動と作業療法	藤田さより	第9回：編む作業(マクラメなど)	藤田さより	第10回：編む作業(マクラメなど)	藤田さより	第11回：作業療法と音楽活動	藤田さより	第12回：対象者への導入方法とその効果を考える(籐細工)	藤田さより	第13回：対象者への導入方法とその効果を考える(籐細工)	藤田さより	第14回：対象者への導入方法とその効果を考える(染色)	藤田さより	第15回：対象者への導入方法とその効果を考える(染色)	藤田さより
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第1回：オリエンテーション、作業分析について	藤田さより																																
第2回：非構成的作業の実践と作業分析	藤田さより																																
第3回：構成的作業の実践と作業分析	藤田さより																																
第4回：構成的作業の実践と作業分析	藤田さより																																
第5回：園芸療法と作業療法	藤田さより																																
第6回：室内園芸と作業分析	藤田さより																																
第7回：音楽活動と作業療法	藤田さより																																
第8回：音楽活動と作業療法	藤田さより																																
第9回：編む作業(マクラメなど)	藤田さより																																
第10回：編む作業(マクラメなど)	藤田さより																																
第11回：作業療法と音楽活動	藤田さより																																
第12回：対象者への導入方法とその効果を考える(籐細工)	藤田さより																																
第13回：対象者への導入方法とその効果を考える(籐細工)	藤田さより																																
第14回：対象者への導入方法とその効果を考える(染色)	藤田さより																																
第15回：対象者への導入方法とその効果を考える(染色)	藤田さより																																

アクティブ ラーニング	演習科目です。
評価方法	レポート 80% 活動への取り組み・作品の完成 20%
課題に対する フィード バック	提出されたレポートコメントおよび評価を記入し返却致します。
指定図書	山根寛編：『ひとと作業・作業活動』、三輪書店
参考図書	原和子『園芸とリハビリテーション』エルゴ
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業分析を各作業すべてで実施します。作業分析に必要な解剖学・運動学について事前に復習してください。(毎回 40 分程度)</li> <li>・事後学修では作業分析シートを記入し、作業が人に与える影響等について分析してください。</li> <li>・障害者の方への介入を行いますので、介助方法について事前に復習してください。(7、8回)</li> </ul>
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部  研究室：3510 研究室  時間については、初回授業時に提示します。  上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	神経系作業療法学
科目責任者	泉 良太
単位数他	2単位 (60 時間) 作業必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	身体障害領域で主に作業療法の対象となる疾患の病態像および、疾患の特性を学修し、対象者に対しての作業療法実践課程の事例を通して基礎的な理論と知識・技術を学修する。疾患特性の復習を行い、疾患の特性と社会生活上の問題点を掘り下げて学習していく。
到達目標	1. 疾患の特徴を理解し、説明ができる。 2. 作業療法の対象となる方（疾患特性や社会背景など）に応じた介入を立案できる。 3. 作業療法の理論的枠組みを持った上で障害を説明することができる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員&gt; 泉 良太</p> <p>*事例検討はPBLで実施する。</p> <p>第1回 身体機能作業療法学の基礎 第2回 身体機能作業療法実践の枠組み・治療原理 第3回 脳血管障害と頭部外傷① 第4回 脳血管障害と頭部外傷② 第5回 事例検討 第6回 事例検討 第7回 事例検討 第8回 事例検討 第9回 事例検討 第10回 事例検討 第11回 事例検討 第12回 事例検討 第13回 フィードバック 第14回 事例検討 第15回 事例検討 第16回 事例検討 第17回 事例検討 第18回 事例検討 第19回 事例検討 第20回 事例検討 第21回 事例検討 第22回 発表 第23回 発表 第24回 中間確認テスト 第25回 振り返り（脳血管障害についてのまとめ） 第26回 神経変性疾患① 第27回 神経変性疾患② 第28回 神経・筋疾患 第29回 がん、廃用症候群 第30回 全体のまとめ</p>

アクティブ ラーニング	事例検討はPBL で実施する。
評価方法	ポートフォリオ 50%（まとめ、自己学修を含む）及び中間確認テスト 50%で判断する。 ポートフォリオ回収時に事前・事後学修について頻度及び時間を確認する。 なお、ポートフォリオはルーブリックを用いて評価し、ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィード バック	授業中に各グループを教員が巡回し課題へのヒントまたはフィードバックをする。 振り返り表及びポートフォリオ返却時にフィードバックを行う。 また、中間確認テストについてはテスト終了後に解説を行う。
指定図書	山口昇、玉垣努：身体機能作業療法学 第3版、医学書院、2016 石川齊、古川宏：作業療法技術ガイド 第3版、文光堂、2011 齋藤佑樹：作業で語る事例報告、医学書院、2014
参考図書	授業中に随時提示する。
事前・ 事後学修	グループごとに自ら課題を設定していくことになりますので、書籍及び文献等で調べてください。事前・事後学修を各回最低 40 分とする。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール ( <a href="mailto:ryota-i@seirei.ac.jp">ryota-i@seirei.ac.jp</a> ) で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	運動器系作業療法学	
科目責任者	中島ともみ	
単位数他	2単位 (60 時間) 作業必修 4 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP4 専門	
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。	
科目概要	①整形疾患領域の作業療法：骨折、腱損傷、末梢神経損傷、脊髄損傷、リウマチ、義肢装具 熱傷 ②内部障害の作業療法：腎疾患 ①・②について、リスク管理を踏まえたうえで、作業療法の評価から作業療法を実施する為の知識・技術・態度について学ぶ。	
到達目標	疾患の特性の理解し、評価から作業療法の実践につなげる過程を述べる事ができる。	
授業計画	<授業内容・テーマ等>  第 1～ 6 回：骨折（肩・肘・手・手指、物理療法も含む）・熱傷 拘縮、可動域制限のアプローチ、CRPS Type I・II  第 7～12 回：末梢神経損傷（正中神経・尺骨神経・橈骨神経） 変形予防、知覚のリハビリテーション  第 13～14 回：腱損傷 早期運動療法を含む  第 15～16 回：脊髄損傷 回復過程に合わせたアプローチの原則  第 17～22 回：リウマチ 変形予防と関節保護の動作指導  第 23～28 回：義肢装具 適用・チェックアウトとリハビリテーション  第 29：腎疾患 リスク管理と疾病に即した作業療法  第 30：熱傷 リスク管理と疾病に即した作業療法	<担当教員名>  中島ともみ  中島ともみ  中島ともみ  中島ともみ  中島ともみ  奥村修也  中島ともみ  中島ともみ

アクティブ ラーニング	PBL
評価方法	レポート 50% 定期試験 50% ポートフォリオの評価の視点>要点をまとめ、箇条書きにする事。色ペンなど使い、重要事項が一目でわかるようにまとめる事。講義内容が反映されていること。インデックスが貼られ、目次が作成してあること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。 PBL レポート>臨床推論のエビデンスが、図表を用いて述べられていること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。
課題に対する フィード バック	ポートフォリオ・レポートへのコメントと返却
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・菅原 洋子 (著、編集) 社団法人 日本作業療法士協会 (監修) 作業療法学全書 作業治療学身体障害 協同医書出版</li> <li>・石川齊・古川宏 (編集) 「作業療法技術ガイド」</li> <li>・古川 宏 (編集) 日本作業療法士協会 (監修) 作業療法学全書 義肢装具学 協同医書出版</li> </ul>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齋藤 慶一郎 (編さん) ハンドセラピー (リハ実践テクニック) メジカルビュー社</li> </ul>
事前・ 事後学修	<p>40分～80分</p> <p>整形疾患の回前に、筋肉の起始停止、神経支配を理解しておく事。各疾患別の作業療法では、疾患の病理学を見直しておく事。講義後は、学習内容をポートフォリオにまとめる事。</p> <p>以下は、参考とするとよいと考えられる図書。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上羽康夫 「手その機能と解剖」 金芳堂</li> <li>・中村耕三 等訳 「新・徒手筋力検査法 第8版」 協同医書出版</li> <li>・古川 宏 (編集) 作業療法のとらえかた 文光堂</li> <li>・齋藤 慶一郎 (編纂) ハンドセラピー (リハ実践テクニック) メジカルビュー社</li> </ul>
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3516 研究室 時間については、初回授業時に提示します。</p> <p>上記以外でもメール (tomomi-n@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	日常生活活動技術学
科目責任者	中島ともみ
単位数他	1単位数 (30時間数) 作業必修 5セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	基本的日常生活における作業の遂行方法を、疾患特有の機能障害、活動の特性をふまえた視点で評価し、作業療法アプローチを組み立てる方法を理解する。 福祉用具・住宅改装など環境調整の手段を学ぶ。
到達目標	①ADLとは何かを述べる事ができる。 ②ADL評価方法を述べる事ができる。 ③ADLの作業療法（直接的アプローチ・間接的アプローチ）を述べる事ができる。 ④ADLの指導方法を述べる事ができる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;中島ともみ</p> <p>第1回：ADLの定義と評価方法</p> <p>第2～5回：起居 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ（環境調整）</p> <p>第6～9回：座位 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ（環境調整）</p> <p>第10～13回：食事 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ（環境調整）</p> <p>第14～15回：移乗 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応</p>

アクティブ ラーニング	動作分析はグループワークでの学修を基本とする。
評価方法	レポート 50% 定期試験 50% ポートフォリオの評価の視点>要点をまとめ、箇条書きにする事。色ペンなど使い、重要事項が一目でわかるようにまとめる事。講義内容が反映されていること。インデックスが貼られ、目次が作成してあること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。 PBL レポート>臨床推論のエビデンスが、図表を用いて述べられていること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。
課題に対する フィード バック	ポートフォリオ・レポートへのコメントと返却
指定図書	生田宗博 「I・ADL 作業療法の戦略・戦術・技術」 三輪書店
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤利之 「ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際」 医学書院</li> <li>・作業療法のとらえかた</li> <li>・石原義恕/今野孝彦 「これのできるリウマチの作業療法」 南江堂</li> <li>・黒川幸雄 /大西秀明 「理学療法士のための6ステップ式臨床動作分析マニュアル」 文光堂</li> </ul>
事前・ 事後学修	40分～80分 動作分析を行う前に、筋肉の起始停止、運動を理解しておく事。講義後に、学習内容をポートフォリオにまとめる事。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3516 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (tomomi-n@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	日常生活活動技術学実習
科目責任者	中島ともみ
単位数他	1単位数(45時間) 作業必修 5セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	日常生活における作業の遂行方法を、疾患特有の機能障害、活動の特性をふまえた視点で評価し、作業療法アプローチを組み立てる方法を理解する。福祉用具・住宅改装など環境調整の手段を学ぶ。
到達目標	①ADL・IADL 評価方法を述べる事ができる。 ②ADL・IADL の作業療法（直接的アプローチ・間接的アプローチ）を述べる事ができる。 ③ADL・IADL の指導方法を述べる事ができる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員&gt;中島ともみ</p> <p>第1～2回：移動 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応</p> <p>第3～6回：更衣・入浴 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応</p> <p>第7回：ポジショニング 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応</p> <p>第8～9回：利き手交換 動作分析と直接的アプローチ間 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応</p> <p>第10回：義肢の使用と調整</p> <p>第11～12回：FIM FIMの採点基準</p> <p>第13～18回： 内部疾患 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応 吸引喀痰の技術習得も含む</p> <p>第19～23回：住宅改修 頸髄損傷 リウマチ 大腿骨頸部骨折 呼吸器</p>

アクティブ ラーニング	動作分析はグループワークでの学修を基本とする。 住宅改修ではPBLを用いる
評価方法	レポート 50% 定期試験 50% ポートフォリオの評価の視点>要点をまとめ、箇条書きにする事。色ペンなど使い、重要事項が一目でわかるようにまとめる事。講義内容が反映されていること。インデックスが貼られ、目次が作成してあること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。 PBL レポート>臨床推論のエビデンスが、図表を用いて述べられていること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。
課題に対する フィード バック	ポートフォリオ・レポートへのコメントと返却
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生田宗博 「I・ADL 作業療法の戦略・戦術・技術」三輪書店</li> <li>・菅原 洋子(著、編集) 社団法人 日本作業療法士協会(監修) 作業療法学全書 作業治療学身体障害 協同医書出版</li> </ul>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤利之 「ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際」医学書院</li> <li>・作業療法のとらえかた</li> <li>・石原義恕/今野孝彦「これでできるリウマチの作業療法」南江堂</li> <li>・黒川幸雄 /大西秀明「理学療法士のための6ステップ式臨床動作分析マニュアル」文光堂</li> </ul>
事前・ 事後学修	40分～80分 動作分析を行う前に、筋肉の起始停止、運動を理解しておく事。講義後に、学習内容をポートフォリオにまとめる事。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3516 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (tomomi-n@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	高次脳機能障害学																																																														
科目責任者	鈴木 達也																																																														
単位数他	2単位 (60 時間) 作業必修 3セメスター																																																														
DP 番号と科目領域	DP4 専門																																																														
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。																																																														
科目概要	社会的問題としてとりあげられることが多くなった高次脳機能障害について学修を進めていきます。外見ではわかりづらい高次脳機能障害を、視聴覚教材や演習を用いて授業を進めていきます。また、中枢神経機能に関連する構造および高次脳機能の検査測定法について基礎的な理論と知識技術を学修する。さらに、高次脳機能障害者の取り巻く社会資源や環境についても学修する。																																																														
到達目標	1. 高次脳機能障害の症状について一般の人に対して説明することができる。 2. 高次脳機能障害の評価を実施できる。 3. 高次脳機能障害者を取り巻く社会資源について家族に説明することができる。																																																														
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;鈴木達也・富澤涼子</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th>&lt;担当&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 脳の構造を理解する(画像の見方・高次脳機能障害とは)</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第2回 高次脳機能障害者の置かれている環境・資源</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第3回 注意障害について</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第4回 注意障害について</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第5回 注意障害について</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第6回 評価方法の学修(演習)</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第7回 評価方法の学修(演習)</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第8回 記憶障害について</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第9回 記憶障害について</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第10回 記憶障害について</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第11回 評価方法の学修(演習)</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第12回 評価方法の学修(演習)</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第13回 遂行機能障害について</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第14回 遂行機能障害について</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第15回 評価方法の学修(演習)</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第16回 評価方法の学修(演習)、中間確認テスト</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第17回 失行・行為・行動の障害を理解する</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第18回 失行・行為・行動の障害を理解する</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第19回 失認と視空間認知の障害を理解する</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第20回 失認と視空間認知の障害を理解する</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第21回 失語・失読・失書を理解する</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第22回 評価方法の学修(演習)</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第23回 評価方法の学修(演習)</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第24回 社会的行動障害を理解する</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第25回 社会的行動障害を理解する</td> <td>&lt;鈴木・富澤&gt;</td> </tr> <tr> <td>第26回 認知機能と自動車運転</td> <td>特別講師</td> </tr> <tr> <td>第27回 認知機能と自動車運転</td> <td>特別講師</td> </tr> <tr> <td>第28回 高次脳機能障害を持つ方の生活を理解する ゲストスピーカー NPO 法人高次脳機能障害サポートネットしずおか 当事者家族</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第29回 高次脳機能障害を持つ方の生活を理解する ゲストスピーカー NPO 法人高次脳機能障害サポートネットしずおか 当事者家族</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第30回 高次脳機能障害者を取り巻く社会資源について理解する</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当>	第1回 脳の構造を理解する(画像の見方・高次脳機能障害とは)	<鈴木・富澤>	第2回 高次脳機能障害者の置かれている環境・資源	<鈴木・富澤>	第3回 注意障害について	<鈴木・富澤>	第4回 注意障害について	<鈴木・富澤>	第5回 注意障害について	<鈴木・富澤>	第6回 評価方法の学修(演習)	<鈴木・富澤>	第7回 評価方法の学修(演習)	<鈴木・富澤>	第8回 記憶障害について	<鈴木・富澤>	第9回 記憶障害について	<鈴木・富澤>	第10回 記憶障害について	<鈴木・富澤>	第11回 評価方法の学修(演習)	<鈴木・富澤>	第12回 評価方法の学修(演習)	<鈴木・富澤>	第13回 遂行機能障害について	<鈴木・富澤>	第14回 遂行機能障害について	<鈴木・富澤>	第15回 評価方法の学修(演習)	<鈴木・富澤>	第16回 評価方法の学修(演習)、中間確認テスト	<鈴木・富澤>	第17回 失行・行為・行動の障害を理解する	<鈴木・富澤>	第18回 失行・行為・行動の障害を理解する	<鈴木・富澤>	第19回 失認と視空間認知の障害を理解する	<鈴木・富澤>	第20回 失認と視空間認知の障害を理解する	<鈴木・富澤>	第21回 失語・失読・失書を理解する	<鈴木・富澤>	第22回 評価方法の学修(演習)	<鈴木・富澤>	第23回 評価方法の学修(演習)	<鈴木・富澤>	第24回 社会的行動障害を理解する	<鈴木・富澤>	第25回 社会的行動障害を理解する	<鈴木・富澤>	第26回 認知機能と自動車運転	特別講師	第27回 認知機能と自動車運転	特別講師	第28回 高次脳機能障害を持つ方の生活を理解する ゲストスピーカー NPO 法人高次脳機能障害サポートネットしずおか 当事者家族		第29回 高次脳機能障害を持つ方の生活を理解する ゲストスピーカー NPO 法人高次脳機能障害サポートネットしずおか 当事者家族		第30回 高次脳機能障害者を取り巻く社会資源について理解する	
<授業内容・テーマ等>	<担当>																																																														
第1回 脳の構造を理解する(画像の見方・高次脳機能障害とは)	<鈴木・富澤>																																																														
第2回 高次脳機能障害者の置かれている環境・資源	<鈴木・富澤>																																																														
第3回 注意障害について	<鈴木・富澤>																																																														
第4回 注意障害について	<鈴木・富澤>																																																														
第5回 注意障害について	<鈴木・富澤>																																																														
第6回 評価方法の学修(演習)	<鈴木・富澤>																																																														
第7回 評価方法の学修(演習)	<鈴木・富澤>																																																														
第8回 記憶障害について	<鈴木・富澤>																																																														
第9回 記憶障害について	<鈴木・富澤>																																																														
第10回 記憶障害について	<鈴木・富澤>																																																														
第11回 評価方法の学修(演習)	<鈴木・富澤>																																																														
第12回 評価方法の学修(演習)	<鈴木・富澤>																																																														
第13回 遂行機能障害について	<鈴木・富澤>																																																														
第14回 遂行機能障害について	<鈴木・富澤>																																																														
第15回 評価方法の学修(演習)	<鈴木・富澤>																																																														
第16回 評価方法の学修(演習)、中間確認テスト	<鈴木・富澤>																																																														
第17回 失行・行為・行動の障害を理解する	<鈴木・富澤>																																																														
第18回 失行・行為・行動の障害を理解する	<鈴木・富澤>																																																														
第19回 失認と視空間認知の障害を理解する	<鈴木・富澤>																																																														
第20回 失認と視空間認知の障害を理解する	<鈴木・富澤>																																																														
第21回 失語・失読・失書を理解する	<鈴木・富澤>																																																														
第22回 評価方法の学修(演習)	<鈴木・富澤>																																																														
第23回 評価方法の学修(演習)	<鈴木・富澤>																																																														
第24回 社会的行動障害を理解する	<鈴木・富澤>																																																														
第25回 社会的行動障害を理解する	<鈴木・富澤>																																																														
第26回 認知機能と自動車運転	特別講師																																																														
第27回 認知機能と自動車運転	特別講師																																																														
第28回 高次脳機能障害を持つ方の生活を理解する ゲストスピーカー NPO 法人高次脳機能障害サポートネットしずおか 当事者家族																																																															
第29回 高次脳機能障害を持つ方の生活を理解する ゲストスピーカー NPO 法人高次脳機能障害サポートネットしずおか 当事者家族																																																															
第30回 高次脳機能障害者を取り巻く社会資源について理解する																																																															

アクティブ ラーニング	PBL、グループ学習、moodle、google フォームを活用し行います
評価方法	ポートフォリオ 50% (授業参加、まとめ、自己学修を含む) 及び筆記試験 (中間 20%、定期試験 30%で判断する。ポートフォリオ回収時に事前・事後学修について頻度及び時間を確認します。
課題に対する フィード バック	授業中に各グループを教員が巡回し課題へのヒントまたはフィードバックをしていきます。振り返り表及びポートフォリオ返却時にフィードバックを行う。
指定図書	作業療法全書 第8巻 作業治療学5 高次脳機能障害, 協同医書出版 標準作業療法学専門分野、高次脳機能作業療法学第2版、医学書院
参考図書	石合純夫「高次脳機能障害学」医歯薬出版 日本作業療法士協会「作業療法マニュアル身体障害 (I)」日本作業療法士協会 山鳥重, 早川裕子, 博野信次他「高次脳機能障害マエストロシリーズ①」医歯薬出版 鈴木孝治, 早川裕子, 種村留美他「高次脳機能障害マエストロシリーズ③」医歯薬出版 森惟明, 鶴見隆正「PT・OTのための脳画像のみかたと神経所見」医学書院 本田哲三「高次機能障害のリハビリテーション」医学書院
事前・ 事後学修	グループごとに自ら課題を設定していくこととなりますので、書籍及び文献等で調べてください。上記の教科書・参考図書が活用できます。事前・事後学修各回最低 40 分とする。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間等：毎週水曜日 12 時～13 時 上記以外でもメール (tatsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。



アクティブ ラーニング	テーマの内容を深めるために、グループ学修や問題基盤型学習 (Problem Based Learning : PBL) を行います。
評価方法	定期試験 (60%)、レポート (20%)、ポートフォリオ内容 (20%)
課題に対する フィード バック	筆記試験の終了後には個別に解説を行います。 授業最終日に、個別でポートフォリオ面接を実施し学修内容の確認とレポート返却をします。
指定図書	1. 山根寛：精神障害と作業療法 第3版. 三輪書店 2. 日本作業療法士協会：作業療法学全書 改訂第3版 第5巻 作業療法治療学2 精神障害. 協同医書出版社 3. 朝田隆、中島直、堀田英樹：精神疾患の理解と精神科作業療法. 中央法規 4. 精神科ポケット辞典. 弘文堂
参考図書	必要に応じて授業中に紹介する
事前・ 事後学修	事前・事後学習は40分を目安とします。事前学習ではテキストの該当箇所を目を通して下さい。事後学習では、授業で示された内容のポイントを確認し、日にちが経ってもその情報にたどり着けるように工夫して下さい。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3501 研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (naohito-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神領域作業療法学の応用																																
科目責任者	藤田 さより																																
単位数他	1単位(30時間) 作業必修 5セメスター																																
DP番号と科目領域	DP4 専門																																
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。																																
科目概要	小グループによる TBL、PBL、講義、演習を通じ、精神障害作業療法の主対象となる精神疾患の特徴について理解し、それに起因する生活障害の特性と具体的な作業療法アプローチについて学習する。関連理論や作業活動を軸とする作業療法の視点をいかに治療・援助に活かすのか詳細に検討する。																																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神疾患の基礎知識と疾患に伴う生活への影響について説明できる</li> <li>・作業療法の基本プロセスについて説明できる</li> <li>・精神系作業療法における評価（症状尺度、社会生活評価尺度等）について説明できる。</li> </ul>																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: left;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション、重要精神疾患 2 の作業療法について PBL</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：重要精神疾患 2 の作業療法について PBL</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：重要精神疾患 2 の作業療法について発表</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：重要精神疾患 3 について講義</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：重要精神疾患 3 について講義</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：検査法の講義と演習①精神機能尺度（PANSS、GAF、POMS など）</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：観察法の講義と演習</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：作業面接の講義と演習</td> <td>藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：作業面接の講義と演習</td> <td>藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：社会機能尺度について演習と講義</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：社会機能尺度について演習と講義</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：重要精神疾患 4 の作業療法について講義</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：実践家と当事者による講義 1</td> <td>藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：実践家と当事者による講義 2</td> <td>藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：面接法と授業のまとめ</td> <td>藤田さより</td> </tr> </tbody> </table> <p>※重要精神疾患は、PBL の効果を高めるため授業が進むにつれ明らかにする。</p>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：オリエンテーション、重要精神疾患 2 の作業療法について PBL	藤田さより	第 2 回：重要精神疾患 2 の作業療法について PBL	藤田さより	第 3 回：重要精神疾患 2 の作業療法について発表	藤田さより	第 4 回：重要精神疾患 3 について講義	藤田さより	第 5 回：重要精神疾患 3 について講義	藤田さより	第 6 回：検査法の講義と演習①精神機能尺度（PANSS、GAF、POMS など）	藤田さより	第 7 回：観察法の講義と演習	藤田さより	第 8 回：作業面接の講義と演習	藤田さより・飯田妙子	第 9 回：作業面接の講義と演習	藤田さより・飯田妙子	第 10 回：社会機能尺度について演習と講義	藤田さより	第 11 回：社会機能尺度について演習と講義	藤田さより	第 12 回：重要精神疾患 4 の作業療法について講義	藤田さより	第 13 回：実践家と当事者による講義 1	藤田さより・飯田妙子	第 14 回：実践家と当事者による講義 2	藤田さより・飯田妙子	第 15 回：面接法と授業のまとめ	藤田さより
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第 1 回：オリエンテーション、重要精神疾患 2 の作業療法について PBL	藤田さより																																
第 2 回：重要精神疾患 2 の作業療法について PBL	藤田さより																																
第 3 回：重要精神疾患 2 の作業療法について発表	藤田さより																																
第 4 回：重要精神疾患 3 について講義	藤田さより																																
第 5 回：重要精神疾患 3 について講義	藤田さより																																
第 6 回：検査法の講義と演習①精神機能尺度（PANSS、GAF、POMS など）	藤田さより																																
第 7 回：観察法の講義と演習	藤田さより																																
第 8 回：作業面接の講義と演習	藤田さより・飯田妙子																																
第 9 回：作業面接の講義と演習	藤田さより・飯田妙子																																
第 10 回：社会機能尺度について演習と講義	藤田さより																																
第 11 回：社会機能尺度について演習と講義	藤田さより																																
第 12 回：重要精神疾患 4 の作業療法について講義	藤田さより																																
第 13 回：実践家と当事者による講義 1	藤田さより・飯田妙子																																
第 14 回：実践家と当事者による講義 2	藤田さより・飯田妙子																																
第 15 回：面接法と授業のまとめ	藤田さより																																

アクティブ ラーニング	PBL・演習を行います。
評価方法	レポート 60% 定期テスト 40%
課題に対する フィード バック	フィードバックペーパーに書かれた質問等は次回の講義で解説・返答致します。 レポートに関してはコメントを書いて返却致します。テストの結果についてはお知らせします。
指定図書	山根寛：精神障害と作業療法 第3版 三輪書店 日本作業療法士協会：作業療法学全書 改訂第3版 第5巻 作業療法治療学 2 精神障害、 協同医書出版社 朝田隆、中島直、堀田英樹：精神疾患の理解と精神科作業療法 中央法規
参考図書	上野武治編『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学第3版』医学書院
事前・ 事後学修	さまざまな精神疾患について学びます。各疾患の該当する箇所を事前事後で教科書を熟読すること。また各評価法に関しては同じ評価を用いた実践例が掲載されている事前事後に読んで重要なポイントをおさえておくこと（事前事後毎回 40 分）
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（sayori-f@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発達領域作業療法学の基礎	
科目責任者	伊藤 信寿	
単位数他	1単位 (30時間) 作業必修 4セメスター	
DP 番号と 科目領域	DP2 専門	
科目の 位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	発達領域における作業療法について、基本的概念を学習する。具体的には、①定型的発達過程を復習する。②発達領域における対象疾患を理解する上で必要な専門基礎科目について学習する。③発達領域における対象疾患について学習する。	
到達目標	(1) 発達領域における作業療法について説明できる。 (2) 新生児から1歳頃までの定型的発達過程と原始反射について説明できる。 (3) 発達領域における対象疾患について簡単に説明できる。	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：発達領域における作業療法 第2回：原始反射について 第3回：定型発達過程について 第4回：運動について（錐体路） 第5回：運動について（大脳基底核） 第6回：運動について（小脳） 第7回：運動について（下位運動ニューロン） 第8回：感覚について 第9回：中枢性疾患について 第10回：中枢性疾患について 第11回：発達障害について 第12回：発達障害について 第13回：知的障害について 第14回：筋疾患について 第15回：まとめ  ※講義内容は変更の可能性があります。 ※グループワークを行うことがあります。	<担当教員名> 伊藤信寿  伊藤信寿  伊藤信寿  伊藤信寿  伊藤信寿  伊藤信寿  伊藤信寿  伊藤信寿、飯田妙子  伊藤信寿、飯田妙子  伊藤信寿、飯田妙子  伊藤信寿  伊藤信寿

アクティブ ラーニング	事前課題を与え、課題についてグループワークを行い理解を深める。
評価方法	定期試験 (60%), 事前課題 (20%), ポートフォリオ (20%)
課題に対する フィード バック	授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらいものとし、質問や意見については授業 の中で回答する。 ポートフォリオに対しフィードバックを行う。
指定図書	福田恵美子 編集 標準作業療法学専門分野「発達過程作業療法学」 医学書院
参考図書	イラストでわかる発達障害の作業療法 上杉雅之 (監修) 医歯薬出版株式会社
事前・ 事後学修	事前学修：事前課題のテーマを示しまとめる (30 分程度) 事後学修：授業の内容をポートフォリオに整理する (10 分程度)
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12 時～13 時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発達領域作業療法学の応用	
科目責任者	伊藤 信寿	
単位数他	2単位 (60 時間) 作業必修 5 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP4 専門	
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。	
科目概要	発達領域における作業療法実践について学習する。具体的には、①疾患や障害に特有の適切な評価に必要とされる知識と検査の実施方法について学習する。さらに、評価結果を解釈し、総合的な視点から問題点を抽出し、適切な目標設定、作業療法プログラム立案までの過程を学習する。	
到達目標	(1) 発達領域における評価の目的、種類、およびその手順を説明できる。 (2) 発達領域でよく用いられる検査のいくつかを行うことができる。 (3) 評価結果から解釈、問題点抽出、目標設定、作業療法プログラムを立案することができる。	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 発達領域における作業療法の実践 第2回 OTプログラムの立案について 第3回 OTプログラムの立案について 第4回 OTプログラムの立案について 第5回 OTプログラムの立案の報告 第6回 脳性麻痺に対するOTプログラムの立案 第7回 脳性麻痺に対するOTプログラムの立案 第8回 脳性麻痺に対するOTプログラムの立案 第9回 脳性麻痺に対するOTプログラムの立案の報告 第10回 発達障害に対するOTプログラムの立案 第11回 発達障害に対するOTプログラムの立案 第12回 発達障害に対するOTプログラムの立案 第13回 発達障害に対するOTプログラムの立案の報告 第14回 発達領域における主な治療理論 第15回 発達領域における主な治療理論 授業計画：各回 80分×2コマ	<担当教員名> 伊藤信寿 伊藤信寿 伊藤信寿 伊藤信寿 伊藤信寿 伊藤信寿 伊藤信寿 伊藤信寿、飯田妙子 伊藤信寿、飯田妙子 伊藤信寿、飯田妙子 伊藤信寿、飯田妙子 伊藤信寿、飯田妙子 伊藤信寿 伊藤信寿

アクティブ ラーニング	実際に体験しながら学修する。 グループワークを行う。
評価方法	レポート (50%), 報告 (30%), ポートフォリオ (20%)
課題に対する フィード バック	授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらうものとし、質問や意見については授業 の中で回答する。 ポートフォリオに対しフィードバックを行う。 作業療法プログラムのレポートに対し、フィードバックを行う。
指定図書	福田恵美子 編集 標準作業療法学専門分野「発達過程作業療法学」 医学書院
参考図書	イラストでわかる発達障害の作業療法 上杉雅之 (監修) 医歯薬出版株式会社
事前・ 事後学修	事前学修：事前課題のテーマを示しまとめる (40 分程度) 事後学修：授業の内容をポートフォリオに整理する (40 分程度)
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12 時～13 時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	老年期作業療法学
科目責任者	田島明子
単位数他	2単位 (60 時間) 作業必修 4セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	老化 (生理的変化) について理解し、またそれに伴う障害 (低栄養、転倒、拘縮、褥瘡、寝たきり) についての関連性を理解すると共に、対象者への作業療法の展開を学習する。また、高齢者を取り巻く、社会問題や制度を含め高齢者が抱える問題と高齢者自身の QOL 及び健康観について学習する。
到達目標	1. 高齢者の身体的特徴を理解し、説明ができる。 2. 高齢者の心理的特徴を理解し、説明ができる。 3. 高齢者への作業療法の介入を理解し、説明ができる。 4. 高齢者を取り巻く社会的背景を理解し、説明ができる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span> 田島明子、鈴木達也 (第 21 回、第 22 回を担当)</p> <p>第 1 回：オリエンテーション 本科目の位置付け、概要、到達目標、評価方法等についてのガイダンスを行う。</p> <p>第 2 回：高齢期の身体機能・運動機能の変化 高齢期特有の身体機能・運動機能の変化について説明する。</p> <p>第 3 回：高齢期の感覚・認知機能の変化 高齢期特有の感覚・認知機能の変化について説明する。</p> <p>第 4 回：高齢期の精神機能の変化 高齢期特有の精神機能の変化について説明する。</p> <p>第 5 回：低栄養、転倒、廃用症候群について 高齢期において特に問題となる、低栄養、転倒、廃用症候群について説明する。</p> <p>第 6 回：高齢期の疾患特徴</p> <p>第 7 回：高齢期の疾患特徴 脳血管障害、パーキンソン病、関節リウマチを中心に説明する。</p> <p>第 8 回：認知症の人に対する理解と作業療法 (説明+PBL)</p> <p>第 9～14 回：認知症の人に対する理解と作業療法 (PBL)</p> <p>第 15 回：認知症の人に対する理解と作業療法 (発表) 認知症についての理解と作業療法実践について主体的な学びを行うために、認知症の人のシナリオを用意する。シナリオから病態の理解をグループで行い、どのような作業療法を行えばよいか、グループディスカッションを行い、考えてもらう。第 15 回目では、それぞれ得た知識を共有するために発表会を行う。</p> <p>第 16 回：これまでの復習、補足等 PBL で学んだことの知識の定着のために、認知症と作業療法について講義を行う。</p> <p>第 17 回：入所・在宅における作業療法の役割について 入所では、介護老人保健施設、在宅では、デイケア、デイサービス、訪問リハビリでの作業療法について説明をする。</p> <p>第 18 回、第 19 回：パーソンセンタードケア・回想法・ユマニチュード 世界的に主流になっている認知症の人の捉え方、非薬物療法やコミュニケーション手法について説明する。</p> <p>第 20 回：高齢者と家族 (高齢者虐待の問題など) 高齢者を取りまく家族の状況、介護保険制度の課題について説明する。</p> <p>第 21 回、第 22 回：集団作業療法 演習 高齢者施設に赴き、グループで集団作業療法プログラムを考え、実施する。</p> <p>第 23 回：集団作業療法の理論と実践 集団作業療法の理論と実践について説明する。</p>

	<p>第 24 回、第 25 回：映画から認知症の人との関わり方を学ぶ 「折り梅」という映画を鑑賞し、認知症の人への良い関わり、悪い関わりについて、パーソンセンタードケアの視点から考える。</p> <p>第 26～29 回：高齢者支援を具体的に考える（グループワーク）</p> <p>第 30 回：発表及びまとめ 第 24 回、第 25 回で映画を基に各人で考えた認知症の人への良い関わり、悪い関わりについて、グループで共有し、ディスカッションし、VIPS の視点でまとめ、それを発表し、参加者で共有し合う。</p> <p>授業時間により内容が変更になることがある</p>
アクティブ ラーニング	PBL やグループワークの機会を多く持ちます。積極的・主体的にグループワークに臨み、自ら調べ、考え、問題解決をしていく学修機会を持って下さい。
評価方法	レポート 20%、定期試験 80%
課題に対する フィード バック	適宜、小テスト、ポートフォリオの確認を行い、学修の理解度、習得度を確認していく。必要に応じて、学修を進めるためのアドバイスを行う。
指定図書	村田和香 編集「作業療法治療学 4 老年期」作業療法全書、協同医書出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修 20 分以上、事後学修 20 分以上 各講義ごとにレジュメを配布し、教科書での該当箇所を言いますので、確認をすること。単元終了時に小テストを行い、知識確認を行います。間違えた箇所は修正し、次回講義の際に提出すること。認知症の作業療法については PBL で行いますので、主体的・積極的な事前事後学修を期待します。PBL 後に知識の確認のために事後学修となる講義を行います。そこで主体的な学びにおける知識の確認、定着をはかってください。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (akiko-t@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	作業療法学内総合実習																																																																					
科目責任者	鈴木達也																																																																					
単位数他	1単位(45時間) 作業必修 6セメスター																																																																					
DP番号と科目領域	DP5 専門																																																																					
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。																																																																					
科目概要	これまでに学んだ作業療法の学習を踏まえて、演習協力者に対して面接、観察、検査測定、評価のまとめ、原因の明確化、作業療法プログラムの立案といった一連の作業療法の流れを行う。作業療法の介入方法について学習する施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。																																																																					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法介入のリーズニングについて説明できる</li> <li>2. 作業療法の介入理論について選択できる</li> <li>3. 対象者の状態をこれまでに学んだ評価を用いて理解できる</li> <li>4. 評価結果を基に対象者のニーズに適したプログラムを立案できる</li> </ol>																																																																					
授業計画	<p>担当教員：鈴木達也、伊藤信寿、田島明子、泉良太、中島ともみ 富澤涼子、藤田さより、飯田妙子 ＜授業内容・テーマ等＞</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>：オリエンテーション</td> <td>＜担当：鈴木＞</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>：OTIPM（作業療法介入プロセスモデル）作業療法の面接法</td> <td>＜担当：鈴木＞</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>：学内演習1（面接）</td> <td>＜担当：全教員＞</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>：学内演習1（面接）</td> <td>＜担当：全教員＞</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>：学内演習1（面接）</td> <td>＜担当：全教員＞</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>：作業遂行分析の視点とAMPS</td> <td>＜担当：鈴木＞</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>：作業遂行分析の視点とAMPS</td> <td>＜担当：鈴木＞</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>：クリニカルリーズニングと理論選択</td> <td>＜担当：鈴木＞</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>：クリニカルリーズニングと理論選択</td> <td>＜担当：鈴木＞</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>：学内演習2（作業遂行観察と評価）</td> <td>＜担当：全教員＞</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>：学内演習2（作業遂行観察と評価）</td> <td>＜担当：全教員＞</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>：学内演習2（作業遂行観察と評価）</td> <td>＜担当：全教員＞</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>：介入方法の選択とエビデンス</td> <td>＜担当：鈴木＞</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>：介入方法の選択とエビデンス</td> <td>＜担当：鈴木＞</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>：学内演習3（プログラム立案と介入）</td> <td>＜担当：全教員＞</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>：学内演習3（プログラム立案と介入）</td> <td>＜担当：全教員＞</td> </tr> <tr> <td>第17回</td> <td>：学内演習3（プログラム立案と介入）</td> <td>＜担当：全教員＞</td> </tr> <tr> <td>第18回</td> <td>：評価結果の解釈</td> <td>＜担当：鈴木＞</td> </tr> <tr> <td>第19回</td> <td>：回復期リハ病棟の実践とマネジメント</td> <td>＜担当：鈴木、特別講師＞</td> </tr> <tr> <td>第20回</td> <td>：事例報告のまとめかた</td> <td>＜担当：全教員＞</td> </tr> <tr> <td>第21回</td> <td>：事例検討</td> <td>＜担当：全教員＞</td> </tr> <tr> <td>第22回</td> <td>：事例検討</td> <td>＜担当：全教員＞</td> </tr> <tr> <td>第23回</td> <td>：作業療法実践の実際</td> <td>＜担当：鈴木＞</td> </tr> </table>	第1回	：オリエンテーション	＜担当：鈴木＞	第2回	：OTIPM（作業療法介入プロセスモデル）作業療法の面接法	＜担当：鈴木＞	第3回	：学内演習1（面接）	＜担当：全教員＞	第4回	：学内演習1（面接）	＜担当：全教員＞	第5回	：学内演習1（面接）	＜担当：全教員＞	第6回	：作業遂行分析の視点とAMPS	＜担当：鈴木＞	第7回	：作業遂行分析の視点とAMPS	＜担当：鈴木＞	第8回	：クリニカルリーズニングと理論選択	＜担当：鈴木＞	第9回	：クリニカルリーズニングと理論選択	＜担当：鈴木＞	第10回	：学内演習2（作業遂行観察と評価）	＜担当：全教員＞	第11回	：学内演習2（作業遂行観察と評価）	＜担当：全教員＞	第12回	：学内演習2（作業遂行観察と評価）	＜担当：全教員＞	第13回	：介入方法の選択とエビデンス	＜担当：鈴木＞	第14回	：介入方法の選択とエビデンス	＜担当：鈴木＞	第15回	：学内演習3（プログラム立案と介入）	＜担当：全教員＞	第16回	：学内演習3（プログラム立案と介入）	＜担当：全教員＞	第17回	：学内演習3（プログラム立案と介入）	＜担当：全教員＞	第18回	：評価結果の解釈	＜担当：鈴木＞	第19回	：回復期リハ病棟の実践とマネジメント	＜担当：鈴木、特別講師＞	第20回	：事例報告のまとめかた	＜担当：全教員＞	第21回	：事例検討	＜担当：全教員＞	第22回	：事例検討	＜担当：全教員＞	第23回	：作業療法実践の実際	＜担当：鈴木＞
第1回	：オリエンテーション	＜担当：鈴木＞																																																																				
第2回	：OTIPM（作業療法介入プロセスモデル）作業療法の面接法	＜担当：鈴木＞																																																																				
第3回	：学内演習1（面接）	＜担当：全教員＞																																																																				
第4回	：学内演習1（面接）	＜担当：全教員＞																																																																				
第5回	：学内演習1（面接）	＜担当：全教員＞																																																																				
第6回	：作業遂行分析の視点とAMPS	＜担当：鈴木＞																																																																				
第7回	：作業遂行分析の視点とAMPS	＜担当：鈴木＞																																																																				
第8回	：クリニカルリーズニングと理論選択	＜担当：鈴木＞																																																																				
第9回	：クリニカルリーズニングと理論選択	＜担当：鈴木＞																																																																				
第10回	：学内演習2（作業遂行観察と評価）	＜担当：全教員＞																																																																				
第11回	：学内演習2（作業遂行観察と評価）	＜担当：全教員＞																																																																				
第12回	：学内演習2（作業遂行観察と評価）	＜担当：全教員＞																																																																				
第13回	：介入方法の選択とエビデンス	＜担当：鈴木＞																																																																				
第14回	：介入方法の選択とエビデンス	＜担当：鈴木＞																																																																				
第15回	：学内演習3（プログラム立案と介入）	＜担当：全教員＞																																																																				
第16回	：学内演習3（プログラム立案と介入）	＜担当：全教員＞																																																																				
第17回	：学内演習3（プログラム立案と介入）	＜担当：全教員＞																																																																				
第18回	：評価結果の解釈	＜担当：鈴木＞																																																																				
第19回	：回復期リハ病棟の実践とマネジメント	＜担当：鈴木、特別講師＞																																																																				
第20回	：事例報告のまとめかた	＜担当：全教員＞																																																																				
第21回	：事例検討	＜担当：全教員＞																																																																				
第22回	：事例検討	＜担当：全教員＞																																																																				
第23回	：作業療法実践の実際	＜担当：鈴木＞																																																																				

アクティブ ラーニング	グループワーク学習・学内実習・web教材の活用 施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
評価方法	レポート50%、ポートフォリオ50% ・レポート・ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する ・ルーブリックの内容は授業中に提示する
課題に対する フィード バック	レポート、リアクションペーパーのコメント・返却
指定図書	齋藤佑樹：作業で語る事例集, 医学書院 吉川ひろみ：COPM・AMPS スターティングガイド、医学書院
参考図書	澤田辰徳：作業で結ぶマネジメント, 医学書院 吉川ひろみ・齋藤さわ子：COPM・AMPS 実践ガイド、医学書院 石川齊：作業療法実践ガイド、文光堂
事前・ 事後学修	事前学修時間 40 分、事後学修時間 40 分 ・これまでに学んだ評価法を復習しましょう ・グループで相談し演習計画や評価の練習を行いましょう
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部                      研究室：3511 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（tatsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	老年期作業療法学演習	
科目責任者	鈴木達也	
単位数他	1単位(30時間) 作業選択 5セメスター	
DP番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。	
科目概要	老年期領域の作業療法の実践に必要な技能を学び、高齢期領域に特徴的な疾病と病態、障害特性の関係を推論し、高齢者へ作業療法を実践する技能を経験し学びます、	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者に作業歴を含めた面接が行えるようになる</li> <li>・ 高齢者と信頼関係と治療的な共同関係を気づくことができる</li> <li>・ 高齢期領域で用いられる技法を知り、対象者の特性に合わせて実践する</li> <li>・ 高齢者に適したプログラムを立案実践できる。</li> </ul>	
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション・高齢領域における実践 &lt;担当：鈴木&gt;</p> <p>第2回：高齢者への面接方法 &lt;担当：鈴木&gt;</p> <p>第3回：傾聴の技法、自己の治療的利用 &lt;担当：鈴木&gt;</p> <p>第4回：作業療法とナラティブストーリー &lt;担当：鈴木&gt;</p> <p>第5回：作業療法と回想法 &lt;担当：鈴木&gt;</p> <p>第6回：作業療法とリアリティーオリエンテーション &lt;担当：鈴木&gt;</p> <p>第7回：ストーリーテリングとストーリーメイキング1 &lt;担当：鈴木&gt;</p> <p>第8回：ストーリーテリングとストーリーメイキング2 &lt;担当：鈴木&gt;</p> <p>第9回：高齢者施設の見学とコミュニケーションの実践 &lt;担当：鈴木&gt;</p> <p>第10回：高齢者施設の見学とコミュニケーションの実践 &lt;担当：鈴木&gt;</p> <p>第11回：集団作業療法の計画 &lt;担当：鈴木&gt;</p> <p>第12回：集団作業療法の計画 &lt;担当：鈴木&gt;</p> <p>第13回：高齢者の集団作業療法の実践 &lt;担当：鈴木&gt;</p> <p>第14回：高齢者の集団作業療法の実践 &lt;担当：鈴木&gt;</p> <p>第15回：施設実習報告とまとめ &lt;担当：鈴木&gt;</p>	



科目名	精神領域作業療法学演習																																
科目責任者	藤田 さより																																
単位数他	1 単位 (30 時間) 作業選択 6 セメスター																																
DP 番号と科目領域	DP5 専門																																
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。																																
科目概要	精神科作業療法に関連する評価について臨床事例をベースとしたシナリオに基づき実践的に学習する。評価に基づいて具体的に作業療法プログラムを立案し、最終的に臨床実習で応用できる技術の習得を目指す																																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業活動の特性を、作業療法の治療・援助に応用する視点について説明できる</li> <li>・精神系作業療法におけるプログラム立案のポイントについて説明できる。</li> <li>・模擬的に作業療法プログラムを実践できる</li> </ul>																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：オリエンテーション、精神科における作業療法の実際</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第2回：プログラム計画立案</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第3回：プログラムの計画発表・準備</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第4回：プログラム計画準備</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第5回：集団の利用</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第6回：プログラム立案演習①</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第7回：プログラム立案演習②</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第8回：プログラム立案演習③</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第9回：プログラム立案演習④</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第10回：プログラム立案演習⑤</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・飯田妙子</td> </tr> <tr> <td>第11回：認知行動療法について</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第12回：生活技能訓練（SST）について</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第13回：最新の精神科医療について</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第14回：臨床実習に関する講義</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第15回：授業のまとめ</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：オリエンテーション、精神科における作業療法の実際	藤田さより	第2回：プログラム計画立案	藤田さより	第3回：プログラムの計画発表・準備	藤田さより	第4回：プログラム計画準備	藤田さより	第5回：集団の利用	藤田さより	第6回：プログラム立案演習①	藤田さより・飯田妙子	第7回：プログラム立案演習②	藤田さより・飯田妙子	第8回：プログラム立案演習③	藤田さより・飯田妙子	第9回：プログラム立案演習④	藤田さより・飯田妙子	第10回：プログラム立案演習⑤	藤田さより・飯田妙子	第11回：認知行動療法について	藤田さより	第12回：生活技能訓練（SST）について	藤田さより	第13回：最新の精神科医療について	藤田さより	第14回：臨床実習に関する講義	藤田さより	第15回：授業のまとめ	藤田さより
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第1回：オリエンテーション、精神科における作業療法の実際	藤田さより																																
第2回：プログラム計画立案	藤田さより																																
第3回：プログラムの計画発表・準備	藤田さより																																
第4回：プログラム計画準備	藤田さより																																
第5回：集団の利用	藤田さより																																
第6回：プログラム立案演習①	藤田さより・飯田妙子																																
第7回：プログラム立案演習②	藤田さより・飯田妙子																																
第8回：プログラム立案演習③	藤田さより・飯田妙子																																
第9回：プログラム立案演習④	藤田さより・飯田妙子																																
第10回：プログラム立案演習⑤	藤田さより・飯田妙子																																
第11回：認知行動療法について	藤田さより																																
第12回：生活技能訓練（SST）について	藤田さより																																
第13回：最新の精神科医療について	藤田さより																																
第14回：臨床実習に関する講義	藤田さより																																
第15回：授業のまとめ	藤田さより																																

アクティブ ラーニング	この科目はPBLと演習を行います。
評価方法	レポート 100%
課題に対する フィード バック	毎回のフィードバックペーパーに書かれた内容について次回の講義で回答致します。レポートの内容には評価・コメントをつけて返却致します。
指定図書	山根寛：精神障害と作業療法。三輪書店 山根寛他：ひとと集団・場 集まり、集めることの利用。三輪書店
参考図書	デニスグリーンバーガー『うつと不安の認知療法練習帳』創元社
事前・ 事後学修	精神障害領域の作業療法では集団作業療法が多く実践されます。そのためこの授業では主に集団作業療法を企画、実践したいと思いますので、集団についての要点および集団作業療法に関する実践例等の文献を事前・事後に読むようにしてください【事前事後学修 40 分】
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発達領域作業療法学演習
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	1単位 (30時間) 作業選択 5セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	近隣にある児童通所施設を利用している対象児に対して、評価、観察、解釈、作業療法プログラムを立案し、治療法の一部を実施する。施設等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	(1)対象児に対して評価を実施することができる。 (2)評価結果を解釈し問題点を抽出することができる。 (3)プログラムを立案し実施することができる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション, 児童通所施設について</p> <p>第2、3回 児童通所施設に通園している子どもたちに対して評価の実施 伊藤信寿、飯田妙子</p> <p>第4、5回 評価結果から問題点抽出, 目標設定, OTプログラムの立案 伊藤信寿、飯田妙子</p> <p>第6、7回 児童通所施設に通園している子どもたちに対してOT実践 伊藤信寿、飯田妙子</p> <p>第8、9回 児童通所施設に通園している子どもたちに対してOT実践 伊藤信寿、飯田妙子</p> <p>第10、11回 児童通所施設に通園している子どもたちに対してOT実践 伊藤信寿、飯田妙子</p> <p>第12、13回 児童通所施設に通園している子どもたちに対してOT実践 伊藤信寿、飯田妙子</p> <p>第14、15回 まとめ 伊藤信寿、飯田妙子</p>

アクティブ ラーニング	グループワークを行い、各対象の作業療法プログラムを企画する。 児童通所施設に通園している子どもに対して、実際に遊びを通して、観察評価、記録、遊びの企画、遊びの実践を行う。
評価方法	レポート (50%), 遊びの企画・実践においてルーブリックを使用した評価 (50%)
課題に対する フィード バック	授業毎のリアクションペーパー用いて提出してもらうものとし、質問や意見については授業の中で回答する。 作業療法プログラムのレポート、遊びの企画書のレポートに対し、ルーブリックを使用しながら、個別にフィードバックを行う。
指定図書	リハビリテーションのための人間発達学 (第2版) 大城昌平 (編著) メデカイルプレス
参考図書	イラストでわかる人間発達学 上杉雅之 (監修) 医歯薬出版株式会社
事前・ 事後学修	事前学修: 作業療法プログラム等の作成 (30分程度) 事後学修: ルーブリックにより指摘されたことに関する振り返り (10分程度)
オフィス アワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3514 研究室 時間等: 毎週水曜日 12時~13時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	地域作業療法学
科目責任者	田島明子
単位数他	2単位 (30 時間) 作業必修 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	地域作業療法の基本的な考え方とライフステージに沿った、QOL の維持・向上を目指した作業療法の実践を学ぶ。作業療法実践に必要な法制度や作業療法実践を学ぶことで、作業療法対象者の全体像を捉えること、介入の方法・考え方を習得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で生活するクライアントの QOL を支援するために必要な基本的考え方を知る。</li> <li>・ライフステージに沿った法制度や作業療法実践を理解する。</li> <li>・作業療法士として地域に貢献するために必要な基礎的知識を身に付ける。</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1 ～2回：地域リハビリテーションの流れ 田島明子 地域リハビリテーションの歴史と現状、考え方について説明する。</p> <p>第3 ～4回：ライフステージに沿った浜松市における法制度 田島明子、特別講師：浜松市障害福祉職員 浜松市職員より、浜松市の障害者、高齢者の生活状況と現在の市の取り組み、今後の課題等について説明する。</p> <p>第4 回：子どもの生活を支える作業療法-1 伊藤信寿</p> <p>第5 回：保育・療育・教育における作業療法-1 伊藤信寿</p> <p>第6 回：保育・療育・教育における作業療法-2 伊藤信寿 子育て支援や特別支援教育、学童保育における作業療法の役割、また、児童福祉における作業療法の役割について考える機会にする。</p> <p>第7 回：就労支援・職業・社会生活における作業療法（総論・制度）-1 富澤涼子</p> <p>第8 回：就労支援・職業・社会生活における作業療法（総論・制度）-2 富澤涼子</p> <p>第9 回：就労支援・職業・社会生活における作業療法（総論・制度）-3 富澤涼子 地域で障害を持つ人の就労を支えるための場づくりについて、制度や施策との連携、地域の資源の活用、新たな取りくみの創出の方法について説明する。</p> <p>第10 回：地域を創る支援 田島明子</p> <p>第11 回：地域を創る支援 田島明子 障害を持ち地域で暮らすことを支援する作業療法の事例を紹介し、そのために必要なことを考える機会にする。</p> <p>第12 回：当事者として地域で生きる-1 田島明子、特別講師</p> <p>第13 回：当事者として地域で生きる-2 田島明子、特別講師 障害を持つ当事者であり、作業療法士である2名から障害を持ち現在に至るまでの気持ちや生活変化について話をしてもらい、作業療法士として障害を持つ人にどのように支援をしたらよいかを考える機会にする。</p> <p>第14 回：高齢者と地域作業療法-1 田島明子</p> <p>第15 回：高齢者と地域作業療法-2 田島明子 高齢期の地域作業療法について、介護保険制度の詳細と、現状行われている介護予防の取り組み、今後期待される取り組みについて説明をする。</p> <p>※講義内容は変更の可能性があります。 ※グループワークを行うことがあります。</p>

アクティブ ラーニング	ボランティア活動などを通して障害を持たれた方の地域での生活に触れる機会を沢山持ちましょう。また、特別講師を招いた授業では、実践的、体験的な内容を学ぶため、質問を行うなど積極的に学んでください。
評価方法	定期試験 70% レポート 30%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーを用いて学修への関心や進行状況を確認していく。必要に応じて課題遂行のためのアドバイスをを行う。
指定図書	太田睦美 編集 「作業療法学全書 改訂第3版 第13巻 地域作業療法学」 協同医書出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修 20分以上、事後学修 20分以上 ・伊藤、田島で主に講義を行います。各担当教員の指示に従ってください。 ・ボランティア活動などを通して障害を持たれた方の地域での生活に触れる機会を沢山持ちましょう。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (akiko-t@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。



アクティブ ラーニング	PBL を行います。
評価方法	レポート 100%
課題に対する フィード バック	フィードバックペーパーに記載いただいた内容について、次回の授業時に回答、解説等を致します。レポートには、評価、コメントを記載し、返却致します。
指定図書	平賀昭信, 岩瀬義昭編集『作業療法学全書改訂第3版 職業関連活動』協同医書出版社
参考図書	松為信雄, 菊池恵美子 編『職業リハビリテーション学』協同医書出版社
事前・ 事後学修	各種障害に応じた就労支援のあり方について学びますので、精神障害、知的障害、高次脳障害、発達障害についての障害特性について事前事後に学修してください。また就労支援に関する法制度に関しては、関連するホームページを閲覧するようにしてください。(毎回事前事後 40分)
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床作業療法基礎実習
科目責任者	鈴木達也
単位数他	1単位数(45時間) 作業必修 1 Semester
DP番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	作業療法の実践現場(病院や施設)にて5日間の見学を中心とした実習を行います。実践現場で作業療法士の行っていることを見学し、対象者とのコミュニケーションを通じて、作業療法のイメージを具体化する機会となります。また各自が今後作業療法士になるために必要な知識、学習、介入や対人交流技能等の課題に気づき、課題の克服に取り組むための4年間の学習の動機づけとします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法士を目指す学生にふさわしい基本的な態度や行動をとることができる。</li> <li>2. 作業療法士の仕事内容と役割について、概要を説明することができる。</li> <li>3. 作業療法士の働く各種施設や対象者について、概要を説明することができる。</li> <li>4. 実習初日に指導を受けたことについて、最終日まで改善に取り組む。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 鈴木達也、藤田さより、飯田妙子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内オリエンテーション <span style="float: right;">鈴木・藤田・飯田</span> 実習前学内オリエンテーションは6月、7月、8月の3回を予定</li> <li>2. 実習施設における臨床実習 <span style="float: right;">鈴木・藤田・飯田</span> 体験実習時期は一人5日間 (8月上旬に予定) 体験実習施設は未定.</li> <li>3. 学内セミナー <span style="float: right;">鈴木・藤田・飯田</span> 学内セミナーは実習終了から10月上旬までに開催を予定している</li> </ol> <p>オリエンテーション、実習時期、実習施設・学内セミナーは追って連絡する</p> <p>学内オリエンテーション及び学内セミナーへの出席は必須。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目。学内セミナーではグループ学習、プレゼンテーションを行う
評価方法	事前課題 20%、実習先の評価 60%、レポート 20%、 提出物の未提出や遅延により減点する。 ・レポートはルーブリックを用いて評価する。
課題に対す るフィード バック	学内ではレポート、事前課題の取り組みに対するフィードバック 臨床実習中は実習指導者よりフィードバックを受ける
指定図書	なし
参考図書	矢谷令子：作業療法学概論、医学書院 石川齊、古川宏：図解作業療法技術ガイド、文光堂
事前・ 事後学修	事前学修：実習前に、実習先の特徴および対象領域について調べておくこと。(40分) 事後学修：実習期間中においては、自宅にてその日の振り返りを行いレポートしてまとめること。(40分)
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時。 上記以外でもメール (tatsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床作業療法評価実習
科目責任者	中島ともみ
単位数他	8単位 (360時間) 作業必修 6 Semester
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	<p>学内外で習得した作業療法に関する知識・技術の統合を図り、作業療法士としての自立するための能力を養う総合的な実習である。</p> <p>具体的には、①臨床実習へ向けて準備すること、②それぞれの実習施設において、実習指導者の監督の下8週間作業療法を実施すること、③実習終了後の学内セミナーを通じて、臨床実習で学んだ知識や経験を整理し、作業療法士として臨床現場で活用できる基盤をつくることの3本柱で構成される。なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業人としての望ましい態度や行動をとることができる</li> <li>・対象者を理解する為の評価を実施できる</li> <li>・対象者の全体像を把握できる</li> <li>・対象者の作業療法計画を立案できる</li> <li>・記録・報告をすることができる</li> <li>・管理・運営について理解することができる</li> <li>・自省を通して、行動の改善を行う事が出来る</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 中島ともみ、伊藤 信寿、田島明子、泉 良太、富澤涼子、鈴木達也、藤田さより、飯田妙子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内オリエンテーション 臨床実習に臨むにあたっての準備をする 臨床実習指導者会議に出席する</li> <li>2. 実習施設における臨床実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習地オリエンテーション</li> <li>2) 担当する対象者に対する作業療法</li> <li>3) 担当外対象者の作業療法の補助、見学</li> <li>4) 管理的組織的業務内容の見学・理解</li> <li>5) 各実習地で提示される課題の遂行</li> <li>6) その他</li> </ol> </li> <li>3. 学内セミナー <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学んだことの整理</li> <li>2) 担当事例（症例）および施設の報告</li> <li>3) その他</li> </ol> </li> </ol> <p>学内オリエンテーションは、第1回 8月上旬に実施予定 第2回 9月上旬に実施予定 第3回 9月下旬・10月中旬予定</p> <p>臨床実習時期は、10月下旬 学内セミナーは、1月上旬と下旬 臨床実習施設は未定、追って連絡する。 臨床実習指導者会議は9月第3土曜日実施予定</p>

アクティブ ラーニング	学内セミナーでは、グループワークを含む。
評価方法	臨床実習指導者による最終評価をもとに、学内セミナーにおける報告内容と報告書、およびポートフォリオの内容を考慮して、総合的に判断する。なお実習の成績評価は、実習中の教員訪問や電話などによる確認の中で、指導者・学生・教員の3者の協議も含めて判断する。また、症例報告の達成度の確認には、ルーブリックを用いる。
課題に対する フィード バック	学内セミナー、提出書類を基に担当教員が面接を行い、本実習の振り返りを行い、達成できた点、課題となった点について内省を促し、確認する
指定図書	臨床実習ガイドブック（最新版）
参考図書	必要に応じて授業中に紹介する
事前・ 事後学修	ボランティアへの参加等を通して、円滑なコミュニケーションが取れるよう経験を積んでおいてください。(3日程度) 学内で学習するすべての科目のポートフォリオの作成、検査測定手法の復習を必ず行ってください。(2週間程度) 文献による作業療法のエビデンスを確認しておいて下さい。(2週間程度)
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3516 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (tomomi-n@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床実習Ⅱ
科目責任者	泉 良太
単位数他	7単位 (315 時間) 作業必修 7セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	<p>学内で習得した作業療法に関する知識・技術の統合を図り、将来作業療法士として自立するための能力を養う総合的な実習である。</p> <p>具体的には、①臨床実習への準備をすること、②それぞれの実習施設において、実習指導者の監督の下、7週間の作業療法を実施すること、③実習終了後の学内セミナーを通じて、臨床実習で学んだ知識や経験を整理し、将来作業療法士として臨床現場で活用できる基盤を作る。</p> <p>なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。</p>
到達目標	<p>臨床実習Ⅰを踏まえ、さらに実践的な臨床能力を養うために1点目を最低限の目標とするが、2点目についてもさらなる発展的な学習機会として経験を積むことが望ましい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者へ治療・指導・援助を実施することができる。</li> <li>2. 作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;科目担当教員&gt; 泉良太、伊藤信寿、田島明子、中島ともみ、富澤涼子、藤田さより、鈴木達也、飯田妙子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内オリエンテーション 臨床実習に臨むにあたっての準備をする。</li> <li>2. 実習施設における臨床実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習地オリエンテーション</li> <li>2) 担当する対象者に対する作業療法</li> <li>3) 担当外対象者の作業療法の補助・見学</li> <li>4) 管理的組織的業務内容の見学・理解</li> <li>5) 各実習地で提示される課題の遂行</li> <li>6) その他</li> </ol> </li> <li>3. 学内セミナー <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学んだことの整理</li> <li>2) 担当事例（症例）および施設の報告</li> <li>3) その他</li> </ol> </li> </ol> <p>・臨床実習Ⅰの経験を踏まえ、十分な準備をして臨むこと。 ・実習中は、心身両面の自己管理が求められるので、健康管理に留意し作業療法士としての基本的な姿勢や技術、知識を習得すること。</p> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用いる。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です
評価方法	実習指導者による最終評価 75% その他（症例報告書、セミナーでの報告、ポートフォリオ） 25% 計 100%
課題に対する フィード バック	実習指導者による中間・最終評価 教員による実習地訪問指導 学内セミナーでの指導（事例報告指導含む）
指定図書	臨床実習ガイドブック（最新版）
参考図書	オリエンテーション時に随時連絡
事前・ 事後学修	事前学修時間 20 分以上、事後学修時間 20 分以上 ・ボランティアへの参加等を通して、円滑なコミュニケーションが取れるよう経験を積んでおいてください。 ・総合的な学習の場となるため、学内で学習したすべての科目の復習を必ず行ってください。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ <a href="mailto:ryota-i@seirei.ac.jp">ryota-i@seirei.ac.jp</a> ）で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床実習Ⅲ
科目責任者	田島明子
単位数他	7単位(315時間) 作業必修 7セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	<p>学内で習得した作業療法に関する知識・技術の統合を図り、将来作業療法士として自立するための能力を養う総合的な実習である。</p> <p>具体的には、①臨床実習への準備すること、②それぞれの実習施設において、実習指導者の監督の下7週間作業療法を実施すること、③実習終了後の学内セミナーを通じて、臨床実習で学んだ知識や経験を整理し、将来作業療法士として臨床現場で活用できる基盤を作る。</p> <p>なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。</p>
到達目標	<p>臨床実習Ⅰ、Ⅱにおける内省を通して、指導者の指導のもと、以下の4点について模倣実施することを目標とする。</p> <p>(1)対象者に対し適切な評価を選択、実施し、目標設定することができる。</p> <p>(2)対象者に対し適切な治療・指導・援助を計画し、実施することができる。</p> <p>(3)作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直し、修正することができる。</p> <p>(4)記録・報告を適切に行うことができる。</p>
授業計画	<p>担当教員：田島明子、伊藤信寿、泉良太、中島ともみ、富澤涼子、藤田さより、鈴木達也、飯田妙子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学内オリエンテーション 臨床実習に臨むにあたっての準備をする 臨床実習指導者会議に出席する</li> <li>実習施設における臨床実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>実習地オリエンテーション</li> <li>担当する対象者に対する作業療法</li> <li>担当外対象者の作業療法の補助、見学</li> <li>管理的組織的業務内容の見学・理解</li> <li>各実習地で提示される課題の遂行</li> <li>その他</li> </ol> </li> <li>学内セミナー <ol style="list-style-type: none"> <li>学んだことの整理</li> <li>担当事例(症例)および施設の報告</li> <li>その他</li> </ol> </li> </ol> <p>・臨床実習Ⅱの経験を踏まえ、十分な準備をして臨むこと。</p> <p>・実習中は、心身両面の自己管理が求められるので、健康管理に留意し作業療法士としての基本的な姿勢や技術、知識を習得すること。</p> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用いる。</p>

アクティブラーニング	実習科目です。 Ⅱ期終了後、Ⅲ期実習までに2週間の期間があるので、その間にⅡ期の振り返りを踏まえ、課題となった点を整理し、Ⅲ期実習に向けた知識・技術確認などの準備を行うことが求められる。
評価方法	臨床実習指導者による最終評価 75% その他 (学内セミナーにおける報告, 症例報告書, ポートフォリオ) 25%
課題に対するフィードバック	学内セミナー、提出書類を基に担当教員が面接を行い、本実習の振り返りを行い、達成できた点、課題となった点を内省を促し、確認する。
指定図書	臨床実習ガイドブック (最新版)
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修時間 20 分以上、事後学修時間 20 分以上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアへの参加等を通して、円滑なコミュニケーションが取れるよう経験を積んでおい</li> <li>てください。</li> <li>・総合的な学習の場となるため、学内で学習したすべての科目の復習を必ず行ってください。</li> </ul>
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間等：毎週水曜日 13 時～14 時 (他の時間でもアポを取って頂ければ大丈夫です)
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床マネジメント論																																
科目責任者	伊藤 信寿																																
単位数他	2単位 (60 時間) 作業必修 8 セメスター																																
DP 番号と科目領域	DP7 専門																																
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。																																
科目概要	<p>4年間の総まとめとして、獲得した知識・技能の整理と統合をはかり不足している知識を補完する。また作業療法士として働くうえで必要な制度、組織、運営等について学び、臨床実践に備える。また、実習で作成したレポート等を活用し、MTDLPに関する理解を深める。</p> <p>さらに昨今の作業療法界においてトピックスになっている話題や、臨床現場で活躍されている実践を学び、今後の作業療法界を担っていく一員として必要な知識について学修する。</p> <p>2年生や3年生の専門科目の授業にサポート的に参加し、臨床実習で得た知識や技能を後輩に教授する過程において再確認する。</p> <p>国家試験に向けて自分に合った勉強方法や対策を確認する。</p>																																
到達目標	<p>(1) 作業療法の実践に必要な制度、組織、管理・運営等を理解することができる。</p> <p>(2) 様々な分野における作業療法の実践を理解することができる。</p> <p>(3) MTDLPについて理解し、概要を説明することができる。</p> <p>(4) 臨床実習等で獲得した知識や技能を後輩に教授することができる。</p> <p>(5) 国家試験の自分に合った勉強方法を獲得する。</p>																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 オリエンテーション</td> <td style="text-align: right;">伊藤</td> </tr> <tr> <td>第2回 組織、管理運営について</td> <td style="text-align: right;">鈴木</td> </tr> <tr> <td>第3回 教育について</td> <td style="text-align: right;">鈴木</td> </tr> <tr> <td>第4回 制度・社会について</td> <td style="text-align: right;">鈴木</td> </tr> <tr> <td>第5回 生活行為マネジメントについて (概論2コマ)</td> <td style="text-align: right;">泉・鈴木</td> </tr> <tr> <td>第6回 生活行為マネジメントについて (演習2コマ)</td> <td style="text-align: right;">泉・鈴木</td> </tr> <tr> <td>第7回 特別講義：人間作業モデルについて</td> <td style="text-align: right;">ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第8回 特別講義：精神科領域における地域生活支援</td> <td style="text-align: right;">ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第9回 特別講義：介護老人保健施設における作業療法の実際と可能性</td> <td style="text-align: right;">ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第10回 後輩指導：身体障害領域の授業において指導</td> <td style="text-align: right;">泉・鈴木</td> </tr> <tr> <td>第11回 後輩指導：作業療法と作業科学の授業において指導</td> <td style="text-align: right;">鈴木・泉</td> </tr> <tr> <td>第12回 後輩指導：精神障害領域の授業において指導</td> <td style="text-align: right;">藤田</td> </tr> <tr> <td>第13回 国家試験対策講義</td> <td style="text-align: right;">藤田・伊藤</td> </tr> <tr> <td>第14回 国家試験対策講義</td> <td style="text-align: right;">藤田・伊藤</td> </tr> <tr> <td>第15回 国家試験対策講義</td> <td style="text-align: right;">藤田・伊藤</td> </tr> </tbody> </table> <p>授業計画：各回 80分×2コマ</p>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回 オリエンテーション	伊藤	第2回 組織、管理運営について	鈴木	第3回 教育について	鈴木	第4回 制度・社会について	鈴木	第5回 生活行為マネジメントについて (概論2コマ)	泉・鈴木	第6回 生活行為マネジメントについて (演習2コマ)	泉・鈴木	第7回 特別講義：人間作業モデルについて	ゲストスピーカー	第8回 特別講義：精神科領域における地域生活支援	ゲストスピーカー	第9回 特別講義：介護老人保健施設における作業療法の実際と可能性	ゲストスピーカー	第10回 後輩指導：身体障害領域の授業において指導	泉・鈴木	第11回 後輩指導：作業療法と作業科学の授業において指導	鈴木・泉	第12回 後輩指導：精神障害領域の授業において指導	藤田	第13回 国家試験対策講義	藤田・伊藤	第14回 国家試験対策講義	藤田・伊藤	第15回 国家試験対策講義	藤田・伊藤
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第1回 オリエンテーション	伊藤																																
第2回 組織、管理運営について	鈴木																																
第3回 教育について	鈴木																																
第4回 制度・社会について	鈴木																																
第5回 生活行為マネジメントについて (概論2コマ)	泉・鈴木																																
第6回 生活行為マネジメントについて (演習2コマ)	泉・鈴木																																
第7回 特別講義：人間作業モデルについて	ゲストスピーカー																																
第8回 特別講義：精神科領域における地域生活支援	ゲストスピーカー																																
第9回 特別講義：介護老人保健施設における作業療法の実際と可能性	ゲストスピーカー																																
第10回 後輩指導：身体障害領域の授業において指導	泉・鈴木																																
第11回 後輩指導：作業療法と作業科学の授業において指導	鈴木・泉																																
第12回 後輩指導：精神障害領域の授業において指導	藤田																																
第13回 国家試験対策講義	藤田・伊藤																																
第14回 国家試験対策講義	藤田・伊藤																																
第15回 国家試験対策講義	藤田・伊藤																																

アクティブ ラーニング	実技的なことに対して後輩指導する グループワークを行う
評価方法	各授業後におけるレポート (50%), 国家試験模擬テスト (小テスト) の結果 (50%)
課題に対す るフィード バック	リアクションペーパーの質問に対して解説する
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	事前学修：実習で学んだことを復習する (20 分) 事後学修：授業で学んだことをまとめる (20 分)
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12 時～13 時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	卒業研究
科目責任者	藤田さより
単位数他	4単位 (120時間) 作業必修 8セメスター
DP 番号と 科目領域	DP4 専門
科目の 位置付	設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	4年間の専門的な授業や臨床実習を通して、疑問に思ったことや調べたいことを研究テーマとして、その疑問を解決する研究方法を学習し実施する。各担当教員のもと、研究課題の立案、研究課題の立案、研究方法の確立・実施、研究課題の考察を深め、発表及び論文作成を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究疑問を明確にすることが出来る</li> <li>2. 研究疑問に対して解決する方法を期日までに実施する事が出来る。</li> <li>3. 研究結果をまとめることが出来る</li> <li>4. 研究結果を発表する事が出来る</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 藤田さより、伊藤信寿、田島明子、泉良太、中島ともみ、富澤涼子、鈴木達也、飯田妙子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 前年度学生の卒業論文集を用いたクリティカルシンキング 研究疑問の設定 文献レビュー 研究目的と研究テーマの明確化 研究方法の決定 研究計画の作成 研究実施 研究分析 考察 論文執筆 発表用プレゼンテーションの作成 口頭発表 (発表7分 質疑3分)</p> <p>卒業論文提出 11月上旬 (予定) 卒業論文発表 11月中旬 (予定) 1～3年生参加</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、ピアインストラクション、フィールドワーク等のいずれかをゼミ単位で実践
評価方法	研究論文 70%、研究への取り組み 20%、口頭発表 10% 指定図書
課題に対する フィード バック	研究への取り組み、発表内容についての指導教員からのコメントを行う
指定図書	鎌倉 矩子・宮前 珠子・清水 一：作業療法士のための研究法入門. 三輪書店, 東京, 1997
参考図書	鳥居 泰彦 『はじめての統計学』, 日本経済新聞社 (1994)
事前・ 事後学修	自らの関心領域に関する文献を収集し、熟読, 文献リストを作成すること
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語聴覚障害学概論																																
科目責任者	柴本 勇																																
単位数他	2単位 (30 時間) 言語必修 1 セメスター																																
DP 番号と科目領域	DP3 専門																																
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。																																
科目概要	コミュニケーションの意義、種類、過程を学修した上で、言語聴覚障害学の歴史、現状、展望および言語聴覚障害の概要を学ぶ。小グループによるグループワークやコミュニケーション演習を通じて、言語聴覚障害学の基礎を主体的に学ぶ。さらに職業倫理、他職種との協働活動や連携の重要性、職能団体の役割と活動参加の意義を学ぶ。また、言語聴覚障害や言語聴覚士の臨床像を理解した上で、言語聴覚障害基礎実習へと移行する。																																
到達目標	1. コミュニケーションの意義、種類、過程が説明できる。 2. 言語聴覚障害学の歴史、言語聴覚療法の対象、言語聴覚療法の概要が説明できる。 3. 言語聴覚士の臨床が説明できる。																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: left;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション(講義・グループワーク)</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：言語とコミュニケーション：意義、種類、過程</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：言語聴覚療法の歴史・倫理・職能団体</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：グループワーク①</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：グループワーク②</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：グループワーク③</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：グループワーク発表</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：グループワーク発表</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：コミュニケーション演習</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：コミュニケーション演習</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：小児言語障害の臨床</td> <td>小林マヤ</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：発声発語障害の臨床</td> <td>中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：成人言語障害・高次脳機能障害の臨床</td> <td>谷 哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：聴覚障害の臨床</td> <td>大原重洋</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：摂食嚥下障害の臨床</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：オリエンテーション(講義・グループワーク)	柴本 勇	第 2 回：言語とコミュニケーション：意義、種類、過程	柴本 勇	第 3 回：言語聴覚療法の歴史・倫理・職能団体	柴本 勇	第 4 回：グループワーク①	柴本 勇	第 5 回：グループワーク②	柴本 勇	第 6 回：グループワーク③	柴本 勇	第 7 回：グループワーク発表	柴本 勇	第 8 回：グループワーク発表	柴本 勇	第 9 回：コミュニケーション演習	柴本 勇	第 10 回：コミュニケーション演習	柴本 勇	第 11 回：小児言語障害の臨床	小林マヤ	第 12 回：発声発語障害の臨床	中村哲也	第 13 回：成人言語障害・高次脳機能障害の臨床	谷 哲夫	第 14 回：聴覚障害の臨床	大原重洋	第 15 回：摂食嚥下障害の臨床	佐藤豊展
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第 1 回：オリエンテーション(講義・グループワーク)	柴本 勇																																
第 2 回：言語とコミュニケーション：意義、種類、過程	柴本 勇																																
第 3 回：言語聴覚療法の歴史・倫理・職能団体	柴本 勇																																
第 4 回：グループワーク①	柴本 勇																																
第 5 回：グループワーク②	柴本 勇																																
第 6 回：グループワーク③	柴本 勇																																
第 7 回：グループワーク発表	柴本 勇																																
第 8 回：グループワーク発表	柴本 勇																																
第 9 回：コミュニケーション演習	柴本 勇																																
第 10 回：コミュニケーション演習	柴本 勇																																
第 11 回：小児言語障害の臨床	小林マヤ																																
第 12 回：発声発語障害の臨床	中村哲也																																
第 13 回：成人言語障害・高次脳機能障害の臨床	谷 哲夫																																
第 14 回：聴覚障害の臨床	大原重洋																																
第 15 回：摂食嚥下障害の臨床	佐藤豊展																																

アクティブ ラーニング	Moodle を用いて事前・事後学修を行う。 グループワークで主体的に学習する。
評価方法	定期試験 40% レポート 20% グループ活動・発表 30% 小テスト 10% 達成度は、ルーブリックに基づいて確認する。
課題に対する フィード バック	毎回の講義のリアクションペーパーに対して、次回講義時又は講義前にフィードバックする。 レポート・グループ学習では、評価視点を公開し自身でもフィードバックできるようにする。
指定図書	藤田郁代編 「標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論」 医学書院 廣瀬肇監修 「言語聴覚士テキスト」 医歯薬出版 第3版
参考図書	初回講義時に紹介する。
事前・ 事後学修	グループ学習では、指定された課題をグループで討議し、同時に自ら調べて答えを導き出す手法で行っていきます。言語聴覚障害については、講義前にあらかじめ指定図書を読み予習するように心がけてください。 Moodle を用いて、事前事後学修課題を提示します。
オフィス アワー	研究室：3号館4階 3408 研究室 毎週火曜日 3 限とします。 上記以外でも、メール( <a href="mailto:isamu-s@seirei.ac.jp">isamu-s@seirei.ac.jp</a> )にて面談予約を受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。



アクティブ ラーニング	演習科目です。
評価方法	定期試験（60%）提出物:報告書（30%）実技試験（10%）
課題に対する フィード バック	各自フィードバックし、授業内に解説します。
指定図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学」医学書院 小島知幸編集「なるほど失語症の評価と治療」金原出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	[事前学修] Moodle を用いて毎回の予習項目を伝達する。  [事後学修] 授業での課題について随時まとめを作成すること。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜日 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	失語症学
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	2単位 (30 時間) 言語必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	失語症学では、失語症について全般的に理解する。古典的分類と失語症タイプ別の特徴、および言語情報処理モデルによる言語症状の分析、症候群などについて学ぶとともに、評価・鑑別について理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な言語障害の症状を理解し、症候群としての失語症を捉える事ができる。</li> <li>2. 言語障害の症状を言語情報処理モデルに当てはめることが出来る。</li> <li>3. 言語障害の症状を古典的分類や認知神経心理学的な階層性に基づいて理解できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;授業内容・テーマ等&gt; 谷 哲夫</p> <p>第 1 回：失語症の定義，歴史，原因疾患，病巣，言語症状</p> <p>第 2 回：言語の神経学的基盤</p> <p>第 3 回：失語症の古典的分類① ウェルニッケーリヒトハイムの図</p> <p>第 4 回：失語症の古典的分類② ボストン学派の分類</p> <p>第 5 回：失語症の言語症状</p> <p>第 6 回：失語症周辺の症状</p> <p>第 7 回：前半の復習① 言語の神経学的基盤，失語の古典的分類を中心に</p> <p>第 8 回：前半の復習② 失語症の症状，周辺症状を中心に</p> <p>第 9 回：認知神経心理学的情報モデルの構造と意味</p> <p>第 10 回：認知神経心理学的解釈 ログジェンモデルを用いて 症状の当てはめ</p> <p>第 11 回：認知神経心理学的解釈 ログジェンモデルを用いて 階層性の理解</p> <p>第 12 回：認知神経心理学的解釈 ログジェンモデルを用いて 掘り下げ検査の選択法</p> <p>第 13 回：認知神経心理学的解釈 二重経路仮説を用いて 失読・失書の当てはめ</p> <p>第 14 回：後半の復習① ログジェンモデルを中心に</p> <p>第 15 回：後半の復習② 掘り下げ検査を中心に</p>

アクティブ ラーニング	Moodle を活用します
評価方法	定期試験 80% 毎回の小テスト（復習テスト） 20%
課題に対する フィード バック	小テスト（復習テスト）の解説は授業の中で行います。
指定図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学第2版」医学書院 小島知幸編集「なるほど失語症の評価と治療」金原出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	Moodle による予習・復習（各 40 分）
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。



アクティブ ラーニング	演習科目です（各グループで演習をし、授業中に検査を行い、報告書をまとめます）
評価方法	定期試験（60％）提出物：報告書（40％）
課題に対する フィード バック	演習中に各グループを巡回し解説をします。最後に質疑応答を行います。 各検査のまとめのフィードバックをします。
指定図書	『標準失語症検査マニュアル』日本高次脳機能障害学会編集 新興医学出版 『言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編』深浦順一、為数哲司、内山量史編著 建帛社
参考図書	なし
事前・ 事後学修	ムードルによる事前・事後学修の提示（各40分） 〔事前学修〕 各グループで各検査のマニュアルを作成すること。（検査目的、手続き、評価基準等） 検査の手続きをVTRで撮影し、Moodleにアップすること。 授業前に検査マニュアル、動画を確認し、各自でマニュアル・評価用紙を準備すること。 〔事後学修〕 授業で実施した検査のまとめを作成すること。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 谷(3406 研究室) 時間等：毎週月曜日 11:15～13:15 上記以外でもメールで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	失語症治療学
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	失語症治療学では、臨床における一連の流れについて学習する。病期別に具体的なアプローチ方法を提示し、実際の症例を通して症状の分析、採用すべき治療法、および予後予測の方法を学ぶ。
到達目標	1. 病期別に失語症治療に対する言語聴覚士の心構えや姿勢を理解できる。 2. 検査結果をまとめ訓練プログラムの立案ができる。 3. 患者の生活場면을想定した準備の必要性が理解できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第 1 回：失語症治療の概要 病期別治療目的 谷</p> <p>第 2 回：急性期の失語症治療 リスク管理 谷</p> <p>第 3 回：回復期の失語症治療 治療目的 検査 谷</p> <p>第 4 回：回復期の失語症治療 結果解釈 治療プラン・方法 谷</p> <p>第 5 回：維持期（生活期）の失語症治療 介護保険制度 社会資源の活用 谷</p> <p>第 6 回：維持期（生活期）の失語症治療 治療方法・効果 谷</p> <p>第 7 回：治療の理論と技法① 刺激法の 6 原則 機能再編成法 遮断除去法 ほか 谷</p> <p>第 8 回：治療の理論と技法② 評価サマリー 経過報告書の書き方 谷</p>

アクティブ ラーニング	Moodle を使用する
評価方法	定期試験 80% 毎回の小テスト（復習テスト） 20%
課題に対す るフィード バック	小テスト（復習テスト）を授業の中で実施します。
指定図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学第2版」医学書院 小島知幸編集「なるほど失語症の評価と治療」金原出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	Moodle による予習・復習（各 40 分）
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	高次脳機能障害学																																		
科目責任者	佐藤順子																																		
単位数他	2単位 (30 時間) 言語必修 5セメスター																																		
DP 番号と科目領域	DP2 専門																																		
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																		
科目概要	高次脳機能障害学では脳および神経系の解剖生理をはじめ、脳損傷により多彩な障害を生じる高次脳機能障害について全般的に理解する。また代表的な高次脳機能障害の症状や病巣、障害メカニズムなどについて症例を通じて実践的に理解を深める。授業の進め方としては、小グループによるPBLチュートリアル(症例を提示し、グループでディスカッションし報告書にまとめる)、講義、演習を通じ、高次脳機能障害の各症状の特徴を理解し、評価、具体的なリハビリテーションアプローチについて検討する。後半は各障害の検査演習を行い、報告書の作成を行う。評価においては、各種検査手続き、結果の集約と解釈について具体的に学ぶ。																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高次脳機能障害の症状や病巣、障害メカニズムについて説明できる。</li> <li>2. 高次脳機能障害の状態を的確に把握し、検査・評価し、報告書にまとめることができる。</li> <li>3. 高次脳機能障害に対して、リハビリテーションを実践するための知識・技術を習得する。</li> <li>4. グループ演習によって各種検査の手続きを習得し、結果の集約と解釈をすることができる。</li> </ol>																																		
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: center;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：①記憶障害 (PBL)</td> <td>佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：①記憶障害 発表 解説</td> <td>佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：②認知症 (PBL)</td> <td>佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：②認知症 発表 解説 (PBL)</td> <td>佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：前頭葉機能障害 (PBL)</td> <td>佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：前頭葉機能障害 発表 解説</td> <td>佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：聴覚失認、触覚失認、身体失認、失算、脳梁離断症状</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：画像及び検査演習解説</td> <td>佐藤順子</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"><b>【検査演習】</b></td> </tr> <tr> <td>第 9 回：認知症検査 (MMSE, HDS-R, MoCA-J)</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：記憶検査 (WMS-R, SP-A)</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：記憶検査 (RBMT, Rey)</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：知能検査 (WAIS-III)</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：知能検査・前頭葉機能検査 (Raven, KOHS, FAB, TMT, Stroop)</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：標準高次視知覚検査 (VPTA)</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：実技試験</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：①記憶障害 (PBL)	佐藤順子	第 2 回：①記憶障害 発表 解説	佐藤順子	第 3 回：②認知症 (PBL)	佐藤順子	第 4 回：②認知症 発表 解説 (PBL)	佐藤順子	第 5 回：前頭葉機能障害 (PBL)	佐藤順子	第 6 回：前頭葉機能障害 発表 解説	佐藤順子	第 7 回：聴覚失認、触覚失認、身体失認、失算、脳梁離断症状	佐藤豊展	第 8 回：画像及び検査演習解説	佐藤順子	<b>【検査演習】</b>		第 9 回：認知症検査 (MMSE, HDS-R, MoCA-J)	佐藤順子・中村哲也	第 10 回：記憶検査 (WMS-R, SP-A)	佐藤順子・中村哲也	第 11 回：記憶検査 (RBMT, Rey)	佐藤順子・中村哲也	第 12 回：知能検査 (WAIS-III)	佐藤順子・中村哲也	第 13 回：知能検査・前頭葉機能検査 (Raven, KOHS, FAB, TMT, Stroop)	佐藤順子・中村哲也	第 14 回：標準高次視知覚検査 (VPTA)	佐藤順子・中村哲也	第 15 回：実技試験	佐藤順子・中村哲也
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																		
第 1 回：①記憶障害 (PBL)	佐藤順子																																		
第 2 回：①記憶障害 発表 解説	佐藤順子																																		
第 3 回：②認知症 (PBL)	佐藤順子																																		
第 4 回：②認知症 発表 解説 (PBL)	佐藤順子																																		
第 5 回：前頭葉機能障害 (PBL)	佐藤順子																																		
第 6 回：前頭葉機能障害 発表 解説	佐藤順子																																		
第 7 回：聴覚失認、触覚失認、身体失認、失算、脳梁離断症状	佐藤豊展																																		
第 8 回：画像及び検査演習解説	佐藤順子																																		
<b>【検査演習】</b>																																			
第 9 回：認知症検査 (MMSE, HDS-R, MoCA-J)	佐藤順子・中村哲也																																		
第 10 回：記憶検査 (WMS-R, SP-A)	佐藤順子・中村哲也																																		
第 11 回：記憶検査 (RBMT, Rey)	佐藤順子・中村哲也																																		
第 12 回：知能検査 (WAIS-III)	佐藤順子・中村哲也																																		
第 13 回：知能検査・前頭葉機能検査 (Raven, KOHS, FAB, TMT, Stroop)	佐藤順子・中村哲也																																		
第 14 回：標準高次視知覚検査 (VPTA)	佐藤順子・中村哲也																																		
第 15 回：実技試験	佐藤順子・中村哲也																																		

アクティブ ラーニング	演習科目（グループワーク）：第1, 3, 5回(PBL), 9～14回(検査演習)
評価方法	定期試験(60%) 報告書(30%) 実技試験(10%)
課題に対する フィード バック	個別に報告書を提出後、各障害の発表後に解説を行います
指定図書	『高次脳機能障害学』藤田郁代、関啓子編著 医学書院 『言語聴覚療法臨床マニュアル改訂第2版』小寺富子監修 協同医書出版社 『言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編』深浦順一、為数哲司、内山量史編著 建帛社
参考図書	なし
事前・ 事後学修	[事前学修] Moodle を使用します 指定図書の該当箇所を読んで理解する。 演習では、事前にマニュアルを作成し、検査ができるようにしておく。  [事後学修] 各症例をまとめて報告書を作成し、発表できるように準備をする。 検査演習の報告書を作成する。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407 研究室 時間等：11:45～12:15（毎週月曜から木曜） 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	失語・高次脳機能障害治療演習	
科目責任者	佐藤順子	
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 6 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。	
科目概要	<p>【失語】失語症例への評価・鑑別及びその言語聴覚療法を演習を通して学ぶ。失語症の方を対象とした演習の反省を生かして演習形式で課題を修正する、S L T Aほか掘り下げ検査も対象である。さらに失語症の全体像を再度把握し、訓練プログラムを立案する。</p> <p>【高次脳】 高次脳機能障害の各検査のグループ演習を行い、報告書の作成を行う。評価においては、各種検査手続き、結果の集約と解釈について具体的に学ぶ。</p>	
到達目標	<p>【失語】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 失語症例に対するリハビリテーション理論、およびリハビリテーション技法を学修する。</li> <li>2. 理論に基づいた訓練計画をグループで立案し、学生同士で実施できる。</li> <li>3. 実際の患者様の評価、診断、治療プログラムの立案ができる。</li> </ol> <p>【高次脳】 グループ演習によって各種検査の手続きを習得し、結果の集約と解釈をすることができる。</p>	
授業計画	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>
	【失語演習】	
	第 1 回：失語症評価演習の問題点の抽出	谷
	第 2 回：失語症評価演習の問題の確認	谷
	第 3 回：失語症評価演習の見直し	谷
	第 4 回：次回以降の演習での課題確認	谷
	第 5 回：演習 1 日目 1 課題の確認	谷 佐藤順 佐藤豊
	第 6 回：演習 1 日目 2 課題の確認	谷 佐藤順 佐藤豊
	第 7 回：演習 2 日目 1 修正の確認	谷 佐藤順 佐藤豊
	第 8 回：演習 2 日目 2 修正の確認	谷 佐藤順 佐藤豊
	【高次脳検査演習】	
	第 9 回：認知症検査(ADAS-J)	佐藤順子・中村哲也
	第 10 回：前頭葉機能検査 (WCST)	佐藤順子・中村哲也
	第 11 回：標準高次動作性検査(SPTA)	佐藤順子・中村哲也
	第 12 回：遂行機能検査(BADS)	佐藤順子・中村哲也
	第 13 回：標準注意検査 (CAT)	佐藤順子・中村哲也
	第 14 回：行動性無視検査 (BIT)	佐藤順子・中村哲也
	第 15 回：高次脳機能検査まとめ	佐藤順子・中村哲也

アクティブ ラーニング	演習科目 【失語】 グループ形式で演習を実施し、治療プログラムについて意見を出し合う。 【高次脳】 各グループで演習をし、授業では検査者として他の学生に検査を実施します。
評価方法	【失語】 課題のレポート 30% 演習の技能 30% 症例発表の内容 40%  【高次脳】 定期試験(60%) 報告書(30%) 実技試験(10%)
課題に対するフィード バック	【失語】 リアクションペーパーへのコメント 【高次脳】 演習中に解説をし、質疑応答を行います。 報告書の添削し、合格するまで再提出してもらいます。
指定図書	【失語】 藤田郁代、立石雅子編集「失語症学第2版」医学書院 【高次脳】『高次脳機能障害学』藤田郁代、関啓子編著医学書院 『言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編』深浦順一、為数哲司、内山量史編著 建帛社
参考図書	なし
事前・ 事後学修	【失語】 [事前学習] : Moodle を利用 演習では事前に自分の課題を明確にしてレポート作成 [事後学習] : 症例報告書の再作成 ルーブリックによる到達度確認 【高次脳】 [事前学修] Moodle を使用します 指定図書の該当箇所を読んで理解する。 検査演習では、事前にマニュアルを作成し、検査ができるようにしておく。 [事後学修] 検査演習の報告書を作成する。
オフィス アワー	【失語】 所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します 【高次脳】 所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407 研究室 時間等：11:45～12：15（毎週月曜から木曜） 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。

科目名	言語発達障害学基礎実習（保育園）
科目責任者	中村哲也
単位数他	1単位（45時間） 言語必修 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	9月前半に保育園にて5日間実習を行う。指定されたクラスに入り、朝から夕方まで子どもたちと一緒に過ごす。乳幼児の全体的な発達や言語発達の実際に触れ、1年次と2年次春セメスターに学んだ知識を現場で再確認し、再統合することを目的とする。同時に、保育士の業務内容や幼児との接し方、保育園の社会的役割を学ぶ。
到達目標	1. 健常発達を理解し、実習を通して知識を再確認することができる。 2. 保育士の業務内容を説明できる。 3. 社会人としての基本的態度を養うことができる。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 中村哲也、柴本勇、佐藤順子、石津希代子、谷哲夫、大原重洋、小林マヤ、佐藤豊展</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 社会人としての基本的態度を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保育園職員に対する適切な態度、ことば遣い</li> <li>2) 園児や保護者に対する適切な態度、ことば遣い</li> <li>3) 実習生としての適切な身なり、服装、態度</li> </ol> <p>言語聴覚学科の学生として学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 食事、着替え、排泄など、日常生活上の行為の発達</li> <li>2) コミュニケーションや言語の発達</li> <li>3) 遊びの内容の発達</li> <li>4) 運動能力の発達</li> <li>5) 幼児の個性、個人差について</li> <li>6) 保育士の業務全般</li> <li>7) 保育士の幼児との係わり方</li> <li>8) 保育園の社会的役割</li> </ol> <p>※実習前にオリエンテーションを実施する</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です。
評価方法	事前学修レポート 30% 実習日誌 50% 実習後レポート 20%
課題に対する フィード バック	レポートは返却時にコメントする
指定図書	『標準言語聴覚障害学 言語発達障害学』 玉井ふみ他 医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修：発達に関する復習課題、社会人としてのマナー等を実施する 事後学修：実習の振り返りを行う。 ※事前・事後学修は各担当教員と行う
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、時間については初回授業時に提示します
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語発達障害学	
科目責任者	大原 重洋	
単位数他	2単位 (30 時間) 言語必修 3 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	小児の認知言語心理的な発達段階を理解した上で、各種障害の病態と障害像、原因と発現メカニズムを学び言語発達支援に必要な考え方を学ぶ。さらに、子どもの発達段階や障害特性に即した指導・支援法を学修する。	
到達目標	1. 小児の発達段階別の特徴を捉えることができる。 2. 言語発達を阻害する各種障害の病態と障害像を説明することができる。 3. 脳性麻痺、重複障害の基本的な知識、言語を習得する。	
授業計画	<授業内容・テーマ等>  第 1 回：言語発達障害とはなにか、働きかけの原理 第 2 回：前言語期・語彙獲得期の言語発達と障害 第 3 回：幼児期の言語発達と障害 第 4 回：学童期の読み書きと学習と障害 第 5 回：自閉症スペクトラム障害の評価と指導・支援 第 6 回：認知・運動発達の評価・指導・訓練 第 7 回：認知・運動発達の評価・指導・訓練 第 8 回：知的障害の評価と指導・支援 第 9 回：特異的言語発達障害の評価と指導・支援① 第 10 回：特異的言語発達障害の評価と指導・支援② 第 11 回：学習障害の評価と指導・支援 第 12 回：注意欠陥/多動性障害の評価と指導・支援 第 13 回：脳性麻痺の基本的知識、言語聴覚障害の特徴と評価 第 14 回：脳性麻痺の基本的知識、言語聴覚障害の特徴と評価 第 15 回：重複障害の基本的知識、言語聴覚障害の特徴と評価	<担当教員名> 大原重洋、小林マヤ、伊藤 信寿  大原 大原 小林 小林 小林 伊藤 伊藤 小林 小林 小林 小林 ゲストスピーカー ゲストスピーカー ゲストスピーカー

アクティブ ラーニング	事前に学習箇所のノートをまとめる。
評価方法	定期試験 70%、小テスト 30%
課題に対する フィード バック	單元ごとに小テストを実施し、解説する。 リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	玉井ふみ他 「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学」医学書院 2015
参考図書	なし
事前・ 事後学修	教科書の当該箇所を纏め、必要に応じて他資料を用い、資料を作成し、発表の準備を行う。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語発達障害評価演習
科目責任者	中村哲也
単位数他	1単位(30時間) 言語必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	言語発達障害学評価演習では、小児領域で良く用いられる検査の理論と手技を学ぶことを目的としている。授業は検査演習を多く取り入れる。
到達目標	1. 各検査の概要・解説を説明できる 2. 各検査を正しく実施できる 3. 各検査の結果のまとめができる
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 中村哲也、小林マヤ (すべてを2人で担当する。)</p> <p>第 1回: ガイダンス・観察評価</p> <p>第 2回: 言語検査①「絵画語彙発達検査」</p> <p>第 3回: 言語検査②「質問-応答関係検査」</p> <p>第 4回: 言語検査③「国リハ式&lt;S-S法&gt;言語発達遅滞検査」</p> <p>第 5回: 言語検査③「国リハ式&lt;S-S法&gt;言語発達遅滞検査」</p> <p>第 6回: 言語検査③「国リハ式&lt;S-S法&gt;言語発達遅滞検査」</p> <p>第 7回: 言語検査③「国リハ式&lt;S-S法&gt;言語発達遅滞検査」</p> <p>第 8回: 発達・知能検査①「新版-K式発達検査 2001」</p> <p>第 9回: 発達・知能検査①「新版-K式発達検査 2001」</p> <p>第 10回: 発達・知能検査②「WISC-IV」</p> <p>第 11回: 発達・知能検査②「WISC-IV」</p> <p>第 12回: 発達・知能検査②「WISC-IV」</p> <p>第 13回: 発達・知能検査③「K-ABC II 心理・教育アセスメントバッテリー」</p> <p>第 14回: 発達・知能検査③「K-ABC II 心理・教育アセスメントバッテリー」</p> <p>第 15回: 発達・知能検査③「K-ABC II 心理・教育アセスメントバッテリー」</p>

アクティブ ラーニング	演習科目です
評価方法	レポート100% (6回)
課題に対する フィード バック	レポートについては解答例を示し、フィードバックを行います
指定図書	玉井ふみ他 「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学」医学書院 2015
参考図書	小寺富子・倉井成子・佐竹恒夫 「国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査マニュアル」 エスコ アール 新版 K 式発達検査研究会 「新版 K 式発達検査法 2001 年度版 標準化資料と実施法」 ナカニ シヤ出版 上野一彦・松田修・小林玄・木下智子 「日本版 WISC-IVによる発達障害のアセスメント 一 代表的な指標パターンの解釈と事例紹介」 日本文化科学社 藤田和弘 (監) 「KABC-IIによる心理アセスメントの要点」 丸善出版
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：該当する検査のマニュアルを事前によく読みこんでおくこと</li> <li>・事後学修：授業で行った検査はマニュアルを見なくても出来るように何度も繰り返し練習しておくこと</li> </ul>
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、時間については初回授業時に提示します
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。



アクティブ ラーニング	Moodle 上の課題を踏まえて、授業中はグループ学修を中心に行う。
評価方法	定期試験 70%、レポート 30% (3 回程度計画している)
課題に対する フィード バック	毎回の授業、発表時のフィードバック、課題レポート返却時のコメント。
指定図書	玉井ふみ他 「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学」医学書院 2015
参考図書	大石敬子 「ことばの障害の評価と指導」大修館書店 2001
事前・ 事後学修	毎回の事前学習 (40 分) : Moodle 上にアップされた課題を行う。 毎回の事後学修 (40 分) : グループワークのまとめ、課題の発表の準備を行う。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3408 研究室。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語発達障害治療演習	
科目責任者	大原 重洋	
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 6 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。	
科目概要	言語発達障害児の言語・コミュニケーションの評価・指導プログラムを立案する。さらに、協力者の協力を得て、立案したプログラムを実施し、結果をまとめる。	
到達目標	1. 様々なアプローチ技術を理解し、事例を通して応用することができる。 2. 発達段階や障害を考慮しつつ指導・訓練計画をグループで立案し実施することができる。	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：言語発達障害児の臨床における関連情報の収集</p> <p>第 2 回：言語・コミュニケーションの評価と支援のあり方①</p> <p>第 3 回：言語・コミュニケーションの評価と支援のあり方②</p> <p>第 4 回：評価計画の立案と作成①</p> <p>第 5 回：評価計画の立案と作成②</p> <p>第 6 回：評価計画の実施（学生同士で確認）①</p> <p>第 7 回：評価計画の実施（学生同士で確認）②</p> <p>第 8 回：演習⑦（言語発達障害児）</p> <p>第 9 回：演習⑧（言語発達障害児）</p> <p>第 10 回：評価サマリーの作成と指導プログラムの検討</p> <p>第 11 回：評価サマリーの作成と指導プログラムの検討</p> <p>第 12 回：演習⑨（言語発達障害児）</p> <p>第 13 回：演習⑩（言語発達障害児）</p> <p>第 14 回：報告会①</p> <p>第 15 回：報告会②</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>大原重洋、小林マヤ</p> <p>小林</p> <p>小林</p> <p>小林</p> <p>大原・小林</p> <p>大原・小林</p> <p>大原・小林</p> <p>大原・小林</p> <p>大原・小林</p> <p>大原・小林</p> <p>小林</p> <p>小林</p> <p>大原・小林</p> <p>大原・小林</p> <p>小林</p> <p>小林</p>

アクティブ ラーニング	Moodle 上の課題を踏まえて、授業中はグループ学修を中心に行う。
評価方法	定期試験 60%、グループワーク 40% ※プレゼンテーション、ディスカッションについては、ルーブリックに基づいて評価する。
課題に対する フィード バック	単元ごとに小テストを実施し、解説する。 リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	玉井ふみ他 「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学」医学書院 2015
参考図書	なし
事前・ 事後学修	教科書の当該箇所を纏め、必要に応じて他資料を用い、グループ毎に資料を作成し、発表の準備を行う。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8 時 50 分～10 時 10 分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。

科目名	発声発語障害学総論
科目責任者	中村哲也
単位数他	1単位（15時間） 言語必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	発声発語障害は、発声発語器官の構造・機能の問題によって、発話が音響学的に変化した状態である。本科目では、発声発語障害を構造・機能の側面から学び、それぞれがどのような症状と関連するかについて概要を学ぶ。疾患と発声発語障害についても学ぶ
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発声発語障害の種類と特徴を説明することができる。</li> <li>2. 発声発語障害を構造・機能的側面から分析できる。</li> <li>3. 疾患と発声発語障害の関係を説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;中村哲也</span></p> <p>第1～2回：機能的要因による発声発語障害（機能性構音障害）</p> <p>第3～4回：構造的要因による発声発語障害（鼻咽腔閉鎖機能不全に伴う構音障害）</p> <p>第5回：グループ発表</p> <p>第6～7回：運動的要因による発声発語障害（運動障害性構音障害）</p> <p>第8回：グループ発表</p>

アクティブ ラーニング	Moodle の活用、グループ討議などを実施します
評価方法	レポート 50%、グループ発表 50%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパー等を用いてフィードバックを行います
指定図書	「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版」(医学書院、2015)
参考図書	なし
事前・ 事後学修	指定図書の授業内容にあたる部分を事前に読んでおきましょう
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、水曜 13 : 00~14 : 20
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	音声障害学																		
科目責任者	柴本 勇																		
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 5セメスター																		
DP 番号と科目領域	DP2 専門																		
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																		
科目概要	発声にかかわる喉頭の解剖と生理を理解し、音声障害を来す病理的メカニズムを学ぶ。異常な音声の評価方法(聴覚的評価・内視鏡検査・空気力学的検査・音響学的検査など)を知り、評価・診断に基づく治療方針の立て方を理解する。また、音声訓練の考え方と様々な手法を理解し、基礎的な技術を習得する。喉頭摘出後の代替音声についても理解する。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常発声のメカニズム・病的発声のメカニズムを説明できる。</li> <li>2. 音声障害の問題を適正に捉え、評価・分析できる。</li> <li>3. 音声障害患者の問題を解決する適切な方法を具体的に提示できる。</li> </ol>																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション・発声のメカニズム</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：音声障害と喉頭病変</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：喉頭の観察と治療への応用</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：音声障害の診断と治療（薬物療法、外科的治療を含む）</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：音声障害の評価法</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：音声障害の訓練法</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：無喉頭音声・気管切開とコミュニケーション</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：事例検討</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：オリエンテーション・発声のメカニズム	柴本 勇	第 2 回：音声障害と喉頭病変	柴本 勇	第 3 回：喉頭の観察と治療への応用	柴本 勇	第 4 回：音声障害の診断と治療（薬物療法、外科的治療を含む）	柴本 勇	第 5 回：音声障害の評価法	柴本 勇	第 6 回：音声障害の訓練法	柴本 勇	第 7 回：無喉頭音声・気管切開とコミュニケーション	柴本 勇	第 8 回：事例検討	柴本 勇
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第 1 回：オリエンテーション・発声のメカニズム	柴本 勇																		
第 2 回：音声障害と喉頭病変	柴本 勇																		
第 3 回：喉頭の観察と治療への応用	柴本 勇																		
第 4 回：音声障害の診断と治療（薬物療法、外科的治療を含む）	柴本 勇																		
第 5 回：音声障害の評価法	柴本 勇																		
第 6 回：音声障害の訓練法	柴本 勇																		
第 7 回：無喉頭音声・気管切開とコミュニケーション	柴本 勇																		
第 8 回：事例検討	柴本 勇																		

アクティブ ラーニング	Moodle の活用・反転授業
評価方法	定期試験：60%、事前課題：20%、事前テスト10%、事後テスト10%
課題に対する フィード バック	毎回の講義では、事前課題・リアクションペーパーに対するコメントをします。 毎回講義終了時に、事前テストの解説を行います。
指定図書	標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版」(医学書院)
参考図書	「新編 声の検査法」(医歯薬出版) 「動画で見る音声障害」(インテルナ出版)
事前・ 事後学修	Moodle を用いて、事前課題・事前テスト・事後テストを行います。 Moodle の機能を活用して質問を受けます。
オフィス アワー	初回講義時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	小児構音障害学
科目責任者	中村哲也
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	主に小児の構音障害について学ぶ。まず正常な構音の発達を理解し、構音障害を来す器質的問題や運動障害がない機能性構音障害について、評価方法や鑑別診断について学ぶ。また実際の症例の音声サンプルを用いて、異常構音などの聞き取りを行う。
到達目標	1. 小児の構音障害について鑑別診断ができる。 2. 小児における構音障害の評価方法を理解することが出来る 3. 異常構音を聞き取ることが出来る。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 中村哲也</p> <p>第 1 回：ガイダンス 小児構音障害の鑑別診断と臨床の流れ</p> <p>第 2 回：構音の発達</p> <p>第 3 回：小児構音障害にみられる音の誤り 置換・省略・音節の脱落・同化・音韻転換等</p> <p>第 4 回：小児の構音障害にみられる音の誤り 子音の弱音化・鼻音化・側音化構音・口蓋化構音</p> <p>第 5 回：小児の構音障害にみられる音の誤り 鼻咽腔構音・声門破裂音・咽頭破裂音・咽頭摩擦音</p> <p>第 6 回：演習：異常構音の聞き取り</p> <p>第 7 回：器質性構音障害の定義と疫学</p> <p>第 8 回：口蓋裂言語の特徴</p>

アクティブ ラーニング	異常構音の練習を実際に発音できるように練習してもらいます
評価方法	定期試験 (90%)、小テスト (10%)
課題に対する フィード バック	小テストは次の時間に返却し解説します
指定図書	「構音障害の臨床 -基礎知識と実践マニュアル- 改訂第2版」(金原出版、2003年)
参考図書	「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版」(医学書院、2015)
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業初回に全てのレジюмеを配布します。レジюмеを見て教科書の該当箇所を読んでおき、空白部分の穴埋めをしておくといよいでしょう。</li> <li>・異常構音は自分で発音できるように、声に出して練習してください。</li> </ul>
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、水曜 13 : 00~14 : 20
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	成人構音障害学
科目責任者	佐藤 豊展
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	運動障害性構音障害と口腔癌治療後など後天性の器質性構音障害について、発声メカニズムや症状を原因と関連づけて理解する。各種評価について、学生同士の演習を交えて習得する。タイプ分類と特徴を理解し、症例の評価分析からタイプ分類ができるようになる。そのうえで、問題点を抽出し、障害に応じた訓練プログラムの立案ができるようになることを目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人構音障害の種類と原因が説明できる</li> <li>2. 運動障害性構音障害のタイプ分類と特徴を説明できる</li> <li>3. 運動障害性構音障害の評価法を説明できる</li> <li>4. 評価から問題点を抽出し、訓練プログラムの立案ができる</li> <li>5. 症例報告書の書き方が理解できる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;佐藤豊展</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回： 発声発語の神経学的基盤とその病理 ★小テスト</p> <p>第2回： 成人構音障害の種類と原因(運動障害・器質障害)</p> <p>第3回： 運動障害性構音障害のタイプ・病態・症状①</p> <p>第4回： 運動障害性構音障害のタイプ・病態・症状② ★小テスト</p> <p>第5回： 評価方法①：会話評価 ★レポート</p> <p>第6回： 評価方法②：発声発語器官の形態と機能の検査 ★実技演習</p> <p>第7回： 評価方法③：神経学的検査</p> <p>第8回： 検査結果のまとめ方、問題点の抽出、・症例報告書の書き方 ★レポート</p>

アクティブ ラーニング	第1回目はグループ形式で行います。 moodle を活用して、レポート課題を行います。
評価方法	定期試験 50%、レポート 20%、小テスト 15%、ルーブリック 15% 達成度は、ルーブリックに基づいて確認する
課題に対する フィード バック	小テストの解説、レポートの返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。
指定図書	西尾正輝編「ディサースリアの基礎と臨床 第1巻 理論編」インテルナ出版 西尾正輝編「標準ディサースリア検査」インテルナ出版
参考図書	西尾正輝編「ディサースリアの基礎と臨床 第2巻 臨床基礎編」インテルナ出版
事前・ 事後学修	Moodle を利用して、事前学修課題（呼吸発声発語系の構造・機能・病態などによる予習内容、標準ディサースリア検査（AMSD）の実施方法）を提示します。事後学修課題は授業の際に提示します。1回の事前・事後学修時間は60分と考えています。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、月曜 15:00～17:30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発声発語障害評価演習					
科目責任者	佐藤 豊展					
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 5 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。					
科目概要	<p>小児構音障害学、成人構音障害学を踏まえて、実際に発声発語障害のある方にご協力頂き、評価から訓練プログラムの立案までをグループ演習で行う。</p> <p>成人構音障害の演習では、演習協力者の情報から評価の計画を立案する。症例情報や会話評価から適切な鑑別検査を選択する。結果を分析し、掘り下げ検査を選択して実施する。検査後は、発生メカニズムや症状を原因と関連づけて分析し、タイプ分類や問題点の抽出、訓練プログラムの立案を行う。最終的に評価報告書を作成する。本科目は、グループ学習・グループ演習・Webを用いた学習を通じて主体的に学修する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の構音障害の発話を聞き取り IPA で表記できる</li> <li>2. 新版一構音検査、口蓋裂言語検査を実施し、結果をまとめることができる</li> <li>3. 基本的臨床態度を学び、演習で実施することができる</li> <li>4. 演習協力者の計画書を作成し、評価を実施し、結果を分析することができる</li> <li>5. 問題点を抽出し、訓練プログラムを立案することができる</li> <li>6. 症例報告書が作成できる</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;佐藤豊展、柴本勇、中村哲也</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回： 機能性構音障害の評価</p> <p>第2回： 新版一構音検査①</p> <p>第3回： 新版一構音検査②</p> <p>第4回： 演習：機能性構音障害児の聞き取り・IPA 表記</p> <p>第5回： //</p> <p>第6回： 器質性構音障害の評価</p> <p>第7回： 口蓋裂言語検査</p> <p>第8回： 基本的臨床態度・行動演習・症例演習計画発表</p> <p>第9回： 演習：症例演習計画検討、OSCE ★評価計画書提出(各 G)</p> <p>第10回： 演習：症例演習(評価)①A/B</p> <p>第11回： 演習：症例演習(評価)①C/D</p> <p>第12回： 演習：症例演習内容討議 ★評価計画書提出(各 G)</p> <p>第13回： 演習：症例演習(評価)③A/B</p> <p>第14回： 演習：症例演習(評価)③C/D</p> <p>第15回： 症例発表 ★評価報告書提出(個人)</p> </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>佐藤豊展</p> <p>佐藤豊展・柴本 勇</p> <p>佐藤豊展・柴本 勇</p> <p>佐藤豊展・柴本 勇</p> <p>佐藤豊展</p> <p>佐藤豊展・柴本 勇</p> <p>佐藤豊展・柴本 勇</p> <p>佐藤豊展・柴本 勇</p> </td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> </table> <p>*第1～7回は小児構音障害、第8～15回は成人構音障害。 *講義内容、順序が変更する可能性あり</p>			<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回： 機能性構音障害の評価</p> <p>第2回： 新版一構音検査①</p> <p>第3回： 新版一構音検査②</p> <p>第4回： 演習：機能性構音障害児の聞き取り・IPA 表記</p> <p>第5回： //</p> <p>第6回： 器質性構音障害の評価</p> <p>第7回： 口蓋裂言語検査</p> <p>第8回： 基本的臨床態度・行動演習・症例演習計画発表</p> <p>第9回： 演習：症例演習計画検討、OSCE ★評価計画書提出(各 G)</p> <p>第10回： 演習：症例演習(評価)①A/B</p> <p>第11回： 演習：症例演習(評価)①C/D</p> <p>第12回： 演習：症例演習内容討議 ★評価計画書提出(各 G)</p> <p>第13回： 演習：症例演習(評価)③A/B</p> <p>第14回： 演習：症例演習(評価)③C/D</p> <p>第15回： 症例発表 ★評価報告書提出(個人)</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>佐藤豊展</p> <p>佐藤豊展・柴本 勇</p> <p>佐藤豊展・柴本 勇</p> <p>佐藤豊展・柴本 勇</p> <p>佐藤豊展</p> <p>佐藤豊展・柴本 勇</p> <p>佐藤豊展・柴本 勇</p> <p>佐藤豊展・柴本 勇</p>	
<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回： 機能性構音障害の評価</p> <p>第2回： 新版一構音検査①</p> <p>第3回： 新版一構音検査②</p> <p>第4回： 演習：機能性構音障害児の聞き取り・IPA 表記</p> <p>第5回： //</p> <p>第6回： 器質性構音障害の評価</p> <p>第7回： 口蓋裂言語検査</p> <p>第8回： 基本的臨床態度・行動演習・症例演習計画発表</p> <p>第9回： 演習：症例演習計画検討、OSCE ★評価計画書提出(各 G)</p> <p>第10回： 演習：症例演習(評価)①A/B</p> <p>第11回： 演習：症例演習(評価)①C/D</p> <p>第12回： 演習：症例演習内容討議 ★評価計画書提出(各 G)</p> <p>第13回： 演習：症例演習(評価)③A/B</p> <p>第14回： 演習：症例演習(評価)③C/D</p> <p>第15回： 症例発表 ★評価報告書提出(個人)</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>佐藤豊展</p> <p>佐藤豊展・柴本 勇</p> <p>佐藤豊展・柴本 勇</p> <p>佐藤豊展・柴本 勇</p> <p>佐藤豊展</p> <p>佐藤豊展・柴本 勇</p> <p>佐藤豊展・柴本 勇</p> <p>佐藤豊展・柴本 勇</p>					

アクティブ ラーニング	演習はグループ形式で行います。 moodle を活用して、レポート課題を行います。
評価方法	定期試験 60%、レポート 20%、演習 10% *小児構音障害：定期試験 40%、レポート 10% *成人構音障害：定期試験 20%、レポート 20%、演習 10% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対す るフィード バック	症例計画書・報告書、レポートの解説、返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。
指定図書	西尾正輝編「ディサースリアの基礎と臨床 第2巻 臨床基礎編」インテルナ出版 阿部雅子「構音障害の臨床－基礎知識と実践マニュアル－ 改定第2版」金原出版
参考図書	西尾正輝編「標準ディサースリア検査」インテルナ出版
事前・ 事後学修	Moodle を利用して、事前学修課題（指定図書における予習内容）を提示します。事後学修課題は授業の際に提示します。1回の事前・事後学修時間は40分と考えています。
オフィス アワー	①成人構音障害（佐藤豊展） リハビリテーション学部、3512 研究室、月曜 15：00～17：30 ②小児構音障害（中村哲也） リハビリテーション学部、3512 研究室、水曜 13：00～14：20 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発声発語障害治療演習																								
科目責任者	佐藤 豊展																								
単位数他	1単位 (30時間) 言語必修 6セメスター																								
DP番号と科目領域	DP5 専門																								
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。																								
科目概要	小児構音障害学、成人構音障害学、発声発語障害評価演習を踏まえて、発声発語障害の治療を学んでいく。講義では模擬的に治療を実施することで具体的な治療手技を習得する。事例検討を通して、臨床現場で対応できる知識・考え方を身につける。																								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の構音障害児の発話から、評価、治療プログラム立案、治療までの一連の臨床の流れを理解し、模擬的に実施することができる</li> <li>2. 各種訓練の目的や意義、方法を具体的に説明し、模擬的に実施することができる。</li> <li>3. 事例検討時に症状や特徴を把握し、問題点の抽出や治療プログラムの立案ができる。</li> <li>4. 症例報告書が作成できる。</li> </ol>																								
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;佐藤豊展、柴本勇、中村哲也</p> <table border="0"> <tr> <td>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</td> <td>&lt;担当教員名&gt;</td> </tr> <tr> <td>第1回： 機能性構音障害児の訓練</td> <td>中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第2回： 器質性構音障害児の訓練</td> <td>中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第3～7回： 症例演習（グループごとにPBLにて実施）</td> <td>中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第7～8回： 症例発表</td> <td>中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第9回： 治療①：機能改善訓練</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第10回： 治療②：代償的訓練</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第11回： 治療③：AAC</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第12回： 治療④：実技演習（グループ演習）</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第13回： 事例検討①</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第14回： 事例検討②</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第15回： 事例検討③ / 総括</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> </table> <p>★確認テスト ★ループリック ★症例報告書提出(個人)</p> <p>*第1～8回は小児構音障害、第9～15回は成人構音障害。 *講義内容、順序が変更する可能性あり</p>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回： 機能性構音障害児の訓練	中村哲也	第2回： 器質性構音障害児の訓練	中村哲也	第3～7回： 症例演習（グループごとにPBLにて実施）	中村哲也	第7～8回： 症例発表	中村哲也	第9回： 治療①：機能改善訓練	佐藤豊展	第10回： 治療②：代償的訓練	佐藤豊展	第11回： 治療③：AAC	佐藤豊展	第12回： 治療④：実技演習（グループ演習）	佐藤豊展・柴本 勇	第13回： 事例検討①	佐藤豊展・柴本 勇	第14回： 事例検討②	佐藤豊展・柴本 勇	第15回： 事例検討③ / 総括	佐藤豊展・柴本 勇
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																								
第1回： 機能性構音障害児の訓練	中村哲也																								
第2回： 器質性構音障害児の訓練	中村哲也																								
第3～7回： 症例演習（グループごとにPBLにて実施）	中村哲也																								
第7～8回： 症例発表	中村哲也																								
第9回： 治療①：機能改善訓練	佐藤豊展																								
第10回： 治療②：代償的訓練	佐藤豊展																								
第11回： 治療③：AAC	佐藤豊展																								
第12回： 治療④：実技演習（グループ演習）	佐藤豊展・柴本 勇																								
第13回： 事例検討①	佐藤豊展・柴本 勇																								
第14回： 事例検討②	佐藤豊展・柴本 勇																								
第15回： 事例検討③ / 総括	佐藤豊展・柴本 勇																								

アクティブ ラーニング	演習はグループ形式で行います。 moodle を活用して、レポート課題を行います。
評価方法	症例発表 30%、レポート 40%、実技演習 15%、確認テスト 15% *小児構音障害：症例発表 30%、レポート 20% *成人構音障害：レポート（症例報告書）20%、実技演習 15%、確認テスト 15% 実技演習の達成度は、ルーブリックに基づいて確認します。
課題に対する フィード バック	症例報告書、確認テストの解説、返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。
指定図書	西尾正輝編「ディサースリアの基礎と臨床 第3巻 臨床実用編」インテルナ出版 阿部雅子「構音障害の臨床－基礎知識と実践マニュアル－ 改定第2版」金原出版
参考図書	西尾正輝編「ディサースリアの基礎と臨床 第2巻 臨床基礎編」インテルナ出版 西尾正輝編「標準ディサースリア検査」インテルナ出版
事前・ 事後学修	Moodle を利用して、事前学修課題（指定図書における予習内容）を提示します。事後学修課題は授業の際に提示します。1回の事前・事後学修時間は40分と考えています。
オフィス アワー	①成人構音障害（佐藤豊展） リハビリテーション学部、3512 研究室、月曜 15：00～17：30 ②小児構音障害（中村哲也） リハビリテーション学部、3512 研究室、水曜 13：00～14：20 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	流暢性障害学
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	吃音は様々な要因によって引き起こされる。吃音症状は個別的であり、訓練方法も個別的でなければならぬ。吃音の改善に取り組む言語聴覚士は、言語症状だけでなく対象者の生育環境や人間関係などにも目を向ける必要がある。
到達目標	1. 吃音の疫学研究, 原因論, 分類法を学ぶ。 2. 吃音臨床の基本を習得する。 3. 吃音児 (者) の抱えている問題や悩みを理解できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：発話の流暢性の障害 原因論と進展 谷</p> <p>第 2 回：幼児期の言語発達と発話の非流暢性 発達障害との合併 谷</p> <p>第 3 回：吃音の評価方法① 概説 谷</p> <p>第 4 回：吃音の評価方法② 実際 谷</p> <p>第 5 回：幼児・学齢期の吃音に対する訓練法① 環境調整 谷</p> <p>第 6 回：幼児・学齢期の吃音に対する訓練法② 直接法 谷</p> <p>第 7 回：成人の吃音に対する訓練法 谷</p> <p>第 8 回：吃音児者を取り巻く環境 セルフヘルプグループ 谷</p>

アクティブ ラーニング	Moodle を使用
評価方法	定期試験 80% 毎回の小テスト（復習テスト） 20%
課題に対する フィード バック	小テスト（復習テスト）を授業の中で行います
指定図書	小林宏明・川合紀宗編著「特別支援教育における吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援」 学苑社
参考図書	なし
事前・ 事後学修	Moodle による予習・復習（各 40 分）
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	摂食嚥下障害学概論																																													
科目責任者	佐藤 豊展																																													
単位数他	2単位 (30 時間) 理学選択・作業選択 3セメスター 言語必修 5セメスター																																													
DP 番号と科目領域	DP2 専門																																													
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																													
科目概要	食べ物を認知し、口に取り込んでから胃へと運ばれるまでの摂食・嚥下のメカニズムを理解する。神経疾患、器質的原因、発達障害、加齢変化で起こる摂食嚥下障害の特徴を理解し、ライフステージでの摂食嚥下の変化や対処法について学ぶ。ST が行う情報収集・理学的所見・スクリーニング検査、医師とともに精密検査などの評価から摂食嚥下障害の特徴と問題点を明らかにする。嚥下障害の訓練に関わる栄養管理、経管栄養法、吸引の理論を学ぶ。																																													
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食べ物を口腔に取り込んでから飲み込むまでのメカニズムが説明できる。</li> <li>2. 摂食嚥下障害の原因が説明できる。</li> <li>3. 情報収集や理学的所見、スクリーニング検査から問題点の抽出ができる</li> <li>4. 情報収集や理学的所見、スクリーニング検査の目的や意義、方法を具体的に説明し、模擬的に実施することができる。</li> <li>5. VE・VF について説明できる。</li> <li>6. 栄養管理、経管栄養法、吸引について説明できる。</li> </ol>																																													
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;佐藤豊展、柴本勇、佐久間佐織、ゲストスピーカー</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回： 解剖・生理学的基盤</td> <td></td> <td>&lt;担当教員名&gt; 佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第2回： 生理学的基盤</td> <td>★レポート</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第3回： 神経制御・嚥下関連筋群</td> <td>★小テスト (解剖・生理学的基盤)</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第4回： 摂食嚥下機構の年齢変化</td> <td>★小テスト (神経制御・嚥下関連筋群)</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第5回： 摂食嚥下障害の原因と分類①神経原性・器質性</td> <td></td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第6回： 摂食嚥下障害の原因と分類②医原性・栄養障害・小児期</td> <td></td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第7回： 摂食嚥下障害の病態と症状</td> <td>★小テスト (年齢変化、原因と分類)</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第8回： 摂食嚥下障害の評価①情報収集、音声・構音検査</td> <td></td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第9回： // ②スクリーニング</td> <td></td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第10回： // ③スクリーニング実技演習</td> <td>★ルーブリック</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第11回： // ④摂食場面の評価</td> <td></td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第12回： // ⑤VE・VF</td> <td></td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第13回： 摂食嚥下障害と栄養管理</td> <td></td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第14回： 経管栄養法、吸引</td> <td></td> <td>佐久間 佐織・佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第15回： リスク管理 (全身管理、カニューレ) グループ学修</td> <td></td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> </table> <p>*講義内容、順序が変更する可能性あり</p>	第1回： 解剖・生理学的基盤		<担当教員名> 佐藤 豊展	第2回： 生理学的基盤	★レポート	佐藤 豊展	第3回： 神経制御・嚥下関連筋群	★小テスト (解剖・生理学的基盤)	佐藤 豊展	第4回： 摂食嚥下機構の年齢変化	★小テスト (神経制御・嚥下関連筋群)	佐藤 豊展	第5回： 摂食嚥下障害の原因と分類①神経原性・器質性		佐藤 豊展	第6回： 摂食嚥下障害の原因と分類②医原性・栄養障害・小児期		柴本 勇	第7回： 摂食嚥下障害の病態と症状	★小テスト (年齢変化、原因と分類)	佐藤 豊展	第8回： 摂食嚥下障害の評価①情報収集、音声・構音検査		佐藤 豊展	第9回： // ②スクリーニング		佐藤 豊展	第10回： // ③スクリーニング実技演習	★ルーブリック	ゲストスピーカー	第11回： // ④摂食場面の評価		佐藤 豊展	第12回： // ⑤VE・VF		佐藤 豊展	第13回： 摂食嚥下障害と栄養管理		ゲストスピーカー	第14回： 経管栄養法、吸引		佐久間 佐織・佐藤豊展	第15回： リスク管理 (全身管理、カニューレ) グループ学修		佐藤 豊展
第1回： 解剖・生理学的基盤		<担当教員名> 佐藤 豊展																																												
第2回： 生理学的基盤	★レポート	佐藤 豊展																																												
第3回： 神経制御・嚥下関連筋群	★小テスト (解剖・生理学的基盤)	佐藤 豊展																																												
第4回： 摂食嚥下機構の年齢変化	★小テスト (神経制御・嚥下関連筋群)	佐藤 豊展																																												
第5回： 摂食嚥下障害の原因と分類①神経原性・器質性		佐藤 豊展																																												
第6回： 摂食嚥下障害の原因と分類②医原性・栄養障害・小児期		柴本 勇																																												
第7回： 摂食嚥下障害の病態と症状	★小テスト (年齢変化、原因と分類)	佐藤 豊展																																												
第8回： 摂食嚥下障害の評価①情報収集、音声・構音検査		佐藤 豊展																																												
第9回： // ②スクリーニング		佐藤 豊展																																												
第10回： // ③スクリーニング実技演習	★ルーブリック	ゲストスピーカー																																												
第11回： // ④摂食場面の評価		佐藤 豊展																																												
第12回： // ⑤VE・VF		佐藤 豊展																																												
第13回： 摂食嚥下障害と栄養管理		ゲストスピーカー																																												
第14回： 経管栄養法、吸引		佐久間 佐織・佐藤豊展																																												
第15回： リスク管理 (全身管理、カニューレ) グループ学修		佐藤 豊展																																												

アクティブ ラーニング	グループ学修形式を取り入れて行います。
評価方法	定期試験 50%、小テスト20%、実技演習 20%、レポート10% 実技演習の達成度は、ルーブリックに基づいて確認します。 レポートは、ルーブリックを用いない。
課題に対する フィード バック	小テストの解説、レポートの返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。
指定図書	倉智雅子編集：言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学（医歯薬出版）
参考図書	才藤栄一・植田耕一郎監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版（医歯薬出版）
事前・ 事後学修	Moodle を利用して、事前学修課題（指定図書における予習内容）を提示します。事後学修課題は授業の際に提示します。1回の事前・事後学修時間は40分と考えています。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、月曜 15：00～17：30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	摂食嚥下障害総合演習
科目責任者	佐藤 豊展
単位数他	1単位 (30時間) 言語必修 6セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	摂食嚥下障害の評価、問題点の抽出、訓練プログラムの立案、訓練手技について学ぶ。STが行う情報収集・理学的所見・スクリーニング検査、医師とともに行う精密検査などの評価から摂食嚥下障害の特徴と問題点を明らかにする。摂食嚥下障害への直接訓練や間接訓練について学んでいく。事例検討を通して、臨床現場で対応できる知識・考え方を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. VF、VEの目的や意義、評価用紙への記録方法を説明できるとともに、問題点の抽出や訓練プログラムの立案ができる。</li> <li>2. 各種訓練の目的や意義、方法を具体的に説明し、模擬的に実施することができる。</li> <li>3. 事例検討時に症状や特徴を把握し、問題点の抽出や訓練プログラムの立案ができる。</li> <li>4. 症例報告書が作成できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;佐藤豊展、柴本勇、有菌信一、ゲストスピーカー</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span></p> <p>第1回： 摂食嚥下障害の評価①VEの評価・記録 演習 ★レポート (VE) 佐藤 豊展</p> <p>第2回： " ②VFの評価・記録 演習 ★レポート (VF) 佐藤 豊展</p> <p>第3回： 摂食嚥下障害の間接訓練①訓練の種類、負荷量の設定 講義・演習 佐藤 豊展・柴本 勇</p> <p>第4回： " ② " 佐藤 豊展・柴本 勇</p> <p>第5回： " ③ " 佐藤 豊展・柴本 勇</p> <p>第6回： 摂食嚥下障害の直接訓練①代償的手法 講義・演習 柴本 勇・佐藤 豊展</p> <p>第7回： " ②嚥下手技 講義・演習 柴本 勇・佐藤 豊展</p> <p>第8回： " ③食事介助 講義・演習 柴本 勇・佐藤 豊展</p> <p>第9回： 摂食嚥下障害の訓練 実技演習 ★ループリック ゲストスピーカー・佐藤 豊展</p> <p>第10回： 嚥下訓練のリスク管理、手術的治療 佐藤 豊展</p> <p>第11回： 呼吸器疾患、呼吸器合併症、肺理学療法 有菌 信一・佐藤豊展</p> <p>第12回： 報告書作成 佐藤 豊展</p> <p>第13～15回： 事例検討 (評価、問題点抽出、訓練プログラム立案) 佐藤 豊展・柴本勇</p> <p style="text-align: right;">★レポート (症例報告書)</p> <p>*この他に聖隷三方原病院・浜松市リハビリテーション病院でのVE・VFの見学、実技演習を行う (12月初旬～中旬)</p>

アクティブ ラーニング	事例検討では、グループ学修形式で行います。 VE・VFは、moodleを活用して、レポート課題を行います。
評価方法	定期試験 50%、レポート30%、実技演習 20% 実技演習は、ルーブリックに基づいて確認する レポートは、ルーブリックを用いない。
課題に対する フィード バック	レポートの解説を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。
指定図書	倉智雅子編集：言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学（医歯薬出版）
参考図書	才藤栄一・植田耕一郎監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版（医歯薬出版）
事前・ 事後学修	Moodleを利用して、事前学修課題（指定図書における予習内容）を提示します。事後学修課題は授業の際に提示します。1回の事前・事後学修時間は40分と考えています。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3512研究室、月曜15:00～17:30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	聴覚障害学
科目責任者	石津希代子
単位数他	2単位 (30 時間) 言語必修 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	1 年次に学んだ聴覚メカニズムと聴覚疾患に関する知識をもとに、この科目では聴覚機能の診断に必要とされる基本的な聴覚検査の理解をめざします。標準純音聴力検査、語音聴力検査を中心に、その他の各種聴覚検査を学習します。加えて、難聴者の聴こえと聴覚補償の概要を学ぶとともに、聴覚特別支援学校を見学し、教育現場における指導の実際を理解します。
到達目標	1. 各種聴覚検査を体験し、検査意義や適応、検査方法を説明できる。 2. 各種聴覚検査の検査結果から分かることが説明できる。 3. 聴覚補償の方法とコミュニケーション手段について説明できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;石津希代子</p> <p>第 1 回：オリエンテーション (概要と受講ルール、耳の構造、伝導路) 聴覚障害による問題 (伝音難聴、感音難聴、ライクステージ別問題)</p> <p>第 2 回：聴覚検査の種類 (自覚的検査、他覚的検査)</p> <p>第 3 回：オーディオメータとオーディオグラム (オーディオグラムの書き方、読み取り)</p> <p>第 4 回：標準純音聴力検査 気導聴力検査 (目的、準備、検査説明、受話器の装着、手続き)</p> <p>第 5 回：標準純音聴力検査 骨導聴力検査 (準備、検査説明、受話器の装着、手続き)</p> <p>第 6 回：陰影聴取とマスキング (陰影聴取、両耳間移行減衰量、オーバーマスキング)</p> <p>第 7 回：標準純音聴力検査 マスキング (マスキング手続き、オーディオグラムの記入)</p> <p>第 8 回：標準純音聴力検査 (解釈)</p> <p>第 9 回：語音聴力検査 (目的、準備、検査説明、手続き)</p> <p>第 10 回：語音聴力検査 (スピーチオーディオグラムへの記入、読み取り)</p> <p>第 11 回：語音聴力検査 (解釈)</p> <p>第 12 回：標準純音聴力検査、語音聴力検査まとめ</p> <p>第 13 回：聴覚特別支援学校の指導・教育① (聴覚補償機器、コミュニケーション方法)</p> <p>第 14 回：聴覚特別支援学校の指導・教育② (教育方法、コミュニケーション手段)</p> <p>第 15 回：聴覚特別支援学校の指導・教育③ (環境面の工夫)</p>

アクティブ ラーニング	本科目は反転授業形式で行います。授業内では各回のテーマについて、ペアワーク、グループワーク、演習を通して学修を深めます。
評価方法	提出物・レポート 30%、定期試験 70%
課題に対する フィード バック	※毎回の小テストはMoodle上で実施、フィードバックを行います。 ※提出物・レポートは、ルーブリックを用いて確認し、随時、フィードバックをします。
指定図書	日本聴覚医学会編：聴覚検査の実際 改訂4版. 南山堂, 2017 中村公枝, 城間将江, 鈴木恵子編：標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第2版. 医学書院, 2015
参考図書	授業時に随時、紹介します
事前・ 事後学修	※当該科目の学習資料を整理するためのファイル（2穴リングファイル）を用意して下さい。 ※毎回の講義終了時に次回の予習範囲を示します。同時に、事前・事後学修の資料をMoodleに呈示します。必ず事前学修をした上で受講して下さい。講義は、事前学修をもとに進めます。 ※事前・事後学修ではシラバスに示したキーワードを「説明できる」ように学習を進めて下さい。 ※授業内容の概略やポイント、参考資料、課題は、Moodleの当該コースに随時示します。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3502研究室、時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	聴覚機能評価演習
科目責任者	石津希代子
単位数他	1単位(30時間) 言語必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	3セメスターで学んだ聴覚機能の評価に関する理論をもとに、実際に各種検査法の具体的技法を取得することをめざします。標準純音聴力検査、語音聴力検査、中耳機能・内耳機能検査、聴性脳幹反応検査など、各種聴覚検査の原理を再確認し、具体的技法を学習します。
到達目標	1. 各種聴覚検査の検査意義や適応を理解した上で、具体的検査方法を説明できる。 2. 標準純音聴力検査・語音聴力検査を実施でき、結果を正しく記録できる。 3. 各種聴覚検査の検査結果を読みとることができる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;石津希代子</p> <p>第1回: オリエンテーション、復習 (標準純音聴力検査、語音聴力検査)  第2回: インピーダンスオージオメトリ (目的、仕組み、手続き)  第3回: インピーダンスオージオメトリ (データの読みとり、解釈)  第4回: 自記オージオメトリ (目的、仕組み、手続き)  第5回: 自記オージオメトリ (データの読みとり、解釈)  第6回: 閾値上検査 (バランステスト: 目的、手続き、解釈)  第7回: 閾値上検査 (SISI・MCL・UCL: 目的、手続き、解釈)  第8回: 耳音響放射検査 (目的、発生機序)  第9回: 耳音響放射検査 (手続き、解釈)  第10回: 聴性誘発反応 (目的、仕組み)  第11回: 聴性誘発反応 (手続き、解釈)  第12回: 聴覚検査演習1  第13回: 聴覚検査演習2  第14回: 実技チェック (標準純音聴力検査)  第15回: 実技チェック (語音聴力検査)</p>

アクティブ ラーニング	本科目は、演習科目です。反転授業形式で行います。
評価方法	小テスト 20%、提出物 20%、レポート 20%、実技チェック 30%、他者評価 10%
課題に対する フィード バック	※毎回の小テストはMoodle上で実施、フィードバックを行います。 ※提出物・レポート・実技内容は、ルーブリックを用いて確認し、随時、フィードバックをします。 ※授業内の活動は、グループでお互いの活動への貢献度をルーブリックで評価しあいます。
指定図書	日本聴覚医学会編：聴覚検査の実際 改訂4版. 南山堂, 2017 中村公枝, 城間将江, 鈴木恵子編：標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第2版. 医学書院, 2015
参考図書	授業中に随時紹介します。
事前・ 事後学修	※当該科目の学習資料を整理するためのファイル(2穴リングファイル)を用意して下さい。 ※毎回の講義終了時に次回の予習範囲を示します。同時に、事前・事後学修の資料をMoodleに 呈示します。必ず事前学修をした上で受講して下さい。講義は、事前学修をもとに進めます。 ※事前・事後学修ではシラバスに示したキーワードを「説明できる」ように学習を進めて下さい。 ※授業内容の概略やポイント、参考資料、課題は、Moodleの当該コースに随時示します。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3502研究室、時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。



アクティブ ラーニング	乳幼児検査法については、学生同士で検査を実施する。さらに、手法や留意点について、グループで協議し、乳幼児検査のあり方について報告する。
評価方法	定期試験 70%、乳幼児検査手技 30% ※乳幼児検査 (PEEP SHOW、COR) の達成度は、ルーブリックに基づいて確認する。
課題に対する フィード バック	学生同士の検査演習における手技については、その場でフィードバックする。
指定図書	中村公枝、城間将江、鈴木恵子編「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	シラバスの内容に該当する教科書を事前に学修し授業に臨むこと。 グループ毎に演習の準備・練習を行う。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール (shigehiro-o@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	小児聴覚障害演習
科目責任者	大原 重洋
単位数他	1単位 (30 時間) 言語必修 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	小児固有の聴性行動を理解した上で、先天性聴覚障害児の認知・言語・心理的側面の典型的症状と評価・指導法について学習する。さらに、協力者の協力を得て、立案した評価・指導プログラムを実施し、結果を報告書にまとめる。
到達目標	小児の聴覚評価と言語指導のプログラムを立案し、実際の聴覚障害児に実施し、報告書としてまとめ、報告することができる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt; 大原重洋</span></p> <p>第 1 回：聴覚障害児臨床における関連情報の収集  第 2 回：聴覚障害児の聴覚・言語・コミュニケーションの評価と支援のあり方①  第 3 回：聴覚障害児の聴覚・言語・コミュニケーションの評価と支援のあり方②  第 4 回：評価計画の立案と作成①  第 5 回：評価計画の立案と作成②  第 6 回：評価計画の実施（学生同士で確認）①  第 7 回：評価計画の実施（学生同士で確認）②  第 8 回：演習⑦（聴覚障害児）  第 9 回：演習⑧（聴覚障害児）  第 10 回：評価サマリーの作成と指導プログラムの検討  第 11 回：評価サマリーの作成と指導プログラムの検討  第 12 回：演習⑨（聴覚障害児）  第 13 回：演習⑩（聴覚障害児）  第 14 回：報告会①  第 15 回：報告会②</p>

アクティブ ラーニング	演習科目である。
評価方法	評価訓練計画書 40%、評価訓練の実施 30%、報告書と発表 30%
課題に対する フィード バック	評価訓練計画書の作成、学生同士の検査演習における手技については、その場でフィードバックする。
指定図書	中村公枝、城間将江、鈴木恵子編「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	グループ毎に演習の準備、評価・訓練プログラムの立案を行う。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	成人聴覚障害学
科目責任者	石津希代子
単位数他	1単位（15時間） 言語必修 6セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	この科目では聴覚障害学、聴覚機能評価演習、聴覚補償演習で学んだ評価・支援に関する知識を整理・統合することが目標です。成人期の聴覚障害者の聴覚障害の特徴を理解し、評価・診断、指導・支援について考えていきます。また視覚聴覚二重障害がコミュニケーションに及ぼす影響について知識を深め、支援方法および代替コミュニケーション手段について学習します。
到達目標	1. 中途失聴者・難聴者の聴覚保障およびコミュニケーション支援について説明できる。 2. 視覚聴覚二重障害の方の特徴を挙げることができる。 3. 聴覚障害者のための各種支援機器、社会福祉制度、社会資源について説明できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;石津希代子</span></p> <p>第1回： 成人期の聴覚障害の特徴  第2回： 聴覚障害者の評価と指導①：補聴と聴力活用  第3回： 聴覚障害者の評価と指導②：コミュニケーション手段  第4回： 聴覚障害者の評価と指導③：コミュニケーション指導  第5回： 聴覚障害者の評価と指導④：読話指導  第6回： 視覚聴覚二重障害① : 概要、評価・支援方法  第7回： 視覚聴覚二重障害② : 概要、評価・支援方法  第8回： 福祉機器と社会資源 : 各種福祉機器、社会福祉制度、社会資源</p>

アクティブ ラーニング	本科目は反転授業形式で行います。授業内では各回のテーマについて、ペアワーク、グループワーク、演習を通して学修を深めます。
評価方法	小テスト 20%、提出物 30%、他者評価 20%、プレゼンテーション 30%
課題に対する フィード バック	※毎回の小テストはMoodle上で実施、フィードバックを行います。 ※提出物はルーブリックを用いて確認し、随時、フィードバックをします。 ※授業内の活動やプレゼンテーションは、グループ内の相互評価を、ルーブリックを用い行います。
指定図書	日本聴覚医学会編：聴覚検査の実際 改訂4版. 南山堂, 2017 中村公枝, 城間将江, 鈴木恵子編：標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第2版. 医学書院, 2015
参考図書	授業中に随時紹介します。
事前・ 事後学修	※当該科目の学習資料を整理するためのファイル(2穴リングファイル)を用意して下さい。 ※毎回の講義終了時に次回の予習範囲を示します。同時に、事前・事後学修の資料をMoodleに呈示します。必ず事前学修をした上で受講して下さい。講義は、事前学修をもとに進めます。 ※授業内容の概略やポイント、参考資料、課題は、Moodleの当該コースに随時示します。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3502研究室、時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	聴覚補償演習
科目責任者	大原 重洋
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	聴覚障害児・者の聴覚感覚を保証する補聴器や人工内耳の原理と特性を理解し、適合法を学習する。
到達目標	1. 補聴器の原理と機能を理解し、聴力レベルに応じて実際に調整することができる。 2. 人工内耳の原理・機能を理解し、プログラミング法を説明することができる。 3. 無線補聴システムの利用について説明することができる
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 大原重洋</p> <p>第 1 回：オリエンテーション、乳幼児の補聴器の適合理論  第 2 回：補聴器の構造と機能  第 3 回：補聴器適合プログラム  第 4 回：補聴器特性の測定  第 5 回：補聴器の装用効果  第 6 回：演習①  第 7 回：演習②  第 8 回：演習③  第 9 回：演習④  第 10 回：演習⑤  第 11 回：人工内耳の構造と機能、種類  第 12 回：人工内耳の音声情報処理と調整、装用効果  第 13 回：人工中耳・聴性脳幹インプラント  第 14 回：無線補聴システムの原理と機能  第 15 回：教育現場における無線補聴システムの活用</p>

アクティブ ラーニング	演習科目です。
評価方法	定期試験 60%、補聴器適合手技 40% ※補聴器適合手技の達成度は、ルーブリックに基づいて確認する。
課題に対する フィード バック	演習における手技について、その場でフィードバックする。
指定図書	小寺一興「補聴器のフィッティングと適用の考え方」診断と治療社
参考図書	なし
事前・ 事後学修	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。 グループ毎に演習の準備、補聴器の測定練習を行う。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床言語聴覚療法基礎実習
科目責任者	小林マヤ
単位数他	1単位(45時間) 言語必修 1 Semester
DP番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	本実習は、言語聴覚士の臨床活動の理解・言語聴覚障害者の理解を目的に、近隣の医療施設で言語聴覚療法の実際を見学する。臨床見学を通じて、言語聴覚士を志す動機を高め、医療職としての態度、社会でのマナーを身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 見学施設の特徴を説明できる。</li> <li>2. 言語聴覚士の臨床活動を説明できる。</li> <li>3. 言語聴覚障害者・摂食嚥下障害者の症状や様子を説明できる。</li> <li>4. 医療施設で自身の立場をわきま見学できる。</li> <li>5. 見学を通じて自身で考えたことを発表できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 小林マヤ、柴本勇、佐藤順子、谷哲夫、大原重洋、石津希代子、中村哲也、佐藤豊展 すべてを全員で担当する</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 以下の日程及び内容を実施する。</p> <p>7月：実習オリエンテーション・事前学習 8月5日～9日の期間中に5日間医療施設で見学をする 9月に見学報告会及びレポート提出</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①事前学習：実習施設の特徴、言語聴覚障害の種類と症状、服装・マナー</li> <li>②実習施設への電話連絡</li> <li>③実習施設での見学：言語聴覚士の活動、言語聴覚療法の実際、言語聴覚障害者の症状、守秘義務の理解、記録</li> <li>④臨床言語聴覚療法基礎実習報告会での発表</li> <li>⑤臨床言語聴覚療法基礎実習レポート</li> </ol>

アクティブ ラーニング	実習科目です。
評価方法	事前学習 20%、見学施設での活動 40%、報告会 20%、レポート 20%
課題に対する フィード バック	オリエンテーション及び事前学習内容は、科目責任者が提示します。その後、各課題を実習施設担当教員に提出し、適時担当教員からフィードバックをします。見学施設での活動は、実習施設での担当言語聴覚士から担当教員を通じてフィードバックをします。
指定図書	『言語聴覚障害学概論』 編集 藤田郁代 医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	〔事前学習〕 実習施設の特徴、言語聴覚障害の種類と症状、服装・マナー、実習施設への連絡方法を行います。 〔事後学修〕 自身の基礎実習を振り返りながら、実習報告会の準備をし、自身の学びをレポートにまとめます。
オフィス アワー	時間については実習オリエンテーション時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床言語聴覚療法評価実習
科目責任者	佐藤豊展
単位数他	2単位 (90 時間) 言語必修 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	言語聴覚障害の評価・診断・目標設定などについて学外の実習施設において、実習指導者の指導の下、実際の症例を通して学ぶ。これまで学内で学修してきた専門知識や技術を臨床の現場で再確認し、再統合する機会とする。また、臨床におけるチームアプローチの重要性を知り、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。さらに障害像や取り組みの多様性についても学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員および実習指導者に適切に報告・連絡・相談ができる。</li> <li>2. 情報収集に始まり、適切な検査法を選択できる。</li> <li>3. 検査・観察などを通して患児・者の全体像を把握し、文章化できる。</li> <li>4. 社会人としての基本的態度を養う。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 佐藤豊展, 柴本勇, 佐藤順子, 谷哲夫, 大原重洋, 小林マヤ, 石津希代子, 中村哲也</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 言語聴覚障害（嚥下障害含む）の評価・訓練に関する諸事項について2週間の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①観察・情報収集</li> <li>②検査の選択と実施</li> <li>③結果の解釈と問題点の抽出</li> <li>④鑑別診断</li> <li>⑤訓練目標の設定と訓練プログラム案の立案</li> <li>⑥報告書作成</li> </ol> <p>言語聴覚障害の評価に関する諸事項について、実習施設での方法に従ってすすめる。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です
評価方法	実習評価表 70%、「事前学習」「事後学習」の内容・提出物・事後報告会など 30%
課題に対する フィード バック	実習前後の学習内容は、担当教員に提出します。適時、担当教員がフィードバックをします。実習評価については、実習指導者および担当教員より評価内容、今後の課題、改善点についてフィードバックします。
指定図書	臨床実習ガイドブック
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<p>※言語聴覚障害診断学や学内演習等で明らかとなった課題を振り返り、評価実習の事前学習を行う。</p> <p>※これまでの授業で使用した教科書以外に、様々な書籍にあたって学修を深めることを勧めます。</p> <p>※臨床実習に関する説明、諸注意、各種書類のテンプレート等は、Moodle の当該コースに示します。</p> <p>※事前準備、実習中、事後指導については、担当教員に連絡・報告・相談をしながら進めます。</p> <p>※実習中は実習指導者の指導の下、十分な事前準備をして取り組みます。</p> <p>※指摘された問題に対しては謙虚に改善に努め、どのように改善したかを報告します</p>
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、月曜 15 : 00～17 : 30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語聴覚学研究法																		
科目責任者	佐藤順子																		
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 5セメスター																		
DP番号と科目領域	DP4 専門																		
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。																		
科目概要	研究論文の理解と研究計画書作成のために必要となる研究の基礎知識を学ぶ。論文を読み、内容を正確に理解し要約することや、自ら疑問を持つこと、自分の意見を他者に伝えることができることを目指す。また興味のある研究テーマを決めて、研究計画の立案と実験・調査の修正の過程について演習を通じて学ぶ。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論文の読み方（論文の構成、事実と根拠、批判的に読む）の基本を学ぶ。</li> <li>2. キーワードでテキスト等の書籍から解説文を探し、内容を理解するためにさらに他の文献を探すことができる。</li> <li>3. 先行研究の論文を読み、教員や他の学生に概要を伝えることができる。</li> <li>4. 研究の種類を学び、適切な研究方法を選択できる。</li> <li>5. 簡単なテーマでの研究計画書を立案できる。</li> <li>6. 論文の書き方の基本（論文の体裁と構成、事実と根拠、文章表現）を学ぶ。</li> </ol>																		
授業計画	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; border: none;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: center; border: none;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: none;">第 1 回：研究の意義・研究の種類</td> <td style="border: none; text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 2 回：文献検索（ラーニングコモンズ）</td> <td style="border: none; text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 3 回：興味のある研究テーマの文献検索</td> <td style="border: none; text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 4 回：文献の読解・要約（レポート提出）</td> <td style="border: none; text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 5 回：研究テーマを考える</td> <td style="border: none; text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 6 回：研究テーマを考える（ゼミ見学）</td> <td style="border: none; text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 7 回：卒論の読解・要約（レポート提出）</td> <td style="border: none; text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 8 回：研究テーマ発表</td> <td style="border: none; text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：研究の意義・研究の種類	佐藤順子	第 2 回：文献検索（ラーニングコモンズ）	佐藤順子	第 3 回：興味のある研究テーマの文献検索	佐藤順子	第 4 回：文献の読解・要約（レポート提出）	佐藤順子	第 5 回：研究テーマを考える	佐藤順子	第 6 回：研究テーマを考える（ゼミ見学）	佐藤順子	第 7 回：卒論の読解・要約（レポート提出）	佐藤順子	第 8 回：研究テーマ発表	佐藤順子
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第 1 回：研究の意義・研究の種類	佐藤順子																		
第 2 回：文献検索（ラーニングコモンズ）	佐藤順子																		
第 3 回：興味のある研究テーマの文献検索	佐藤順子																		
第 4 回：文献の読解・要約（レポート提出）	佐藤順子																		
第 5 回：研究テーマを考える	佐藤順子																		
第 6 回：研究テーマを考える（ゼミ見学）	佐藤順子																		
第 7 回：卒論の読解・要約（レポート提出）	佐藤順子																		
第 8 回：研究テーマ発表	佐藤順子																		

アクティブ ラーニング	演習科目です。
評価方法	レポート（60%）発表（40%）
課題に対する フィード バック	授業内に解説をします。
指定図書	『よくわかる卒論の書き方』白井利明他 ミネルヴァ書房 『論文の教室-レポート作成から卒論まで-』戸田山和久 NHK ブックス
参考図書	言語聴覚学科卒業論文
事前・ 事後学修	〔事前学修〕 事前に指定図書の該当箇所を読んでおくこと。  〔事後学修〕 授業で課題として出されたレポートを作成する。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407 研究室 時間等：11:45～12:15（毎週月曜から木曜） 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語聴覚学研究法演習
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	言語聴覚障害学ならびに関連領域において研究課題を設定し、研究計画を立案する。自らの研究課題に関連した文献を検索し、自己の研究テーマの背景を知り、研究目的やその意義について理解を深め、研究課題を絞り込む。プレ実験や調査を行い、研究計画書を作成する。指導教員のゼミに所属して指導教員による個別指導はもちろん、ゼミのメンバーとも互いに協力しながら研究を進めていく。これらを通し、研究課題を解決する方法論と能力を身につけることを目標とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語聴覚障害学ならびに関連領域に関する研究疑問を発見し、研究テーマを設定する。</li> <li>2. 先行研究の論文を読み、教員や他のメンバーに概要を伝えることができる。</li> <li>3. 調査・実験計画を立案できる。</li> <li>4. 適宜、ゼミで中間報告・ディスカッションを行い、研究計画・実験計画を修正する。</li> <li>5. 研究目的、関連する先行研究 (5 編以上)、研究方法、今後のスケジュールを記載した中間報告書を作成し、中間報告会で発表する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 谷哲夫、柴本勇、佐藤順子、大原重洋、石津希代子、小林マヤ、中村哲也、佐藤豊展</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 各ゼミで、また個々のテーマによって進行は異なるが、大枠は次のように予定し、毎回、進捗状況の報告をしながら進めていく。</p> <p>第 1 回：卒業研究の概要説明</p> <p>第 2 回：研究法の多様性を知る</p> <p>第 3 回：テーマの仮設定</p> <p>第 4 回：関係資料の収集</p> <p>第 5 回：関係資料の整理</p> <p>第 6 回：抄読会</p> <p>第 7 回：先行研究の収集と整理</p> <p>第 8 回：ゼミ報告 (先行研究と自分のテーマとの関連性について)</p> <p>第 9 回：ゼミ報告 (先行研究に学ぶ研究法の選択)</p> <p>第 10 回：研究計画の立案</p> <p>第 11 回：ゼミ発表・報告</p> <p>第 12 回：研究計画の修正</p> <p>第 13 回：テーマの再確認と年間計画立</p> <p>第 14 回：中間報告会</p> <p>第 15 回：中間報告会</p>

アクティブ ラーニング	演習科目
評価方法	ゼミの参加 課題の提出 50% 中間発表会 50% (中間発表内容 25% 中間報告書内容 25%)
課題に対する フィード バック	添削・返却など
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	研究者計画に関する課題の遂行と修正 (各 40 分)
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11:15~13:15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語聴覚障害学総合演習																															
科目責任者	佐藤豊展																															
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 6 セメスター																															
DP 番号と科目領域	DP5 専門																															
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。																															
科目概要	1 セメスターから 5 セメスターまでに学修した内容の総まとめとして、獲得した知識・技術の整理と統合をはかり、総合実習に備える。実習生としての基本的な姿勢（身だしなみや態度、ことば遣い、症例や家族、他のスタッフに対する配慮など）を身につけるとともに、情報収集や観察記録の取り方、各種検査の実施と記録、評価のまとめと症状分析、日誌の作成とカルテ記入、Deep Test の作成、訓練プログラムの立案、訓練の実施、症例報告やレポート作成など、言語聴覚療法の臨床に関する一連の内容を総合的に再学習し整理する。																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション専門職を目指す実習生としての的確な行動がとれるよう、専門知識に偏らない社会常識を身につけることができる。</li> <li>2. 症例検討を通して、問題点の抽出、訓練プログラムの立案、および訓練の実施ができる。</li> <li>3. 症例報告書を作成することができる。</li> <li>4. 実習を想定した演習で訓練を実施し、記録することができる。</li> </ol>																															
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 佐藤豊展、柴本勇、佐藤順子、谷哲夫、大原重洋、小林マヤ、石津希代子、中村哲也</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション</td> <td>佐藤豊</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：報告・連絡・相談、安全管理</td> <td>石津</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：情報収集</td> <td>佐藤豊</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：行動観察、記録</td> <td>佐藤豊</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：報告書の作成</td> <td>佐藤豊</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：症例検討 ①</td> <td>全教員</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：症例検討 ②</td> <td>*レポート① 全教員</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：症例検討 ③</td> <td>全教員</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：症例検討 ④</td> <td>*レポート② 全教員</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：トランスファー、バイタルチェック ①</td> <td>PT 学科教員</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：トランスファー、バイタルチェック ②</td> <td>PT 学科教員</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：総合的臨床能力試験 ①</td> <td>全教員</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：総合的臨床能力試験 ②</td> <td>全教員</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：総合的臨床能力試験 ③</td> <td>*レポート③ 全教員</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：まとめ</td> <td>佐藤豊</td> </tr> </table>		第 1 回：オリエンテーション	佐藤豊	第 2 回：報告・連絡・相談、安全管理	石津	第 3 回：情報収集	佐藤豊	第 4 回：行動観察、記録	佐藤豊	第 5 回：報告書の作成	佐藤豊	第 6 回：症例検討 ①	全教員	第 7 回：症例検討 ②	*レポート① 全教員	第 8 回：症例検討 ③	全教員	第 9 回：症例検討 ④	*レポート② 全教員	第 10 回：トランスファー、バイタルチェック ①	PT 学科教員	第 11 回：トランスファー、バイタルチェック ②	PT 学科教員	第 12 回：総合的臨床能力試験 ①	全教員	第 13 回：総合的臨床能力試験 ②	全教員	第 14 回：総合的臨床能力試験 ③	*レポート③ 全教員	第 15 回：まとめ	佐藤豊
第 1 回：オリエンテーション	佐藤豊																															
第 2 回：報告・連絡・相談、安全管理	石津																															
第 3 回：情報収集	佐藤豊																															
第 4 回：行動観察、記録	佐藤豊																															
第 5 回：報告書の作成	佐藤豊																															
第 6 回：症例検討 ①	全教員																															
第 7 回：症例検討 ②	*レポート① 全教員																															
第 8 回：症例検討 ③	全教員																															
第 9 回：症例検討 ④	*レポート② 全教員																															
第 10 回：トランスファー、バイタルチェック ①	PT 学科教員																															
第 11 回：トランスファー、バイタルチェック ②	PT 学科教員																															
第 12 回：総合的臨床能力試験 ①	全教員																															
第 13 回：総合的臨床能力試験 ②	全教員																															
第 14 回：総合的臨床能力試験 ③	*レポート③ 全教員																															
第 15 回：まとめ	佐藤豊																															

アクティブ ラーニング	授業内では、適時、ペアワーク、グループワーク、演習を通して学修を深めます。
評価方法	定期試験 40%、総合的臨床能力試験 30%、レポート 20%、提出物 10% 総合的臨床能力試験は、ルーブリックに基づいて確認する レポートは、ルーブリックを用いない
課題に対する フィード バック	提出物・実技内容については、適時、フィードバックをします。
指定図書	深浦順一、長谷川賢一、立石雅子、佐竹恒夫編：図解 言語聴覚療法技術ガイド。 文光堂，2014
参考図書	なし
事前・ 事後学修	※指定図書以外に、これまでの授業で使用した教科書に戻って学修を深めることを勧めます。 ※毎回の講義終了時に、次回までの予習・復習内容を示します。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、月曜 15：00～17：30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語聴覚学特別講義	
科目責任者	大原重洋	
単位数他	2単位 (60 時間) 言語必修 8 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。	
科目概要	4 年間学んだ言語聴覚士国家試験対象科目である専門基礎科目、専門科目の学習内容を振り返りながら、各科目の理解度と習得状況を確認する。また、知識が不十分な科目について学生自ら自覚し、必要な知識の再学習を行なう。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各科目の頻出用語を理解し、説明できる</li> <li>2. 小テストで8割正答できるようになる</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーション、専門基礎科目復習</p> <p>第 2 回：解剖学</p> <p>第 3 回：生理学</p> <p>第 4 回：病理学・内科学</p> <p>第 5 回：病理学・内科学</p> <p>第 6 回：小児科学</p> <p>第 7 回：臨床神経学</p> <p>第 8 回：耳鼻咽喉科学</p> <p>第 9 回：形成外科学・臨床歯科学・口腔外科学</p> <p>第 10 回：呼吸発声系の構造・機能・病態</p> <p>第 11 回：聴覚系の構造・機能・病態</p> <p>第 12 回：神経系の構造・機能・病態</p> <p>第 13 回：学習・認知心理学</p> <p>第 14 回：音声学</p> <p>第 15 回：音声学</p> <p>第 16 回：言語発達学</p> <p>第 17 回：社会福祉・関係法規、リハビリテーション概論</p> <p>第 18 回：小テスト (専門基礎科目)、専門科目復習</p> <p>第 19 回：失語症学</p> <p>第 20 回：失語症学</p> <p>第 21 回：高次脳機能障害</p> <p>第 22 回：言語発達障害学</p> <p>第 23 回：言語発達障害学</p> <p>第 24 回：音声障害学</p> <p>第 25 回：機能的構音障害・器質性構音障害</p> <p>第 26 回：運動障害性構音障害・嚥下障害</p> <p>第 27 回：小児聴覚障害学</p> <p>第 28 回：成人聴覚障害学</p> <p>第 29 回：補聴器・人工内耳、視覚聴覚二重障害</p> <p>第 30 回：小テスト (専門科目)、総括</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>佐藤豊展</p> <p>佐藤豊展</p> <p>佐藤豊展</p> <p>佐藤豊展</p> <p>佐藤豊展</p> <p>大原重洋</p> <p>佐藤順子</p> <p>石津希代子</p> <p>佐藤豊展</p> <p>中村哲也</p> <p>大原重洋</p> <p>佐藤順子</p> <p>石津希代子</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>小林マヤ</p> <p>谷 哲夫</p> <p>佐藤豊展</p> <p>谷 哲夫</p> <p>谷 哲夫</p> <p>佐藤順子</p> <p>大原重洋</p> <p>小林マヤ</p> <p>小林マヤ</p> <p>中村哲也</p> <p>佐藤豊展</p> <p>大原重洋</p> <p>大原重洋</p> <p>大原重洋</p> <p>佐藤豊展</p>

アクティブ ラーニング	国家試験に向けて、Moodle を使用した小テスト、課題を行います。
評価方法	定期試験 60%、小テスト 40%
課題に対する フィード バック	小テストについては解答を提示したうえで再学習を行います。
指定図書	小松崎 篤・藤田 郁代・岩田 誠・広瀬 肇 「言語聴覚士テキスト」 医歯薬出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	各科目を受講前に指定図書を読み、過去6年分の国家試験問題を解いておくこと。 今までのノート、配布資料、課題はファイリングしておくこと。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語聴覚障害診断学Ⅱ																		
科目責任者	佐藤順子																		
単位数他	1単位 (30 時間) 言語必修 8 セメスター																		
DP 番号と科目領域	DP6 専門																		
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。																		
科目概要	言語聴覚障害に関する基礎分野、専門基礎分野、専門分野の学修および臨床実習が終了した学生を対象とする。各々の言語聴覚障害に関する診断・評価法を整理し、それらを統合して臨床の場で個々の言語聴覚障害児・者に応用する能力を身につける。																		
到達目標	1. 言語聴覚障害者に対して、自由会話・情報収集からその障害像を予測し、必要で正しい評価が実施できる。 2. 評価結果を適切に解釈し、それを基にした診断ができる。 3. 訓練のための評価ができ、個々の障害に適した訓練計画の立案ができる。 4. 臨床実習で担当した症例について他学生にわかりやすく解説することができる。																		
授業計画	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; border: none;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th style="text-align: center; border: none;">&lt;担当教員名&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: none;">第 1 回～2 回： グループごとに症例報告、質疑応答</td> <td style="text-align: right; border: none;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 3 回～4 回： 全体で症例報告、質疑応答 小児</td> <td style="text-align: right; border: none;">佐藤順子・大原重洋</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 5 回～6 回： 全体で症例報告、質疑応答 失語</td> <td style="text-align: right; border: none;">佐藤順子・谷 哲夫</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 7 回～8 回： 全体で症例報告、質疑応答 嚥下</td> <td style="text-align: right; border: none;">佐藤順子・柴本 勇・佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 9 回～10 回： 全体で症例報告、質疑応答 失語・高次脳</td> <td style="text-align: right; border: none;">佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 11 回～12 回： 全体で症例報告、質疑応答 失語・高次脳</td> <td style="text-align: right; border: none;">佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 13 回～14 回： 全体で症例報告、質疑応答 (3 年生総合演習)</td> <td style="text-align: right; border: none;">佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 15 回： 言語聴覚障害に対するグループ療法・訪問リハビリテーション</td> <td style="text-align: right; border: none;">佐藤順子</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1 回～2 回： グループごとに症例報告、質疑応答	佐藤順子	第 3 回～4 回： 全体で症例報告、質疑応答 小児	佐藤順子・大原重洋	第 5 回～6 回： 全体で症例報告、質疑応答 失語	佐藤順子・谷 哲夫	第 7 回～8 回： 全体で症例報告、質疑応答 嚥下	佐藤順子・柴本 勇・佐藤豊展	第 9 回～10 回： 全体で症例報告、質疑応答 失語・高次脳	佐藤順子・中村哲也	第 11 回～12 回： 全体で症例報告、質疑応答 失語・高次脳	佐藤順子・中村哲也	第 13 回～14 回： 全体で症例報告、質疑応答 (3 年生総合演習)	佐藤順子・中村哲也	第 15 回： 言語聴覚障害に対するグループ療法・訪問リハビリテーション	佐藤順子
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																		
第 1 回～2 回： グループごとに症例報告、質疑応答	佐藤順子																		
第 3 回～4 回： 全体で症例報告、質疑応答 小児	佐藤順子・大原重洋																		
第 5 回～6 回： 全体で症例報告、質疑応答 失語	佐藤順子・谷 哲夫																		
第 7 回～8 回： 全体で症例報告、質疑応答 嚥下	佐藤順子・柴本 勇・佐藤豊展																		
第 9 回～10 回： 全体で症例報告、質疑応答 失語・高次脳	佐藤順子・中村哲也																		
第 11 回～12 回： 全体で症例報告、質疑応答 失語・高次脳	佐藤順子・中村哲也																		
第 13 回～14 回： 全体で症例報告、質疑応答 (3 年生総合演習)	佐藤順子・中村哲也																		
第 15 回： 言語聴覚障害に対するグループ療法・訪問リハビリテーション	佐藤順子																		

アクティブ ラーニング	各症例報告について授業内でディスカッションをします。
評価方法	定期試験（90%）発表（10%）
課題に対する フィード バック	各専門科目担当教員が授業内に解説します。
指定図書	なし
事前・ 事後学修	〔事前学修〕 症例発表の準備をすること。  〔事後学修〕 発表時にディスカッションしたこと、質疑応答の内容を踏まえて修正をする。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407 研究室 時間等：11:45～12:15（毎週月曜から木曜） 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床実習Ⅱ
科目責任者	中村哲也
単位数他	6単位(270時間) 言語必修 7セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	学外の実習施設において、実習指導者の指導の下、これまで学んだ専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、実際の症例の言語聴覚障害を評価・診断し、目標設定を行う。さらに訓練プログラムの立案ならびにその実践を通し、専門技術について学ぶ。また、臨床の場におけるチームアプローチの重要性を知り、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。さらに障害像や取り組みの多様性についても学ぶ。
到達目標	1. これまでに学修してきた専門知識や技術を臨床の現場で再確認、再統合する。 2. 情報の収集に始まり、適切な検査法の選択と実行、結果の解釈と鑑別診断、目標の設定などが行えるようになる。
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 中村哲也、柴本勇、佐藤順子、石津希代子、谷哲夫、大原重洋、佐藤豊展</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 言語聴覚障害（嚥下障害含む）の評価・訓練に関する諸事項について実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①観察・情報収集</li> <li>②検査の選択と実施</li> <li>③結果の解釈と問題点の抽出</li> <li>④鑑別診断</li> <li>⑤訓練目標の設定と訓練プログラム案の立案</li> <li>⑥報告書作成</li> <li>⑦訓練プログラムの立案・検討</li> <li>⑧訓練の実践</li> <li>⑨症例レポートの作成</li> </ol> <p>言語聴覚障害の評価に関する諸事項について、実習施設での方法に従ってすすめる。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です
評価方法	実習評価表 70%、「事前学習」「事後学習」の内容・提出物・事後報告会など 30%
課題に対する フィード バック	実習前後の学習内容は、担当教員に提出します。適時、担当教員がフィードバックをします。実習評価については、実習指導者および担当教員より評価内容、今後の課題、改善点についてフィードバックします。
指定図書	臨床実習ガイドブック
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<p>※総合演習や学内演習等で明らかとなった課題を振り返り、臨床実習Ⅰの事前学習を行う。</p> <p>※これまでの授業で使用した教科書以外に、様々な書籍にあたって学修を深めることを勧めます。</p> <p>※臨床実習に関する説明、諸注意、各種書類のテンプレート等は、Moodle の当該コースに示します。</p> <p>※事前準備、実習中、事後指導については、担当教員に連絡・報告・相談をしながら進めます。</p> <p>※実習中は実習指導者の指導の下、十分な事前準備をして取り組みます。</p> <p>※指摘された問題に対しては謙虚に改善に努め、どのように改善したかを報告します</p>
オフィス アワー	時間については実習オリエンテーション時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床実習Ⅲ
科目責任者	石津 希代子
単位数他	6単位 (270時間) 言語必修 7セメスター
DP 番号と 科目領域	DP5 専門
科目の 位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	言語聴覚療法の実際について学ぶ。臨床実習Ⅲでは臨地施設において、実習指導者の指導の下、実際の症例の言語聴覚障害の評価・診断から目標設定をし、訓練プログラムの立案ならびにその実践を通して専門技術を総合的に学ぶ。また、臨床の場におけるチームアプローチの重要性を知り、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>最後の臨床実習としてこれまでに学修してきた専門知識や技術を再確認、再統合する。</li> <li>情報の収集に始まり、適切な検査法の選択と実行を通して障害を正しく評価できる。</li> <li>訓練プログラムを設定し、訓練を行うことができる。</li> <li>報告書としてまとめ発表する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 石津希代子、柴本勇、谷哲夫、佐藤順子、大原重洋、中村哲也、佐藤豊展</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 言語聴覚障害（嚥下障害含む）の評価・訓練に関する諸事項について実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①観察・情報収集</li> <li>②検査の選択と実施</li> <li>③結果の解釈と問題点の抽出</li> <li>④鑑別診断</li> <li>⑤訓練目標の設定と訓練プログラム案の立案</li> <li>⑥報告書作成</li> <li>⑦訓練プログラムの立案・検討</li> <li>⑧訓練の実践</li> <li>⑨症例レポートの作成</li> </ol> <p>言語聴覚障害の評価に関する諸事項について、実習施設での方法に従ってすすめる。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です
評価方法	実習評価表 70%、「事前学習」「事後学習」の内容・提出物・事後報告会など 30%
課題に対する フィード バック	実習前後の学習内容は、担当教員に提出します。適時、担当教員がフィードバックをします。実習評価については、実習指導者および担当教員より評価内容、今後の課題、改善点についてフィードバックします。
指定図書	臨床実習ガイドブック
参考図書	特になし
事前・ 事後学修	<p>※総合演習や学内演習等で明らかとなった課題を振り返り、臨床実習 I の事前学習を行う。</p> <p>※これまでの授業で使用した教科書以外に、様々な書籍にあたって学修を深めることを勧めます。</p> <p>※臨床実習に関する説明、諸注意、各種書類のテンプレート等は、Moodle の当該コースに示します。</p> <p>※事前準備、実習中、事後指導については、担当教員に連絡・報告・相談をしながら進めます。</p> <p>※実習中は実習指導者の指導の下、十分な事前準備をして取り組みます。</p> <p>※指摘された問題に対しては謙虚に改善に努め、どのように改善したかを報告します</p>
オフィス アワー	時間については実習オリエンテーション時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	卒業研究Ⅲ
科目責任者	石津 希代子
単位数他	1単位 (30 時間) 言語必修 8セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	卒業研究では、それぞれのテーマに沿って具体的課題についての研究を通して、関連知識を深めるとともに自ら調査・実験を行い、研究課題を解決する能力を身につけます。この科目はこれまでに検討した研究計画をもとに、データを収集・分析し、その成果をまとめて研究報告書として卒業論文を作成します。所属するゼミ単位で実施し、文献の調べ方、情報の集め方、調査・実験手法、結果集約と解釈・解析法、文章表現や論文記述の技法などを学びます。また卒業論文発表会では、研究で得られたデータや知見をまとめてプレゼンテーションを行います。これらの過程を通して、最終的な卒業論文を完成させます。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語聴覚領域における研究の意義を理解する。</li> <li>2. 研究計画書をもとに研究を実施する。</li> <li>3. 研究内容をまとめ、報告会でプレゼンテーションを行う。</li> <li>4. 卒業論文として、自身の研究を記述し報告する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 石津希代子、柴本勇、谷哲夫、佐藤順子、大原重洋、中村哲也、佐藤豊展</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 所属ゼミの指導教員のもとで行います。ゼミでは、個々の研究テーマに関しての進捗状況の発表やディスカッションを中心に進めます。進行状況によって実施内容は異なりますが、基本的には以下の内容を含んだものとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマ、研究計画の確認</li> <li>・先行研究の収集と報告・討論</li> <li>・研究テーマ、計画の再検討</li> <li>・試験的データの収集・分析</li> <li>・本実験の方法の再検討</li> <li>・研究計画にもとづいた実験・調査の遂行</li> <li>・ゼミ内での発表と討論</li> <li>・データの集計・整理</li> <li>・データの解析・分析</li> <li>・卒業論文の作成、草稿の提出</li> <li>・卒業論文草稿の修正</li> <li>・プレゼンテーションの作成</li> <li>・卒業論文報告会で発表</li> <li>・卒業論文の最終修正</li> </ul>

アクティブ ラーニング	担当教員や、他のゼミメンバーとの議論を通じて、自身の研究を進めていきます。
評価方法	卒業論文の完成度 60%、ゼミ態度（進捗状況の報告・ディスカッション） 20%、卒業論文発表会での発表 20%をもとに、各ゼミ担当教員が総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	グループ学習はゼミ形式で担当教員の指導を受けながら行う。
指定図書	なし
参考図書	各ゼミの際に、指導教員が随時、紹介します。
事前・ 事後学修	※時間割に「卒業研究Ⅲ」が記載されますが、必ずしもその時間枠で実施するとは限りません。 授業の日程は、随時、担当教員と調整して定めます。 ※執筆要綱・提出スケジュール・提出方法・書式はMoodleに記載し、アップします。 ※ゼミ参加前には、課題や調べものを行ったり、書籍や論文を読み、内容を正しく要約し伝えられるように準備したりして臨むようにします。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3502 研究室、時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	公衆衛生学
科目責任者	西川浩昭
単位数他	1単位（15時間） 理学選択・作業選択・言語選択 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	公衆衛生学は健康を保持、増進、予防するための実践的科学的科学である。社会集団や組織における人々の健康課題を総合的に把握するための公衆衛生学の現状を理解する。具体的には、地域保健、環境保健、感染症・危機管理、生活習慣、食品衛生、関係法規等、健康に影響する様々な社会環境要因とその対策についての理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間集団における健康問題とその予防策について理解する。</li> <li>2. わが国における公衆衛生活動について学ぶ。</li> <li>3. 社会問題化している健康問題について理解する。</li> </ol>
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p style="text-align: right;">＜担当教員名＞ 西川浩昭</p> <p>第1回 公衆衛生の概念  第2回 疾病予防、健康増進、公衆衛生活動  第3回 健康指標  第4回 感染症とその対策  第5回 食品衛生  第6回 生活習慣  第7回 学校保健・産業保健  第8回 環境保健</p>

アクティブ ラーニング	講義に問題演習を取り入れた授業を行います。課題を設定し、情報収集および解決策を探求します。
評価方法	定期試験(筆記) 100% 再試験は実施しません。
課題に対する フィード バック	演習課題の解答例を提示し、解説します。
指定図書	鈴木庄亮 監修 シンプル衛生公衆衛生学 2019 南江堂 国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会(2019年8月末発行予定)
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修：内容は指定図書等の予習。時間の目安は約60分です。 事後学修：前回までの教授内容が習得されていることが、受講にあたって望まれます。各人の必要に応じて事後学修してください。事後学修時間の目安は約60分です。
オフィス アワー	西川浩昭(1620研究室) E-mail: hiroaki-ni@seirei.ac.jp 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	国際社会福祉論
科目責任者	田島明子
単位数他	2単位数 (30 時間) 理学選択・作業選択・言語選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	国際社会福祉・国際リハの概念や理論、グローバリゼーションと社会福祉・リハ問題を学ぶ。後半は参加型の開発型福祉を踏まえ、自らの実践を考察するグループワークを行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会福祉・国際リハとは何か、現状と課題について概略を述べることができる。</li> <li>・講義で取り上げた地球規模の問題やこれからの日本の社会福祉・リハビリテーションのあり方について意見を述べるができる。</li> <li>・国際的な社会福祉・リハビリテーション問題に関心が持てるようになる。</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;          担当教員：田島明子、鈴木光男（第8回、第9回）、佐々木正和（第6回、第7回）、石本馨（外部講師、第4回）</p> <p>第1回：オリエンテーション          授業の目的・授業計画・授業方法等の説明をする。</p> <p>第2回：国際社会福祉・国際リハビリテーションの概念と理論          支援を必要とする国の現状と国際社会福祉、国際リハビリテーションの概念、理論を説明する。</p> <p>第3～4回：グローバリゼーションと社会福祉・リハビリテーション          グローバリゼーションとは何か、CBRについて説明をする。</p> <p>第5回：世界人権宣言と国際人権規約の概要          世界人権宣言と国際人権規約の説明をする。</p> <p>第6回：精神保健福祉における人権と思想</p> <p>第7回：精神保健福祉における人権に関する具体的事例検証          日本における精神障がいのある方への人権侵害について。諸外国と比較して検証。</p> <p>第8回：開発型社会福祉の事例－カンボジアでの幼児・初等教育支援          カンボジアの近現代史から現在の状況を知り、その中での日本のNPOやNGOの活動の具体を知る。</p> <p>第9回：開発型社会福祉の事例－カンボジアでの幼児・初等教育支援          学校をつくる会 JHP の支援活動を中心に、保育・教育現場の支援活動について知り、今後の途上国支援のあり方を検討・協議する。</p> <p>第10回：対人援助職における国際協力の理念と実際          JICA 活動を行った経験のある作業療法士より活動の紹介をしてもらう。</p> <p>第11～14回：国際社会福祉の具体例を学び、実践を考察する（PBL）</p> <p>第15回：発表とまとめ          国際協力を行うための実践的視点を養うため、提供する事例をもとに、グループごとに CBR を推進するためのプログラム立案をし、それを最後の講義で発表し、共有をし合う。</p>

アクティブ ラーニング	PBLを行うので、主体的・積極的に参加をし、自ら調べ、考えることで、国際社会福祉の具体例を学び、どのような実践を行っていくとよいか考察を行ってください。
評価方法	筆記試験 (60%)、グループワークへの参加度 (20%)、小テスト (20%)
課題に対する フィード バック	グループワークや小テストにおいて学修状況を適宜把握し、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。
指定図書	中村優一他編著「グローバリゼーションと国際社会福祉」(中央法規)
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修時間 20 分以上、事後学修時間 20 分以上 普段から地球規模の問題や課題に積極的に関心を抱き、問題意識を深めること。 事前：指定図書、関係資料等、授業に関連する箇所を読んでおくこと。 事後：授業内容の復習を行い自分の考えをまとめておくこと。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (akiko-t@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	薬理・薬剤
科目責任者	大場 浩
単位数他	2単位 (30 時間) 理学選択・作業選択・言語選択 4セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	主な疾患をとりあげて、その代表的な薬物の作用機序が講義内容の中心であるが、薬物の性質、体内動態および副作用等の問題、さらには新薬の動向にも言及する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬の4つの主な作用機序を説明できる</li> <li>2. パーキンソン・てんかん・うつ病などの中樞神経系に作用する薬の作用機序、副作用が理解できる</li> <li>3. 生活習慣病の主な薬の作用機序、副作用が理解できる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;大場 浩</p> <p>第1回：ガイダンス、薬物が作用するしくみ</p> <p>第2回：自律神経系に作用する薬物</p> <p>第3回：花粉症などのアレルギーに作用する薬物</p> <p>第4回：リウマチなどの炎症に作用する薬物</p> <p>第5回：血液・輸液に関連する薬物</p> <p>第6回：心臓・血管などの循環器に作用する薬物</p> <p>第7回：呼吸器に作用する薬物（ぜんそく治療薬を中心に）</p> <p>第8回：消化器に作用する薬物（胃腸薬・肝炎を中心に）</p> <p>第9回：糖代謝に関連する薬物（糖尿病を中心に）</p> <p>第10回：脂質代謝に関連する薬物（脂質異常症を中心に）</p> <p>第11回：中樞神経系に作用する薬物（パーキンソン病治療薬を中心に）</p> <p>第12回：中樞神経系に作用する薬物（てんかん・うつ病治療薬を中心に）</p> <p>第13回：鎮痛薬・麻酔薬</p> <p>第14回：抗生物質</p> <p>第15回：抗癌薬</p>

アクティブ ラーニング	毎回の講義で理解した事柄を具体的にリアクションペーパーに記載し、提出。 評価の対象(1点/回)とする
評価方法	リアクションペーパー評価 (15%) 具体的な設問形式のレポート (85%) で評価する。
課題に対する フィード バック	講義内容の質問、意見、感想は、リアクションペーパーを利用してフィードバックする
指定図書	著者：田中越郎「イラストで学ぶ薬理学」医学書院発行
参考図書	講義で随時紹介する。
事前・ 事後学修	教科書やインターネットなどで病気の概要や薬物の作用機序を知っておくと、講義が理解し やすい。
オフィス アワー	e-mail o-hiroshi@sand.ocn.ne.jp へ
実務経験に 関する記述	なし

科目名	カウンセリング
科目責任者	福永 博文
単位数他	1単位 (30 時間) 理学選択・作業選択・言語選択 4セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	1. 人が、精神的健康を回復、維持して生きる力を身につけるための知識・技術を学修する。 2. 障害がある人の心理の理解及び支援に関する心理臨床的治療の知識や技術を学修する。 3. クライエントの状態に応じてカウンセリングの技法を組み合わせる方法について学習する。
到達目標	1. カウンセリングに関する多様な理論と技法について理解する。 2. リハビリテーションの効果を促進するためのカウンセリングの有効性について理解する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 福永博文</p> <p>第 1 回： カウンセリングの意味、相談とカウンセリング、「カウンセリング関係」の形成  第 2 回： カウンセリングと心理療法との関係—印象形成、他者認知の歪み  第 3 回： カウンセリングに必要な条件と基本的態度①  人間関係の質、積極的傾聴・受容・共感的理解—事例検討  第 4 回： カウンセリングに必要な条件と基本的態度②  —感情の反射、感情の明確化、守秘義務—事例検討  第 5 回： カウンセリングを展開するための方法と内容  —カウンセリング過程における心理的問題、転移現象—事例検討  第 6 回： カウンセリングの理論と技法—来談者中心カウンセリング①  —傾聴、感情の受容、共感的言葉と態度—ロールプレイ  第 7 回： カウンセリングの理論と技法—来談者中心カウンセリング②  —場面構成、カウンセリングの過程と問題点—  第 8 回： カウンセリングの理論と技法—指示的カウンセリング①  —他の技法との関係、示唆・助言などの導入—事例検討  第 9 回： カウンセリングの理論と技法—指示的カウンセリング②  —適応上の留意点と効果的に実施するための法則—  第 10 回： カウンセリングの理論と技法—折衷的カウンセリング  —解釈と受容、共感的態度の適正な活用—  第 11 回： カウンセリングの理論と技法—行動カウンセリング①  —行動理論に基づく方法の理解と実践—事例検討  第 12 回： カウンセリングの理論と技法—行動カウンセリング②  —具体的な実践例—  第 13 回： 障害のある人を持つ家族の心理を理解したカウンセリング  —家族の心理的变化を理解した支援—(事例検討)  第 14 回： 訪問カウンセリングの理論と技法  —スクールカウンセラーによる訪問カウンセリング—  第 15 回： クライエントの状態によるカウンセリング技法の構造的理解と適用  —多様なカウンセリング技法のバッテリーとしての活用—事例検討</p>

アクティブ ラーニング	社会生活に適応上の困難をきたしているクライアントの理解と支援に必要なカウンセリング技法を、具体的な事例検討やロールプレイングをとおして、臨床場面で活かせる確かな実践力を身につける。
評価方法	定期試験レポート 60%、中間レポート 40% 計 100%
課題に対する フィード バック	定期試験のレポートは解答例を提示する。中間レポートは、解説して提示する。
指定図書	毎回、プリントを用意し、事前に配布する。
参考図書	授業中に随時紹介する。
事前・ 事後学修	事前に配布した資料を 25 分程度読んで理解を深めておく。 同時に当日の授業内容について 15 分程度の復習をし、さらに理解を深める。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「臨床心理士」「スクールカウンセラー」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	リハビリテーション栄養学	
科目責任者	柴本 勇	
単位数他	1単位 (15時間) 理学選択・作業選択・言語選択 4セメスター	
DP番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	リハビリテーションの効果を最大限発揮するためには、栄養状態がよいことが望まれる。近年では、サルコペニア・フレイルなど栄養と関連したリハビリテーションに影響する病態も報告されている。今後、保健・医療・福祉分野で活躍するリハビリテーション職者に必要な栄養学的知識を得る。Nutrition Support Team(NST)の活動も学ぶ	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養評価・栄養マネジメントの概要を説明できる</li> <li>2. 栄養アセスメントができる</li> <li>3. リハビリテーション職種として栄養介入を模擬的にできる</li> <li>4. NSTの概要を説明できる</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション・リハビリテーション栄養とは</p> <p>第2回：栄養補給とエネルギー代謝</p> <p>第3回：必要栄養素と栄養量</p> <p>第4回：栄養アセスメントとその実際</p> <p>第5回：栄養療法とは</p> <p>第6回：病態別栄養療法の実際</p> <p>第7回：疾患別栄養療法の実際</p> <p>第8回：栄養療法のチームアプローチ</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>柴本 勇</p> <p>田中真希</p> <p>田中真希</p> <p>柴本 勇</p> <p>柴本 勇</p> <p>ゲストスピーカー</p> <p>ゲストスピーカー</p> <p>田中真希</p>

アクティブ ラーニング	Moodle を用いて行います
評価方法	定期試験：70%、小テスト20% 事前事後学修10%
課題に対する フィード バック	毎回の講義では、課題遂行・リアクションペーパーに対するコメントをします。 毎回講義終了時に、毎回ディスカッションを行います。
指定図書	「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎」(医歯薬出版)
参考図書	アボット栄養アセスメントキット (医科学出版社)
事前・ 事後学修	事前・事後学修はMoodle を用いて行います。
オフィス アワー	初回講義時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士，言語聴覚士，管理栄養士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏 まえて教授する科目です。

科目名	国際リハビリテーション援助論
科目責任者	大原 重洋
単位数他	1単位 (30時間) 理学・作業・言語選択 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	<p>本科目では、リハビリテーション領域の国際援助について学習し国際的に実践する基盤を身につける。本科目は、リハビリテーション分野の国際活動、他国のリハビリテーション事情などについて語学・専門知識・専門技能・実践力を課題解決講義や他の受講者とのディスカッションを通じて学習する。本科目はアクティブラーニング手法を用いて行う。事前学習、クラスでのディスカッションを通じて理解や知識を深め、その後国際的活動で振り返るというサイクルで学修する。また、本学大学院に留学中の他国リハビリテーション専門職（ベトナム・中国）との協働活動やディスカッションを行う機会を通じて国際事情を理解する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションの国際情勢について説明できる。</li> <li>2. 国際活動におけるリハビリテーション専門職者の活動を説明できる。</li> <li>3. 国際活動を行う上で、基礎的なスキルを説明し実践できる。</li> <li>4. リハビリテーション専門職として国際援助を模擬的に実践できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span>  <span style="float: right;">大原重洋・富澤涼子・小林マヤ・高橋大生</span></p> <p>第1回：オリエンテーション <span style="float: right;">大原重洋</span>  第2回：リハビリテーション領域の国際情勢 <span style="float: right;">高橋大生</span>  第3回：リハビリテーション領域の国際支援 <span style="float: right;">富澤涼子</span>  第4回：国際活動における理学療法士の専門性と役割 <span style="float: right;">高橋大生</span>  第5回：国際活動における作業療法士の専門性と役割 <span style="float: right;">富澤涼子</span>  第6回：国際活動における言語聴覚士の専門性と役割 <span style="float: right;">小林</span>  第7回：JICA・JOCV活動 <span style="float: right;">高橋大生</span>  第8回：国際ボランティア団体の活動 <span style="float: right;">富澤</span>  第9回：ベトナムのリハビリテーション事情 <span style="float: right;">ゲストスピーカー</span>  第10回：中国のリハビリテーション事情 <span style="float: right;">ゲストスピーカー</span>  第11回：リハビリテーションと国際援助手法① <span style="float: right;">小林マヤ</span>  第12回：リハビリテーションと国際援助手法② <span style="float: right;">小林マヤ</span>  第13回：Community Based Rehabilitation と災害時のリハビリテーション援助 <span style="float: right;">高橋大生</span>  第14回：海外活動の基礎(危機管理・衛生管理・疾病管理・救急対応・語学・文化) <span style="float: right;">富澤涼子</span>  第15回：まとめ <span style="float: right;">大原重洋</span></p> <p>※本科目受講生の中で、希望者には海外ボランティア活動の実践機会を設ける（任意参加）。  ※グローバル教育推進センターの活動を積極的に活用することによって、国際活動を深く理解することができる。</p>

アクティブ ラーニング	グループディスカッション、国際支援活動等を実践しながら、到達目標を得る学習を行う。
評価方法	定期試験 40%、ディスカッション 30%、学内での国際活動参加 20%、レポート 10%
課題に対す るフィード バック	リアクションペーパーに記された質問・課題を毎回の講義でフィードバック、指導、ディスカ ッションする。
指定図書	国際リハビリテーション学 (河野 真編 羊土社)
参考図書	なし
事前・ 事後学修	ディスカッションや演習内容を事前に提示するので、知識を得ると同時に・手技等の確認をお こなう。事前学習は、演習の振り返りを各自で行い担当教員にフィードバックする。
オフィス アワー	初回講義時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏ま えて教授する科目です。



アクティブ ラーニング	グループディスカッション、国際支援活動等を実践しながら、到達目標を得る学習を行う。
評価方法	定期試験 40%、ディスカッション 30%、学内での国際活動参加 20%、レポート 10%
課題に対す るフィード バック	リアクションペーパーに記された質問・課題を毎回の講義でフィードバック、指導、ディスカ ッションする。
指定図書	国際リハビリテーション学 (河野 真編 羊土社)
参考図書	なし
事前・ 事後学修	ディスカッションや演習内容を事前に提示するので、知識を得ると同時に・手技等の確認をお こなう。事前学習は、演習の振り返りを各自で行い担当教員にフィードバックする。
オフィス アワー	初回講義時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏ま えて教授する科目です。

科目名	国際理学療法実習
科目責任者	高橋大生
単位数他	2単位 (90 時間) 理学選択 5～8セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	異なる文化に触れ、生活習慣の異なる地域を訪れるだけでなく、リハビリテーション機関及び専門施設において、本学教員（引率教員）の指導によるクリニカルクラークシップ（CCS）での実習を行い、当該地域における理学療法技術を体験し、学修することを目的とする。合わせて、異なる文化圏の医療について理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当地の医療機関とリハビリテーション関連施設を見学する。</li> <li>2. 当地の医療機関とリハビリテーション関連施設において実習を行い、実際に技術を体験し、日本との理学療法との違いについて理解する。</li> <li>3. 異なる文化圏の医療について理解を深める。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;高橋大生 金原一宏 俵祐一 新任 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前研修 (10 コマ) 研修する国の言語について習得するだけでなく、当該地域の文化、歴史について学ぶ。 また、当該地域の保健医療福祉、リハビリテーション特に理学療法の歴史と現状について事前に学習する。 (中国理学療法実習の場合)</li> <li>第1・2回目 (高橋大生 金原一宏 俵祐一 新任) 中国語講座 医療現場で使用する言葉を学ぶ。 日本のリハビリテーション医療や理学療法について知識の再確認を英語・中国語を交えて学修する。 ・医療現場でよく使用される言葉やフレーズを学ぶ。 ・英語で(自分の言葉で)日本の理学療法・リハビリテーション医療について説明できる。</li> <li>第3回目 (高橋大生 金原一宏 俵祐一 新任) 中国語講座 中国の文化・医療について学修する。 ・中国の文化・医療について知る。 ・日本との違いについて知る。</li> <li>第4・5回目 (高橋大生 金原一宏 俵祐一 新任) 中枢神経障害について知識の再確認と評価・問題点抽出・プログラム立案の流れを英語・中国語を交えて学修する。 ・中枢神経障害について理解する。 ・評価・問題点・プログラムについて説明し、実践できる(実技も含む)。 ・医療現場で使用される英語・中国語を学ぶ。</li> <li>第6・7回目 (高橋大生 金原一宏 俵祐一 新任) 中国語講座 運動器障害について知識の再確認と評価・問題点抽出・プログラム立案の流れを英語・中国語を交えて学修する。 ・運動器障害について理解する。 ・評価・問題点・プログラムについて説明し、実践できる(実技も含む)。 ・医療現場で使用される英語・中国語を学ぶ。</li> <li>第8・9回目 (高橋大生 金原一宏 俵祐一 新任) 疼痛障害、熱傷障害について学修する。また、評価・問題点抽出・プログラム立案の流れを英語・中国語を交えて学修する。 ・疼痛障害と熱傷障害について理解する。 ・評価・問題点・プログラムについて説明し、実践できる(実技も含む)。 ・医療現場で使用される英語・中国語を学ぶ。</li> <li>第10回目 (高橋大生 金原一宏 俵祐一 新任) 日本の文化・医療を伝える。 ・日本の文化・医療・福祉について、プレゼンテーションの方法を学ぶ。</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 異文化圏における医療機関・施設にてクリニカルクラークシップでの実習 現地の医療機関で本学教員の指導のもと実施する(5日間)(引率教員)</li> <li>3. 異文化圏における医療機関・施設における体験実習(3日間)(引率教員)</li> <li>4. 課題レポート(海外体験実習報告書)の作成・実習で学んだことの内省(2コマ) 報告会を実施する(2コマ)(高橋大生 金原一宏 俵祐一 新任)</li> </ol> <p>実習協力施設：中国 重慶 陸軍軍医学大学 西南病院 中国 広州 中山大学附属第一病院 広東省労災リハビリテーション病院</p> <p>事後研修</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループワーク 研修で学んだことについてディスカッション(PBL)</li> <li>2. 報告会</li> </ol>

アクティブ ラーニング	グループ学修を通して、渡航先の文化、歴史、社会情勢、医療情勢、健康問題、リハビリテーション医療の現状、実習先の医療機関・施設について情報を収集し、Moodle を使用してeポートフォリオを作成していく。また、事前学習で集めた情報から、問題点を導き、解決策についてディスカッションを行う。PBL などを利用して、問題点や課題に対しての解決策を立案し、実践していく。自らの意見を構築していく。また、柔軟性、積極性、行動力などグローバル人材に必要な人間力を養う。
評価方法	<p>事前研修：10% 実習内容：50% 課題提出物（レポート プレゼンテーション）：40%</p> <p>①事前学修の内容（10%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席日数</li> <li>・自己紹介が英語または中国語でできる</li> <li>・中国の文化・リハビリテーション医療について説明できる→Presentation</li> <li>・日本の文化・リハビリテーション医療について説明できる→Presentation</li> <li>・中枢神経障害・運動器障害・熱傷についての知識確認テスト・口頭試問</li> <li>・各障害について評価実技テスト（英語・中国語を使用する）</li> </ul> <p>成績は上記の内容について責任科目者と担当者が判定する。</p> <p>②Learning Contract の内容（50%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に学修目的（Learning Objective）、方法（Method）欄を記載し、実習実施時にその内容について実習指導者（本学の引率教員）の評価を受ける。</li> <li>・帰国後に責任科目者に提出する。</li> </ul> <p>成績は責任科目者と担当者により判定する。</p> <p>③提出レポート（40%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ：課題について以下の例を参考に記載する</li> <li>・現地のリハビリテーション医療やリハビリテーション技師の役割について学んだこと</li> <li>・この研修の経験をいかし、国際的な視野で、今後理学療法士が取り組むべき役割、課題、学びについて</li> <li>・今後医療従事者に必要とされるグローバルな人材とは</li> </ul> <p>成績は上記の内容について責任科目者が判定する。</p>
課題に対する フィード バック	フィードバックは引率教員、科目責任者が口頭で行う。
指定図書	指定図書なし 臨床実習ハンドブック、事前学習時の配布資料使用、eポートフォリオ
参考図書	なし
事前・ 事後学修	英語は日常会話レベルがこなせるよう、毎日 15 分から 30 分英会話学習を行ってください。又、渡航先の言語で挨拶と自己紹介ができるように自己学修を行ってください。渡航先の文化、医療情勢、医療機関について調査し、ポートフォリオを作成してください。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3506 研究室 時間等：水曜日 12 時 30 分～13 時 30 分 上記以外でもメール（kazuhiro-k@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。

科目名	音楽療法
科目責任者	山田 美代子
単位数他	1単位 (30 時間) 作業選択・言語選択 1 Semester
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	様々な領域における音楽療法の理論や技法を学ぶ。ビデオなど視聴覚教材を通じて、また実践現場を見学し、体験的に理解を深める。関心領域での音楽セッションをグループで計画し、発表をする。模擬的であってもその過程（計画～発表）で学んだことをディスカッションし、音楽療法を総括する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音楽療法の基本的な理論や技法を知る。</li> <li>2. 対象者のニーズに合わせた具体的な音楽療法またその技術の実際を体験的に習得する。</li> <li>3. 歌うという音楽活動を科学的な側面から理解する。</li> <li>4. 医療音楽療法からコミュニティ音楽療法への関係とその実際を体験的に理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt; 山田美代子</span></p> <p>第 1 回：音楽療法とは 歴史・定義</p> <p>第 2 回：音楽療法の実践 セッションの実際</p> <p>第 3 回：コミュニティ音楽療法</p> <p>第 4 回：リハビリテーション領域における音楽療法</p> <p>第 5 回：精神科領域の音楽療法</p> <p>第 6 回：高齢者の音楽療法</p> <p>第 7 回：実践現場「The 合唱団」を体験 ①</p> <p>第 8 回：実践現場「The 合唱団」を体験 ②</p> <p>第 9 回：発達障害児の音楽療法</p> <p>第 10 回：生活の中での音・音楽療法</p> <p>第 11 回：音楽認知における脳機能画像（光トポグラフィ装置）に関する研究</p> <p>第 12 回：音楽療法の計画から模擬セッション ①</p> <p>第 13 回：音楽療法の計画から模擬セッションプランニング②</p> <p>第 14 回：音楽療法の計画から模擬セッションプランニング③</p> <p>第 15 回：発表とまとめ</p>

アクティブ ラーニング	第7・8回は、実習。第12～15回は、関心領域におけるセッションの計画から実践までをグループによるPBLで行い、取り組み発表する。
評価方法	授業態度 30%、課題提出物 10%、レポート 10%、定期試験 50%
課題に対する フィード バック	第7・8回終了後、レポートを作成し提出する。通常授業リアクションペーパーへの回答は次の授業の最初に回答する。内容によっては個別にコメントし返却する。
指定図書	プリント配布を原則
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	対象領域や対象者によって用いる音楽は様々である為、事前学習として関連音楽について調べ、授業終了後に聞いたり歌ったりする等、実践的に楽しみながら修得する。
オフィス アワー	質問のある場合には、授業終了時前に申し出てほしい。終了後の場合、教務事務センターを介して受け付けをする。
実務経験に 関する記述	本科目は「音楽療法」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ケアマネジメント
科目責任者	落合 克能
単位数他	2単位 (30時間) 作業選択 3セメスター 言語選択 5セメスター
DP番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	<p>私たちは、様々な社会資源に支えられて（社会資源を活用して）生活を送っているが、病気や障害、社会的不利により、生活上の困難が生じたり、それまで自ら活用してきた様々な社会資源の活用が困難な状況になってしまう場合もある。そのような場合に、それまで自らが活用してきた様々な社会資源に加え、新たに必要となる（活用すべき）社会資源をも含めて、複雑なサービス（サポート）のコーディネーション（マネジメント）を計画的かつ継続的に行うことにより、我々の生活を支えてくれる方法・過程がケアマネジメントである。</p> <p>本科目では医療専門職として必要となるケアマネジメントの知識について講義と具体的な事例を通して理解・修得することを目的としている。</p>
到達目標	<p>① ケアマネジメントの基本的理解ができる。ソーシャルワークとの関係性についても学ぶ。</p> <p>② 介護保険制度の概要と、介護支援専門員（ケアマネージャー）の役割が分かる。</p> <p>③ 対人援助の基本原則が理解できる。ケアマネジメントと福祉・医療・介護等の関係性に興味を持つ事ができる。</p>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 落合 克能</p> <p>第1回：オリエンテーション・ケアマネジメント・社会保障制度の概略</p> <p>第2回：社会資源の基本である社会保障制度の概要</p> <p>第3回：高齢者のケアマネジメントと介護保険制度概要</p> <p>第4回：ケアマネジメントの機能と基本的理解</p> <p>第5回：ケアマネジメントの過程 ① インテーク（受理）</p> <p>第6回：ケアマネジメントの過程 ② 査定（アセスメント）</p> <p>第7回：ケアマネジメントの過程 ③ 援助計画策定（プランニング）</p> <p>第8回：事例検討 ①</p> <p>第9回：ケアマネジメントの過程 ④ 介入（インターベンション）</p> <p>第10回：ケアマネジメントの過程 ⑤ 実態把握（モニタリング）</p> <p>第11回：ケアマネジメントの過程 ⑥ 評価（エバリュエーション）</p> <p>第12回：ケアマネジメントの過程 ⑦ 再アセスメント・援助計画修正</p> <p>第13回：ケアマネジメントにおける多職種連携</p> <p>第14回：障害者総合支援法とケアマネジメント</p> <p>第15回：事例検討 ② まとめ</p>

アクティブ ラーニング	グループディスカッションやロールプレイを用いた演習を中心に実施します。課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	授業への取組姿勢 30%、中間レポート 20%、期末レポート 50%として評価する。授業はグループ学習が中心とした形態になるため、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。
課題に対する フィード バック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②リアクションペーパー・事前事後学習課題等については授業時にフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	【事前学習】病気後遺症や障がいにより生活上の困難が発生した場合に、どのような対応や課題ができるかについて、また、どのような制度やサービスが利用できるかについて、毎回の講義前に自己学修を 25 分程度行う。 【事後学習】毎回の講義後、講義内容を整理し、自分の言葉で語る事ができるよう 15 分程度の事後学修を行う。
オフィスア ワー	社会福祉学部所属の落合研究室 (2613 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。(katsutaka-o@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は「フィールドソーシャルワーク」「社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点 を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際作業療法実習
科目責任者	鈴木達也
単位数他	2単位数 (90時間) 作業選択 3・4・5・6・7・8セメスター(2018年度入学生以前)
DP番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	国内で学修した作業療法の基礎知識を土台に、海外のリハビリテーション関連施設での作業療法の実践に触れる実習である。作業療法士を目指す学生として、国際的な視野に立った視点の形成と、それに基づく新たな自己課題の発見および目標設定の機会とする。 国内での教員の指導に加え、現地での教員による指導、作業療法関連スタッフの指導により実施する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習国のリハビリテーションの現状、作業療法士の役割について理解できる</li> <li>・国際的な視野に立ち、作業療法士を目指す自己の課題を発見できる</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;鈴木 達也、中島ともみ  ※現地での指導は、現地教員および、実習受入施設作業療法教員が行う。</p> <p>&lt;実習期間・人数&gt;  実施期間：2019年2月上旬3月上旬までの間で2週間  対象人数：2名の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内オリエンテーション  実習前学内オリエンテーションは12月頃から週1回行う</li> <li>・臨床実習  1週目 現地オリエンテーション、臨床実習施設にて実習  2週目 臨床実習施設にて実習</li> <li>・帰国後学内セミナー  実習の学びを報告する</li> </ul> <p>オリエンテーション、実習時期、実習施設・学内セミナーは追って連絡する</p>

アクティブ ラーニング	本科目は実習科目です。事前研修は事前課題、ロールプレイ、プレゼンテーションを行います
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Learning Contract の内容 80%</li> <li>・ 提出レポート 20%</li> </ul>
課題に対する フィード バック	臨床実習施設にてフィードバックを受ける。帰国後にその記録を担当教員に提出し、フィードバックを受ける。
指定図書	なし
参考図書	菊池恵美子、山松ひさえ、吉川ひろみ：英語で学ぶ作業療法、シービーアール
事前・ 事後学修	<p>事前学修（15 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Leaning Contract (学習目的、方法) の作成指導</li> <li>・ 渡航・現地生活に関する指導・英会話講習（国際交流センター職員による）</li> </ul> <p>事後学修（15 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帰国後はレポート（A4 サイズ 2～3 ページ）と感想を提出し、教員の指導を受ける</li> </ul>
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3511 研究室</p> <p>時間等：毎週水曜日 12 時～13 時。</p> <p>上記以外でもメール（tatsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	レクリエーション演習																																	
科目責任者	泉 良太																																	
単位数他	1単位（30時間） 作業選択 4セメスター																																	
DP 番号と科目領域	DP3 専門																																	
科目の位置付	様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。																																	
科目概要	1. 様々な領域で用いられるレクリエーションを体験・企画し、その身体的・心理的効果を学修する。 2. パラリンピック競技を体験し、余暇活動でもあるスポーツ面からの障害体験をする。 3. 発達障害領域における治療法のひとつである感覚統合療法について理論、方法等について学修する。 さらに、様々な対象グループに適応した感覚統合療法の企画から準備を行い、実際に対象児・者に対する指導を体験することにより、導入から感覚統合療法実施の実際を学修する。																																	
到達目標	1. レクリエーションを企画することができる。 2. レクリエーションによる身体的・心理的効果について説明ができる。 3. スポーツ面から障害児・者の理解ができる。 4. 感覚統合療法を実施する対象児・者の理解ができる。 5. 対象児・者に適した感覚統合療法の企画と準備ができる。																																	
授業計画	<p>&lt;科目担当教員&gt;泉良太、伊藤信寿</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th>&lt;担当教員名&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：オリエンテーション</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第2回：レクリエーションについて</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第3回：レクリエーションの体験</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第4回：レクリエーションの企画</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第5回：レクリエーションの発表</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第6回：レクリエーションの発表</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第7回：パラリンピックについて</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第8回：パラリンピック競技の体験</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第9回：感覚統合療法について</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第10回：遊具で遊ぶ体験</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第11回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第12回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第13回：手づくり遊びの発表</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第14回：手づくり遊びの発表</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td>泉 良太</td> </tr> </tbody> </table>		<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：オリエンテーション	泉 良太	第2回：レクリエーションについて	泉 良太	第3回：レクリエーションの体験	泉 良太	第4回：レクリエーションの企画	泉 良太	第5回：レクリエーションの発表	泉 良太	第6回：レクリエーションの発表	泉 良太	第7回：パラリンピックについて	泉 良太	第8回：パラリンピック競技の体験	泉 良太	第9回：感覚統合療法について	伊藤信寿	第10回：遊具で遊ぶ体験	伊藤信寿	第11回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画	伊藤信寿	第12回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画	伊藤信寿	第13回：手づくり遊びの発表	伊藤信寿	第14回：手づくり遊びの発表	伊藤信寿	第15回：まとめ	泉 良太
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																	
第1回：オリエンテーション	泉 良太																																	
第2回：レクリエーションについて	泉 良太																																	
第3回：レクリエーションの体験	泉 良太																																	
第4回：レクリエーションの企画	泉 良太																																	
第5回：レクリエーションの発表	泉 良太																																	
第6回：レクリエーションの発表	泉 良太																																	
第7回：パラリンピックについて	泉 良太																																	
第8回：パラリンピック競技の体験	泉 良太																																	
第9回：感覚統合療法について	伊藤信寿																																	
第10回：遊具で遊ぶ体験	伊藤信寿																																	
第11回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画	伊藤信寿																																	
第12回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画	伊藤信寿																																	
第13回：手づくり遊びの発表	伊藤信寿																																	
第14回：手づくり遊びの発表	伊藤信寿																																	
第15回：まとめ	泉 良太																																	

アクティブ ラーニング	グループ学修、体験学習 演習科目です
評価方法	レポート 40%、課題に対する取り組み 30%、発表 30%、計 100%
課題に対す るフィード バック	レポート・発表・リアクションペーパーへのコメント・返却
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	事前学修時間 20 分、事後学修時間 20 分 ・解剖学（特に感覚）・運動学について復習しておくこと。 ・レクリエーション、感覚、発達障害についてまとめること。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール ( <a href="mailto:ryota-i@seirei.ac.jp">ryota-i@seirei.ac.jp</a> ) で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	絵画療法
科目責任者	中道 芳美
単位数他	1単位 (30時間) 作業選択 1セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	絵を描くことで、身体の諸機能への働きかけ、残存機能の維持と回復を促すことを知る。創造的な治療方法として、精神のリラックス効果、QOLの向上、心のケアを促すことを学ぶ。絵画による表現活動が人間に与える身体的、精神的、心理的、社会的な影響や効果について理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 絵画を通して、自己表現や他者との関わりを学ぶ。</li> <li>2. 絵画制作の実技を通して、表現技術を学ぶ。(学生各自の実習体験)</li> <li>3. 他者への共感的態度をもち、豊かな対人関係を築いて、チーム医療の実践ができる能力を身につける。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;中道 芳美</p> <p>第1回：ガイダンス、知的障害児者、心身障害児者、高齢者(認知症含)作品紹介、世界の画家たち紹介(障害者含む)</p> <p>第2回：実技体験、クレヨン、水彩絵の具の使い方表現、方法を学ぶ</p> <p>第3回：実技体験、模写</p> <p>第4回：実技体験、自分の作品を描く</p> <p>第5回：実技、自分の作品を仕上げる、継続する大切さを学ぶ</p> <p>第6回：共同制作に取り組む、グループに分かれて話し合う</p> <p>第7回：共同制作作品のテーマに合う画材を学ぶ。世界の画家作品を参考とする。</p> <p>第8回：春の花の共同制作</p> <p>第9回：夏の花の共同制作</p> <p>第10回：行事用の共同制作</p> <p>第11回：右ききの人は左手で描くということ…実技体験</p> <p>第12回：残存機能の維持と回復を促す体験実技</p> <p>第13回：精神的影響、リラックス効果の体験実技</p> <p>第14回：絵てがみを描く、小さな画用紙使用</p> <p>第15回：作品完成、全体評価</p>

アクティブ ラーニング	演習科目です。
評価方法	実技・課題提出物 30%、授業態度 50%、レポート 20%
課題に対するフィード バック	なし
指定図書	なし
参考図書	世界の画家作品（画集等）、講師が用意する。
事前・ 事後学修	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「絵画講師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発達心理学
科目責任者	細田 直哉
単位数他	2単位 (30 時間) 作業選択 2セメスター (2019 年度生)
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	生涯発達の土台となる乳幼児期および児童期以降の発達を教科書と DVD を用いて丁寧に確認し、各時期の発達の特徴とそれに応じた学習環境および援助を理解する授業です。授業を受動的に受けるのではなく、学んだことや自己学習の成果を主体的にまとめ、各年齢についての自分の学びを 1 冊のファイル (ポートフォリオ) にして提出する必要があります。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育・教育の実践にかかわる心理学の基礎知識を身につける。</li> <li>2. 子どもの発達過程を理解し、その過程と援助の仕方を具体的に説明できる。</li> <li>3. 発達が人や物や事象との相互作用の中で起こることを理解し、説明できる。</li> <li>4. 生涯発達の観点から、発達過程や初期経験の重要性と保育・教育との関連性が説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;細田 直哉</p> <p>第 1 回：オリエンテーション：授業の概要・「発達」と「学習」</p> <p>第 2 回：子どもの「自分づくり」の発達過程と保育・教育</p> <p>第 3 回：0 歳児前半の発達と保育</p> <p>第 4 回：0 歳児後半の発達と保育</p> <p>第 5 回：1～2 歳児の発達と保育</p> <p>第 6 回：2～3 歳児の発達と保育</p> <p>第 7 回：ポートフォリオ中間発表会</p> <p>第 8 回：3～4 歳児の発達と保育</p> <p>第 9 回：4～5 歳児の発達と保育</p> <p>第 10 回：5～6 歳児の発達と保育</p> <p>第 11 回：児童期以降の発達と教育・学習①生涯発達と発達援助</p> <p>第 12 回：児童期以降の発達と教育・学習②発達障害と発達支援</p> <p>第 13 回：「成長」「発達」「学習」・子ども観と教育観</p> <p>第 14 回：心理学理論のまとめ ①発達の理論</p> <p>第 15 回：心理学理論のまとめ ②学習の理論</p> <p>定期試験</p>

アクティブ ラーニング	各自の興味関心に沿って授業内容に関連したことを 事後学修としてポートフォリオにまとめていきます。
評価方法	ポートフォリオ 100%
課題に対す るフィード バック	ポートフォリオはルーブリックを示すと共に評価して返却。
指定図書	河原紀子『0歳～6歳 子どもの発達と保育の本』(学研) その他、授業内容に関連したプリントを適宜配布します。
参考図書	バターワース・ハリス『発達心理学の基本を学ぶ』(ミネルヴァ書房)、田中昌人『子どもの発達と診断1～5』(大月書店)、田中真介監修『発達がわかれば子どもが見える』(ぎょうせい)、園と家庭を結ぶ「げんき」編集部『乳児の発達と保育：遊びと育児』(エイデル研究所)
事前・ 事後学修	事前：教科書の該当の章を読んでから授業に臨む。(10分) 事後：ポートフォリオ作りを各自進める。(60分)
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「子育て支援ひろばの発達相談員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発達心理学
科目責任者	細田 直哉
単位数他	2単位 (30 時間) 作業選択 3 セメスター (2018 年度生以前)
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	発達心理学の概論ではありません。生涯発達を見通しつつ、その初期段階としての乳幼児期と児童期を教科書や DVD を使って丁寧に見ながら、発達とその援助を心理学的に理解する授業です。受動的に授業を受講するだけでなく、学んだことを主体的にまとめ、関連した事柄を調べ、最終的に各年齢についての自分の学びを 1 冊のファイルにして提出する必要があります。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育・教育の実践にかかわる心理学の基礎知識を身につける。</li> <li>2. 子どもの発達過程を理解し、その過程と援助の仕方を具体的に説明できる。</li> <li>3. 発達が人やモノとの相互的にかかわりの中で起こることを理解し、説明できる。</li> <li>4. 生涯発達の観点から発達過程や初期経験の重要性を理解し、それと保育・教育との関連性が説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;細田 直哉</p> <p>第 1 回：オリエンテーション：授業の概要・評価基準・生涯発達と発達援助</p> <p>第 2 回：子どもの「自分づくり」の発達過程と保育・教育</p> <p>第 3 回：0 歳児前半の発達</p> <p>第 4 回：0 歳児後半の発達</p> <p>第 5 回：1～2 歳児の発達</p> <p>第 6 回：2～3 歳児の発達</p> <p>第 7 回：ポートフォリオ中間発表会</p> <p>第 8 回：3～4 歳児の発達</p> <p>第 9 回：4～5 歳児の発達</p> <p>第 10 回：5～6 歳児の発達</p> <p>第 11 回：学童期以降の発達・青年期の発達・老年期の発達</p> <p>第 12 回：発達障害と発達支援</p> <p>第 13 回：「発達」とは何か？：子ども観と教育観・社会文化的アプローチ</p> <p>第 14 回：心理学理論のまとめ ①ピアジェ・ヴィゴツキー</p> <p>第 15 回：心理学理論のまとめ ②エリクソン・ロゴフ</p>

アクティブ ラーニング	各自の興味関心に沿って授業内容に関連したことを 事後学修としてポートフォリオにまとめていきます。
評価方法	ポートフォリオ 100%ですが、授業態度を含めて総合的に評価します。 レポートはルーブリックにより評価します。
課題に対する フィード バック	ポートフォリオはルーブリックを示すと共に評価して返却。
指定図書	河原紀子『0歳～6歳 子どもの発達と保育の本』（学研） その他、授業内容に関連したプリントを適宜配布します。
参考図書	田中昌人『子どもの発達と診断1～5』（大月書店）、田中真介監修『発達がわかれば子どもが見える』（ぎょうせい）、園と家庭を結ぶ「げんき」編集部『乳児の発達と保育：遊びと育児』（エイデル研究所）、
事前・ 事後学修	事前：教科書の該当の章を読んでから授業に臨む（10分） 事後：ポートフォリオ作りを各自進める。（60分）
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「子育て支援ひろばの発達相談員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて 教授する科目です。